

東北大学
高度教養教育・学生支援機構
要覧 2020

東北大学高度教養教育・学生支援機構要覧2020

目 次

I 高度教養教育・学生支援機構について

1. 高度教養教育・学生支援機構長挨拶	1
2. 高度教養教育・学生支援機構ビジョン	2
3. 高度教養教育・学生支援機構第3期中期目標・中期計画	4
4. 高度教養教育・学生支援機構の沿革	9
5. 高度教養教育・学生支援機構の組織	
(1) 組織構成図	10
(2) 運営部門	10

II 機構各組織の事業内容及び活動状況

1. 部門・院	
(1) 高等教育開発部門	11
(2) 教育内容開発部門	11
(3) 学生支援開発部門	12
(4) 教養教育院	12
2. 業務センター	
(1) 教育評価分析センター	14
(2) 大学教育支援センター	16
(3) 入試センター	19
(4) 言語・文化教育センター	21
(5) グローバルラーニングセンター	24
(6) 学際融合教育推進センター	27
(7) 学習支援センター	28
(8) キャリア支援センター	30
(9) 学生相談・特別支援センター	32
(10) 保健管理センター	34
(11) 課外・ボランティア活動支援センター	36

III 2020年度の機構全体の活動

1. 機構主催のシンポジウム・研究会・セミナー等	39
2. 刊行物一覧	41
3. 教員の活動	42

IV 資料編

1. 統計データ	121
2. 外部資金獲得状況	131
3. 共同研究員受入状況	132
4. 研究業績による受賞	133
5. 規程類	
(1) 東北大学高度教養教育・学生支援機構規程	134
(2) 東北大学高度教養教育・学生支援機構業務センター内規	136
(3) 東北大学高度教養教育・学生支援機構教授会議内規	137
(4) 東北大学高度教養教育・学生支援機構運営会議内規	138
(5) 東北大学高度教養教育・学生支援機構高度教養教育諮問会議内規	139
(6) 高度教養教育・学生支援機構専門研究員内規	139
(7) 高度教養教育・学生支援機構共同研究員内規	140

I 高度教養教育・学生支援機構について

1. 高度教養教育・学生支援機構長挨拶

「東北大学高度教養教育・学生支援機構要覧 2020」をお届けします。

本学は、2014年4月、高等教育開発推進センター、国際交流センター、国際教育院、グローバルラーニングセンター、教養教育院、高度イノベーション博士人財育成センターを統合し、本高度教養教育・学生支援機構を設置しました。本学は本機構を、高度教養教育・学生支援に関する調査研究、開発、企画、提言、および実施を一体的に行い、本学の教育の質的向上に寄与するための中核と位置づけて、国内外を見ても他に例のない革新的でチャレンジングな組織として設計し創設しております。

本機構は、高大接続と入試、全学教育の開発と推進、高等教育国際化の推進、学生相談と学生支援、保健管理と健康指導、高等教育の研究と開発を行い、これらの成果を評価分析し、質的向上を図る各種の専門性開発活動を行う総合的な役割を果たすことがミッションです。また、高等教育推進の高いポテンシャルを有した組織とプログラムを統合し、新たな高等教育のモデル構築も目指しています。さらに、高等教育のモデル構築の核心は、卓越性と多様性の追求であり、教育における卓越性の柱として、高度教養教育の開発と提供、多様性の柱として多様な学生のニーズに応える学生支援の開発と実施も行うこととしています。

本要覧は、第Ⅰ部から第Ⅳ部の4部構成です。第Ⅰ部では、機構のビジョン、沿革、組織体制について記します。第Ⅱ部では、本機構は教員組織（3部門9室、1院）と11の業務センターのマトリクス構造をもつユニークな組織体制ですが、それぞれのミッション（使命）と事業内容や活動状況を記します。第Ⅲ部では、2020年度の機構全体の活動状況を示します。ここには、所属教員個々人の活動状況が記されています。第Ⅳ部は資料編で、統計的な資料、および本機構の規程類をまとめて示しました。

2020年度は新型コロナウイルス感染症禍にあつて、機構の活動も大きく影響を受けました。第1学期は全面的なオンライン授業への移行や職員のテレワーク推進などもあり、閑散としたキャンパスで今後の教育や学生支援の在り方を模索して過ごしました。第2学期には対面とオンラインを組み合わせたハイブリッド型の教育体系の構築が進みましたが、並行して、オンライン授業の評価・検証、学生の心身の健康状態の把握と相談体制の強化、感染拡大下における教育、学生支援、入試実施の方向性の打ち出し等、多くの課題に直面した後半戦でした。未だ感染拡大の終息が見込めない中、大学教育・学生支援の新常態を築きあげていかなければなりません。高度教養教育・学生支援機構の使命を再認識し、全学に貢献を果たしていくことが本機構の責務と思っています。

本要覧が、学内の方々はもちろんのこと、学外の方々にとって何がしかの参考になれば幸いです。さらには、本機構構成員のますますの活性化につなげるためにも、本要覧をご覧になられた皆様方からのご批判やご意見を賜ればと願っております。

2021年8月

高度教養教育・学生支援機構長 滝澤博胤

2. 高度教養教育・学生支援機構ビジョン

【ミッション】

高度教養教育・学生支援機構は、研究第一・門戸開放・実学尊重という東北大学の使命に従い、平和で公正な社会の実現を先導するリーダーを育成する教養教育の構築と、多様な学生の学修と生活に必要な学生支援の実現を目指します。そのために、高度教養教育および学生支援に関する調査研究、企画と提言、及びそれらの方法の開発と実施を、関係部局や審議会との連携の下に一体的に行います。

【重点戦略】

1. 未来社会を先導する挑戦心と創造力を育む高度教養教育と学修支援の展開

学生一人ひとりの学修状況、能力や個性、その他の条件に応じて最適化された教育の実現に向けて、学生の挑戦と創造を支える学修支援体制を整備し、既存の学問領域や学年にとらわれない学際的・総合的な学修を可能とする柔軟な教育カリキュラムを開発・推進します。そのために、①円滑な高大接続と「学びの転換」を実現する効果的な初年次教育の充実強化、②SLA サポート事業をはじめとするピアサポート学習支援体制の構築拡充、③学生の授業時間外学習活動を質と量の両面から充実させるための調査研究や企画実施の推進、④高年次教養教育や学際研究を通じた学習機会の提供、⑤アスリート、芸術家、職人などの多様な実践知の導入、を展開します。さらに、⑥各学部・研究科・研究所・審議会等との連携を強化し、「現代的リベラルアーツ」を育成する実践的な教育プログラムを研究開発します。

以上の取組を通して、専門教育課程の基盤となる基礎的な教養教育から、学際融合による教育及び研究を発展させる高度教養教育までを含む総合的な教養教育を推進します。

2. ワールドクラスの研究総合大学にふさわしい最先端の包括的グローバル教育を全学一体で推進

21世紀型地球市民を育成する包括的グローバル教育として、①国内外の優秀な学生を惹きつける国際的な教育プログラムの開発・整備を加速させ、②希望する全ての学生に多彩な海外研鑽の機会・支援を提供し、③留学促進のための調査・分析とプログラム改善を連動した理論・実践循環体制を確立し、④抜本的な語学教育改革とともに全ての教育課程に国際的な視点を取り入れる「カリキュラムの国際化」を推進します。また、⑤語学教育、国際教育、教養・専門教育を融合した包括的なグローバル教育と多様な文化背景の学生による協働・相互研鑽を取り入れた「国際共修」を全学に広め、⑥国際教育のシンクタンクとして我が国における国際共修の推進を先導する中核拠点を形成し、教職員研修やアーカイブの構築による普及活動を展開します。

3. アドミッション・ポリシーに合致した多様な学生を確保するための持続可能な新たなアドミッションの構築

入学者等の実績や各種入試動向調査などのエビデンスを踏まえ、本学のアドミッション・ポリシーに合致した多様な学生を国内外から広く確保するための入試制度の研究・開発・実施と入試広報および高大接続活動を強化します。そのために、①本学のビジョンに対応したアドミッション・ポリシーの策定、②学部・大学院における志願者拡大に向けた国内外の戦略的マーケティングと入試広報の実施、③多様な学生を広く国内外から確保するための入試制度の開発、④学部・大学院入試における課題解決支援及び入試業務における教員の負担軽減策の立案・実施、⑤各教育委員会と連携した高大接続事業の継続的な実施、⑥アドミッションの学術的基盤の確立と大学院教育と連携した指導的アドミッション・オフィサーの養成等を行います。

4. 21世紀の知識集約型社会に対応した大学教育開発の推進と教育・学習マネジメントの強化支援

21世紀の知識集約型社会に対応し得る大学教育への再構築を目指し、大学教育の内容・方法の研究開発、教職員能力開発の企画・実施、教育・学習マネジメントの強化を通して、本学における全学的な大学教育改革・改善の推進に貢献し、我が国の大学教育をリードする世界水準の拠点としての地位を確立します。そのために、①国

際連携を基盤にした、高等教育の動向・政策・実践に関する研究開発の推進と国内外への成果発信・還元、②教育関係共同利用拠点として、研究・教育・社会サービス・管理運営等について大学執行部や教職員に求められる各種能力を育成する専門性開発プログラムと動画コンテンツの開発・提供、③産学共同人材育成システムの開発・運営による実務家教員の育成・輩出、④本学の教育学習活動・環境に関する基礎的データの収集・分析・提供を通じた本学の教育・学習マネジメントの強化支援を展開します。

5. 多様性を尊重し自己・社会の未来構想に挑戦する主体的学生を育成する包括的学生支援の推進

変化に富んだ社会に対応し多様な文化や価値観を受け入れ、自己や社会の未来構想に意欲的に挑戦する心身ともに豊かな個人へと成長する機会を促す包括的な学生支援を推進します。そのために、①学生の心身発達の支援と対峙する危機への介入（健康管理、メンタルヘルスケア、学生相談、ハラスメント防止）、②グローバルな視点からの感染管理、③多様な背景を持つ学生への支援とインクルーシブな環境の提供（障害のある学生、留学生等への支援）、④自己を見つめ未来を主体的に切り拓くキャリア形成の支援、⑤学生の自発的な課外活動や東日本大震災の経験を活かし未来社会の構想に挑戦するボランティア活動の支援等を、全学連携的な支援体制を構築して行います。

3. 高度教養教育・学生支援機構第3期中期目標・中期計画

中期目標	中期計画
(前文) 部局の基本的な目標 高度教養教育・学生支援機構は、高度教養教育および学生支援に関する調査研究、企画および提言、並びにそれらの方法の開発および実施を関係部局との連携の下に一体的に行うことにより、東北大学の教育力を高め、世界をリードする研究を遂行しグローバル時代を切り開く指導的人材の育成に貢献することを使命としており、その使命を遂行するために、以下の具体的目標を掲げている。 1. グローバル時代における人材像と高度教養教育システムの総合的研究の推進 世界的に進められている課題探究型学習をはじめとする高等教育の研究・開発・試行・実施を外部資金の獲得・活用も含めて推進する。 2. 実践的英語能力を高める体系的英語教育プログラムの開発・推進 英語「多読」授業やe-learningの指導法と評価方法を更に進展させ、「聞く・話す・読む・書く」の4技能を強化する実践的な英語教育への転換を推進する。 3. 現代社会の多様な「知」に対応した高度教養教育の開発・推進 「自然科学総合実験」および「文科系のための自然科学総合実験」の充実・発展とともに、専門分野や文系・理系の区別を超えて人類的問題に接近する学際融合教育などの新たな高度教養教育を開発・推進する。 4. 多様な価値観と文化を学ぶ国際共修・異文化理解プログラムの開発・推進 人種・宗教・慣習・文化の多様性を理解し、自国文化を見直し、国際社会において共生・共存する生き方を身に付ける国際共修の取組を進める。 5. 留学生の戦略的受入れの推進と海外研鑽プログラムの充実 留学生の受入れの促進のため多様で魅力的な国際プログラムを開発するとともに留学生支援を充実させる。また、質の高い海外研鑽プログラムを数多く開発し、学生の国際体験の機会を飛躍的に増大させる。 6. 自己発展力のある主体的学生を育成する総合的学生の支援の推進 社会における自分の役割を模索し、道徳的価値観を形成し、職業準備を行い、アイデンティティを確立する青年後期の課題に対応し、心身ともに豊かな個人としての学生の成長を支援する総合的学生の支援を推進する。 7. 東北大学型AO入試の一層の深化と拡大のためのイニシアチブ 社会的に受容される選抜指標や合理的選抜方法の開発、実施負担の抑制・軽減、入学者の人物、能力の評価、試験方法の公平性、公正性、追跡調査による効果実証を進める。 8. 教職員個人の能力開発と高等教育機関のマネジメント開発支援 研究・教育・社会サービス・管理運営など大学教員に求められる全体的な能力を、各ライフ・ステージに沿って発達させるための各種支援、および職員の能力開発を支援するプログラムを開発し推進する。	

◆ 中期目標の期間 平成28年4月1日から平成34年3月31日までの6年間とする。	
I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標 【I】は、対応する全学の中期計画	I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置
1 教育に関する目標 (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標 1. 【1】学部・研究科及び教育・学習支援組織と連携し、学士課程・大学院教育を通じて高度教養教育を研究開発・実施し、学生を現代社会に対応したリテラシーとキ・コンピテンシーを身に付け、教養ある専門性を備えた市民に成長させる。 2. 【4】高度教養教育と専門教育との密接な連携の下で、学部・大学院の一貫した教育プログラムを実践し、多様なキャリアパス教育を進め、学生が主体的に自己決定し、社会に巣立つ基盤を作る。 3. 【6】高度教養教育・学生支援機構各部門、センターの活動をエクステンションとして発信する。 (2) 教育の実施体制等に関する目標 1. 【8】部局及び教育・学習支援組織が一体となって、効果的な教育・学習を実施し、多様な学生の能力を引き出すために、教学 IR 機能を強化・確立する。 2. 【9】教育・研究・実務の各種業務を遂行でき、高度教養教育・学生支援機構の使命を達成できる、国籍、年齢、ジェンダーなど多様でポテンシャルの高い教員集団を形成する。 3. 【12】高度教養教育・学生支援機構の特質を活かし、教育関係共同利用拠点などを通じて、日本の大学全体の教育機能強化に貢献する。 (3) 学生への支援に関する目標 1. 【14】すべての学生が、心身ともに健康な学生生活を送れるように、多様な学生のニーズに応じた個別支援及び全学的支援連携体制を強化する。	1 教育に関する目標を達成するための措置 (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置 1-1. 世界的な高等教育改革の研究を進め、部局、教育・学習支援組織と連携して、グローバル化社会にふさわしい高度教養教育の理念、カリキュラム、教育内容、アクティブ・ラーニングなど教育・学習方法の体系的な開発・提供を行う。 2-1. 高度教養教育・学生支援機構が現在提供しているキャリア関係科目の評価点検を行い、内容の精査と高度化を図り、初年次から大学院博士課程まで視野に入れたキャリア教育関係科目の提供を行う。 3-1. 拠点活動の成果を社会に還元するために、「アカデミック・リーダー育成プログラム」を継続して実施し、平成33年度までに全国の大学等からの修了者を拡大し、ワークショップ・成果報告会・出版などを行う。 (2) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置 1-1. 学務審議会、IR 室、評価分析室等との協働の下、学生の人格的発達を含む学習成果を測定し、教育・学習支援の効果と課題が明確になる全学的な教育・学習マネジメント体制を構築し、教育改革の推進を支援する。 1-2. 高度教養教育・学生支援機構の部門・センターがそれぞれの特色を生かして授業科目の開発と提供を行い、体系的な高度教養教育を組織的に推進するために、機構内に高度教養教育推進の責任体制を確立する。 2-1. 高度教養教育・学生支援機構の使命と目標に沿い、多様でモラルと能力の高い教員集団を形成するために、能力と業績を踏まえた昇任を進めるなど、採用・昇進・研修の人事政策と教育研究支援を体系的かつ戦略的に推進する。 3-1. キャリアステージに対応して教員に必要な能力の育成を図る PD プログラムを持続的に開発・提供するとともに、国内外の大学・学術団体等と連携し、語学教育及び数理学教育の指導力を育成するプログラムを開発し、提供する。 3-2. 日本の大学教育の水準向上に寄与するために、学内機関とも連携した教育関係共同利用拠点の新たな認定や、全国の拠点等、大学教職員の能力開発組織と連携して、全国的な大学教育開発のネットワークを形成し、プログラム等の共同開発・相互提供を進める。 (3) 学生への支援に関する目標を達成するための措置 1-1. 多様な学生のニーズに応じた支援活動をより発展させるために、学生相談や特別支援等に関するピアサポートを含めた個別支援、及び各部局との連絡会議の強化を含めた全学的連

2. 【15】総合的体系的なキャリア支援を進めることで、学生が広い視野と展望をもって東北大学で培った能力を活かし発展させ、社会で活躍し、意義のある進路を選択し、実現できることを目指す。	携体制を整備・充実させる。さらにバリアフリー化を含めた学生支援の質の向上、及びメンタルヘルスやハラスメント防止等に関する予防活動を推進する。 2-1. キャリア開発室が、臨床教育開発室、臨床医学開発室、国際化教育開発室、部局及び教育・学習支援組織と連携し、日本人・留学生・社会人・女子学生・特別な支援を要する学生など多様な学生のニーズと生涯を通じたキャリア形成に効果的な支援を体系的に進める。 2-2. イノベーション創発塾の規模を拡大し、知的財産、アントレプレナーシップなど大学院博士レベルの専門性を活かす科目を開発・提供する。
(4) 入学者選抜に関する目標 1. 【17】【18】アドミッションポリシーに適合する、優秀で意欲的な学生が国内外から受験する入試戦略を展開し、より多面的・総合的な選抜を実施する。	(4) 入学者選抜に関する目標を達成するための措置 1-1. 学部と連携し、A0 入試や特別入試などの多様な入試を拡大して全入学者に占める A0 入試等の募集人員・入学者の割合を30%程度に引き上げる。このために入試センターの体制を整備して機能を強化し、A0 入試等の実施主体である学部に対し全学的支援を強化するとともに、入試説明会、進学説明会をはじめとした入試広報活動を一層広範活発に実施し、オープンキャンパスや高校訪問など学部の広報活動を支援する。 1-2. 学部と連携し、国内外から受験するグローバル人材育成のための入試を導入・拡大するとともに、優秀な受験者を獲得するための様々な広報活動、英語ウェブページの改善、海外拠点を利用したリクルート活動、海外の教育課程を踏まえた柔軟な入学者選抜方法の改善のための調査研究などを展開する。 1-3. 平成 32 年度から実施予定とされる大学入試センター試験に代わる新テストに連動した「多面的・総合的な」個別選抜のあり方について、追跡調査をはじめとした入試データの分析、国内外調査、高校との連絡協議などによる調査研究を行い、その成果をもとに新たな選抜方式を企画・実施する。
2 研究に関する目標 (1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標 1. 【19】【20】高度教養教育及び学習・学生支援に関する先導的研究を推進し、実践を支える理論を国際的な水準で発展させる。 (2) 研究実施体制等に関する目標 1. 【31】国際的なネットワークと連携し、国内の研究拠点を形成する。	2 研究に関する目標を達成するための措置 (1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための措置 1-1. 高等教育研究、高等教育国際化論、専門分野的教育論、語学教育論、学生発達論、臨床医学、臨床心理など高度教養教育及び学習・学生支援を支える先端的研究を推進し、理論と実践双方を深化させ、国内外に発信する。 (2) 研究実施体制等に関する目標を達成するための措置 1-1. 高等教育のグローバル化に対応した研究を国内外の高等教育研究者・機関と連携して推進し、日本における高度教養教育及び学習・学生支援を支える先端的研究拠点を形成する。 1-2. 客員教授・研究員制度を活用し、高度教養教育・学生支援機構を支える先端的研究の国際的ネットワークの強化を図るとともに、サバティカル制度などによる若手教員の能力開発を支援する。

3 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標 1. 【35】高度教養教育・学生支援機構のポテンシャルを活かした社会連携と社会貢献活動を推進する。 4 災害からの復興・新生に関する目標 1. 【37】高度教養教育・学生支援機構のポテンシャルを活かし、東日本大震災からの復興・再生を支援する。 5 その他の目標 (1) グローバル化に関する目標 1. 【42】【43】【44】【45】学生の流動性を促進する双方向の海外留学プログラムを拡充するとともに、グローバルな修学環境の整備や教育プログラムの充実を行い、東北大学グローバルイニシアティブ構想を積極的に推進し、グローバル社会における指導的人材の育成を進める。	3 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標を達成するための措置 1-1. 地方自治体、高校、高等教育機関、民間企業、NPO 法人などと連携し、高等教育フォーラム、理数科教育、英語教育など従来取り組んでいる高大連携事業やPDプログラムの開放を推進し、社会貢献活動を充実させる。 4 災害からの復興・新生に関する目標を達成するための措置 1-1. 課外・ボランティア活動支援センターを通じて、東日本大震災からの復興・再生の支援を行うほか、心理学、言語学、歴史学、社会倫理学、自然科学等の各分野からの視座を通じて災害復興を目指す授業科目を開発・提供する。 5 その他の目標を達成するための措置 (1) グローバル化に関する目標を達成するための措置 1-1. 国際連携推進機構との協力の下、教育国際交流に資する海外拠点形成や海外有力大学との積極的な協定締結を行い、学生交流を活性化。数週間から1年にわたる多様な双方向の海外留学プログラムの開発・実施を主導し、学生の国際交流を促進する。また、多様な日本語能力を持つ外国人留学生の増加に対応するため、日本語教育体制を強化する。 1-2. Future Global Leadership プログラムをさらに発展させ、外国人留学生に魅力的な学位取得プログラムの開発・実施・支援を行う。また、ダブルディグリーやジョイントディグリー等の国際共同教育の推進を支援するとともに、国際共同大学院プログラムの推進に協力する。 1-3. 東北大学グローバルリーダー育成プログラムを継続的に実施し、さらに発展させる。国際共修授業等の異文化理解や実践的なコミュニケーション能力の養成に資する教育プログラムの開発・実施を主導し、学務審議会と連携しグローバルマインドを醸成する授業科目群を設置し、体系化したカリキュラムの構築を図る。また国際社会で活躍するために必要な英語を含む外国語の教育体制を強化する。 1-4. 東北大学グローバルイニシアティブ構想を発展させ、グローバル化の更なる推進のため、業務センター間の連携を格段に進め、取り組みの組織的な強化を図る。
II 業務運営の改善及び効率化に関する目標 (1) 組織運営の改善に関する目標 1. 高度教養教育・学生支援機構の組織運営の不断の点検・評価を行い、高度教養教育と学生支援を高度化するのにふさわしい運営を目指す。	II 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置 (1) 組織運営の改善に関する目標を達成するための措置 1-1. 運営の効率と効果を高めるため、機構長補佐会議、教授会議、人事委員会、総務委員会などの各種運営組織や支援業務の点検・評価を行い、改善を行う。 1-2. 教育研究支援組織を確立し、教職員が協力し高度教養教育・学生支援活動に邁進できるよう組織の活性化を目指す。

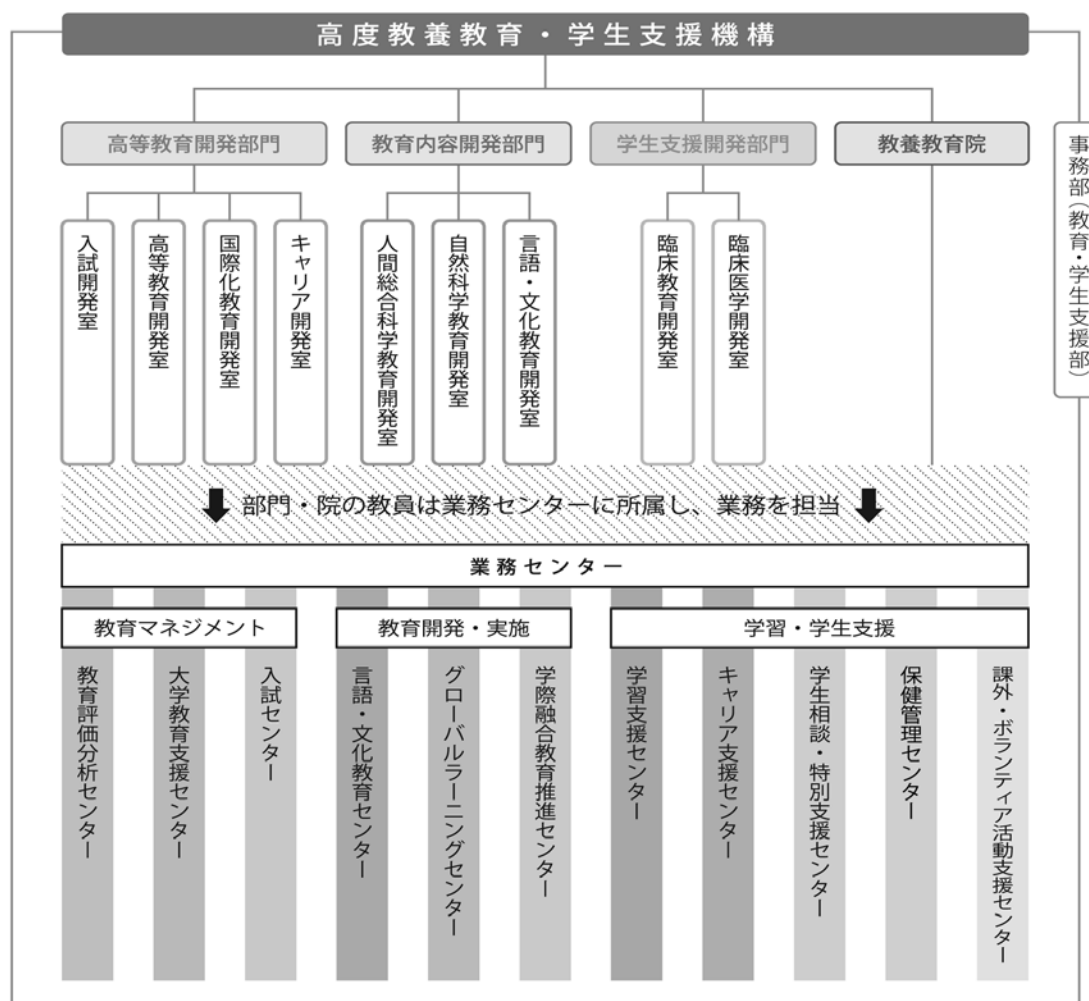
	(2) 教育研究組織の見直しに関する目標 1. 教育研究組織の不断の点検・評価を行い、高度教養教育と学生支援を高度化するのにふさわしい組織の確立を目指す。	(2) 教育研究組織の見直しに関する目標を達成するための措置 1-1. 全学教育および高度教養教育の充実のための活動を継続的に進め、業務センター等の点検・評価を行い、機構の使命を達成するために、必要な内部組織の改革を行う。
III	財務内容の改善に関する目標 1. 科学的合理的な予算を確立し、教育研究の質を向上させるために効果的効率的な運営を目指す。	III 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置 1-1. 業務センター等多様な組織に対応し、多元的な財源を統合した合理的予算を確立し、効果的効率的な運営を目指す。 1-2. 競争的資金の拡充を図り、機構内での申請支援や情報収集・分析・提供を行うなど外部資金獲得の支援体制を強化する。
IV	自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標 1. 点検・評価を通じた組織改善の組織文化を醸成する。	IV 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するためにとるべき措置 1-1. 組織と運営の改善を行い、教員個人及び機構を活性化させるために、個人評価、活動状況の公表、自己点検・評価、外部評価を定期的実施する。
V	その他業務運営に関する重要目標 1 施設設備の整備・活用等に関する目標 1. 高度教養教育と学習・学生支援を深化・発展させるための施設環境を整備する。 2 安全管理に関する目標 1. 教職員・学生が安全で健康的な環境下で教育研究に取り組めるよう安全管理体制の充実を進める。 3 法令遵守に関する目標 1. 法令及び社会規範を守り、高い倫理規範を確立する。 4 その他業務運営に関する重要目標	V その他業務運営に関する重要目標を達成するためにとるべき措置 1 施設設備の整備・活用等に関する目標を達成するための措置 1-1. 東北大学における教育の質の向上やグローバル人材育成を進めるため、機構内のセンター連携を促進させ、高度教養教育を効率的かつ効果的に進めるためのキャンパス施設整備の施策を策定し、課題探究型学習をはじめとする高等教育の研究・開発を推進し、学習支援と学生支援を含むキャンパス全体の学習空間化を進める。 2 安全管理に関する目標を達成するための措置 1-1. 学生の国際交流のための危機管理体制の強化、及び感染症や結核に対する感染管理対策を実施するとともに、全学的な環境保全・安全管理に関する計画に協力し、教育研究環境の安全向上に努める。 3 法令遵守に関する目標を達成するための措置 1-1. 本学のコンプライアンス活動を積極的に推進するとともに、多分野にわたる機構構成員が公正な研究活動・研究費の適切な使用を遂行するため、その環境整備を着実に実施する。 4 その他業務運営に関する重要目標を達成するためにとるべき措置

4. 高度教養教育・学生支援機構の沿革

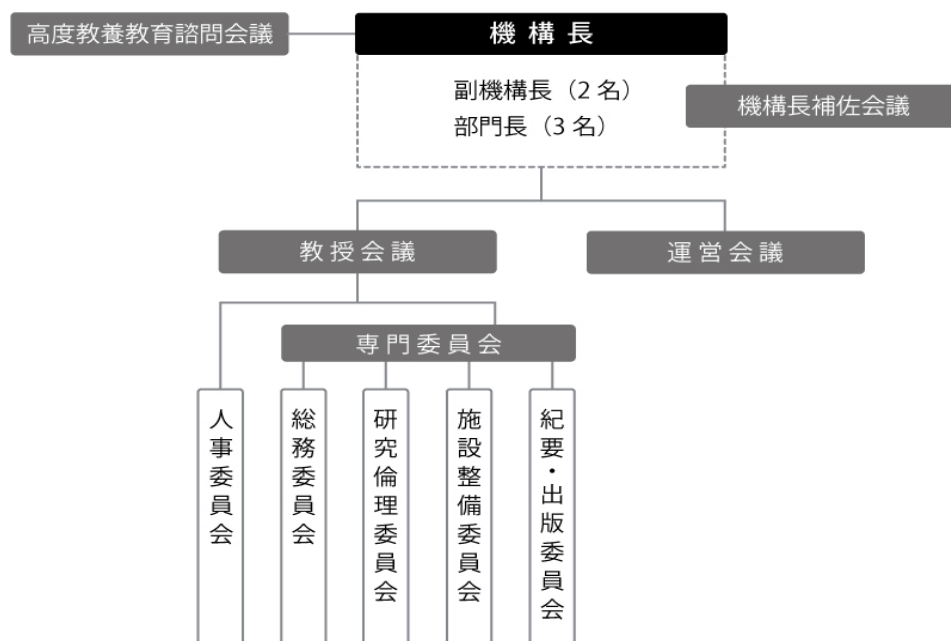
昭和 31 年 6 月	学生相談所設置。
昭和 44 年 6 月	保健管理センター設置。
平成 5 年 4 月	大学教育研究センター設置。 留学生センター設置。
平成 11 年 4 月	アドミッションセンター設置。
平成 13 年 4 月	情報シナジーセンター設置。
平成 16 年 10 月	高等教育開発推進センター設置。アドミッションセンター，大学教育研究センター，保健管理センター，学生相談所，情報シナジーセンター情報教育研究部，留学生センター（一部）を改組・統合。
平成 17 年 4 月	アドミッションセンターを入試センターに改称。
平成 17 年 4 月	留学生センターを国際交流センターに改組。
平成 20 年 4 月	教養教育院設置。
平成 21 年 7 月	高度イノベーション博士人財育成センター設置。
平成 21 年 11 月	国際教育院設置。
平成 26 年 4 月	高度教養教育・学生支援機構設置。 高等教育開発推進センター，国際交流センター，国際教育院，グローバルラーニングセンター，教養教育院，高度イノベーション博士人財育成センターを改組・統合。 花輪公雄理事（教育・学生支援・教育国際交流担当）が初代機構長に就任。
平成 26 年 7 月	機構発足記念シンポジウム「21 世紀グローバル世界が求める人間像と教養教育」開催。
平成 26 年 8 月	文部科学省より，「知識基盤社会を担う専門教育指導力育成拠点—大学教員のキャリア成長を支える日本版 S o T L の開発」が教育関係共同利用拠点（大学の教職員の組織的な研修等の実施機関）として認定（平成 27 年度）。
平成 27 年 3 月	『高度教養教育・学生支援機構紀要』創刊。
平成 27 年 7 月	文部科学省より，「教職員の組織的な研修等の共同利用拠点」が教育関係共同利用拠点（大学の教職員の組織的な研修等の実施機関）として認定（平成 28 年度～平成 32 年度）。
平成 30 年 4 月	滝澤博胤理事・副学長（教育・学生支援担当）が機構長に就任。
令和 2 年 7 月	文部科学省より，「大学教育イノベーション人材開発拠点」が教育関係共同利用拠点（大学の職員の組織的な研修等の実施機関）として認定（令和 3 年度～令和 7 年度）。

5. 高度教養教育・学生支援機構の組織

(1) 組織構成図



(2) 運営部門



Ⅱ 機構各組織の事業内容及び活動状況

1. 部門・院

(1) 高等教育開発部門

高等教育開発部門は、入試開発室、高等教育開発室、国際化教育開発室とキャリア開発室から成り、高大接続・入試の研究、教育・学習活動の研究、大学教員研究、国際化教育研究、キャリア開発研究などの高等教育に関する調査研究を行っている。これらの研究成果をもとに、各教員はそれぞれ業務センターに所属し、本学における教育の質の向上と国際化に資する多彩な活動を展開している。

入試開発室

入試開発室は、業務センターである入試センターと一体的に、東北大学の入試改善に関わる調査研究、入試全般に関する研究、入試広報および高大連携の企画・実施、AO 入試・一般選抜の企画・コンサルテーションおよび実施などの活動を行っている。

高等教育開発室

高等教育開発室は、①高等教育に関する政策・実践等の調査・研究、②東北大学における教育内容・方法、教育マネジメント、学習支援等に関する調査・研究・提案、③教育改善に資する教職員専門性開発の企画・実施の3つを柱に活動を推進している。高等教育開発室所属の教員は、教育評価分析センター、大学教育支援センター、学際融合教育推進センター、学習支援センターに所属し、その専門や適性に応じて、各センターが取り組む各種の業務やプロジェクトを推進している。

国際化教育開発室

国際化教育開発室は、グローバルラーニングセンターと一体となり、国際教育、異文化間教育、高等教育の国際化施策、多文化共生、留学生支援、国際キャリア教育、異文化適応、言語教育等の、グローバル人材育成に関連した研究活動と、海外派遣・受入留学プログラムの開発・実践、国際教育カリキュラムと国際共修科目の開発・改善、日本人学生を含む国際学生への教育・支援の充実化などの教育活動を両輪とし、幅広い活動を展開している。

キャリア開発室

キャリア開発室は、キャリア支援センターと一体となり、キャリア、キャリア形成支援に関連する調査・研究、プログラム開発を推進している。教育面では、正課教育として全学教育や部局と連携したキャリア教育科目を開講するとともに、正課外で全学学生を対象とした各種の進路・就職支援プログラムや個別相談等も実施している。

(2) 教育内容開発部門

教育内容開発部門は、人間総合科学教育開発室、自然科学教育開発室、言語・文化教育開発室の3室から構成される組織であり、東北大学の教養教育の根幹を担う部門である。全学教育授業を実践するとともに、各室・部門間および業務センター等との連携により、教育プログラムやカリキュラムの調査、企画、開発、教育環境整備等を含む“高度教養教育の開発と実践”にあたる。

人間総合科学教育開発室

人間総合科学教育開発室は、歴史学を中心とした人文科学と運動生理学との観点から、以下のような研究・教育を行っている。主に、人文・社会科学系教養教育に関する調査・研究・実践とその経験に基づく教育活動およびカリキュラム開発をおこなっている。また、運動生理学の観点からの研究にもとづき、運動生理学の研究結果の授業を担当している。

自然科学教育開発室

自然科学教育開発室は、全学教育科目において理科実験科目「自然科学総合実験」を担当するユニットと自然科学

系科目（英語クラス）を担当するユニットからなる。理系初年次学生約 1,700 名を対象とした必修の理科実験科目である「自然科学総合実験」と学士課程英語コース (FGL) の初年時学生を対象とした「Introductory Science Experiments」を企画・運営している。また、文科系初年次学生を対象とした理科実験科目「文科系のための自然科学総合実験」も担当している。

3 つの学士課程の英語コース（全学教育科目を含む）向けの自然科学系基礎教育プログラムの企画、開発、実施、改善活動を行っている。また、諸外国における「留学生フェア」等にも参加して積極的な広報活動も務め、東北大学の教育研究の認知度アップにも貢献している。

言語・文化教育開発室

言語・文化教育開発室は、全学教育や留学生特別課程等において外国語及び日本語科目を担当するとともに、言語教育に関する教授法の研究および実態調査を行う。あわせて、全学教育を中心に本学の語学授業に関わる学習環境を整備し、カリキュラムの開発・設計・実施、CALL 語学演習施設を活用した語学学習支援、e-learning を利用した語学学習教材とシステムの開発等に関して各種提案を行うことを主たる使命・目標とする。外国語科目では、英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、朝鮮語を担当し、「聞く・話す・読む・書く」の 4 技能の運用能力を高めるだけでなく、外国語圏の社会・文化・歴史の学習を通して多言語・多文化間の相互理解を深めることを目指した教育を実践する。日本語科目では、全学の各部局に在籍する留学生や外国人研究者を対象として、それぞれの専門課程において要求されるより高度な日本語運用能力を育成するとともに、日本人学生との共修授業等を通じて日本文化への理解を促進することを目指す。

(3) 学生支援開発部門

本部門は、臨床教育開発室と臨床医学開発室から構成され、所属する教員はそれぞれ学生相談・特別支援センター、保健管理センターでの業務を主に担当している。大学生活のなかで経験する身体的、精神的問題、種々の悩みなど問題を抱えている学生への個別カウンセリングや、ハラスメント等の問題解決に向けての支援、障害のある学生等の支援の実践とともに、その環境整備を進め、臨床教育および臨床医学関係の教育・研究を行っていく部門である。

臨床教育開発室

臨床教育開発室は、主に学生相談・特別支援センターの業務を担当する教員によって構成され、「学生が本学での経験から最大限の利益をひきだすことができるよう、学生及び大学コミュニティへの支援を行うこと」を使命および目標として、学生相談及び特別支援の活動の充実に努め、大学生活の中で問題を抱えている学生へのカウンセリングや障害のある学生への支援活動の充実・開発、学生支援体制の整備に資する研究を行っている。

臨床医学開発室

臨床医学開発室は、保健管理センターと一体的に学生の心身の保健管理を行うことを使命として、健康相談、診療、定期健康診断・特殊健康診断とその事後処置、栄養相談に加え、健康科学セミナーの開催、健康に関するリーフレットの発行などを行っている。また保健管理センターで得られた健康情報を解析し、有効な保健対策を企画・立案するとともに、学生の健康を脅かす疾患の病因・病態の研究ならびに治療法の開発を行っている。

(4) 教養教育院

教養教育院は、教養教育充実の方策の一つとして平成 20 年 4 月に設置され、平成 26 年 4 月に本機構に統合された。本院は、総長特命教授と教養教育特任教員で構成され、教養教育の中でもとりわけ重要な初年次教育において、学生の学びへのモチベーションを高める授業を創り出し、教養教育を推進する先導的な役割を果たしている。主な活動・取組は、以下のとおりである。

① 基礎ゼミクラスの担当

初年次学生全員が受講する学部横断型少人数科目（基礎ゼミ）を、総長特命教授はそれぞれ 2 クラス担当している。「研究をするには何が必要か」、「大学に入学した段階でまず何をしなければならないのか」、そうした疑問に対して、

学生とのコミュニケーションを密にし、情報収集のスキルや分析の方法、発表の仕方などを教示すると共に、“モノを見る眼”の涵養を図り、学生たちが自ら考え、研究の道筋を作っていく“場”の創設を支援している。

① 全学教育（基幹科目・総合科目・語学教育）での新たな試み

初年次・2年次学生を対象に行われる全学教育におき、教養教育院の特命教授と特任教員はそれぞれの専門分野の科目を担当し、授業を活性化させるためのさまざまな工夫を行い、教養教育を推進する上での試みを行っている。

② 教養教育への理解を深める

教養教育をテーマにした「教養教育特別セミナー」や「総長特命教授合同講義」をそれぞれ年一回企画し、「初年次学生をはじめとする本学学生に、教養に裏打ちされた知性を高めることの意義を理解してもらう機会を提供している。

③ 小冊子『読書の年輪』の発行

「大学での学び」を始める上でのガイドブックとして、『読書の年輪～研究と講義への案内』を毎年刊行し、教務課との協力のもと入学予定者に配布している。本書には歴代の総長特命教授それぞれが、自らの教育研究活動の経験に立って選んだ、新入生に推薦すべき“導きの書籍”6冊にコメントを付けて収録しており、毎年増補している。

④ 「東北大学教養教育院叢書」の刊行

教養教育院で開催してきた「特別セミナー」や「合同講義」、それぞれが担当の授業内容などの中から特定テーマを選び、それを特集した叢書の刊行を行っている。これまで「教養と学問」「震災からの問い」「人文学の要諦」でまとめた3冊を世に問うてきたが、2020年度には第4巻として「多様性と異文化理解」を刊行した。

⑤ 教養教育への提言

教養教育院の院長（教育担当理事）が主催する教養教育院懇談会（年4回開催）や総長との懇談会の機会に、自らの教養教育での実践に基づいた意見を述べ、東北大学の教養教育推進に寄与している。

2. 業務センター

(1) 教育評価分析センター

使命

- (1) 国内外の高等教育動向および実践に関する調査研究を実施し、教育および学習に関する評価の理論を発展させ、その成果を国際的に発信する。
- (2) 本学の教育学習活動に係る意思決定に資するデータ収集・分析・提供のための効果的システムの開発・運用を通して、本学における持続的な教育改革・改善や学生の幅広い学習活動の実現を支援する。
- (3) 学務審議会、教育改革推進本部、高度教養教育・学生支援機構（業務センター）、各部局、事務組織の有機的連携に基づく一体的な教育マネジメント体制の確立に寄与する。

事業内容及び活動状況

- (1) 本学の教育学習活動・環境に関する基礎的データ収集システム（授業評価アンケート、成績評価・GPA 実施状況、学務情報システムとの連動）を整備する。

①平成 29 年度までに基礎的データ収集システムを整備しており、現在は各種調査結果や授業評価アンケート結果等のデータを様々な分析に用いられるよう、データベースサーバーに整理・保存している。このうち、全学教育の授業評価アンケートおよび成績評価に係るデータについては教務課から提供を受け、DB へ格納・蓄積を進めるとともに、令和 2 年度の第 1・第 2 学期の結果概要について概要作成を行った。（第 1 学期：東北大学全学教育 HP にて公開済み、第 2 学期：近日公開予定）

②国内外における IR の先進的取組に関する調査として、昨年度に引き続き、九州大学 IR 室関係者とオンラインで教学 IR に関する情報交換を行った。また IR に関する基礎的スキルの習得・向上の為、下記セミナーへ事務局員を派遣した。

- ・大阪大学高等教育・入試研究開発センター「大学 IR 入門セミナー」（令和 2 年 11 月）
- ・愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室主催「教学 IRer 養成講座」（令和 2 年 12 月）

- (2) 新入生調査、卒業時調査、学習経験調査（学士課程レベル、大学院課程レベル）、卒業生調査、学生生活調査、雇用者調査、教職員調査の体系的な設計・実施・分析を通して、東北大学における教育の効果点検・質向上を推進する。

①学生生活支援審議会の下に設計された「第 14 回東北大学学生生活調査 WG」に教育評価分析センターから 2 名（うち 1 名は副委員長）が参画し、令和 2 年 12 月に「第 14 回 東北大学学生生活調査」を実施した。今年度から「学生の声@東北大学」ページ（http://www.cir.ihe.tohoku.ac.jp/student_voices/）を調査用ランディングページとして設置し、過去の調査結果に基づく改善事例を紹介し、学生に調査協力を促した。その結果、回収率は 39.4%となり、前回の 20.6%を大幅に上回った。同調査結果は、『令和 2 年度【東北大学学生生活調査】のまとめ 東北大学生の生活』として刊行し、本学 HP に掲載の上、学内外に情報提供されている。

②学務審議会の下に設置された「第 5 回学修成果調査ワーキング・グループ」（令和 2 年 11 月 2 日設置）を中心に調査設計を行い、令和 3 年 2・3 月、「第 5 回 東北大学の教育と学修成果に関する調査」を実施した。回収率は 34.8%であった。調査に際しては、第 1 回調査（平成 24 年度実施）からの調査内容を基盤に、東北大学に対する学生の評価、経験、学修成果について過去 4 回分の調査結果との経年比較ができるよう設計した。データの基礎集計・分析や結果共有は令和 3 年度に実施する予定である。

③コロナ禍における本学の教育・学修状況を把握し改善に繋げるため、令和 2 年 6 月に急遽「東北大学における全学オンライン授業アンケート」を学生・教員対象にオンラインで実施し、回答率は学生 22.4%、教員 30.2%であった。分析結果は下記の通り、学内外で結果共有を行った。

- ・令和 2 年 7 月 6 日開催の「第 6 回教育調査研究会」において分析結果報告
- ・令和 2 年 7 月 21 日、総長等執行部に対して結果報告
- ・国立情報学研究所主催の第 13 回「4 月からの大学等遠隔授業に関する取組状況共有サイバーシンポジウム」（令和 2 年 7 月 31 日開催）において教員調査の結果について報告
- ・教育データレポート CIR Insights Vol.11（2020 年秋号、令和 2 年 10 月発行）にて情報展開

- (3) 本学の教育学習活動に係るデータの収集・分析・提供を行うシステムの開発・運用を通して、本学における効果的な意思決定および教育マネジメントを支援する。

①学生・教員を対象とした「全学オンライン授業アンケート」の分析結果や、全学教育の授業評価アンケート・成績評価（令和元年度・令和2年度第1学期）の比較分析結果について、学内での研究会や CIR Insights 等の媒体を用いて情報発信・共有し、本学におけるオンライン授業の実践やマネジメントを支援した。

②本部の教育改革推進会議の下に設置された「教育の質保証検証部会」（部会長：滝澤博胤教育担当理事）に、教育評価分析センターから2名（うち1名は副部会長）が参画し、本学における教育内部質保証の取り組みに関して中心的役割を担った。これらの活動を通して、本学における教育に係るマネジメントや内部質保証の実態や課題を把握することができた。

③教育情報・評価改善委員会と協力して、全学教育で実施している「学生による授業評価アンケート」の結果や成績評価分布の分析を行い、全学教育の質保証・質改善活動に貢献している。

④東北大学・大阪大学・名古屋大学の旧帝大3大学間で、各大学が2018年度に実施した「学修成果調査」の結果に関するベンチマーキングを実施し、その結果について担当理事に情報提供を行った。

(2)大学教育支援センター

使命

- (1) 国際的な連携を基盤に、大学教育内容・方法開発及び教職員の能力開発を推進するための調査研究を行い、その成果に基づくプログラムを開発・実施する。
- (2) 高度教養教育・学生支援機構の各業務センター及び学内部局・教職員と連携した各種専門性開発活動を行い、全学的な教育改革の推進に寄与する。
- (3) 教育マネジメントを担う教職員の職能開発プログラムを開発・提供し、教育マネジメントの向上に寄与する。
- (4) 教育関係共同利用拠点として、以上の取組の成果を積極的に学内外へ発信し、日本全体の大学教育改革の推進に寄与する。

事業内容及び活動状況

- (1) 大学教育開発及び大学教職員のキャリア開発のための調査研究の推進

大学教育支援センターでは、その使命を果たすべく、国際的な連携を基盤に、大学教育内容・方法開発及び教職員の能力開発を推進するため、学内外の競争的資金を含め各種調査研究と連携を図り、その成果に基づくプログラムを開発・実施している。令和2年度は、文部科学省「教育関係共同利用拠点」(機能強化経費：教育関係共同実施分)、同「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」(研究拠点形成費等補助金)、科学研究費補助金、東北大学全学的基盤経費における事業と連携し、調査研究及びその成果に基づくプログラムの開発・提供を行った。

- (2) 大学教職員のキャリアステージに対応した専門性開発プログラム(PDP)の開発・提供

教育関係共同利用拠点事業において、日本の高等教育の多様性に対応するため、機構内各業務センターと連携し、分野別プログラムとして4領域14カテゴリーにわたる専門性開発のためのPD(Professional Development)セミナー(ワークショップを含む)を実施した。令和2年度は、13セミナーを実施し、48都道府県、550機関より、計2,226名が参加した。

受講満足度では、総合評価3.4(4件法)と高い成果が得られ、継続して高い水準を維持している。高等教育の多様な領域をカバーすることで、セミナー参加者の能力開発に貢献した。

- (3) 「PDP online」におけるPDセミナーの動画配信

PDセミナーを収録・編集した動画をオンデマンド形式で提供することで、遠隔による能力開発の機会を提供した。令和2年度末時点で95の動画を配信しており、質・量ともに国内で類を見ない規模のコンテンツとなっている。令和2年度の閲覧数は43,498件で、平成28年度の提供開始時からの累計閲覧数は約16万件となった。誰でもいつでもどこでも自由に利用できるオンデマンド型e-learning教材としての特色を生かし、全国規模で個人・組織によるFD・SD等の能力開発に活用されている。

上記については、自力でFD・SDを実施することが難しい大学等のための「機関利用」を推進している。機関利用登録は、34機関(国立大学3、公立大学2、私立大学28、民間組織1)となり、前年度と比べて18機関増加した。機関利用の推進により他大学における組織的なFD・SD研修への支援を行うこととなり、全国の大学教職員に自己啓発の機会を提供した。なおPDP onlineの動画とPDブックレット(ハンドブック)をテーマごとに10のモジュールに整理し、利用を推進した。

- (4) 専門教育指導力育成プログラム(DTP)の開発・提供

日本学術会議の提言『物理学における学問分野に基づく教育研究(DBER)の推進』(2020年8月28日)における物理教育研究(PER)をはじめとするDBERの普及のための諸提言、並びに、文部科学省認定の教育関係共同利用拠点「知識基盤社会を担う専門教育指導力育成拠点—大学教員のキャリア成長を支える日本版SoTLの開発」(東北大学高度教養教育・学生支援機構)によるDBER普及を含む大学教員の専門性開発のためのこれまでの取組を踏まえ、DBERの普及による教育改革を推進するための実践共同体(CoP)のニーズ等について、日本学術会議関係者の協力により、オンラインでのインデプス・インタビュー(in-depth interview)による調査を実施した。インタビューの対象は、国内でDBERやその知見に基づく教育実践に取り組む教員10名であり、DBERの普及による教育改革を推進するために必要な実践共同体(CoP)の要件等について、貴重な示唆を得ることができた。さらに、大学における理系基礎教育に関するWebアンケート

ト調査を 2,000 名の大卒者・大学生を対象に実施し、DBER の知見を活かす必要性が特に高い理系基礎教育について、学生の視点から見た実態の課題が明らかになった。

STEM（科学・技術・工学・数学）分野における学問分野固有の専門性の習得に向けた「分野別教育方法研究」（DBER: Discipline-Based Education Research）の発展及びその実践的・実証的知見に基づく組織的な教育改革を主導してきたカール・ワイマン氏（スタンフォード大学教授。2001 年ノーベル物理学賞受賞者）による、先進的・組織的取組の全貌を詳述した著書『Improving How Universities Teach Science: Lessons from the Science Education Initiative』の翻訳作業を進め、令和 3 年度中の訳書出版を決定することができた。

（5）大学教員準備プログラム（PFFP）・新任教員プログラム（NFP）の開発・提供

令和 2 年度は PFFP・NFP の実施が困難であったため、令和 3 年度からの実施に向け、プログラム内容の見直し及び改善に努めた。これまで両プログラムは約 9 ヶ月間という比較的長期の受講期間を要し、他大学訪問も含めて負担も少なくなく、また教授法の習得に重点をおいたプログラム内容であった。各種検討の結果、教授法だけでなく学生理解や学習理論、高等教育の基礎的リテラシーの習得にも配慮するものへとプログラム内容を変更し、同時に短期間（クォーター形式）で効率的・効果的に実施する形式へと改めた。このプログラムは、令和 3 年度より実施する。

（6）大学変革リーダー育成プログラム（TLP）の開発・実施

履修証明プログラム「大学変革リーダー育成プログラム（TLP）」（令和元～2 年度）は、所属機関における改革案の企画・実施を含む実践的カリキュラムにより、大学マネジメントにおいてリーダーシップを発揮できる人材の育成を目指している。

当初の計画では 2020 年度は 2019-2020 年度（令和元～2 年度）の 2 年目でありプログラムが修了する見込みであった。だが新型コロナウイルスによる受講生への影響に鑑み、急遽、長期履修制度を採用することとなった。その結果、プログラム修了は 2021 年度（令和 3 年度）の 9 月となった。また同じく新型コロナウイルスの影響により各種調査を受講生個人で企画・実施することが困難になった。そのため桜美林大学でグローバル化対応に従事する教職員（それぞれ 1 名）に調査を依頼し、オンラインによるインタビュー調査を行った。現在は最終報告書の作成に向けた支援を行っている。

なお、本プログラムは、文部科学省・職業実践力育成プログラム（BP）の認定、厚生労働省・教育訓練給付金制度対象講座としての指定を受けている。

（7）大学マネジメント力開発プログラム（SDP）の開発・提供

職員に加えて教員や執行部も対象とする SD の趣旨に照らし、教育研究と大学運営の高度化の担い手を育成するため、「大学マネジメント力開発プログラム」（SDP）シリーズとして、第 1 回「大学と資産運用」（令和 2 年 10 月 28 日）及び第 2 回「破壊的イノベーションと大学」（令和 2 年 12 月 19 日）をともにオンラインで開催した。2 回のセミナーに 26 都道府県・97 機関より計 163 名が参加した。受講満足度は 3.45（4 件法）であり、高等教育に関する最新情報や時宜にかなった専門知識等を提供することができた。

（8）「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」に関する業務

文部科学省「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」（令和元年度～5 年度）において、東北大学が代表校となり、熊本大学、大阪府立大学、立教大学を連携校として実施する取組「創造と変革を先導する産学循環型人材育成システム」が、運営拠点及び中核拠点として採択された。

申請時の計画を 1 年前倒しし、履修証明プログラム「産学連携教育イノベーター育成プログラム」（実務家教員育成研修）を開発し、受講者 56 名が令和 2 年 11 月 1 日より受講を開始した。令和 2 年度は、履修証明プログラム（60 時間）のうち、大学教育基礎力科目（15 時間）及び汎用的教育実践力科目（9 時間）の実施を完了した。大学教育基礎力科目に関する受講者評価では、学習意欲が高まったか 4.4（5 件法）、内容や学習方法は自身のニーズに合致するものだったか 4.2（同）であった。専門領域別科目（24 時間）及び教育イノベーター実践演習科目（12 時間）は、令和 3 年度に実施する。文部科学省「職業実践力育成プログラム」（BP）に申請し、令和 3 年度プログラムからの認定を受けることができた。

大学と企業・団体等が会員となって「産学連携教育イノベーター育成コンソーシアム」を令和 2 年 7 月 1 日に設立した。計 30 組織（大学等 4 組織、企業・自治体等 26 組織）が加盟し、多様なステークホルダー

からプログラムの開発・改善に役立てる意見を得られる体制を構築した。

また、令和 3 年 3 月 20 日に文部科学省及び一般社団法人 日本経済団体連合会より後援を受け、本事業実施校（中核拠点 4 つ）が主催する「大学改革を担う実務家教員フェア 2021（第 2 回）」を開催した。実参加者数は 362 名となり、受講者評価（満足度）は 3.4（4 件法）であった。

文部科学省「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」における運営拠点として、研修修了者のデータベースの構築・運用とそれを活用した大学とのマッチングサービスの運営等について、国立研究開発法人科学技術振興機構（略称 JST）と連携し、大学関係者に広く認知されている「research map」及び「JREC-IN」を活用した仕組みづくりに着手した。産学連携により、知識集約型社会に対応した大学改革に貢献する「教育イノベーター」の育成を推進し、経団連からの協力も得られるなど、社会的な意義と認知度の高い取組として成果を挙げている。

（9）大学教育イノベーション日本（HEIJ）を通じた他機関との連携

国公立の設置形態の区別なく大学教育改革に取り組む 15 組織（13 大学 14 組織及び 1 コンソーシアム）が加盟する「大学教育イノベーション日本（HEIJ）」は、設立当初（平成 28 年度）より東北大学が事務局を務めており、本団体の活動を引き続き主導し、持続的な事業展開を図った。

第 5 回大学教育イノベーションフォーラム「FD・SD のイノベーションーコロナ禍における取組と今後の展望」（令和 2 年 10 月 29 日）を開催し、212 名が参加した。

(3)入試センター

使命

全学的な各種入試関係委員会との連携のもとに、本学入試の中長期的な企画や改善検討を行うとともに、大学入試センター試験や一般入試をはじめとする入試業務を中核的に担い、また入試広報活動や高大接続・連携事業を企画実施する。これらの活動を通じて、本学アドミッション・ポリシーに合致した優秀な学生の獲得に貢献する。

事業内容及び活動状況

- (1) 本学入試の中長期的な企画・改善検討（入試企画・広報委員会における検討、本学入試・国内外入試の調査研究、追跡調査、受験者・入学者へのアンケート、入試情報の提供、部局への助言・コンサルテーション、国大協・入研協等の外部組織・他大学・高等学校との連携・情報交換）

- ・国の高大接続改革における多面的・総合的評価による入学者選抜を本学においても取り組み、AO入試を定員の30%に拡大する方針に基づき、令和3年度入試でKPIである入学定員比30%を達成した(31.6%)。
- ・上記KPI達成のために、入試企画・広報委員会やAO入試懇談会等で各学部と協議、全学支援体制の強化(AO入試Ⅱ期・Ⅲ期の実施本部体制拡充、入試関連FDの実施、入試ミス防止支援等)を進めた。
- ・工学部入試検討委員会の委員・オブザーバーとなり、AO入試実施に関わる助言・実施協力を行うほか、各学部のAO入試等に関し相談対応・助言、また、国際学士コースの入試に関して国際学士コース入試小委員会などを通じて助言を行った。
- ・感染症対策のガイドラインや高校調査等に基づき、令和3年度(2021年度)入試におけるコロナ対応(コロナ感染予防対策、追試験実施等の企画)を行った。
- ・入試企画・広報委員会にワーキング・グループを置き、広報関連業務の活動を行った。例年の活動(『大学案内』編集等)に加え、コロナ禍の下での広報活動のオンライン化(オンライン進学説明会・相談会、オンラインオープンキャンパス等)の対応を行った。
- ・入学者へのアンケートを例年どおり行い、入学者の動向を分析。回収率は98%
- ・全国大学入学者選抜研究連絡協議会(入研協)は中止となったが、予稿集に3件の研究発表論文を掲載。
- ・国立大学アドミッションセンター連絡会議においては会長、事務局長を引き受け、ウェブサイト立ち上げた。国立大学間の連携・情報交換の基盤を整備した。
- ・県内高等学校との連絡協議会を開催し、入試に関する情報交換を行った。
- ・高大接続改革やコロナ禍の下での入試に関する調査研究を実施。
- ・シンポジウム(東北大学高等教育フォーラム)を開催し、前年度分の成果を昨年発刊の東北大学大学入試研究シリーズ第3巻として刊行した。
- ・科研費基盤A「高大接続改革の下での新しい選抜方法に対する教育測定論・認知科学・比較教育学的评价」、科研費挑戦的研究(開拓)『大学入試学』基盤形成への挑戦——真正な評価と実現可能性の両立に向けて——」を継続して実施し、ウェブサイトを通じて研究成果を公開するなど、大学入試研究の成果発信に努めた。

- (2) 入学者選抜の実施(入試実施本部、入試企画・広報委員会、入試実施委員会構成員)

- ・入試実施本部(大学入学共通テスト、一般選抜前期・後期日程)、作題班支援、共通テスト試験監督等
- ・入学試験審議会、入試実施委員会、入試企画・広報委員会各委員
- ・AO入試Ⅱ期実施(志願者1,105名、合格者276名) 前年比志願者100名増
- ・AO入試Ⅲ期実施(志願者865名、合格者370名) 前年比志願者192名減
- ・医学部地域枠入試(志願者20名、合格者8名)
- ・科学オリンピック入試実施(志願者1名、合格者0名)
- ・国際バカロレア入試実施(志願者4名、合格者1名)
- ・帰国生徒入試実施(志願者19名、合格者9名)
- ・私費外国人留学生入試実施(志願者63名、合格者10名) 前年比志願者46名減
- ・グローバル入試Ⅰ期実施(志願者1名、合格者0名)
- ・グローバル入試Ⅱ期実施(志願者3名、合格者1名)
- ・一般選抜(前期日程)実施(志願者4,499名、合格者1,714名) 前年比志願者115名増
- ・一般選抜(後期日程)実施(志願者1,251名、合格者116名) 前年比志願者103名減

(3) 入試広報活動（高校生・高校教員・保護者対象の説明会開催，高校等主催の説明会・相談会への参加，高校訪問・高校教員との懇談会，冊子・ウェブサイト等による入試情報の提供，学内への情報提供）

- ・オンライン入試説明会（高校教員対象）を 39 回実施 参加者 226 名（38 都道府県）
- ・対面型入試説明会（高校教員対象）は上記のとおりオンラインで代替*（前年実績 557 名）
- ・オンライン進学説明会（受験生・父兄対象）ウェブサイト開設 訪問者 52,077 名
- ・対面型進学説明会（受験生・父兄対象）は上記のとおりオンラインで代替*（前年実績 3,010 名）
- ・高校の大学見学の対応 1 件
- ・民間業者等開催のオンライン説明会（高校教員との懇談会含む） 4 件
- ・高校訪問 3 校（入試センター教員分）
- ・東北大学案内の作成 35,000 部発行
- ・AO 入試パンフレットの作成 7,000 部発行
- ・入試センターウェブサイトによる情報の発信
- * 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため

(4) 高大接続・連携事業（フォーラム開催，アウトリーチプログラム，出前事業等の企画・学部支援，オープンキャンパスの企画開催・全学支援）

- ・第 32 回高等教育フォーラム（9 月 23 日，当初予定は 5 月 21 日）「大学入試を設計するー「大学入試研究」の必要性とその役割ー」をオンラインと対面のハイブリッド方式で実施。参加者 375 名（オンライン参加 284 名 来場参加 91 名）（前年比 4 名増）
- ・オンラインオープンキャンパス ウェブサイト開設 訪問者 76,278 名
- ・対面型オープンキャンパスは上記のとおりオンラインで代替*（前年実績 68,403 名）
*R2 年度入学者参加率 56%
- ・高校等主催の模擬授業，入試説明会・相談会に講師を派遣 18 件（対面型 13 件 オンライン 5 件）
- * 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため

(4)言語・文化教育センター

使命

大学教養教育の基盤として広義のコミュニケーション能力獲得と多文化理解は重要な使命であり、自分の母語のみに限定されない総合的な言語運用能力を基盤として、幅広い価値観と世界観を涵養することは国際的なリーダーシップ力の育成にとって不可欠である。豊かな言語活動を実質化させるためには、言語4技能「聞く・話す・読む・書く」の総合力を備えた実践的運用能力の養成が不可欠であり、本センターは、国内外の高等教育機関における言語教授法と言語文化教育カリキュラム編成の在り方に関する調査研究を推進し実践するとともに、具体的かつ実行可能な言語文化教育改善のための提言を行い学生教育に反映することによって、言語文化に関わる教養教育の高度化と更なる発展に寄与することを使命とする。

事業内容及び活動状況

(1) 全学教育「外国語科目」・「日本語科目」および高年次用英語教育カリキュラムを学務審議会との連携のもと企画・開発し、運営する。

- 全学教育「外国語科目」および「日本語科目」においては、学務審議会科目委員会とも連携し、実施方法やシラバスの見直しを進めている。また一部外国語において展開科目として高年次教育への継続を図っている。
- 「英語」科目に関しては、2018年11月に学務審議会内に「英語教育改革推進WG」が設置され、2019年度にかけ、英語教科部会と連携し、全学英語教育体制の見直しに取り組んだ。その結果、1年次学生対象科目である「英語A」及び「英語B」については、2020年度から新しいカリキュラムのもとで授業が実施されている。2年次学生対象科目である「英語C」については、2021年度から新しいカリキュラムのもとで授業が実施されることから、外国語委員会の下に設置された「英語教育改革実施WG」や英語教科部会と連携し、「英語A」と「英語B」も改めて含めた形でカリキュラムの見直しを行った。その結果、全学教育の「英語」科目の授業は、2021年度からすべて新しいカリキュラムのもとで実施されることになる。また、2019年度においては、新しいカリキュラムへの移行を円滑に行うための説明会の開催、新しいカリキュラムに合わせたシラバスサンプルの準備、教授用資料や教材（特にオンライン教材）の作成など、関連する作業を行ったが、2020年度においても同様の作業を行った。
- 2019年7月に日本の大学で初めてETS（Educational Testing Service）と包括協定を結び、英語教育の実践と研究開発について協力を進めることとした。2020年度においては、その一環として、学生から志願者を募る形で、ETSの研究プロジェクトのデータ収集に協力するなどした。
- 英語教育では、学生の英語運用能力が多様化してきている現状、特に留学生、帰国子女、英語圏への留学経験者などが増加していることに鑑み、2020年度から実施される新しいカリキュラムでは「習熟度別クラス編成」（上級、中級及びプレ中級の3レベル編成）が導入されている。2020年度は、この編成作業を初めて行うことから、試行錯誤的な部分もあったが、英語教科部会の時間割係と連携し、編成方針の決定や実際の編成作業などを行った。なお、従来の「上級者用クラス」の受講者を「上級レベル」のクラスで吸収できることから、「上級者用クラス」は、1年次学生対象科目である「英語A」及び「英語B」については2020年度時間割から廃止されており、2年次学生対象科目である「英語C」については2021年度時間割から廃止される。
- 高年次用英語教育カリキュラムの橋渡しとして、「Practical English Skills（PES）」においてプレゼンテーションスキルやライティング力を高めるための教材、教授法の開発、また実用的な環境で英語力を向上させるためにIPLAの留学生との統合的英語クラスの運営を進めている。なお、従来「PES」が果たしてきた役割（プレゼンテーションやライティングの技能育成、そのための教材や教授法の開発、など）については、2020年度から実施される新しいカリキュラムのもとでは、「英語A」、「英語B」及び「英語C」の授業で代替できるため、「PES」については2021年度時間割から廃止される。
- 全学部の1年次学生を対象に実施されているTOEFL ITP®テストについて、特に新しいカリキュラムの効果の検証を主な目的として、スコアの変化や英語の授業内容との相関性などについての分析を行っている。
- 2020年度入学生全員に、英語学習ハンドブック「*Pathways to Academic English*」（改定版）を配布した。また、2021年度入学生用には、新しいカリキュラムに合わせて大幅な改訂作業を行い、東北大学出版会から発行した。

- 11月14日～15日にスペイン語能力検定試験（DELE）を実施。企画・運営・面接試験を担当。
- 11月28日に関西外国語大学にて、ELEに関する研究発表・講演（Intercultural encounters: re-definition of space and new challenges for theory and practice.）を行った。
- 日本語教育では、オンライン授業方法及び評価方法の開発を進め、外国語教授法を学ぶ大学院生との交流を授業に組み込むなど、学習意欲の向上につながる活動を実践している。

（2）全学留学生対象「日本語教育プログラム」をグローバルラーニングセンターと連携して企画・開発し、運営する。

- 外国人留学生等特別課程を企画・運営し、のべ約432名が受講している。
- 外国人留学生日本語研修コース（定員：各学期合わせて30名）を企画・運営し、研修生の教育指導を担当している。
- 日本語・日本文化研修留学生プログラム（定員10名）を文学部と共同で企画・運営し、研修生の教育指導を担当している。
- 短期留学受入プログラム JYPE（理系）、COLABS（理系大学院）、IPLA（文系）の日本語コースを企画・運営している。
- 留学生就職促進事業「DATEntre 東北イノベーション人材育成プログラム」の日本語カリキュラムを企画・運営している。

（3）e-learning 環境を改善し、コミュニケーション能力育成のための学習コンテンツを開発する。

- 2020年度入学生から BYOD 環境に移行していることから、それに合わせた e-learning 環境の整備について検討を開始している。
- BELTA（Bangladesh English Language Teaching Association）にて New spaces for language education: challenges for theory and practice. と題するオンライン研究発表・講演を行った。

（4）外国語教育研究の成果に基づいて、多読、多聴、速読、CALL 教育等の外国語教授法を改善・開発し、実践する。

- 「多読」については、2015年度から補助金を得て、附属図書館本館のグローバル学習室における蔵書の強化を図っているところである。2017年度は多様な学問領域における入門書にあたる図書を精選して整備することで、専門科目の内容を英語で学ぶ環境を作った。「英語」科目の新しいカリキュラムのもとでの有効な活用については、その方法を模索しているところである。
- オンライン学習支援システムを用いて、反転授業を展開し、十分な課外学習時間を確保するよう努めている。
- 海外、特に日本と同じ非（または準）英語圏における英語教育の先進的事例についての調査を 2015 年度から開始した。2015 年度には韓国ソウル大学及び高麗大学への訪問調査を、2016 年度には香港理工大学、香港中文大学、香港城市大学及び香港科技大学への訪問調査を、2017 年度には国内における先進的事例について神田外語大学への訪問調査を、それぞれ行った。また、2017 年度には、香港理工大学、香港科技大及び神田外語大学から講師を招き、英語教育サポートシステムに関するシンポジウムを開催した（2018年3月3日、「東アジアの大学における特色ある英語教育サポートシステムー香港と日本の例から」、於東北大学川内北キャンパス）。さらに、2018 年度には、再び香港を訪れ、香港バプテスト大学、香港教育大学及び香港嶺南大学への訪問調査を行った。成果の発信には、「東アジアの準英語圏・非英語圏における英語学習サポートシステムの実態調査ーその経過と香港地域の大学の調査結果報告を中心にー」（江藤裕之・北原良夫・長野明子、2018年、『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』、第4号）などがある。なお、2020 年度初めに新たなシンポジウムを開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の蔓延を受け、開催延期となっている。
- 大学英語教育学会（JACET）主催の英語教育セミナーにて、「これからの英語教材の開発と活用 II-理論と実践を求めて」のテーマのもと研修を受け、東北大学での英語教育実践例（「オンライン授業における英語発音練習の実践報告」）を報告した（2021年3月8日～9日）
- 2020 年度は、中国語の離合詞の構造的特徴への配慮をし、教科書や指導における不十分さを解決し、いつでも、どこでも利用できるより良い離合詞学習システムの構築することを目的として、離合詞の学習データベースとしての離合詞レキシコンを開発した。

- 中国語は、ウィズコロナに対応した効果的なオンライン学習環境の構築を目指して、これまで提案したブレンディッドラーニングを改善し、オンデマンド型の新しい学習、Microlearning 型のスマホ利用の復習、及びリアルタイム対話型の学習活動からなる新たな 3 段階学習プロセスを設計し実践した。

(5) 教育評価分析センターおよび大学教育支援センターと連携し、言語文化教育に携わる教員の教育能力を向上させるためのプログラム開発を推進する。

2020 年度は、各センターと連携して語学教育に関するセミナーを開催した。

- 12 月に第 3 回 J-CLIL 東北支部学会をオンラインで開催した。
- 韓国文化をより深く理解させるために「(Zoom) 韓流影響度分析調査発表会」(発表内容:「韓国文化の魅力と違和感」,「韓国文化の享受に伴う変化」,「K-POP が生む繋がり」と影響,「韓国文化の受容と直接経験」,「韓国ファッションの享受」)を実施した。(2020 年 12 月 11 日)
- 11 月 21 日に日仏会館で行われた、フランス語による弁論とその内容に関する質疑応答で競い合う全国大会「フランス語コンクール」の決勝に本学の学生 3 名が出場し、うち 2 名が奨励賞 (APEF 賞, フランコフォニー推進評議会賞)を受賞した。

(6) グローバルラーニングセンターと連携し、海外派遣留学プログラム、外国語・コミュニケーション能力教育プログラムの充実化を図る。

- グローバルラーニングセンターと協力し、平成 26 年度の夏から韓国のソウル大学と短期海外研修スタディアブロードプログラム (SAP) を実施するなど Native 教員を通じた海外留学先との連携やプログラム開発への協力を進めている。また、SAP プログラムの支援活動として、グローバルラーニングセンターと米カリフォルニア大学リバーサイド校との共同開発で、「留学準備実践」を開講実施した。
- 全学教育と、Practical English Skills, グローバルラーニングセンターでの特別講座など英語教育活動への協力と推進を図っている。
- グローバルラーニングセンター及びモンタナ大学と連携し、東北大学生のための特別開発 ONLINE プログラム「Virtual Exchange Program」を実施 (2020 年 9 月 1 日～9 月 15 日)。事前研修 (8 月 19 日)と事後研修 (9 月 17 日)も含め、アメリカ社会・文化・環境問題を英語で学び、モンタナ大学の学生とオンライン上で交流できる機会を設けた。
- グローバルラーニングセンターと連携して外国人留学生等特別課程 (日本語) の授業と合同の形で国際共修ゼミを開講し、国際理解教育を推進している。2020 年度は、コロナ禍により基礎ゼミとしての共修ゼミなど不開講となる中、29 クラスの国際共修ゼミクラスを、それぞれオンライン形式・ハイブリッド形式で開講し、受講者のコミュニケーション能力、情報発信力、異文化理解能力等の向上を図った。

(5) グローバルラーニングセンター

使命

東北大学の教育国際化戦略の策定・実行と国際交流活動の推進に中心的な役割を果たす。優秀な留学生の戦略的受け入れ推進と教育・支援プログラムの開発・充実及び多様な海外派遣プログラムの開発・実施、教育の国際化の推進等の実践的活動を通じて、国際的な視野を持ち指導的な役割を果たすグローバル人材の育成に大きく貢献する。また、学内外の連携を強化し、グローバルキャンパス構築に寄与するとともに、広報活動や社会連携を推し進め、本学のプレゼンスの向上を図る。

事業内容及び活動状況

- (1) 教育国際戦略の策定・実行のために、国内外における高等教育関連の情報収集、本学の国際競争力やネットワークの拡大を目指した発展的な戦略の策定および大学執行部・他部局への情報提供・提言を行う。学術間交流協定校をはじめとする世界各国の有力校との関係構築・強化・連携を強め、国際戦略に基づいた国際交流活動を実施し、本学のプレゼンスの向上を図る。

「東北大学グローバルイニシアティブ」構想の中核の一つをなすグローバル教育基盤整備に関して、ニューノーマル時代に即したオンライン・デジタル媒体を含めて、グローバルラーニングセンターが開発・実施にあたり中心的な役割を果たしている。

学生の留学希望が多い欧米の大学を中心にオンラインデジタル教育交流等を積極的に推進した。

海外拠点の整備について、バンコクの海外代表事務所、ベトナム貿易大学の共同事務所及びカリフォルニア大学リバーサイド校東北大学センターにおいて、オンライン教育交流プログラムの実施や留学生のオンラインリクルート等、オンラインを中心とした取組みを実施した。研究、教育、管理のそれぞれの分野で、ワシントン大学と東北大学間の国際連携および産学官連携の構築・発展の拠点となる、ワシントン大学東北大学代表事務所 (University of Washington-Tohoku University: Academic Open Space (UW-TU:AOS)) を基礎とし、オンラインでワシントン大学・東北大学の教員・学生・事務員が AOS を通じて交流した。2019 年 9 月に大野総長と Cauce ワシントン大学総長との間で合意した、今後の学術交流の更なる発展に寄与するようワシントン大学総長の本学訪問の準備を行った。さらに、研究テーマも材料、土木、航空、機械、流体、災害、看護と幅広く育ち、オンライン交流を深め、国際共著論文も着実に出版され、本学のプレゼンスの向上の一端を果たした。

- (2) 優秀な留学生を獲得するため、多様で魅力的な国際プログラムを開発し、支援を行う。また、留学生支援（学業・生活支援、就職支援、危機管理、相談等）を充実する。

国際教育院がこれまで担当してきた英語による学士課程留学生プログラム「国際学士コース」の運営や全学教育の実施等を改組後引き続きグローバルラーニングセンターが行ってきた。特に、8 名の新たな国費留学生配置枠を得、3 コースの協力のもと「理・工・農協働プログラム」を継続実施した。また、オンラインプロモーション等を通じた国際学士コースの広報の結果、初めてのオンライン入試の実施にもかかわらず優秀な志願者・入学者を確保することができた。英語コースに関する教員に対するアンケートを基に、英語での教育力の向上を支援する PD プログラム、教育プラットフォームを開発し、教育指導・学生生活支援に関する改善を引き続き図った。

また、JYPE や IPLA プログラム等の英語で教授する交換留学生の受入プログラムについて、留学生課と協力してグローバルラーニングセンターが運営の中核的役割を果たしている。人文社会科学系の 2 つのプログラムを統合し、より包括的で専門性の高い交換留学プログラムに発展させた。大学院生を対象にした COLABS プログラムの受入れに際し事前内諾制度を導入し、世界各地から優秀な大学院生を本学の先端的な研究環境により合致した交換留学生としてオンライン環境下においても受け入れる態勢を整えた。環太平洋地域の先端的大学によって組織される国際大学間コンソーシアム「環太平洋大学協会 (APRU)」の実施する、オンライン交換留学による単位互換プログラム「Virtual Student Exchange : VSE」のパイロット事業に参画した。英語で開講する 9 科目を提供し、APRU 加盟大学から 11 名が履修登録し、本学におけるオンライン交換留学の新たなモデルを創出した。また、協定校からの学生をオンラインで受け入れるショートプログラム (TUJP) を実施している。

これらのプログラムにおいて、グローバルラーニングセンターの教員が留学生に対する学業や生活上での支援や相談業務をオンラインを含めて行っている。また、本学学生による支援団体を統括し、学生による留

学生支援の拡大を図っている。留学生支援は学生相談所やキャリア支援センターなど機構内の組織との連携も図っている。特に、学生相談・特別支援センターとの密な連携により、特別支援や精神的な支援等を必要とする学生の支援にあたった。学生の相互支援を取り入れたアドミニストレイティブ・アシスタント（AA）制度を拡充し、留学生が気軽に情報収集や相談に訪れることの出来る「留学生のためのヘルプデスク」をオンラインを主として運営した。経済支援については、グローバルラーニングセンターが中心となって JASSO への奨学金の申請を行い、それを留学生の経済支援に充てている。令和 2 年度通年で外国人留学生数はコロナ禍により交換留学生受入プログラムの学生の入国が制限された中でもおよそ 3,000 人を確保し、令和 2 年（2020 年）度の達成目標である 3,000 人を達成した。

- （3）国際戦略に基づき、質の高い海外研鑽プログラムを開発し、派遣留学支援、派遣留学促進のための教育・支援を充実させる。

海外への渡航が不可能となる中、オンライン留学プラットフォームを構築し、海外研修と同等の学習効果を得ることのできるオンライン海外研修プログラム等を海外の協定校等と連携のうえ開発し、合計 135 名の学生にオンライン留学の機会を提供した。また、本学が加盟する大学間コンソーシアム（APRU）の加盟校と連携し、加盟校において開講されている通常の授業をオンライン履修できるスキームを構築し、計 13 名の学生が加盟校における授業履修を行った。本学入学予定者を対象とした入学前海外研修をオンライン形式で実施した。令和 2 年度は、これまで参加対象としてきた AO 入試Ⅱ期、科学オリンピック入試、国際バカロレア入試により入学が決まった者に加え、AO 入試Ⅲ期により入学が決まった者も対象として研修を実施し、計 60 人（前々年度比 27 人（81.8%）増）が参加した。カリフォルニア大学デビス校へのオンライン学生派遣プログラムについて、グローバルラーニングセンター教員が主催教員として重要な役割を果たした。

交換留学を希望する学生に対して、グローバルラーニングセンターの教員が留学アドバイジングを行っている。交換留学を希望する学生並びに交換留学が決まった学生に対して、留学準備教育を行っている。

SAP、FL や交換留学に対する JASSO の奨学金を獲得する努力を行い、派遣留学参加者の経済的支援に貢献している。また、交換留学における単位認定・単位互換に関するラーニングアグリーメントについて、全学的な導入にも寄与した。

国際共同教育、ダブルディグリープログラムなどの学位取得を目指す学生に対するオンライン留学オリエンテーション、オンライン修学及び帰国支援等を行うとともに JASSO の奨学金の獲得による経済的な支援を実施した。さらに、国際共同大学院との連携を図り、国際共同研究・教育の充実に努めた。

昨年度に引き続き 5 月及び 10 月を留学強化月間として留学に興味を持ってもらう様々なイベントを催し、同時に留学に関する情報提供を行った。

本学は平成 26 年 3 月に AOⅡ期・推薦入試合格者を対象に国立大学では初めてとなる「入学前海外派遣プログラム」を実施しており、今年度は、カリフォルニア大学リバーサイド校（アメリカ）での派遣プログラム及びヨーク大学（イギリス）での派遣プログラムを計画したが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、実施が中止となった。

- （4）国際社会でリーダーとして活躍する人材を育成するために、国際教養力、行動力、語学・コミュニケーション力等を育む多様な教育プログラムを開発・実施する。

東北大学グローバルリーダー育成プログラムの責任部署として、プログラムの策定・実施にあたっている。正課授業、課外授業、海外研鑽等を包括的且つ有機的に組み合わせ、グローバル人材としての基盤を養成する東北大学グローバルリーダー育成プログラム（TGL プログラム）を継続して実施し、グローバル社会や異文化における活動に必要な高いコミュニケーション力、国際教養力、行動力を有するグローバルリーダー認定者を 28 人（前年度比 5 人（21.7%）増）輩出した。グローバル人材の育成に直結する授業科目を集結した国際教育科目群の授業を 65 科目提供し、グローバル人材の素養を育成に資する学習環境を提供した。国際共修のオンライン化を推進し、「国際共修サポーター」を新設し教員へのサポートを強化した。令和 2 年度から新たに TGL プログラムにおいてグローバルリーダーに認定された者を TGL Community Ambassador（TGLCA）として任命し、学内外における TGL プログラムの認知度の向上や、高校生や本学学生のグローバル意識の養成等を目的として活動している。令和 2 年度は、計 7 名の TGLCA を任命し、コロナ禍にもかかわらずオンラインによる高校生向けの留学説明会、グローバルリーダーとしての勉強会、グローバルリーダー認定者間のネットワーキングイベントなどを開催し、学内外における TGL プログラムの

認知度の向上及び本学学生や高校生のグローバル意識の高揚に大きく寄与した。海外留学時に必要となる TOEFL スコアと国際的な教育・研究環境下で十分に活動できる英語運用能力の養成を目的とした課外英語授業（東北大学イングリッシュアカデミー：TEA）を令和 2 年度も年 4 回開講し、計 427 人（前年度比 21 人（5.2%）増）が受講した。令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、すべての講義をオンラインで実施した。

- （5）学内外との連携を強化し、グローバルキャンパスの実現に寄与する。また、本学の教育国際化について積極的な広報活動を行い、広く社会との連携を図る。

各部局の国際交流担当教職員や、東北大学留学生協会（TUFSA）等の学生団体等との学内諸団体との連携を強化している。

世界各国の国際教育・交流教職員と様々なウェビナー等を通して積極的に情報交換するとともに国際ネットワークの維持及び拡大に努めている。

グローバルラーニングセンターのホームページに Be Global プロジェクトのホームページを新設し、グローバルキャンパスに関する国内外への訴求力を高めた。また、本学の教育国際化の取組についてリーフレットを作成し、民間企業、保護者等を含む一般の方々へのオンラインを含めた広報活動を行っている。

(6)学際融合教育推進センター

使命

- (1) 世界的な視点で、大学における教養教育のありかたを調査研究し、東北大学の学士課程教育、大学院教育の発展に資する提言を行う。
- (2) 全学教育の分野別教育を開発・提供するとともに、学士課程教育、大学院教育を視野に入れ、各分野内の総合科目（自然科学、人文科学、社会科学、スポーツ）、分野を超えて人類社会の課題に応える学際融合型教育科目の開発・実施を行う。
- (3) 学際融合型教育を英語など多言語で提供し、東北大学の教育を国際的視野で推進する。

事業内容及び活動状況

- (1) 人類社会の課題に応える部局横断的な学際融合教育課題・教育プログラムに関わる調査研究とカリキュラムの策定

1. 全学教育改革対応委員会委員として、改革検討タスク・フォース 最終報告書にもとづき、新しい全学教育科目カリキュラム実施に向けた調整作業全般をおこなった。また、全学教育改革推進会議メンバーとして、担当コマ数削減と分属教員問題の解決に貢献した。
2. 全学教育改革検討タスクフォース最終報告書に基づき、新しいカリキュラムに部局横断的な教育プログラムである「学問論群」を、さらに高年次教養教育として「現代素養科目・地球規模課題」を策定した。
3. 全学教育改革検討タスクフォース最終報告書に基づき、新しい TA 制度の設計に携わり、現状の TA 制度を変革しティーチングフェローやベーシック TA といった新しい枠組みを策定した。
4. 第 12 回総長特命教授合同講義「今を生きる、明日を生きる」を Hyflex 型で実施した。

- (2) 学部から大学院にいたる学際融合型授業の開発推進

1. 部局横断型の自然科学総合実験、文科系のための自然科学総合実験、英語による自然科学総合実験（国際学士コース）を実施している。受講者はそれぞれ 1,607 名、37 名、25 名を受け入れた。コロナ禍のため、新しくオンデマンド型の理科実験教材を開発し、Google Classroom をもちいて教材管理・レポート授受・質問対応をおこなった。3,000 件以上の受講生からの質問とそれへの教員からの回答が可能となった。これにより、コロナ禍にもかかわらず、学生による授業評価アンケートの総合評価は 10 年間減少した値が上昇に転じた。国際学士コースの授業では、本国に入国できない留学生に対してもホームページや Google Classroom を利用してリモートで実験教材を配信した。
2. コロナ禍のため、少人数型授業である基礎ゼミが不開講となったため、学際融合センター、学習支援センター、大学教育支援センター、教育評価分析センターの教員が一堂に介して、新入生 2,400 名を対象とした「大学での学び方とまなぶ」オンラインでの大規模基礎ゼミ科目を開発し、実施した。その際、新入生 2,400 名を対象としたコロナ禍における学生動向調査アンケートを実施した。このような大規模なアンケート調査は全国唯一であり、本学のコロナ初期対応の基礎データとなった。
3. 高年次教養教育科目として開講している「みせる学び」を、オンライン形式の授業に変革した。Google Meet を利用しリアルタイムで授業ガイダンスや授業説明を、オンラインホワイトボード（Miro）を利用してポスター編集を実施することで、時間割に縛られない協働学修を可能にした。これにより、キャンパス移動も必要なく、受講生の好きな時間に、複数人で学習できる環境を構築し、ポストコロナ時代でも時間割に依存しない高年次教養教育や大学院教育を実施する素地ができた。理学研究科の大学院授業でも同様の手法を応用した。
4. 基幹科目「科学と情報」のビッグヒストリーにおいて、国際学士コースの学生と Zoom のアウトブレイクルーム機能を利用して、国内外に所属する留学生が各国の新型コロナウイルス感染対策を紹介し、日本の対策について意見交換を英語でおこなった。基幹科目での国際共修実施というマイクロインサージョンの一例となった。

- (3) 教育プログラムの実施に必要な実装組織の構築

令和 2 年度度学務審議会に設置された「全学教育改革対応委員会」において、1 名の所属教員が委員会メンバーとして改革に従事し、新しいカリキュラムの構築に貢献した。

(7)学習支援センター

使命

- (1) 学生の主体的・自律的な学習を実践的に促進・支援し、研究大学で学ぶ学生が習得すべきコンピテンシーを育成する。
- (2) 初年次教育や学習支援に関する国内外の動向を調査研究し、大学における学習支援の質的向上に寄与する。
- (3) 教職員・学生の間に「学び合い」文化を醸成し、学習共同体（ラーニング・コミュニティ）の形成に寄与する。

事業内容及び活動状況

- (1) スチューデント・ラーニング・アドバイザー（SLA, Student Learning Adviser）制度の運用を基盤とした学習支援の開発・実施

SLA Student Learning Adviser) とは本学学生による学生のための学習支援スタッフである。学部生の授業時間外の教科学修や英語学習、留学生の日本語学習、及び学際的なテーマに関する協同学習実践への支援を行っている。2020年度のSLA数は、前期36名、後期は41名であった。うち当該年度中に新規採用したSLAは計19名である。

このSLAによる学習支援は、①理系科目の学習支援、②ライティング支援、③英会話、④日本語会話学習支援、⑤学習イベント企画、⑥学習情報発信・広報活動という6つに大きく分けられる。2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大により従前のような対面での支援ができなくなった。そのため、Web会議システムとG Suite for Educationを活用したSLAサポート窓口支援の実装を図った。多くの相談がオンラインで実施された事や、それに付随して事前予約制となり、相談時間が固定化し予約枠数に制限が生じた点が、昨年度以前とは異なる。（ゆえに、昨年度以前の利用者数等との公正な比較ができなくなっている。）

2020年度の全体の利用者数は延べ1,467名、1活動日あたりの利用者数は10.6名であった。

①理系科目支援

急遽4月中に、理系科目支援のためのオンラインシステムを構築した。Google MeetやJamboardを組み合わせ、利用者の問題状況や計算過程を共有しながら、オンラインでの学習支援が可能となった。BCPレベルが2以上であった前期と1月以降はオンラインのみ、10-12月の期間はオンラインとM棟での対面相談を併用した。2020年度の利用者数は延べ460名、実数では160名であった。昨年度までの単純比較はできないが、利用件数では半減する結果となった。その理由としては、1) 4月の新入生オリエンテーションの中止やオンライン化により、1年生への広報が十分に機能しなかった点、2) 事前予約制やオンラインへの移行により、利用の心理的な敷居が高くなった点、3) 理系科目の授業における内容・方法面の変化（オンライン授業により教員やTAに質問しやすくなった等）の影響等が考えられる。

②ライティング支援

年間を通してオンライン支援のみで活動した。ライティング支援の2020年度の窓口利用者は、延べ89名、実数で34名であった。留学生による日本語チェックを中心とした利用が多数を占めた。留学生利用者は延べ66名だった。昨年度と比べると、国内学生（学部1～2年生）の利用が大きく減少した。

また、例年実施してきたアカデミックスキルセミナー「レポート指南書入門ゼミ」（全6回）については、これまで対面のみで実施してきたため急なオンライン化に対応できず、実施を見送った。

③英会話

「1on1」（個別対応）を中心としながら、「英会話カフェ」（ワークショップ）も実施し、利用学生の多様なニーズに応じた学習支援を行った。2020年度の英会話支援の利用者数は延べ435名、実数129名だった。延べ数では概ね昨年度と同水準、実数では昨年度より3割超の増加となった。オンライン化により、高年次学生や大学院生（留学生含む）等、川内キャンパス以外に通う学生の利用が増加した。

④日本語会話（留学生対象）

日本語会話支援担当のSLAを増員（前期4名、後期6名）し、体制強化を図った。新型コロナウイルス感染拡大の影響によるオンライン化により、前年度までのカフェ形式（複数人の参加者で実施）から、1on1形式に変更した。2020年度の日本語支援の利用者数は延べ289名、実数111名だった。海外からの利用（コロナウィルス感染拡大防止措置により未だ日本に入国できない留学生等）もあった。

⑤学習イベント企画

学習イベント等については、オンライン化により、例年ほどの多様なイベントの実施ができなかった。

その一方で、哲学カフェ「かんがえるソファ」では、オンラインでの定期開催（年間で23回開催）により、例年よりも参加者数（申込数）が大きく増加した（延べ参加者数173名）。関連イベントとしては、学部1年生を対象として、4月後半にオンラインでの新入生歓迎企画イベント「かんがえるCafé」を計6回開催し、延べ24名の参加があった。

⑥学習情報の発信および広報活動

2021年度の学部新入生に配布予定の『SLA SUPPORT GUIDE BOOK 2021』を作成した。この冊子では、学習支援センターの利用案内や、大学で学ぶ上で役立つヒント等を紹介している。さらに当該年度は、新たに、留学生向けの『SLA SUPPORT GUIDE BOOK 2021 for international students』を、オンラインガイドブックとして作成した。

（2）学習支援の組織開発および支援者育成システムの開発・実践

2020年度は、例年是对面で実施してきたSLA研修の大半をオンラインで実施した。全てのSLAを対象として、各セメスターの始期に活動説明会、終期に全体リフレクション会や活動報告会を開催した。これらの活動により期間を通したSLAサポート活動の目標の共有と、その目標に対する成果・課題のふりかえりを行った。セメスター中にはSLAの担当分野別に「部会」（担当別研修会）を実施し、担当科目等に関する学習支援の課題の共有と対応の検討等を行った。その他にも、セメスター末には全SLAに対してアンケートやヒアリングを実施した。そのデータや日頃の教職員による観察から得た情報に基づいて課題を抽出し、個別課題に応じた育成方針をセンター教職員で検討し、全体課題の精査を行った。理系科目担当SLAには、3月に北海道大学と、学習支援に従事する学生スタッフの合同研修をオンラインで実施した（詳細は後述）。

SLA共通研修としては、次の2つの研修を行った。第1回は9月30日に開催し、CPD戸村理先生より「大学・高等教育の発展・変化と大学という場について考える」、GLC渡部留美先生からは「東北大学における留学生の現状と留学生ヘルプデスクの取組」という題目で、SLAに向けて講義をしていただいた。第2としては、講師を関西国際大学の伊藤創先生（日本語教育・言語学）に依頼し、日本語学習支援をテーマとした研修会「留学生が間違えやすい日本語と学習支援」を4回に渡って開催した。講義の内容は収録し、オンデマンド教材として2021年度以降も活用予定である。

（3）情報還元による正課カリキュラムの改善・充実への貢献

半期ごとに、学務審議会においてセンターの利用状況・活動報告を行った。また、正課カリキュラムと学習支援センターでの活動を有機的に連携させるため、TGLプログラム「グローバルゼミ」に対して、レポートの書き方についての出前授業1コマ（90分）を実施した（センター教員が担当、前期4クラス、後期2クラス）。今年度は、事前課題としてオンデマンド教材を作成・提供し、内容をより一層充実させることができた。その他、化学については、SLA窓口の利用実態（相談内容や件数等）について、個人情報に配慮したうえで、科目委員会にフィードバックした。

（4）正課カリキュラム外における学生の自主的な学習支援の支援・促進

学生の学習意欲の向上や教養への興味喚起、正課カリキュラム外での学習活動推進を図るため、SLAによる学習支援活動を中心に様々な学習企画や学習支援活動を実施した。今年度はほとんどがオンラインでの実施となった。哲学カフェ「かんがえるソファ」は、平日（曜日は不定）の16:30～18:00を中心に、毎回90分、オンライン（Zoom利用）にて定期開催した。前期は想定を超える多くの参加申込があったため、後期は1回あたりの定員を8名にして実施した。年間で23回開催し、合計で延べ173名の参加があった。今年度の特徴としては、大学院生や留学生の参加等、参加者が多様化した点が挙げられる。

（5）学内外における学習支援ネットワークの構築

学内では、機構内（他の業務センター）に所属する教員の協力を得てSLA共通研修を実施することができた。また、留学生等への学習支援に関する情報交換や広報等において、グローバルラーニングセンターとの効果的な連携を継続できた。学外との学習支援ネットワークとしては、昨年度に引き続き、3月22日に北海道大学との合同研修を実施した。今年度はオンライン実施とし、SLA6名、北海道大学TA6名が参加した。理系科目支援に関するSLAと北海道大学TAとの情報共有や意見交換および交流を図った。

(8)キャリア支援センター

使命

- (1) 学部・大学院全体に対するキャリア支援を充実し、東北大学の学生が大学での学びを基盤に社会に巣立ち、生涯にわたって発達し、社会に貢献できるよう支援する。
- (2) 就職動向や就業実態、大卒者のキャリア発達など進路選択に関する情報収集・調査研究を行い、各種のキャリア支援・就職支援に活用する。
- (3) 学生個人に対する相談業務を通じて、学生が進路選択を適切に行えるよう支援する。
- (4) 学生相談・特別支援センター、グローバルラーニングセンター及び部局等との連携を強化し、情報共有を進め、東北大学全体のキャリア支援力を向上させる。

事業内容及び活動状況

- (1) キャリア教育としての正課教育の改善・充実を図る。学士課程教育から大学院教育にわたり、学生の成長・発達の節目に対応し、自らのキャリア・デザインを構築する機会を提供するために正課教育を充実させていく。

全学教育におけるキャリア教育科目を、キャリア支援センターが実施する「キャリア支援プログラム」の一部に位置づけるとともに、科目間の体系的やアクティブに学ぶ機会を重視しながら整備を進めている。

令和2年度は、大学生生活、自己分析をテーマとした「ライフ・キャリアデザイン A」、「同 B」、さらに授業時間外の活動を組み込んだ「同 D」、また社会・仕事を知ることテーマとし、フィールドワークを取り入れた PBL 科目「フィールドワーク実践：地域とビジネス」、インターンシップを活用した授業科目「インターンシップ事前研修」と「インターンシップ実習」、および新聞社からの寄付講義としての展開ゼミ2科目、の合計8科目を開講し、200名が受講した。

また、文学部「キャリアデザイン講座」、生命科学研究科「バイオ産業基礎論」「イノベーションセミナー」などの授業科目の実施に協力した。

- (2) 正課外としてのキャリア支援の改善・充実を図る。学生個人の発達課題に対応したキャリア相談、就職相談等個別対応を重視し、各種のセミナー、ワークショップ、キャリア就職フェアなどを企画・実施し、学生の出口支援の充実を図る。

学部1年次学生から大学院学生までを対象とした「キャリア支援プログラム」の各種セミナー、ワークショップ、個別面談などをオンラインでの実施に切り替えて継続するとともに、インターンシップフェア、およびキャリア就職フェア（合同企業説明会）をオンラインで開催した。また、首都圏での就職活動を支援するため、新宿ラウンジ（民間企業が運営）を学生の利用に供した。

令和2年度は、セミナー20回（視聴学生数2,936名、延べ6,601アクセス）、ワークショップ6回（参加学生数29名）などを実施した。新たに公務員志望者向けに公務員等業務説明会をオンラインで開催し、5団体の説明に70名の学生が参加した（さらにオンデマンド視聴41名）。また夏と冬の「インターンシップフェア」（各約4ヶ月間、参加学生数1,625名、参加企業数74社）を開催するとともに、「キャリア就職フェア」（6日間、参加企業数276社）もオンラインで開催し、5,068名の学生が参加した。個別相談は4月10日以降はすべてオンラインで実施し、2,116件に対応した（進路選択に関する相談169件、インターンシップに関する相談325件、就職に関する相談1,524件、公務員志望者向け相談95件、理系学生向け相談3件）。また、首都圏での就職活動やインターンシップへの応募・参加を支援するため、新宿ラウンジ（民間企業が運営）を学生の利用に供した。新宿ラウンジ利用者数は延べ23名であった。

- (3) 部局や機構業務センターとの連携・協力を強化する。キャリア支援に関する専門性開発を重視するとともに、学部から大学院や、博士前期課程から後期課程などへの選択・移行・適応を適切に行えるプログラムを開発し、実施する。

令和2年度は、2度のキャリア支援連絡会議を通じて、各部局の担当者との意見・情報交換を行うとともに、学生生活支援審議会FDに講師を派遣した。

また、教育学部・研究科、農学部・研究科、国際文化研究科、生命科学研究科などに講師を派遣し、学生を対象としたキャリア教育・支援プログラムを実施した。

なお、対面での入試説明会や進学説明会は行われず、講師派遣は中止となった。

- (4) 大学院後期課程を主な対象としたイノベーション創発塾を拡大・推進し、社会が求める博士課程修了者の幅広いキャリア支援プログラムを開発・実施する。

大学院後期課程学生とポスドクを主な対象とした「博士人材キャリア支援プログラム」を実施している。イノベーション創発塾、個別支援（個別相談）、フェアとセミナーなどの事業を通じて博士人財の産業界への輩出を推進するとともに、安心して博士後期課程に進学できるよう出口支援の充実を図っている。

「イノベーション創発塾」では、様々な問題を俯瞰した上で自ら課題を設定・解決できる人材の育成に取り組んだ。コミュニケーション力、プロジェクトマネジメント力、キャリアデザイン力などの効果的向上を図るためのプログラムを展開し、令和2年度は25名が卒塾した。「個別支援」は対応件数386件、「Job Fair」はオンラインで実施し参加学生数183名、参加企業数45社であった。「キャリアセミナー」には74名の学生が参加した。

- (5) 進路選択に関する情報提供の充実を図る。全学の学生がすべてのキャンパスで等しく進路・就職に関する情報が得られる、ワンストップの支援体制（支援環境）を整備充実する。

多様な学生の多岐にわたるニーズに対し、進路選択に関する情報を各学生のメインキャンパスによらず均等かつ速やかに提供するため、企業・団体等からの情報を蓄積するとともに、電子メールやSNS、ホームページを活用した情報提供の充実を進めている。令和2年度の求人情報の受付件数は581件、インターンシップ募集の受付件数は106件であった。

令和2年度は、『キャリアガイド2021』を制作して全部局に配付するとともに、キャリア支援センターホームページからダウンロードできるように設定した。キャリア支援プログラムの開催案内や学内アルバイト情報を配信しているメーリングリストへの受信登録アドレス数は690、Twitterフォロワー数は3,337名であった。コロナ禍により、高度イノベーション博士人材育成ユニット教員による理系学生向け個別面談や実施を断念し、キャリア支援センターのオープンスペースの開放は長期にわたり休止を余儀なくされた。また当初予定していた保護者向けセミナーは講演予定の内容を冊子にまとめ、ダウンロードできるようにしたところ、希望者258名がダウンロードしている。なお、キャリア支援センターのPC利用学生数は15名、書籍貸出件数は227件であった。

- (6) 学内外の組織・機関と連携し、日本での就業を希望する外国人留学生に対する進路・就職支援を進める。日本語や就業に必要とされるスキル・能力の形成支援を強化する。

平成29年度に採択された文部科学省委託事業「留学生就職促進プログラム」において「東北イノベーション人材育成プログラム（DATEntre）」の企画開発、および実施にあたった。キャリア支援センターでは、本プログラムのために構築された東北イノベーション人材育成コンソーシアムの事務局を務めるとともに、学内外の組織・機関と連携しながらプログラムを推進している。令和2年度には、コンソーシアム運営会議、教務委員会、部会長会議をそれぞれ4回開催した。また、専門委員を交えて事業評価委員会を実施した。

令和2年度には、コンソーシアムを構成する5大学（東北大学・東北学院大学・東北工業大学・宮城学院女子大学・東北福祉大学）から第6期生として21名、第7期生として11名の留学生が受講を開始した。コンソーシアムとしてセミナーやフェア等を26回開催して1,083名の学生や企業117社が参加するとともに、個別相談215件に対応した。またキャリア支援センターでも112件の外国人留学生の個別相談に対応した。同年度には7名のプログラム修了者と9名の特別修了者を輩出した。

(9)学生相談・特別支援センター

使命

「すべての学生がその学びと成長のプロセスにおいて、本学での経験から最大限の利益を引き出すことができるように、学生および大学コミュニティへの支援を行う」ことを目指して、大学教育の一環としての学生支援において核となる役割を担い、学生の人間形成の促進および大学の学生支援力の向上に寄与する。

事業内容及び活動状況

(1) 相談援助活動

学生相談所及び特別支援室への来談学生(留学生を含む)への個別支援,教職員および家族へのコンサルテーション,来談者間の交流支援等

<学生相談所>

- 学生相談所への来談学生に対して個別面接を通しての支援を行っており、必要に応じて指導教員や事務職員と連携している。また、学生の生活指導に関連して教職員や学生の家族からの相談にも応じている。令和元年度の学生相談に対する個別支援：来談者数 669 名、対応回数 4,259 回（星陵キャンパスでの出張相談も含む）。
- 受付兼インテーカーの職員が、待合室兼グループ室を居場所として利用している学生に対する働きかけや学生間の交流支援を行っている。こういった活動も学生が相談しやすい環境整備に有用であり、また相談業務の大きな支えになっているが、令和 2 年度は新型コロナウイルス感染拡大予防のため、居場所活動は原則として行わなかった（令和 2 年度：利用者数 1 名）。
- 平成 26 年 12 月から星陵地区での相談対応を開始しており、他キャンパスとの相談業務の連携を図っている。星陵キャンパスでの出張相談：来談者数 9 名、相談回数 102 回。
- 平成 28 年度より留学生に対する英語でのカウンセリングを開始しており、令和元年度は 77 名の留学生からの相談があった。

<特別支援室>

- 入試時に配慮申請のあった学生や、修学上のつまずき等を契機に来談した学生については個別支援を行うと同時に、修学上の合理的配慮が必要な場合、各部局の教職員や授業担当教員と連携しつつ支援を行っている。また、学生への関わりや支援等に関する教職員・家族からの相談にも対応している。令和 2 年度：来談者 153 名、対応回数 2,255 回。
- 障害のある学生への修学支援、オープンキャンパス来談者等への情報保障や移動支援等のために、学生ピアサポーターの募集・養成を行っている。新規・継続を含む令和 2 年度のサポーター登録者数：48 名。
- 修学上の合理的配慮を申し出た学生のべ 23 名に対し、部局の教職員や授業担当者と協働しながら合理的配慮の提供を行った。
- 受付兼インテーカーの職員が、待合室や休養室を居場所として利用している学生に対してきめ細かく対応している。人混みが苦手な学生や授業に出にくさを感じている学生にとっては、修学・学生生活上の支えとなっている（令和 2 年度：利用者数のべ 42 名）。

(2) 予防・教育・広報活動

授業の担当、全学 FD・部局 FD の担当、部局オリエンテーション・パンフレット等での広報活動等

- 学生相談・特別支援センターのスタッフ全員の担当で、全学教育科目「学生生活概論－学生が会う学生生活の危機と予防」（第 1 クォーター）を開講した。
- 特別支援室のスタッフを中心に、障害学生支援に関する啓発を目的に、全学教育科目の授業（「障害者支援入門」（第 2 クォーター）を担当しているが、令和 2 年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、開講されなかった。
- 全学 FD として、学生生活支援審議会 FD を年 3～4 回実施している。令和 2 年度は、新型コロナウイルスの影響下での学生支援に関するテーマ 1 回、ハラスメントに関するテーマ 1 回（ハラスメント全学防止対策委員会との共催）、発達障害・精神障害のある学生への支援に関するテーマ 1 回の計 3 回を実施した。加えて、部局 FD において、学生支援やハラスメント、障害学生支援に関するテーマでの講演を実施した（令和 2 年度：合計 8 回）。

- 全新生に対して学生相談・特別支援センターのリーフレットを配付して広報に努めると同時に、新入生特別セミナーや部局オリエンテーションにて学生相談・特別支援センターの利用案内等を行っている（令和 2 年度：合計 16 回）。また、メンタルヘルスやハラスメント防止に関するテーマで、部局と連携した学生対象の講演会を実施している（令和 2 年度：3 回）。
- 学生がストレスコントロールや危機状況における対応を学ぶことができるように、啓発活動としてエンパワーメント・リーフレットを平成 30 年度よりシリーズ化して作成している。令和 2 年度には「親との関係―ほどよい心理的距離の見つけ方」、「これって愛なのかな―恋人関係で悩んでいませんか」、「やる気が出ないとき―心と身体との付き合い方」の 3 種類を作成し、配布した。
- 工学部・工学研究科の学生支援連絡会議への出席、理学部・理学研究科のキャンパスライフ支援室との随時の連絡・情報共有により、部局の学生相談・学生支援担当部署との連携を図った。

（3）調査・研究活動教育活動

学生相談および特別支援の実践法および学生支援活動に関わる研究

- 学生の心身の健康状態や大学生活への適応の把握を目的とした全学生対象調査を実施し、結果に応じて個別支援につなげた。令和 2 年度：調査の回答者数 4,586 名（回収率 25.5%）、そのうち、大学生活への不適応ハイリスク群が学部新入生で 125 名、学部 2 年生以上で 91 名おり、PTSD ハイリスク群は 86 名であった。
- 学生相談及び特別支援の実践に基づき、以下のようなテーマでの研究を行った。
 - ・学生相談と障害学生支援の連携に関する研究
 - ・学生相談カウンセラーの成長支援に関する研究

（4）大学としての学生支援施策および危機管理への貢献

学内委員会等を通じた提案、特別支援を含む学生支援に関する貢献、ハラスメント全学学生相談窓口における相談対応

- センター教員は、学生生活支援審議会、男女共同参画委員会、学生相談・特別支援連絡会議、キャリア支援連絡会議、差別解消推進委員会、ハラスメント全学防止対策委員会専門委員会の委員を務めている。
- ハラスメント全学学生相談窓口相談員として、来談者への個別支援等を行っている。令和 2 年度：相談件数 13 件、対応回数 63 回。
- 聴覚障害や視覚障害、肢体不自由の学生等の支援に関して、支援機器の整備・活用、設備・施設の改善等に部局と連携しつつ取り組んでいる。

（5）他大学の学生支援活動との連携および地域連携

他大学等における講演、学生相談・特別支援担当者間の研究会の実施

- 他機関等の依頼を受け、障害学生支援に関する講演を実施した（令和 2 年度：2 回）。また、第 58 回全国学生相談研修会の講師を務めた。
- 障害学生支援相互協力協議会を実施した。
- 障害学生支援に関する FD を、障害学生支援相互協力協議会参加校にも公開する形で開催した。
- 第 78 回、第 79 回みやぎ学生相談連絡協議会に参加した。
- 仙台学生相談事例研究会、在仙大学障害学生支援大学間ネットワーク情報交換会、障害学生支援東北地区大学間情報交換会、全国高等教育障害学生支援協議会オンライン大会 2020 大会に参加した。

(10)保健管理センター

使命

保健管理に関する専門的業務及び専門的調査，研究を行い，本学における学生の健康教育及び健康の保持，増進を図ることを目的とする。

事業内容及び活動状況

(1) 保健業務の実行についての企画，立案

- 1) 定期健康診断を企画・実施した。
- 2) 特殊健康診断（放射線取扱学生特殊健康診断，有機溶剤特定化学物質取扱学生特殊健康診断，VDT 作業従事学生特殊健康診断，秋胸部X線検診）の企画・実施。なお，令和2年度は新型コロナウイルス感染症対策のため有機溶剤特定化学物質取扱学生特殊健康診断，VDT 作業従事学生特殊健康診断は実施せず。
- 3) 健康科学セミナーを企画・実施した。（年4回開催）
- 4) 健康科学講演会を企画・実施した。（年1回開催）
- 5) 禁煙外来を企画・実施した。
- 6) 体調不良者に対する電話相談を行った。

(2) 保健管理についての専門的調査，研究

- 1) 学生の尿検査異常からみた改善すべき生活習慣について調査を実施した。
- 2) 若年化の進む心血管病発症年齢の新しい機序解明と予防法の開発を継続して行った。
- 3) ライフスタイルと肥満・高血圧・喫煙習慣の関連について調査・解析を行った。
- 4) 学生の難病に関する病因・病態・治療に関する研究について継続して行った。

(3) 健康教育に関する専門的業務

- 1) 宮城県内の大学保健施設教職員を対象とした「健康科学セミナー」を4回実施。（第1回：新型コロナウイルス感染症—大学の現状と対策—（木内喜孝），第2回：精神療法のいろいろ（伊藤千裕），第3回：歯科臨床と新型コロナウイルス感染症（北浩樹），第4回：新型コロナウイルス感染症と循環器疾患（佐藤公雄）。
- 2) 大学院教育「健康情報学」を担当した。
- 3) 健康科学講演会にて「新型コロナウイルス感染症—大学の現状と対策—」（木内喜孝）を講演した。

(4) 健康診断及びその事後措置

- 1) 定期健康診断を6, 10, 11, 1月に実施（受診率48.8%），事後処置を必要とした学生は114名であった。事後処置として精密検査及び健康教育，さらに必要に応じて大学病院などへ紹介を行った。（1次受診者数9,331人）
- 2) 10月に放射線取扱学生特殊健康診断を実施した。（特殊健康診断受診者数総計1,917人）
- 3) 健康診断証明書の発行（1,196通）

(5) 5保健室（川内地区，片平地区，星陵地区，青葉山地区，雨宮地区）における健康相談，メンタルヘルスケア及び救急措置

- 1) 川内地区では，月～金の午前・午後に医師による健康相談，救急措置を実施し，火・木・金の午前・午後に精神科医師によるメンタルヘルスケア，火・金の午前と月の午後に歯科医師による健康相談，月～金の午前・午後に管理栄養士による栄養相談を実施した（令和2年度は新型コロナウイルス感染症対策のため歯科診療と栄養相談は一部閉診）。また，片平地区，星陵地区，青葉山地区，新青葉山地区の保健室は新型コロナウイルス感染症対策のため閉室とした。（総健康相談回数は1,558回）

(6) 学内の環境衛生及び感染症予防の措置についての指導援助

- 1) 新型コロナウイルス感染症，インフルエンザに関する注意喚起の掲示を行った。
- 2) 大学寮における新型コロナウイルス感染症，インフルエンザ対策，ウイルス性胃腸炎対策を行った。
- 3) 令和2年は継続して大学の対策班会議に参加し，新型コロナウイルス感染症対策を行った。

(7) その他健康の保持，増進についての必要な専門的業務

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">1) 健康診断を実施するにあたり以下の新型コロナウイルス感染症対策を行った。<ul style="list-style-type: none">・健康診断受診のための web 予約システムの構築・健康診断のための web 問診システムの構築・健康診断会場の換気を考慮した設営2) 今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で，留学生の入国が不定期となったため，1 月にも健康診断を実施した。3) 各種大学行事への医師・看護師の派遣・対応を行った。(各種入学試験，新入生オリエンテーションなど)4) 学生定期健康診断の IT 化を継続的に検討し，定期健康診断システムに改良を加えた。 |
|---|

(11)課外・ボランティア活動支援センター

使命

本学学生の社会性を涵養し、主体的な問題解決能力を備えた指導的人材を育成するために、学生の自主的な課外・ボランティア活動を総合的に支援するとともに、社会貢献型の体験学習を実施し、学生の心身の健康増進に寄与する。

事業内容及び活動状況

(1) 本学学生の自主的な課外活動、文化やスポーツ・ボランティア活動の総合的な支援

2020 年度に本学学生の自主的なボランティア活動や課外活動の支援として、以下を実施した。

1. 東北大学生に対するボランティア活動への参加や震災学習の機会の提供

(1) ボランティア・フェアの開催

学生ボランティア団体や NPO 等がブース形式で出展し、東北大学生にボランティア活動の紹介を行うボランティア・フェアを開催した。本年度は、新型コロナウイルス感染症の影響から、例年通りの形式・日数からの変更を余儀なくされ、春はオンラインのみ、秋は対面とオンライン併用での開催となった。新たな実施形式の検討に時間を要したが、大きなトラブルなく開催することができた。

5 月：3 日間（オンライン：53 名参加）、11 月：5 日間（オンライン 3 日間・対面 2 日間：64 名参加）

計 8 日間：のべ 117 名参加

※これまでの実績

①平成 24 年度：11 日間（222 名）、②平成 25 年度：11 日間（175 名）、③平成 26 年度：13 日間（297 名）、④平成 27 年度：11 日間（297 名）、⑤平成 28 年度：16 日間（290 名）、⑥平成 29 年度：13 日間（282 名）、⑦平成 30 年度：12 日間（344 名）、⑧令和元年度：10 日間（369 名）

(2) 広報誌 Volunteer Seminar Journal の発行

東北大学生を対象として、ボランティア活動に関心を持ってもらうため Volunteer Seminar Journal Vol.15（3,000 部）を 4 月 1 日に発刊した。

(3) ボランティアツアー・スタディツアー・ボランティア派遣等の開催

本年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のための東北大学の行動指針（以下、BCP）による制限から、オンライン以外でのボランティア活動を原則禁止とする期間が 4 月から 8 月上旬、12 月下旬から 3 月末と二回にわたっており、年度の半分以上を占める結果となった。また原則禁止を解除した時期においても、感染拡大防止の観点から、学生のボランティア活動に伴う感染リスクの程度や適切な感染対策が講じられているかを確認する手続きを新たに設けることとした。

本年度は学内で被災地やボランティア活動に関心を持つ学生を募集して行うボランティアツアー・スタディツアー・ボランティア派遣等を、センター主催・共催の形式で 11 回開催し、のべ 131 名の学生が参加した。これは、学生ボランティア団体が定期的に行う被災地での活動以外に、「初めて被災地に行ってみた」、「ボランティア活動に挑戦してみたい」、「緊急災害ボランティアを行いたい」という学生のニーズに応えるものである。

ここに学生ボランティア団体独自の活動等、ボランティア活動実施届・ボランティア活動報告書が提出された活動をすべて合算すると、計 35 回、のべ 286 名の東北大学生がボランティア活動に参加している。

※平成 29 年 12 月に「東北大学学生ボランティア支援に関する内規」（高度教養教育・学生支援機構長裁定）が定められたことにより、平成 30 年度から学生ボランティア支援は、東日本大震災関係のボランティアに関わらない活動についても支援の対象となった。

(4) ボランティア体験プログラムの開発・実施

ボランティア活動への参加促進のため、ボランティア活動に取り組む地域の団体等による話題提供と参加者同士の意見交換を行なう「ボランティア入門講座」を開催し、合計 7 日間、のべ 129 名が参加した。

(5) その他緊急災害支援

東日本大震災以外の災害被災地における支援として、①2019 年 10 月に台風 19 号で被災した宮城県丸森町、令和 2 年 7 月豪雨で被災した熊本県におけるボランティア活動への助言や引率等の支援を行った。具体的には、オンラインを含めた活動を 4 回行ない、のべ 33 名が参加した。

(6) ボランティア支援学生スタッフの育成，研修の実施

東北大学における学生の自発的なボランティア活動の活性化を推進するために、ボランティア支援学生スタッフ（愛称 **SCRUM**）を育成した。具体的には、82 名（前年度からの継続 57 名，新規 25 名）がスタッフ登録し、センターの業務に参画した。また学生スタッフのボランティア・コーディネーターとしての力量形成のため、集中会議（研修会）を 5 月・3 月の計 2 回計画し、被災地ボランティアの課題やボランティア・リーダーとして必要な知識，新型コロナウイルス感染症で生じてきた課題などについて学ぶ機会を提供した。さらにセンターの実施事業や学生のボランティア活動に関する連絡・相談を行うミーティング（全体ミーティング，事務局ミーティング）を 16 回開催した。その他にも，震災伝承に関わるツアーを 1 回，学習会を 3 回行った（震災伝承部）。また，人権課題に関わる学習会を計 4 回開催し，人権に関わる知識の提供を行った（人権共生部）。最後に，本年度は新たに新入生に対するピアサポート（先輩による何でも相談）を企画し，28 名に対して相談対応を行なった。

2. 学生ボランティア団体の支援

(1) ボランティア登録団体への支援

ボランティア団体登録制度を設け，本年度も昨年度に引き続き 13 の学生ボランティア団体が登録を行った。学生ボランティア団体の活動は東日本大震災以外の活動にも及んでおり，学内で多様なボランティア活動が広まっている。これらの団体に対しては，より良い活動を行えるよう，倉庫の提供や備品の貸し出し等を行った。また，学生ボランティア団体が利用できる助成金や学内外の関連イベント等の情報を随時提供した。

(2) 学生ボランティア団体連絡会議（井戸端会議）の開催

学生ボランティア団体の連絡会議（通称・井戸端会議）を計 9 回開催し，情報交換や課題の共有，コラボ企画の発案，助成金情報の提供等を行った。

(3) 課外・ボランティア活動研修会の開催

学生ボランティア団体および学生スタッフが安心・安全により良い活動を行うことを支援するために，課外・ボランティア活動研修会を計 3 回開催した。テーマとしては，「オンライン・ワークショップ入門～今こそ考えるボランティア活動の意義～」(5/19, 青木将幸ファシリテーター事務所代表・青木将幸氏)，「STUDENTS×UNIVERSITY×GENDER and SEXUALITIES 私たちはジェンダー・セクシュアリティにどう関わっていけばよいか」(12/2, 講師：早稲田大学の教職員)，「課外・ボランティア活動におけるセクハラ防止のために」(12/22, 講師：ハーティ仙台・八幡悦子氏)，を取り上げた。

3. 学生ボランティア活動の成果の社会への発信

(1) オープンキャンパス・東北大学祭等での活動紹介

7 月のオンラインオープンキャンパスでは，特設サイトの課外・ボランティア活動支援センター紹介ページにて，①SCRUM の参加団体・直轄部の紹介動画，②ボランティア・フェア開催時に作成したホームページを活用した登録団体の紹介，③SCRUM 内でも多彩な活動をしているメンバー 3 名の対談記事の企画・作成を行なった。

(2) 紀要および広報誌の発刊

2019 年度末に刊行した『課外・ボランティア活動支援センター紀要』を HP 上で公開した。また，2020 年度版を 2021 年 3 月に発刊し，関係各所に配布した。また，広報誌『Volunteer Seminar Journal vol.15』を 2020 年 4 月に発刊し，新入生や学内・学外に向けた本学のボランティア活動の広報の一助とした。

(3) 助成金の取得と社会的評価

2020 年度は，SCRUM および SCRUM 参加団体において，全日本社会貢献団体機構，中日新聞，公益信託「オオバまちづくり基金」，赤い羽根共同募金，大阪コミュニティ財団，東北地域づくり協会「みちのく国づくり支援事業」から助成を受けた。これは，各団体の活動が高い社会的評価を受けていることの証明である。

4. 課外活動の支援

(1) 学友会等と連携した課外活動支援

学友会体育部，文化部，課外活動支援係等の教職員が参加する定例会議を 4 回開催し，適宜情報交換を行った。

- (2) 東日本大震災被災地復興および地域社会・国際社会に貢献し得る人材の育成を目的とした、社会貢献型の体験学習（サービスラーニング）の企画・実施

2020 年度には、社会貢献型の体験学習（サービス・ラーニング）として、東日本大震災及びボランティア関係の授業を計 3 コマ開講し、59 名が受講した。			
科目群	授業題目	担当教員	開講時期
基幹科目	社会の構造 「東日本大震災からみる現代日本社会」	松原久，高橋結	【2S・4S】月 4
展開科目	課題解決型（PBL）演習 A「被災地復興の課題に取り組む」	松原久，高橋結	【2S・4S】木 4
	展開ゼミ「復興」を学際的に考える	邑本俊亮，芳賀満， 松原久，佐藤翔輔	【2S・4S】木 3

- (3) 国内外の大学との課外・ボランティア活動における交流・連携の促進

2020 年度に、国内外の大学・高校との課外・ボランティア活動における交流・連携の促進として、以下を実施した。
(1) 国内の大学生・高校生（中学生）との交流 前年度に引き続き、他大学や高校生（中学生）からの被災地視察の受入れ依頼を受けた。2020 年度は兵庫県立宝塚西高校（生徒 26 名，対応学生 8 名），福島県立ふたば未来学園高校（生徒 6 名，対応学生 10 名）の受入れ・交流・質問対応等を行った。 また台風 19 号で被災した宮城県丸森町の支援や令和 2 年 7 月豪雨で被災した熊本県の支援では、オンラインを活用して、国内の大学生・高校生とミーティングや合同の研修会，活動報告会，交流会などを実施した。具体的には、「丸森町の高校生と大学生ボランティアの交流会」，「丸森の皆さん支援者の皆さん×学生のこれからを考えるオンライン意見交換会」，「多大学間水害ボランティア講習会」，「2020 年 7 月豪雨水害でつながる学生ボランティア活動報告会」の 4 企画に本学学生ボランティアが参加し，課外・ボランティア活動支援センターとしては共催・実施協力を行なった。

Ⅲ 2020 年度の機構全体の活動

1. 機構主催のシンポジウム・研究会・セミナー等

No.	開催日	事業名	参加者数
高等教育のリテラシー形成関連			
1	2020 8.30	アカデミックリーダーのためのインストラクショナルデザイン 講師：鈴木 克明（熊本大学 教授）	157
2	2020 9.19	世界の高等教育政策 講師：杉本 和弘（東北大学 教授）	190
3	2020 10.10	高大接続と大学入試改革 講師：宮本 友弘（東北大学 教授）	131
4	2020 11.16	令和2年度 IDE 大学セミナー 「大学教育の新常態？ —オンライン授業の経験は、持続的変化をもたらすか—」 基調講演：緊急対応としての遠隔授業から次世代大学の創成へ 鈴木 克明 熊本大学 教授 事例報告：サステイナブルな全授業オンライン化の取り組みとその後 稲垣 忠 東北学院大学 教授 指定討論：コロナ禍から得られたカリキュラムマネジメントへの示唆 杉谷 祐美子 青山学院大学 教授、	274
5	2020 9.23	第32回 東北大学高等教育フォーラム 大学入試を設計する —「大学入試研究」の必要性とその役割— 基調講演1：「大学入試学」の淵源と展開——個別大学の入試関連組織と入試戦略—— 倉元 直樹（くらもと なおき）東北大学教授 基調講演2：「大学入試学」の実践と成果——エビデンスに基づく東北大学の入試改革—— 宮本 友弘（みやもと ともひろ）東北大学教授 現状報告1：入試改革への挑戦——お茶大新フンボルト入試の実施状況・課題・展望—— 安成 英樹（やすなり ひでき）お茶の水女子大学教授 現状報告2：大学入試を読み解き、解きほぐす——高校現場の実践と課題—— 笠井 敦司（かさい あつし）青森県立青森高等学校教諭 現状報告3：「高大接続改革」に対する高校現場の受け止めと今後の期待 杉山 剛士（すぎやま たけし）武蔵高等学校中学校長	375
専門教育での指導力形成関連（各専門分野）			
6	2020 5.21	実務家教員の育成にいかに関与するか—教育・雇用一体改革の視点から— 講師：大森 不二雄（東北大学 教授）	65
7	2020 7.4	リカレント教育の今、そしてコロナ後に果たすべき大学の役割 講師：乾 喜一郎（白百合女子大学 非常勤講師）	78
マネジメント力形成関連			
8	2020 7.23	大学におけるリスクマネジメントと広報活動 講演：駒橋 恵子（東京経済大学 教授）	92
9	2020 12.5	SDP シリーズ 第1回（2020年度）大学と資産運用 講師：川崎 成一（一般社団法人国立大学協会 政策研究所 特別研究員）	72
10	2020 12.19	SDP シリーズ 第2回（2020年度）破壊的イノベーションと大学 講演：河南 順一（同志社大学 大学院ビジネス研究科 教授）	91

No.	開催日	事業名	参加者数
その他			
11	2020 10.29	第5回 HEIJ 大学教育イノベーションフォーラム 「FD・SDのイノベーション：コロナ禍における取組と今後の展望」 事例1：「東北大学のFD・SDの取り組みと展望」 大森 不二雄（東北大学 教授） 事例2：「千葉大学のFD・SDの取り組みと展望」 我妻 鉄也（千葉大学 特任助教） 事例3：「芝浦工業大学のFD・SDの取り組みと展望」 榊原 暢久（芝浦工業大学 教授） 事例4：「帝京大学のFDの取り組みと展望」 井上 史子（帝京大学 教授） 事例5：「愛媛大学のFD・SDの取り組みと展望」 竹中 喜一（愛媛大学 講師） 事例6：「熊本大学のFD・SDの取り組みと展望」 鈴木 克明（熊本大学 教授）	212
12	2021 3.20	大学改革を担う実務家教員フェア 2021（第2回） 第1部：日本実務教育学会設立記念シンポジウム 「実務家教員と研究者教員の境界線はどこにあるのか？」 パネリスト：吉武 博通（情報・システム研究機構 監事、東京家政学院 理事長） 稲永 由紀（筑波大学 大学研究センター 講師） 佐藤 浩章（大阪大学 全学教育推進機構教育学習支援部 准教授） モデレーター：川山 竜二（社会情報大学院大学 プロボスト） 第2部：「大学教員を目指す社会人のための基礎講座」 講演 ：『「社会人教授」の大学論』 宮武 久佳（東京理科大学 教授） 話題提供1：『実務家教員の役割と可能性（1）』 森 紀人（株式会社 ANA 総合研究所） 話題提供2：『実務家教員の役割と可能性（2）』 高橋 修一郎（株式会社リバネス代表取締役社長 COO） 話題提供3：『実務家教員の役割と可能性（3）』 宇野 健司（株式会社 大和総研 調査本部副部長）	247
13	2020 7.8～ 8.21	全学新任教員研修	242

2. 刊行物一覧

発行年月	発 行	刊 行 物 名
2020.4	高度教養教育・学生支援機構	高度教養教育・学生支援機構 パンフレット 2020
2021.3	高度教養教育・学生支援機構	IEHE Report 84 第 32 回東北大学高等教育フォーラム 大学入試を設計する ー「大学入試研究」の必要性和その役割ー
2021.3	高度教養教育・学生支援機構	東北大学高度教養教育・学生支援機構 紀要 第 7 号 2021

3. 教員の活動（2020年4月～2021年3月の主な活動）

所 属	職 名	氏 名	掲載ページ
機構長	東北大学理事・副学長	滝澤 博 胤	-
副機構長	東北大学副学長/理学研究科教授	山 口 昌 弘	-
副機構長	教授	伊 藤 千 裕	45
教育評価分析 センター (Center for Institutional Research)	センター長/教授	杉 本 和 弘	45
	副センター長/准教授	串 本 剛	46
	講 師	松 河 秀 哉	47
大学教育支援 センター (Center for Professional Development)	センター長/教授	大 森 不二雄	48
	副センター長/准教授	戸 村 理	49
	教 授	杉 本 和 弘 (兼)	(45)
	助 教	渡 邊 文 枝	50
	特任助教	赤 池 美 紀	50
入試センター (Admission Center)	センター長/理学研究科教授	長 濱 裕 幸	-
	副センター長/教授	倉 元 直 樹	50
	教 授	宮 本 友 弘	53
	特任教授	石 上 正 敏	-
	特任教授	庄 司 強	-
	特任教授	檜 田 豪 利	56
	特任教授	秦 野 進 一	56
	特任教授	末 永 仁	57
	特任教授	伊 藤 博 美	-
	准教授	久 保 沙 織	57
言語・文化教育 センター (Center for Culture and Language Education)	助教	南 紅 玉	-
	センター長/副機構長/理学研究科教授	山 口 昌 弘	-
	副センター長/教授	北 原 良 夫	58
	副センター長/教授	菅 谷 奈津恵	59
	教 授	吉 本 啓	60
	教 授	上 原 聡	61
	教 授	橘 由 加	63
	特任教授	佐 藤 勢紀子	64
	教授/国際文化研究科	岡 田 毅	-
	准教授	竹 林 修 一	65
	准教授	桜 井 静	65
	准教授	ビンセント・スクラ (Vincent SCURA)	66
	准教授	ライアン・スプリング (Ryan SPRING)	66
	准教授	リチャード・メレス (Richard MERES)	67
	准教授	バリー・カヴァナ (Barry KAVANAGH)	68
	准教授	カン・ミンギョン (Minkyong KANG)	71
	准教授	深 井 陽 介	71
	准教授	田 林 洋 一	71
	准教授	セシリア・シルバ (Cecilia SILVA)	72
	准教授	趙 秀 敏 (チョウ・シュウビン)	73
	准教授	副 島 健 作	73
	准教授	中 村 渉	74
	准教授	林 雅 子	75
	准教授	金 鉉 哲 (キム・ヒョンチョル)	76
	講 師	ダニエル・アイコースト (Daniel EICHHORST)	77
	講 師	トッド・エンスレン (Todd ENSLEN)	77
	講 師	ベン・シャーロン (Ben SHEARON)	78
	講 師	ジョセフ・スタヴォイ (Joseph STAVOY)	78

所 属	職 名	氏 名	掲載ページ
	講 師	三 上 傑	78
	講 師	ベルント・シャハト (Bernd SCHACHT)	78
	講 師	遠 藤 スサンネ (Susanne ENDO)	78
	講 師	高 橋 美 穂	79
	講 師	ベルトラン・ソゼド (Bertrand SAUZEDDE)	79
	講 師	張 立 波 (チョウ・リツハ)	80
	講 師	王 其 莉 (オウ・キリ)	-
	講 師	宿利 由希子	80
グローバルラーニング センター (Global Learning Center)	センター長/副機構長/理学研究科教授	山 口 昌 弘	-
	副センター長/教授	粕 壁 善 隆	81
	副センター長/教授	末 松 和 子	82
	特任教授	渡 邊 由美子	83
	特任教授	マーチン・シュローダー (Marcin Schroeder)	84
	准教授	高 橋 美 能	84
	准教授	渡部(わたなべ) 留美	85
	准教授	渡部(わたなべ) 由紀	86
	准教授	ノルボシン・ザンペイソフ (Nurbosyn ZHANPEISOV)	86
	准教授	マルタン・ロベール (Martin ROBERT)	87
	准教授	小 池 武 志	87
	准教授	グザヴィエ・ダハン (Xavier Dahan)	87
	准教授	米 澤 由香子	87
	特任准教授	坂 本 友 香	88
	講 師	新 見 有紀子	88
	特任助教	林 聖 太	89
学際融合教育推進 センター (Center for Interdisciplinary Studies and Education)	センター長/教授	中 村 教 博	89
	副センター長/准教授	中 川 学	90
	副センター長/准教授	山 内 保 典	91
	総長特命教授	宮 岡 礼 子	92
	総長特命教授	米 倉 等	92
	総長特命教授	鈴 木 岩 弓	93
	総長特命教授	水 野 健 作	94
	総長特命教授	高 木 泉	94
	教 授	関 根 勉	94
	教 授	芳 賀 満	95
	准教授	田 嶋 玄 一	96
	准教授	藤 本 敏 彦	97
	助 教	高 橋 禎 雄	98
	助 教	太 田 宏	99
	助 教	小 俣 乾 二	99
	助 教	金 田 雅 司	-
	助 教	富 田 知 志	99
	助 教	前 山 俊 彦	100
	助 教	山 田 努	100
	助 教	山 下 琢 磨	101
	助 教	本 多 良太郎	102
	助 教	鈴 木 紀 毅	-
学習支援センター (Center for Learning Support)	センター長/教授	芳 賀 満	(95)
	副センター長/准教授	佐 藤 智 子	103
	助 教	縣 拓 充	103
	助 教	中 島 啓 貴	104

所 属	職 名	氏 名	掲載ページ
キャリア支援センター (Center for Career Support)	センター長/経済学研究科教授	秋 田 次 郎	-
	副センター長/理学研究科教授	松 澤 暢	-
	副センター長/准教授	猪 股 歳 之	104
	准教授	高 橋 修	105
	特任准教授	門 間 由記子	106
	特任准教授	富 田 京 子	107
学生相談・特別支援 センター (Center for Counseling and Disability Services)	センター長/歯学研究科教授	菅 原 俊 二	-
	副センター長/教授	池 田 忠 義	107
	准教授	中 島 正 雄	108
	講 師	小 島 奈々恵	109
	講 師	中 岡 千 幸	110
	助 手	佐 藤 静 香	110
	助 教	松 川 春 樹	111
	講 師	長 友 周 悟	112
	特任講師	榑 原 佐和子	112
	助 手	高 橋 真 理	-
保健管理センター (Student Health Care Center)	センター長/教授	木 内 喜 孝	112
	副センター長/副機構長/教授	伊 藤 千 裕	(45)
	准教授	小 川 晋	114
	准教授	佐 藤 公 雄	114
	助 教	北 浩 樹	117
	助 教	二 宮 匡 史	118
	助 教	山 本 沙 織	118
	助 教	藤 尾 淳	-
	助 教	川 口 桂	118
	助 教	宍 倉 裕	-
	助 教	柏 舘 俊 明	118
課外・ボランティア 活動支援センター (Center for Service Learning and Extracurricular Activities)	センター長/経済学研究科教授	小田中 直 樹	-
	副センター長/ データ駆動科学・AI教育研究センター教授	早 川 美 徳	-
	特任助教	横 関 理 恵	119
	特任助教	松 原 久	119
	特任助教	高 橋 結	120

伊藤 千裕 (教授)

〔専門分野〕

精神神経科学

神経化学・神経薬理学

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

学部教育 [講義] 医・精神・心理・行動ブロック 7セメスタ

〔論文〕

(共著)「新型コロナウイルス感染防止を考慮した健診 東北大学における実施経験」『全国大学保健管理研究集会プログラム・抄録集』58回巻 78-78 2020年11月

(共著)「新型コロナウイルス感染症流行下での学生健診 ー東北大学における実施経験ー」『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要 = BULLETIN OF THE INSTITUTE FOR EXCELLENCE IN HIGHER EDUCATION TOHOKU UNIVERSITY』7号 139-149 2021年3月

〔会議の発表・講演〕

「新型コロナウイルス感染防止を考慮した健診ー東北大学における実施経験ー」ポスター (一般): 第58回全国大学保健管理研究集会 2020年11月

〔その他の競争的資金獲得実績〕

(その他寄附金)メンタルヘルス研究助成金 2014年6月～

〔学内活動〕

全学委員会 教育研究評議会評議員 2019年4月～

全学委員会 学務審議会副委員長 2019年4月～

全学委員会 教務委員会 2019年4月～

全学委員会 国際学位コース運営委員会 2019年4月～

全学委員会 全学教育科目委員会 (基幹科目) 2019年4月～

全学委員会 広報 (曙光) 編集委員会 2019年4月～

全学委員会 全学教育科目委員会 (保健体育) 2020年4月～

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構保健管理センター副センター長 2016年4月～

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構副機構長 2019年4月～

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構総務委員会委員長 2019年4月～

部局内委員会 データ駆動科学・AI 教育研究センター運営委員会 2019年10月～

部局内委員会 情報科学研究科人間対象研究倫理審査委員会 2020年4月～

〔学内教職員支援〕

教育関係共同利用拠点提供プログラム (健康科学セミナー) (講師)

〔教育相談〕

のべ相談人数 175 名、のべ相談回数 175 回

〔学会活動および外部機関における活動〕

日本神経精神薬理学会 評議員 2001年1月～

日本臨床精神神経薬理学会 評議員 2006年1月～

〔兼務、兼業など〕

学内 東北大学大学院医学系研究科医科学専攻内科病態学講座精神保健学分野 教授 2014年4月～

学内 東北大学大学院情報科学研究科応用情報科学専攻健康情報学講座 教授 2014年4月～

〔行政機関・企業・NPO等参加〕

医療法人小島慈恵会 小島病院 非常勤医師 2014年4月～

杉本 和弘 (教授)

〔専門分野〕

比較教育学、高等教育論

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 社会学「現代大学論」2セメスタ

全学教育 基礎ゼミ「多文化共生社会へのアプローチを探る」1セメスタ

東京大学大学院教育研究科大学経営政策コース「大学経営政策各論 (3)」1セメスタ

〔論文〕

(単著)「揺れる国際教育大国・豪州の行方」『IDE・現代の高等教育』No. 622 43-49 2020年7月

〔総説・解説記事〕

(単著)「関西学院大学: 次代を見据えた分野横断型『AI 活用人材』育成プログラムの開発」『カレッジマネジメント』No. 223 22-25 2020年7月

(単著) 「東北大学『大学変革リーダー育成プログラム』—大学の教育研究や経営を支えるマネジメント人材育成の試み—」 『カレッジマネジメント』No. 226 38-39 2021 年 1 月

(会議の発表・講演)

「世界の高等教育政策」 東北大学大学教育支援センター 教育関係共同利用拠点 PD セミナー (高等教育論 L-01) 2020 年 9 月
「オーストラリアの高等教育—全体像と近年の改革—」 国立大学協会日豪大学職員短期交流研修事業 2020 年 10 月
「高等教育における質文化の醸成とアカデミック・リーダーの役割」 大学基準協会令和 2 年度スタディー・プログラム 2 2020 年 11 月
「高等教育の設計・改善とそれを支える人材育成」 第 17 回 (2020 年度) 東北大学男女共同参画シンポジウム「人を育てる～ポストコロナ時代～」
2020 年 11 月
「日本における大学の『教養教育』形成に対する政府・産業界の役割」 『2020 International Forum on Liberal Education』 韓国教養教育院
2020 年 12 月

(科学研究費補助金獲得実績 (文科省・学振))

基盤研究 (C) 同僚制原理に基づく大学教育の質保証とアカデミック・リーダー育成に関する比較研究 2019 年 4 月～ 代表者
基盤研究 (B) 学問に根ざした大学教育の学修成果向上のための教授法・人材・組織の一体的な開発研究 2018 年 4 月～2021 年 3 月 分担者
基盤研究 (B) 日本の高等教育における学寮の教育的展開と質保証を基盤としたプログラム開発 2019 年 4 月～2023 年 3 月 分担者
基盤研究 (B) 大学における教養教育と専門教育の葛藤解決の方策に関する研究：日・欧・米の比較 2019 年 4 月～2022 年 3 月 分担者
基盤研究 (B) 高等教育改革とその成果に関する国際比較研究：政治経済学的視点からのガバナンス分析 2020 年 4 月～2023 年 3 月 分担者

(学内活動)

全学委員会 教育情報・評価改善委員 2011 年 4 月～2021 年 3 月
全学委員会 学務審議会委員 2012 年 4 月～2021 年 3 月
全学委員会 教務委員会 2017 年 4 月～2021 年 3 月
全学委員会 評価分析室員 2013 年 4 月～
全学委員会 教育の質保証検証部会副部会長 2019 年 4 月～
その他の主要活動 高度教養教育・学生支援機構総務委員会委員 2014 年 4 月～
その他の主要活動 グローバル人材育成推進事業実施委員会委員 2014 年 4 月～ (←削除)

(学会活動および外部機関における活動)

オセアニア教育学会理事・紀要編集委員会 2012 年 1 月～
文部科学省生涯学習政策局 (現総合教育政策局) 調査企画課 外国調査アドバイザー (大洋州) 2014 年 4 月～
日本高等教育学会理事・国際委員会 副委員長 2019 年 6 月～
日本比較教育学会紀要編集委員会 委員 2020 年 8 月～
東北学院大学 外部評価委員会 委員長 2019 年 4 月～
大学教育学会 国際委員会 副委員長 2019 年 8 月～
公益財団法人 大学基準協会 大学評価分科会 委員 2019 年 4 月～
公益財団法人 大学基準協会 大学評価委員会 委員 2020 年 4 月～
東京大学大学院教育学研究科大学経営政策コース客員教授 2020 年 4 月～
筑波大学教学マネジメント室客員研究員 2020 年 9 月～

(行政機関・企業・NPO等参加)

文部科学省生涯学習政策局 (現総合教育政策局) 調査企画課 外国調査アドバイザー (大洋州) 2014 年 4 月～
文部科学省「地 (知) の拠点大学による地方創生推進事業委員会」委員 2016 年 6 月～2021 年 3 月

[その他]

文部科学省「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」運営・中核拠点 副事業推進責任者

串本 剛 (准教授)

[専門分野]

教育学

[担当授業科目 (他大学も含む)]

全学教育 言語表現の世界 前期前半
全学教育 カレント「大学生のレポート作成入門」 前期
全学教育 批判的思考と論理的文章 後期
全学教育 言語表現の世界 後期後半
学部教育 カリキュラム論演習 I 前期集中

[教育活動に関する受賞 (指導大学院生・学部生の受賞を含む)]

全学教育貢献賞: 東北大学 2020 年 12 月

[著書]

『新たな人文・社会系教育と学生の学修へのインパクト』 広島大学 高等教育研究開発センター 2021 年 3 月

〔会議の発表・講演〕

「東北大学における「全学オンライン授業アンケート（教員向け）」 その他：国立情報学研究所『第13回 4月からの大学等遠隔授業に関する取り組み状況共有サイバーシンポジウム』 2020年7月

総説・解説記事

（共著）「単位の実質化に向けた諸課題：2019年度改定の関連文書を念頭に」 『第2回 東北大学教員の教育活動に関する調査報告書』 8-11 2020年11月

〔科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）〕

基盤研究(B) 学士課程カリキュラムの共通性に関する実証分析 2018年4月～2022年3月 代表者

〔学内活動〕

全学委員会 基幹科目委員会 指名委員 2010年4月～

全学委員会 教育情報・評価改善委員会 指名委員 2011年4月～

全学委員会 学務審議会 指名委員 2015年4月～

全学委員会 教務委員会 指名委員 2016年4月～

全学委員会 附属図書館学習支援委員会 委員 2016年4月～

全学委員会 カレントトピックス科目委員会 委員長 2018年4月～

全学委員会 教育の質保証検討部会 委員 2019年1月～

全学委員会 仕様策定委員会 2020年1月～

全学委員会 学問論委員会準備部会 2021年1月～

部局内委員会 紀要編集委員会 副委員長 2018年4月～

〔学内教職員支援〕

「東北大学オンライン授業に関する調査結果」『東北大学教育調査研究会（第6回）』（講師）

単位制度の実質化にかかるFD動画教材の開発（その他）

〔学会活動および外部機関における活動〕

大学教育学会 代議員 2015年4月～

大学教育学会 編集幹事 2016年6月～2020年6月

日本高等教育学会 編集委員 2019年10月～2021年9月

大学教育学会 編集副委員長 2020年6月～2022年6月

〔学外の社会活動〕

会津高校東北大学研修

シラバス作成演習

松河 秀哉（講師）

〔専門分野〕

教育工学

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 人間と文化(情報社会と教育) 前期

全学教育 オンライン基礎ゼミ(大学での学びのいろは) 前期

全学教育 テクノロジ化社会における学びを考える(展開ゼミ) 後期

全学教育 人間と文化(情報社会と教育) 後期

他大学 情報社会と教育 後期集中

〔教育活動に関する受賞（指導大学院生・学部生の受賞を含む）〕

令和2年度 全学教育貢献賞：東北大学 2021年3月

令和2年度 総長教育賞：東北大学 2021年3月15日

〔その他教育上に関する活動〕

（その他）全学の学生・教員を対象とした全学オンライン授業アンケートを企画・実施し、分析・報告を行った。

（その他）国立情報学研究所主催【第11回】4月からの大学等遠隔授業に関する取組状況共有サイバーシンポジウム（6/26 オンライン開催）において、「東北大学のオンライン授業に関するアンケートについて」と題して、基礎ゼミ受講者を対象としたオンライン授業アンケートの結果について講演を行った。

〔論文〕

（共著）「全学教育改革について一学期制と高年次教養教育一」『東北大学学務審議会 高度教養教育・学生支援機構 教育評価分析センター 編 第2回 東北大学教員の教育活動に関する調査報告書』 12-17 2020年11月

（共著）「オンライン授業の現状と学生の評価 ―基礎ゼミ受講者へのアンケート結果を中心に―」『東北大学 高度教養教育・学生支援機構 紀要』 7号 3-21 2021年3月

〔著書〕

第8章 教育データ分析による教員支援『教育工学における大学教育研究』ミネルヴァ書房 2020年11月

〔会議の発表・講演〕

「学習済モデルを活用したトピックモデルによるテキスト分析支援ソフトウェアの開発」ポスター（一般）：日本教育工学会 2020年秋季全国大会 2020年9月

「保育者のキャリアと業務を基軸とした園務情報化の今後の課題」ポスター（一般）：日本教育工学会 2020年秋季全国大会 2020年9月

「チュートリアルセッション2 論文賞受賞者に聞く、査読対応の極意」その他：日本教育工学会 2020年秋季全国大会 2020年9月

「トピックモデルによるテキスト分析支援 web システムの開発」口頭（一般）：日本教育工学会 2021年春季全国大会 2021年3月

〔科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）〕

（挑戦的萌芽研究）自由記述の自動分類に基づいた授業評価の分析と大学における教育改善への包括的活用 2017年4月～2021年3月 代表者

基盤研究(C) 園務情報システム利用の有用性と実質化についての開発的研究 2018年4月～2022年3月 分担者

その他 挑戦的研究(萌芽) 市民の科学への参加・支援を加速化するオープンサイエンス・リテラシー教育モデル開発 2018年6月～2021年3月 分担者

基盤研究(B) 教育学研究の国際展開の実態・構造・将来像に関する研究——学会の機能に注目して—— 2019年4月～2022年3月 分担者

基盤研究(B) 機械学習によるテキストデータの分析に基づく新たなFD・IRモデルの開発 2020年4月～2024年3月 代表者

基盤研究(B) 市民の科学への参加・支援を加速化するオープンサイエンス・リテラシーの教師教育 2020年4月～2024年3月 分担者

〔学内活動〕

全学委員会 評価分析室員 2019年7月～

全学委員会 新型コロナウイルス感染症対策遠隔授業ワーキング・グループ構成員 2020年3月～

全学委員会 学務審議会基礎ゼミ委員会専門委員 2020年4月～

全学委員会 「学問論」準備部会委員 2021年1月～

部局内委員会 総務委員会委員 2017年4月～

部局内委員会 広報小委員会委員 2017年4月～

部局内委員会 基幹科目専門委員 2019年4月～

部局内委員会 教務小委員会委員 2019年9月～2021年3月

〔学会活動および外部機関における活動〕

日本乳幼児教育学会 広報・企画委員 2010年2月～

日本教育工学会 SIG-01 高等教育・FD代表 2015年9月～

日本教育工学会 理事 2019年6月～

日本教育工学会 大会企画委員会副委員長 2019年6月～

〔会議の主催・運営〕

（国内会議主催）日本教育工学会 2021 春季(第38回)全国大会 2021年3月6日～2021年3月7日

〔兼務、兼業など〕

学外 日本乳幼児教育学会 広報・企画委員会 委員 2010年4月～

学外 日本教育工学会 SIG01 高等教育・FD 代表 2015年6月～

学外 日本教育工学会 理事 2019年6月～

学外 日本教育工学会 大会企画委員会 委員 2019年6月～

〔その他〕

オンライン基礎ゼミではgoogle classroom の機能では実現できない事務処理について個別にコードを書いて対応するなどIT面からの支援を行った。
新型コロナウイルス感染症対策遠隔授業ワーキング・グループ構成員として、遠隔授業実施支援に関わり、総長教育賞・全学教育貢献賞を受賞した。

大森 不二雄(教授)

〔専門分野〕

教育社会学

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 基礎ゼミ「文系・理系の壁を超える読書と対話で学びを広げ深める」 1セメスタ

全学教育 社会の構造「社会人になるための社会分析」 2セメスタ

〔論文〕

（単著）「コロナ後の高等教育—デジタル・トランスフォーメーション（DX）の諸相を展望する—」『高度教養教育・学生支援機構紀要』第7号 23-31 2021年3月

（単著）「実務家教員の育成にいかに取り組むか」『IDE 現代の高等教育』Vol.619 28-32 2020年4月

（単著）「コロナで公教育は止まった。その「失敗の本質」を直視せよ：デジタル化はインフラ整備だけではできない。「科学的証拠」が示す政策とは」『論座』(Web) 2020年7月21日

〔著書〕

「第4章 内部質保証システムの機能の実質化に向けて」『教学マネジメントと内部質保証の実質化』東信堂 89-114 2021年3月

〔会議の発表・講演〕

夏目達也・山田礼子・大森不二雄・渡辺達雄 「〈ラウンドテーブル報告〉教員の働き方改革にみる大学の危機」『大学教育学会誌』第42巻第2号 64-68 2020年12月

「実務家教員の育成にいかに関与するかー教育・雇用一体改革の視点からー」口頭（招待）：名古屋大学高等教育研究センター招聘セミナー 2020年5月21日

「大学教育の新常態？ーオンライン授業の経験は、持続的変化をもたらすかー（趣旨説明）」令和2年度IDE大学セミナー 2020年11月16日

〔総説・解説記事〕

（単著）「ガラパゴス化した人材育成を変革する実務家教員の輩出を目指して」『月刊 経団連』2020年6月号 44-45 2020年6月

（単著）「大学教員の多様化が進展、実務家教員の活躍の場は拡大」『月刊 先端教育』Vol.16 62-63 2021年2月

〔書評〕

「青木栄一〔編著〕『文部科学省の解剖』 『教育社会学研究』 第106集 200-202 2020年6月

「苅谷剛彦、吉見俊哉著『大学はもう死んでいる？ートップユニバーシティーからの問題提起ー』 『IDE 現代の高等教育』 Vol.624 70-71 2020年10月

〔科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）〕

基盤研究(B) 学問に根ざした大学教育の学修成果向上のための教授法・人材・組織の一体的な開発研究 2018年4月～2021年3月 代表者

基盤研究(B) 高等教育改革とその成果に関する国際比較研究：政治経済学的視点からのガバナンス分析 2020年4月～2023年3月 分担者

〔学内活動〕

全学委員会 学務審議会委員 2016年4月～2021年3月

全学委員会 学務審議会基幹科目委員会委員長 2020年4月～2021年3月

全学委員会 学務審議会教育情報・評価改善委員会委員 2016年4月～2021年3月

全学委員会 学務審議会学務情報システム運営委員会委員 2017年4月～2021年3月

全学委員会 学務審議会社会科学委員会委員 2017年4月～2021年3月

全学委員会 附属図書館商議員 2017年4月～

全学委員会 附属図書館学術情報整備検討委員会委員 2017年4月～

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構人事委員会委員 2016年4月～

その他の主要活動 高度教養教育・学生支援機構大学教育支援センター長 2017年10月～2021年3月

その他の主要活動 高度教養教育・学生支援機構大学教育支援センター共同利用運営委員会委員長 2017年10月～2021年3月

〔学会活動および外部機関における活動〕

国際教育学会 副会長 2012年9月～

大学教育学会 代議員 2015年4月～

大学マネジメント研究会 編集委員 2017年4月～

日本私立大学協会附置私学高等教育研究所 客員研究員 2018年4月～

熊本大学大学院社会文化科学教育部 客員教授 2016年4月～

〔行政機関・企業・NPO等参加〕

大阪市 特別顧問 2019年5月～

大学教育イノベーション日本 代表 2017年12月～2019年10月

〔その他〕

文部科学省「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」運営・中核拠点 事業推進責任者

戸村 理（准教授）

〔専門分野〕

教育社会学

〔著書〕

「第1章 米国リベラルアーツ・カレッジの構造と経営―機関類型と財務による素描―」『教養教育の日米比較研究（高等教育研究叢書 158）』広島大学高等教育研究開発センター 2021年3月

〔会議の発表・講演〕

「五島報告「日本の高等教育史・大学史研究の研究方法を学ぶために」に対するリプライ」口頭（一般）：高等教育プラットフォーム歴史部門勉強会（第1回） 2021年1月

〔総説・解説記事〕

（共著）「〈40周年記念シンポジウム〉若手会員として大学教育学会に望むこと 大学教育学会のアーカイブス機能に注目して」『大学教育学会誌』42巻1号 24-24 2020年5月

（共著）「第4章 教育改革とその実態」東京大学大学院教育学研究科 大学経営・政策研究センター『教育担当理事調査報告書』 45-56 2020年7月

〔その他研究活動〕

(その他)『国立大学協会七十年史』の企画・執筆・編集

〔科学研究費補助金獲得実績(文科省・学振)〕

若手研究 近現代日本における大学学長職の地位・役割・動態に関する歴史社会学的研究 2019年4月～ 代表者

〔学内活動〕

その他の主要活動 学問論委員会準備部会 2021年2月～

〔学会活動および外部機関における活動〕

一般社団法人国立大学協会 高等教育に関する基礎データ等の調査研究グループ 委員 2017年6月～2021年3月

一般社団法人 大学教育学会 大学教育研究力向上委員会(旧大学教育研究力向上プロジェクト) 委員 2017年12月～

慶應義塾福澤研究センター 客員所員 2018年9月～

一般社団法人国立大学協会 国立大学協会 70周年記念準備委員会及び同 70周年記念誌編纂小委員会 専門委員 2018年12月～2021年3月

日本教育社会学会・年次大会支援部 副部長 2019年9月～

〔兼務、兼業など〕

学外 一般社団法人国立大学協会 国立大学協会 70周年記念準備委員会専門委員及び同 70周年記念誌編纂小委員会専門委員 2018年12月～2021年3月

学外 一般社団法人国立大学協会 高等教育に関する基礎データ等の調査研究グループ委員 2017年6月～2021年3月

学外 一般社団法人 大学教育学会 大学教育研究力向上委員会(旧大学教育研究力向上プロジェクト) 委員 2017年12月～

学外 慶應義塾福澤研究センター 客員所員 2018年9月～

学外 日本教育社会学会 年次大会支援部 副部長 2019年9月～

〔社会貢献〕

一般社団法人国立大学協会に設置された「国立大学協会 70周年記念準備委員会及び同 70周年記念誌編纂小委員会」の専門委員として、2020年12月に刊行された『国立大学協会七十年史』の企画・執筆・編集を担当した。

渡邊 文枝(助教)

〔専門分野〕

教育工学

〔科学研究費補助金獲得実績(文科省・学振)〕

若手研究(B) オンライン相互評価における評価方法の設計と開発 2016年4月～ 代表者

基盤研究(B) 教学マネジメントの基盤となる大学院生向けブレ FD モデルの構築に関する研究 2020年4月～ 分担者

〔学会活動および外部機関における活動〕

日本教育工学会 大会企画委員会 委員 2018年1月～

日本教育工学会 SIG-07(インストラクショナルデザイン) コアメンバー 2018年4月～

日本教育メディア学会 学会誌編集委員会 委員 2019年1月～

赤池 美紀(特任助教)

〔論文〕

(単著)「ウィーン音楽舞台芸術大学における音楽家医学教育の取り組み」『ヨーロッパ研究』20号 31-41 2021年3月

〔会議の発表・講演〕

「音楽大学生を対象とした健康教育に関するシステムティック・レビュー」口頭(一般):日本音楽教育学会第51回オンライン大会 2020年10月

「邦訳された Teachers' Sense of Efficacy Scale に関するレビュー」口頭(一般):日本教育工学会 2021年春季全国大会 2021年3月

〔学会活動および外部機関における活動〕

日本音楽教育学会 新型コロナウイルス感染症対策「音楽教育支援プロジェクトチーム」2020年10月～

倉元 直樹(教授)

〔専門分野〕

教育心理学

社会心理学

教育学

科学教育

基礎看護学

〔担当授業科目(他大学も含む)〕

学部教育 実験心理学各論(心理学統計法) 1セメスタ

学部教育 実験心理学演習Ⅳ 2セメスタ

大学院教育 実験心理学特論Ⅳ 1セメスタ

大学院教育 教育情報学応用論特論Ⅰ 1セメスタ

大学院教育 教育情報学応用論概論 2セメスタ
大学院教育 教育情報学応用論研究演習Ⅰ 2セメスタ
大学院教育 実験心理学研究演習Ⅳ 2セメスタ
他大学 関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科「大学運営」 後期

〔学位論文指導・審査〕

博士1名（主査1名）

〔指導大学院生・学部生の発表件数〕

2020年度 大学院学生（博士課程後期3年の課程） 論文発表件数3件 学会発表件数1件 国際会議発表件数1件

2020年度 大学院学生（修士課程） 論文発表件数3件

〔その他教育上に関する活動〕

（教育方針の実践例）倉元研究室ゼミ

（教育方針の実践例）週ゼミの実施（コロナ対応）

〔論文〕

（共著）「高大接続改革に対する高校側の意見とその変化——「受験生保護の大原則」の観点から——」『日本テスト学会誌』16巻 2020年6月

（単著）「共通1次からセンター試験への改革は受験生と大学に何をもたらしたのか」『変革期の大学入試』21-49 2020年6月

（共著）「東北大学における入試広報活動の「これまで」と「これから」——頂点への軌跡からオンライン展開への挑戦へ——」『教育情報学研究』19巻 55-69 2020年12月

（共著）「大学入試英語問題における出題形式による識別力比較——英文和訳・和文英訳の機能を中心に——」『大学入試研究ジャーナル』31巻 140-145 2021年3月

（共著）「大学入試における少人数を対象としたオンライン筆記試験の可能性——大学の授業における期末考査をモデルケースとして——」『大学入試研究ジャーナル』31巻 338-344 2021年3月

（共著）「大学進学における相談相手の役割に関する日中比較研究——相談頻度を中心に——」『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』7巻 209-223 2021年3月

（共著）「東北大学における一般入試前期日程志願者の学力水準の経年分析——過去3年分の大学入試センター試験成績から——」『大学入試研究ジャーナル』31巻 134-139 2021年3月

（共著）「わが国の高大接続改革と中国、韓国、台湾の大学入試多様化政策——特に中国の入試改革との同型性、共時性を中心に——」『大学入試研究ジャーナル』31巻 83-90 2021年3月

〔会議の発表・講演〕

「中国の大学入試政策——韓国、台湾、そして、わが国における高大接続改革との関連性を中心に——」口頭（一般）：全国大学入学者選抜研究連絡協議会第15回大会（開催中止）2020年6月

「英文和訳・和文英訳は大学入試で選抜機能を果たしているか——大学入試英語問題における出題形式による識別力比較——」口頭（一般）：全国大学入学者選抜研究連絡協議会第15回大会（開催中止）2020年6月

「東北大学志願者の学力水準の経年分析——過去3年間の大学入試センター試験成績から——」口頭（一般）：全国大学入学者選抜研究連絡協議会第15回大会（開催中止）2020年6月

「大学進学における進路選択プロセスに関する研究——日本の高校生の情報収集活動を中心に——」ポスター（一般）：日本教育心理学会第62回総会（開催中止）2020年9月

「高大接続改革における主要政策に関する高校側の意見（速報）——大学入学共通テストにおける政策転換を受けて——」ポスター（一般）：日本教育心理学会第62回総会（開催中止）2020年9月

〔総説・解説記事〕

（単著）「今年の受験生を「ロスト・ジェネレーション」にするな！」『金子書房「こころ」のための専門メディア note（ウェブ雑誌）』2020年6月

（単著）「「コロナ禍」の下での大学入試——高大接続改革の方向転換から見てきた課題と展望——」『現代思想 2020年10月号』112-121 2020年10月

（共著）「A Comparative Study on the Impact of Chinese and Japanese reform policies on the articulation between high schools and universities: High school students' college pathways」『"2021 Conference, Comparative Education Society of Hong Kong, Online"』2021年3月

〔共同研究活動〕

異文化間交流研究会（旧 国際学校研究会） 国内 1990年10月～

〔科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）〕

基盤研究(A) 高大接続改革の下での新しい選抜方法に対する教育測定論・認知科学・比較教育学的評価 2016年4月～2021年3月 代表者

挑戦的研究（開拓） 「大学入試学」基盤形成への挑戦——真正な評価と実施可能性の両立に向けて—— 2019年4月～ 代表者

〔学内活動〕

全学委員会 入試企画・広報委員会入試改革対応拡大ワーキンググループ座長 2019年4月～2021年3月

全学委員会 入試企画・広報委員会副委員長 2019年4月～

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構長補佐会議委員 2019年4月～2021年3月

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構総務委員会委員 2019年4月～2021年3月

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構紀要・出版委員会委員 2019年4月～

〔学内教職員支援〕

FD: 東北大学入試センター新任教員対象 FD (第1回) (講師)

FD: 東北大学入試センター新任教員対象 FD (第2回) (講師)

FD: 東北大学入試センター新任教員対象 FD (第4回) (講師)

FD: 東北大学入試センター新任教員対象 FD (第5回) (講師)

FD: 東北大学入試センター新任教員対象 FD (第8回) (講師)

FD: 東北大学入試センター新任教員対象 FD (第13回) (講師)

FD: 東北大学入試センター新任教員対象 FD (第14回) (講師)

FD: 東北大学入試センター新任教員対象 FD (第15回) (講師)

一般入試個別試験作題班会議研修・理科学科目長研修 (講師)

一般入試個別試験作題班会議研修・各科目長研修 (講師)

FD: 東北大学入試センター新任教員対象 FD (番外編) (講師)

英語作題班対象 FD (講師)

第6回非公開教員研修「よりよい入学試験の数学2020」 (講師)

科研費アドバイザー (全学) (その他)

農学部入試 FD (講師)

学務審議会 FD (講師)

歯学部AO入試Ⅱ期面接員 FD (講師)

第5回医学部保健学科入試セミナー (講師)

歯学部AO入試Ⅲ期面接員 FD (講師)

歯学部一般選抜 (前期日程) 面接員 FD (講師)

〔プロジェクト活動〕

東北大学アドミッションポリシー策定に関わる基礎調査

東北大学高等教育フォーラムの開催

〔学会活動および外部機関における活動〕

日本テスト学会 日本テスト学会誌編集委員 2004年8月～

日本テスト学会 理事 2005年8月～

国際教育学会 (ISE) 理事 2006年6月～

国際教育学会 (ISE) 学会誌「クオリティ・エデュケーション」編集委員 2007年4月～

国際教育学会 (ISE) 学会賞「館糾賞」選考委員 2007年4月～

全国大学入学選抜研究連絡協議会 企画委員会委員 2010年4月～

国立教育政策研究所 フェロー 2017年4月～

〔会議の主催・運営〕

(国内会議主催) 第32回東北大学高等教育フォーラム「新時代の大学教育を考える [17] 大学入試を設計する——『大学入試研究』の必要性和その役割——」 2020年9月23日

〔兼務、兼業など〕

学内 東北大学大学院文学研究科 協力教員 1999年11月～

学内 東北大学入試センター 副センター長 2004年4月～

学外 国立教育政策研究所 フェロー 2017年4月～

学内 東北大学大学院教育学研究科教育情報学応用論協力講座 教授 2018年4月～

〔学外の社会活動〕

東北大学オンライン進学説明会・相談会「東北大学案内」コンテンツ作成

山形県若手・中堅進路指導研究会主催オンライン講演会講師

秋田県立秋田高等学校保護者対象講演会

秋田県立秋田高等学校生徒対象東北大学入試説明会・進路講演会

教員との意見交換 (秋田北高)

教員との意見交換 (秋田南高)

岩手県立盛岡第一高等学校生徒対象東北大学入試説明会

高校教員対象オンライン入試説明会 (宮城)

高校教員対象オンライン入試説明会 (九州)

高校教員対象オンライン入試説明会 (北海道)

高校教員対象オンライン入試説明会 (中国四国)

高校教員対象オンライン入試説明会（南東北）
 高校教員対象オンライン入試説明会（北東北）
 高校教員対象オンライン入試説明会（全国）
 東北大学オンライン進学説明会・相談会「東北大学入試説明」コンテンツ作成
 高校教員対象オンライン入試説明会（全国）
 高校教員対象オンライン入試説明会（全国）
 秋田県立大曲高等学校生徒対象東北大学入試説明会
 青森県高等学校長協会大学進学部会主催講演会講師
 宮城県高等学校進路指導研究会主催 東北大学・宮城教育大学・宮城大学 令和2年度入試説明会
 山形県立米沢興譲館高等学校生徒対象東北大学説明会
 須磨学園高等学校保護者対象オンライン東北大学説明会
 夢ナビLIVE2020 オンライン（仙台）
 夢ナビLIVE2020 オンライン（福岡）
 夢ナビLIVE2020 オンライン（東京）
 岩手県立大学看護学部オンライン入試研修コンサルタント
 東北大学オンライン進学説明会・相談会
 高大接続改革に向けての東北大学ー宮城県進路指導研究会進学部会情報交換連絡会（通算20回）

〔行政機関・企業・NPO等参加〕

一般社団法人 国立大学協会 入試委員会 平成32年度以降の国立大学の入学者選抜の在り方に関するワーキンググループ委員 2017年7月～2020年6月
 文部科学省 「大学入試のあり方に関する検討委員会」 ヒアリング対象者 2020年5月～2020年5月
 独立行政法人 大学入試センター 大学入試センター研究開発部主催「緊急オンラインフォーラム」メンバー 2020年6月～2021年4月

〔報道〕

新聞（その他）「高3が意見「振り回された」」 朝日新聞 2020年5月15日
 新聞（その他）「新井紀子教授ら有識者と高校生 大学入試検討会議で提言」 教育新聞 2020年5月15日
 雑誌（資料提供）「国立大にはAO・推薦で入る」 AERA 2020年5月18日
 新聞（資料提供）「大学入試 日程見通せず」 読売新聞 2020年5月29日
 新聞（資料提供）「大学推薦入試受験生困惑」 北海道新聞 2020年6月8日
 新聞（資料提供）「改革頓挫、新試験・・・ 大学入試を検証 受験生をどう保護 東北大、シリーズ刊行」 秋田魁新報 2020年6月26日
 新聞（資料提供）「共通テスト初回は波乱含み 「第2日程」新設に批判も」 日本経済新聞 2020年7月1日
 新聞（資料提供）「大学入学共通テストまで半年 学力の二極化危惧」 河北新報 2020年7月25日
 新聞（資料提供）「【特集】総合型・学校推薦型選抜に挑む 定員3割目指す国立大、私大も増枠の動き」 朝日新聞 EduA 2020年7月26日
 新聞（資料提供）「第2日程 選びたくても・・・」 朝日新聞 2020年8月3日
 新聞（資料提供）「東北の国立大 総合型選抜枠拡大相次ぐ」 河北新報 2020年8月10日
 雑誌（その他）「改革の混乱に「大学入試学」提唱——東北大学が『高等教育フォーラム』——」 内外教育 2020年11月10日
 新聞（資料提供）「視点 迷走総括し試験内容検証を」 朝日新聞 2021年1月18日
 雑誌（資料提供）「「社会で使える力」が肝 初の大学入学共通テスト出題とコロナ対策を検証」 AERA 2021年1月25日
 雑誌（資料提供）「得点知らずに出願に異議」 AERA 2021年2月8日
 新聞（資料提供）「大学入試苦肉の策 コロナ下の個別試験」 日本経済新聞 2021年2月27日

〔教育活動〕

受入れ学生：留学生4名（博士課程前期2名，後期1名，研究生1名），社会人3名（前期1名，後期2名）

宮本 友弘（教授）

〔専門分野〕

教育心理学

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

大学院教育 教育情報学応用論研究演習Ⅱ 後期
 大学院教育 教育情報学応用論概論 後期
 他大学 心理学特別演習（統計） 後期

〔学位論文指導・審査〕

博士1名（副査1名）

〔指導大学院生・学部生の発表件数〕

2020年度 大学院学生（博士課程後期3年の課程） 論文発表件数:5件 学会発表件数:1件

〔その他教育上に関する活動〕

(その他) 放送大学「BS キャンパス ex 特集 大学入試をどう考えるのか 第4回 高大接続における多面的・総合的評価の実際」に講師として出演
【論文】

(共著)「理学療法士養成校の学生はいかにして国家試験を乗り切るか?—グループ学習による学習動機づけの促進—」『保健医療学雑誌』 11 巻 1 号 24-33 2020 年 4 月

(共著)「高大接続改革に対する高校側の意見とその変化——「受験生保護の大原則」の観点から——」『日本テスト学会誌』 16 巻 2020 年 6 月

(共著)「東北大学における入試広報活動の「これまで」と「これから」—頂点への軌跡からオンライン展開への挑戦へ—」『教育情報学研究』 19 巻 55-69 2020 年 12 月

(共著)「東北大学における一般入試前日程志願者の学力水準の経年分析——過去 3 年間の大学入試センター試験成績から——」『大学入試研究ジャーナル』 31 巻 134-139 2021 年 3 月

(共著)「オンラインによる高校教員向け入試説明会の実践と評価」『大学入試研究ジャーナル』 31 巻 394-400 2021 年 3 月

(共著)「Visual Display Terminal 作業ガイドラインに沿った教育分野における情報機器利用時の留意事項と課題」『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 7 巻 267-280 2021 年 3 月

(共著)「オンラインによる入試広報の展開—「オンライン進学説明会・相談会」の実践を通して—」『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 7 巻 57-65 2021 年 3 月

(共著)「書字力の発達に関する調査研究—小学校 4 年生の視写力に着眼して—」『九州国語教育学会紀要』 10 巻 13-22 2021 年 3 月

【著書】

『変革期の大学入試』金子書房 2020 年 6 月

『教研式標準学力検査 NRT (小学校)』図書文化 2020 年 7 月

【会議の発表・講演】

「保育者の「見守る」に対する学生の認識 (2)」ポスター (一般): 日本保育学会第 73 回大会 2020 年 5 月

「改訂要領・指針で、保育はどのように変わったか—保育の質向上への具体的方策を探る—」シンポジウム・ワークショップ・パネル (公募): 日本保育学会第 73 回大会 2020 年 5 月

「東北大学志願者の学力水準の経年分析—過去 3 年間の大学入試センター試験成績から—」口頭 (一般): 令和 2 年度全国大学入学者選抜研究連絡協議会大会 (第 15 回) 2020 年 6 月

「理学療法士国家試験対策における学習動機づけの調整スタイルの類型化とその特徴」ポスター (一般): 日本教育心理学会第 62 回総会 2020 年 9 月

「高大接続改革における主要政策に関する高校側の意見 (速報) —大学入学共通テストにおける政策転換を受けて—」ポスター (一般): 日本教育心理学会第 62 回総会 2020 年 9 月

「「大学入試学」の実践と成果—エビデンスに基づく東北大学の入試改革—」シンポジウム・ワークショップ・パネル (指名): 第 32 回東北大学高等教育フォーラム 大学入試を設計する—「大学入試研究」の必要性和その役割— 2020 年 9 月

「高大接続と大学入試改革」その他: 東北大学 PD セミナー 2020 年 10 月

「Exploring outcomes of outdoor orientation programs: Comparison between the United States and Japan」口頭 (一般): 2020 Symposium on Experiential Education Research 2020 年 11 月

【総説・解説記事】

(単著)「アセスメント」『指導と評価』 66 巻 4 月号 21-24 2020 年 4 月

(単著)「標準学力検査—NRT と CRT—」『指導と評価』 66 巻 7 月号 8-10 2020 年 7 月

(単著)「ICT を活用したオンライン教育について、思うこと／考えること」『指導と評価』 67 巻 1 月号 4-5 2021 年 1 月

【科学研究費補助金獲得実績 (文科省・学振)】

基盤研究(A) 高大接続改革の下での新しい選抜方法に対する教育測定論・認知科学・比較教育学的評価 2016 年 4 月～2021 年 3 月 分担者

挑戦的研究 (開拓) 「大学入試学」基盤形成への挑戦—真正な評価と実施可能性の両立に向けて— 2019 年 4 月～2023 年 3 月 分担者

基盤研究(C) 中年期における自己充実的達成動機と精神的健康との関連に関する研究 2020 年 4 月～2023 年 3 月 分担者

基盤研究(C) 書字基礎データ採取のための調査研究 2020 年 4 月～2023 年 3 月 分担者

基盤研究(B) 芸術統合型学習を通じた美術教育の再定義—横断的実践調査及び質問紙法による学力分析 2020 年 4 月～2024 年 3 月 分担者

【その他の競争的資金獲得実績】

(その他受託研究費 NEDO 戦略的イノベーション創造プログラム) 高精度教育ビッグデータをベースとして教育支援の公教育への導入推進 2019 年 4 月～2021 年 3 月

【学術関係受賞】

優秀論文賞 授与機関: 日本野外教育学会 2020 年 7 月

【学内活動】

全学委員会 入試企画・広報委員会委員 2016 年 4 月～

全学委員会 入試実施委員会委員 2016 年 5 月～

全学委員会 入学試験実施本部総括部電算集計班長(副) 2017 年 4 月～

全学委員会 広報戦略推進室員 2018 年 4 月～

全学委員会 入試企画・広報委員会情報開示 WG 座長 2019 年 4 月～2021 年 3 月

全学委員会 入試企画・広報委員会広報WG オンライン作業部会座長 2020年4月～2021年3月

全学委員会 入試企画・広報委員会広報WG 座長 2020年4月～

部局内委員会 工学部入試検討委員会委員 2016年4月～

部局内委員会 施設整備委員会委員 2018年4月～

その他の主要活動 令和3年度大学入学共通テスト試験（第1日程、第2日程）実施本部員 2021年1月～2021年1月

その他の主要活動 令和3年度一般選抜（前期日程）入学試験実施本部員 2021年2月～2021年2月

その他の主要活動 令和3年度一般選抜（後期日程）入学試験実施本部員 2021年3月～2021年3月

その他の主要活動 令和3年度私費外国人留学生入試実施本部員 2021年3月～2021年3月

【学内教職員支援】

令和2年度入試センター教員対象FDの講師を担当し、東北大学高等教育フォーラム（第3回）、入試研究（第9回）、東北大学の入試広報戦略（第10回）について解説した。（講師）

文学部の令和3年度AOⅡ期面接試験FDの講師を担当し、出願状況、令和2年度の第2次選考の分析結果、大学入試の諸原則、面接試験のポイント、面接員の心得、評価方法の工夫について解説した。（講師）

文学部の令和3年度AOⅢ期面接試験FDの講師を担当し、出願状況、令和2年度の第2次選考の分析結果、面接試験のポイント、面接員の心得について解説した。（講師）

【学会活動および外部機関における活動】

国立教育政策研究所 国際数学・理科教育動向調査(TIMMS)国内専門委員 2017年2月～

日本テスト学会 理事 2017年8月～

日本テスト学会 編集出版委員 2017年8月～

日本教育心理学会 「教育心理学研究」編集委員 2019年1月～

【会議の主催・運営】

（国内会議・運営）第32回東北大学高等教育フォーラム 2020年9月23日

【学外の社会活動】

オンライン入試説明会北関東セッション①

オンライン入試説明会南関東セッション①

オンライン入試説明会北信越セッション①

オンライン入試説明会南関東セッション②

オンライン入試説明会東海セッション②

オンライン入試説明会南関東セッション③

オンライン入試説明会宮城セッション③

オンライン入試説明会北関東セッション③

オンライン入試説明会東海セッション③

オンライン入試説明会南関東セッション④

オンライン入試説明会宮城セッション④

オンライン入試説明会宮城セッション⑤

オンライン入試説明会全国セッション⑥

オンライン入試説明会宮城セッション⑥

オンライン入試説明会全国セッション⑦

私立茨城高等学校主催「大学入試説明会」

夢ナビライブ（仙台、オンライン）

山口県立下関南高等学校主催「2学年進路講演会・東北大学説明会」

東北大学オンライン進学説明会

東北大学オンライン進学相談会

宮城県進路指導研究会進学部会情報交換連絡会

【行政機関・企業・NPO等参加】

株式会社 図書文化社 「指導と評価」編集委員 2016年4月～

一般財団法人 応用教育研究所 理事 2017年11月～

一般財団法人 日本図書文化協会 理事 2019年11月～

【その他】

入試センター内に設置されたオンライン広報作業部会の責任者となり、オンライン入試説明会（高校教員向け）、オンライン進学説明会・相談会（高校生・受験生向け）、オンラインオープンキャンパスの企画・運営において中心的な役割を果たした。

樫田 豪利（特任教授）

〔専門分野〕

高等学校理科教育（化学）

機器を活用した授業設計

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

大学院教育 教育情報応用論概論 ゲスト講師（2回）

〔論文〕

（共著）「オンラインによる高校教員向け入試説明会の実践と評価」 『大学入試研究ジャーナル』 31号 394-400 2021年3月

〔著書〕

（単著）『思考力が身につく化学実験問題3 1』 駿台文庫 2021年3月

〔総説・解説記事〕

（共著）「オンラインによる入試広報の展開・オンライン進学説明会・相談会」の実践を通して」 『東北大学 高度教養教育・学生支援機構 紀要』 7号 57-65 2021年3月

（単著）「学校訪問データベースの制作と活用・戦略的な広報活動を目指して」 『東北大学 高度教養教育・学生支援機構 紀要』 7号 291-297 2021年3月

〔兼務、兼業など〕

学外（株）駿台文庫 著者 2009年4月～

〔学外の社会活動〕

オンライン入試説明会全国対象のセッション

オンライン入試説明会北関東セッション

オンライン入試説明会近畿地区セッション

オンライン入試説明会北信越セッション

オンライン入試説明会北関東セッション

オンライン入試説明会北関東セッション

オンライン入試説明会北信越セッション

オンライン入試説明会近畿地区セッション

オンライン入試説明会北関東セッション

山東探求塾Ⅱ課題研究発表会（山形東高等学校）指導・助言者

山形県立山形東高校訪問，生徒へのガイダンス

夢ナビライブ（仙台）

夢ナビライブ（東京）

山東探求塾Ⅱ課題研究中間発表会（山形東高等学校）指導・助言者・審査委員

山東探求塾Ⅱ課題研究成果発表会（山形東高等学校）指導・助言者・審査委員

〔入試センター業務〕

1) 広報活動：入試説明会（5回），進学説明会（4回），学校訪問（10校），大学説明会（2回）

2) 協議会等参加：全国大学入学者選抜研究連絡協議会（発表）など4回

3) フォーラムの運営

4) 入試企画広報委員会および同WGへオブザーバーとして出席

5) 工学部入試検討委員会および第2小委員会へオブザーバーとして出席

6) 高大接続に関わる種々の取り組みについて，情報の収集と分析

〔高等学校等への協力〕

7) 高等学校1年生を対象とした進学オリエンテーションにて講師として参加（1件）

8) 東北大学進学志望者への大学紹介（5件）

秦野 進一（特任教授）

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

大学院教育 教育情報学応用論概論 後期

〔論文〕

（共著）「大学入試英語問題における設問形式による識別力比較—英文和訳・和文英訳は大学入試で選別機能を果たしているか—」 『令和2年度全国大学入学者選抜研究連絡協議会第15回大会研究発表予稿集（クローズドセッション用）』 27-32 2020年8月

（共著）「大学入試英語問題における設問形式による識別力比較—英文和訳・和文英訳は大学入試で選別機能を果たしているか—」 『大学入試研究ジャーナル』 31巻 140-145 2021年3月

〔会議の主催・運営〕

（国内会議運営）第32回東北大学高等教育フォーラム 大学入試を設計する—「大学入試研究」の必要性とその役割 2020年9月23日

〔学外の社会活動〕

夢ナビライブ 2020・仙台（オンライン）
夢ナビライブ 2020・仙台（オンライン）
高校訪問・オンライン情報交換会（東京都立戸山高校）
夢ナビライブ 2020・東京（オンライン）
宮城県進路指導研究会進学部会情報交換連絡会

末永 仁（特任教授）

〔専門分野〕

教科教育学

〔学外の社会活動〕

オンライン入試説明会
川口市立高等学校国公立大学合同説明会（オンラインで実施）
夢ナビライブ 2020・仙台（オンライン）
東北大学オンライン進学相談会
宮城県進路指導研究会進学部会情報交換連絡会

〔その他〕

入研協への出席

久保 沙織（准教授）

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 教育情報学応用論概論 後期
他大学 社会調査法 後期集中

〔その他教育上に関する活動〕

（その他）倉元直樹教授の指導する大学院生への指導補助（参考文献の紹介，研究方法に関する提案，分析結果の解釈や論文執筆に関する助言等）

〔論文〕

（共著）「“Marginal age” among seniors living in rural Japan: An analysis of factors related to changes in life expectancy and quality of life among seniors living in an underpopulated area of Japan」『日本健康医学会雑誌』 29 巻 2 号 163-177 2020 年 7 月
（共著）「東北大学における入試広報活動の「これまで」と「これから」—頂点への軌跡からオンライン展開への挑戦へ—」『教育情報学研究』 19 号 55-69 2020 年 12 月
（共著）「オンラインによる高校教員向け入試説明会の実践と評価」『大学入試研究ジャーナル』 31 巻 394-400 2021 年 3 月
（共著）「オンラインによる入試広報の展開 —「オンライン進学説明会・相談会」の実践を通して—」『東北大学 高度教養教育・学生支援機構紀要』 7 号 57-65 2021 年 3 月

〔会議の発表・講演〕

「金融リテラシー教育が主観的割引率及びリスク選好に与える影響について」 口頭（一般）：しごと能力研究学会第 13 回全国大会 2020 年 11 月

〔共同研究活動〕

過疎地在住高齢者の余命，QOL，認知症リスクに影響を与える要因について 国内 2014 年 4 月～
金融リテラシー教育の効果測定 国内 2017 年 9 月～
アルコール使用障害に関連する要因の探索的抽出 国内 2021 年 1 月～

〔科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）〕

基盤研究(A) 高大接続改革の下での新しい選抜方法に対する教育測定論・認知科学・比較教育学的評価 2016 年 4 月～2021 年 3 月 分担者
基盤研究(C) 相関係数の異常な挙動の解明とそれに対する対処 2018 年 4 月～2022 年 3 月 分担者
基盤研究(C) 超高齢社会を支える卒前からの四肢脊柱診察教育プログラムの開発と評価 2018 年 4 月～2022 年 3 月 分担者
基盤研究(C) 筆記試験、実技試験、業務基盤型評価を合否判定に組み込むための信頼性検証 2019 年 4 月～2022 年 3 月 分担者
挑戦的研究（開拓） 「大学入試学」基盤形成への挑戦—真正な評価と実施可能性の両立に向けて— 2019 年 6 月～2023 年 3 月 分担者

〔学内活動〕

全学委員会 入試企画・広報委員会委員 2020 年 4 月～
全学委員会 入試実施委員会委員 2020 年 4 月～
部局内委員会 工学部入試検討委員会専門協力者 2020 年 4 月～
その他の主要活動 オンライン広報作業部会 2020 年 4 月～2021 年 3 月
その他の主要活動 入試企画・広報委員会情報開示 WG 2020 年 4 月～2021 年 3 月
その他の主要活動 入試企画・広報委員会広報 WG 2020 年 4 月～2021 年 3 月
その他の主要活動 入試企画・広報委員会入試改革対応拡大 WG 2020 年 4 月～2021 年 3 月
その他の主要活動 令和 3 年度大学入学共通テスト第 1 日程・第 2 日程 試験実施本部員 2021 年 1 月～2021 年 1 月

その他の主要活動 令和3年度一般選抜前期日程 試験実施本部員 2021年2月～2021年2月

その他の主要活動 令和3年度一般選抜後期日程 試験実施本部員 2021年3月～2021年3月

その他の主要活動 令和3年度私費外国人留学生入試試験監督 2021年3月～2021年3月

〔学内教職員支援〕

令和2年度入試センター教員対象FDの一部において講師を担当「共分散比と相関比の理解と解釈」(講師)

理学系研究科, 情報科学研究科, 高度教養教育・学生支援機構が共同で主催しているFD「第6回非公開教員研修『よりよい入学試験の数学2020』」にオブザーバーとして参加(その他)

教育FDとして認定されている第32回東北大学高等教育フォーラムの事務局を担当(FD/SDの企画・運営)

農学部主催のFD「AO入試の面接の質向上について」にオブザーバーとして参加(その他)

文学部主催のAO入試Ⅱ期第2次選考面接担当教員対象のFDにオブザーバーとして参加(その他)

医学部保健学科主催のFD・SD「第6回東北大学医学部保健学科入試セミナー」にオブザーバーとして参加(その他)

歯学部主催のAO入試Ⅲ期第2次選考面接担当教員対象のFDにオブザーバーとして参加(その他)

文学部主催のAO入試Ⅲ期第2次選考面接担当教員対象のFDにオブザーバーとして参加(その他)

歯学部主催の一般選抜前期日程面接担当教員対象のFDにオブザーバーとして参加(その他)

〔学会活動および外部機関における活動〕

公益社団法人日本人事試験研究センター 試験専門委員(心理) 2018年4月～

日本行動計量学会 広報委員会委員(会報作成担当) 2019年4月～2021年3月

公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構 試験信頼性向上検討委員会委員 2020年4月～

日本教育心理学会 機関誌『教育心理学研究』常任編集委員会 2021年1月～2023年12月

〔会議の主催・運営〕

(国内会議運営) 第32回東北大学高等教育フォーラム「大学入試を設計するー『大学入試研究』の必要性とその役割ー」 2020年9月23日

〔学外の社会活動〕

高校個別訪問(秋田県立秋田高等学校)

高校個別訪問(秋田県立秋田北高等学校)

高校個別訪問(秋田県立秋田南高等学校)

高校個別訪問(岩手県立盛岡第一高等学校)

東北大学オンライン入試説明会

高校個別訪問(山形県立米沢興譲館高等学校)

夢ナビライブ仙台会場(オンライン)

大学説明会(須磨学園高等学校・オンライン)

高校個別訪問(青森県立青森高等学校)

高校個別訪問(青森県立弘前高等学校)

令和2年度「大学個別進学相談会」(北海道函館中部高等学校)

夢ナビライブ東京会場(オンライン)

高校個別訪問(青森県立八戸高等学校)

高校個別訪問(青森県立八戸北高等学校)

東北大学オンライン進学説明会・相談会

宮城県進路指導研究会進学部会情報交換連絡会

〔研究活動〕

令和2(2020)年4月に本学に着任し, 2019年7月2日～2020年7月1日に新規採用となった本学を本務とする女性教員を対象とした2020年度TUMUG支援事業(男女共同参画・女性研究者支援事業)「スタートアップ研究費」に「入試問題の作題支援に資する統計指標の選択と検証」という研究テーマで応募し, 採択された(支援金額400,000円)。

〔大学運営・支援及び医療業務〕

表記統一を目的とした入学者選抜要項の記載事項点検

〔社会貢献〕

『心理学研究』の査読1件, 『行動計量学』の査読2本, 『教育心理学研究』の査読1本

北原 良夫(教授)

〔専門分野〕

ヨーロッパ語系文学

言語学

教育学

〔担当授業科目(他大学も含む)〕

全学教育 英語C1-1/2 3セメスタ

全学教育 英語 A2-1/2 2セメスタ
全学教育 英語 B2-1/2 2セメスタ
全学教育 英語 C2-1/2 4セメスタ
大学院教育 応用言語研究総合演習 A 前期
大学院教育 応用言語研究特別演習 A 前期
大学院教育 応用言語研究特別研究 A 前期
大学院教育 応用言語研究特別講義 A 前期
大学院教育 言語データ解析論 II 後期
大学院教育 応用言語研究総合演習 B 後期
大学院教育 応用言語研究特別演習 B 後期
大学院教育 応用言語研究特別研究 B 後期
大学院教育 応用言語研究特別講義 B 後期

〔学位論文指導・審査〕

修士 1 名 (副査 1 名)

〔その他教育上に関する活動〕

(その他) 英語教科部会会長の任期は 2020 年 3 月で終了したが、コロナ禍による影響やカリキュラム改革がひき続き進行していることなどもあり、2020 年度の部会長及び時間割係の業務、及び、言語・文化教育センターにおける関連業務 (カリキュラム策定や教材の準備、FD の開催、など) について、助言したり、作業に協力したりなどした。

〔著書〕

"部分校閲 (A1.1 Word Pairs, A1.2 Synonym Vocabulary 他、全 20 節中 6 節分) "『Pathways to Academic English 2021』東北大学出版会 2021 年 3 月

〔共同研究活動〕

高等教育 (カリキュラム, FD 等) に関する研究 国内 2004 年 4 月～
大学院教員の職能開発に関する研究 国内 2007 年 4 月～
疾病予防活動に有益な情報提供に関する意識調査 国内 2010 年 4 月～

〔学内活動〕

全学委員会 学務審議会外国語委員会委員 2020 年 4 月～2021 年 3 月
全学委員会 学務審議会全学教育改革対応委員会新しい全学教育のカリキュラムに関する英語委員会準備部会会長 2020 年 12 月～
部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構人事委員会委員 2020 年 4 月～2021 年 3 月
部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構紀要・出版委員会副委員長 2020 年 4 月～2021 年 3 月
部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構教育内容開発部門言語・文化教育開発室フランス語講師選考委員会委員 2020 年 9 月～2020 年 12 月
部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構教育内容開発部門言語・文化教育開発室講師任期更新審査委員会委員 2020 年 9 月～
部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構教育内容開発部門言語・文化教育開発室日本語教授選考委員会委員 2020 年 10 月～2021 年 2 月
部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構教育内容開発部門言語・文化教育開発室英語講師選考委員会委員 2021 年 1 月～
部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構教育内容開発部門言語・文化教育開発室中国語講師選考委員会委員 2021 年 2 月～
部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構教育内容開発部門言語・文化教育開発室講師昇任選考委員会委員 2021 年 2 月～
その他の主要活動 高度教養教育・学生支援機構教育内容開発部門言語・文化教育開発室室長 2020 年 4 月～2021 年 3 月
その他の主要活動 高度教養教育・学生支援機構言語・文化教育センター副センター長 2020 年 4 月～2021 年 3 月
その他の主要活動 高度教養教育・学生支援機構大学教育支援センタープログラム開発研究員 2020 年 4 月～2021 年 3 月
専攻内委員会 高度教養教育・学生支援機構言語・文化教育センター運営会議メンバー 2020 年 4 月～2021 年 3 月

〔学内教職員支援〕

東北大学全学教育教員研修実施委員 (FD/S D の企画・運営)
『言語・文化教育センターFD』 (FD/S D の企画・運営)

〔プロジェクト活動〕

国際連携を活用した世界水準の大学教員養成プログラム (PFFP) 開発
言語教育高度専門家養成カリキュラム開発

〔会議の主催・運営〕

(国内会議主催) 言語・文化教育センターFD 2021 年 2 月 8 日

菅谷 奈津恵 (教授)

〔専門分野〕

日本語教育

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 Basic Japanese 2 3セメスタ

全学教育 日本語Ⅰ 1セメスタ
全学教育 Basic Japanese 1 2セメスタ
全学教育 日本語F 2セメスタ
全学教育 日本語J 2セメスタ
大学院教育 第二言語教授法Ⅱ MC 1年1学期
大学院教育 応用言語研究特別講義A DC 1年1学期
大学院教育 応用言語研究総合演習A MC 1年1学期
大学院教育 研究のための日本語スキル MC 1年1学期
大学院教育 応用言語研究特別講義B DC 1年2学期
大学院教育 応用言語研究総合演習B MC 1年2学期

〔学位論文指導・審査〕

修士1名(副査1名)

〔指導大学院生・学部生の発表件数〕

2020年度 大学院学生(博士課程後期3年の課程) 論文発表件数:2件

〔その他教育上に関する活動〕

(教科書・教材の開発)"日本語教材を作成し、ウェブサイト「Tohoku-JP」にて公開している。 <https://sites.google.com/view/tohoku-jp>"

(教科書・教材の開発)"ブログ「Tohoku-JP」にて、日本語授業の関連情報や留学生の文章を公開している。 <https://tohoku.jp.blogspot.com/>"

(その他) 東北大学日本語教育プログラム(JLPK)受講生を対象としたニーズ調査質問票を開発し、オンラインにて実施をした。

〔論文〕

(単著)「中国人日本語学習者による「名詞+動詞」慣用句の習得—タスク関与と負荷と想起回数の効果の比較を中心に—」『第二言語としての日本語の習得研究』23号 62-79 2020年12月

(単著)「大学院科目におけるライティング指導の試み: ブックレポートの引用を中心に」『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』7号 299-308 2021年3月

〔会議の発表・講演〕

「統合タスクにおける読解ノートと口頭報告の関係: 学部留学生2名の事例から」ポスター(一般): 第31回第二言語習得研究会(JASLA)全国大会 2020年12月

〔科学研究費補助金獲得実績(文科省・学振)〕

基盤研究(C) 言語習得の観点から見た表現の借用と適切な引用 2018年4月～2022年3月 代表者

基盤研究(B) 日本語教師養成・研修におけるライティング教育実践能力の育成: 批判的思考を中心に 2018年4月～2022年3月 分担者

〔学内活動〕

全学委員会 学務審議会委員 2018年4月～

全学委員会 全学教育基幹科目委員会委員 2018年4月～

全学委員会 全学教育人文科学委員会委員 2018年4月～

全学委員会 全学教育基礎ゼミ委員会委員 2018年4月～

全学委員会 学務審議会外国語委員会委員 2020年4月～

部局内委員会 総務委員会委員 2016年4月～

部局内委員会 言語・文化教育センター運営委員 2018年4月～

部局内委員会 教務小委員会委員長 2020年4月～2021年3月

部局内委員会 言語・文化教育センター副センター長 2020年4月～

部局内委員会 人事委員会委員 2020年4月～

その他の主要活動 東北大学附属図書館学習支援委員会委員 2016年4月～

その他の主要活動 既修得単位認定等のための審査委員 2019年4月～

〔学会活動および外部機関における活動〕

第2言語習得研究会(関東) 運営委員 2011年4月～

日本語教育学会 日本語教育学会 審査・運営協力員 2020年6月～

吉本 啓(教授)

〔専門分野〕

コンピュータ言語学

言語学・音声学

日本語文法

〔担当授業科目(他大学も含む)〕

全学教育 日本語C 1セメスタ

全学教育 日本語G 1セメスタ

全学教育 日本語 A 1 セメスタ
全学教育 Basic Japanese 2 3 セメスタ
全学教育 日本語 D 2 セメスタ
全学教育 日本語 B 2 セメスタ
全学教育 日本語 H 2 セメスタ
全学教育 Basic Japanese 1 2 セメスタ
大学院教育 意味論 II 1 セメスタ
大学院教育 応用言語研究総合演習 A 1 セメスタ
大学院教育 応用言語研究総合演習 B 2 セメスタ

〔論文〕

〔共著〕「統語・意味解析情報付き日本語コーパスの構築」『KLS Selected Papers 2: Selected Papers from the 44th Meeting of The Kansai Linguistic Society』2 巻 196-211 2020 年 6 月

〔著書〕

Evidentials and Modals BRILL 2020, pp.534-546.

〔科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）〕

基盤研究(C) 日本語ツリーバンク文法情報の精緻化 2019 年 4 月～2022 年 3 月 代表者

〔学内活動〕

全学委員会 学務審議会外国語委員会専門委員（日本語）2005 年 4 月～
全学委員会 学術資源研究公開センター運営専門委員会委員 2010 年 4 月～
その他の主要活動 国際文化研究科異文化間教育論講座 講座代表 2005 年 4 月～

〔プロジェクト活動〕

統語・意味解析コーパスの開発と言語学研究

〔国際交流実績〕

ドイツ ザールラント大学 1999 年度に国際文化研究科の連絡調整責任者として大学間協定を締結したが、2004 年度に期限切れとなったのにも
ない、大学間協定を更新した。2004 年 12 月～

〔学会活動および外部機関における活動〕

"Pacific Asia Conference on Language, Information and Computation" プログラム委員 2002 年 4 月～
人工知能学会国際ワークショップ Logic and Engineering of Natural Language Semantics Organizing Committee member 2004 年 4 月～
人工知能学会国際シンポジウム (JSAD) 企画委員会 委員 2009 年 2 月～
"Pacific Asia Conference on Language, Information and Computation" 運営委員 2012 年 10 月～
国立国語研究所共同研究プロジェクト「統語・意味解析コーパスの開発と言語研究」サブリーダー 2016 年 4 月～

〔兼務、兼業など〕

学内 大学院国際文化研究科 教授 1997 年 4 月～
学外 国立国語研究所 客員教員 2016 年 4 月～2022 年 3 月

〔学外の社会活動〕

統語・意味解析コーパス (NPCMJ) チュートリアル

上原 聡 (教授)

〔専門分野〕

認知言語学・言語類型論
談話分析・対照言語学
日本語教育

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 〔国際教育科目〕日本文化・社会 A「日本語の文法を外から見て考える—国際共修ゼミ—」1 セメスタ
全学教育 〔展開ゼミ〕カレントトピックス「歌に学ぶ日本の言葉と心—国際共修ゼミ—」2 セメスタ
大学院教育 認知言語学 I MC 1 年前期
大学院教育 言語科学研究特別研究 A DC 1 年前期
大学院教育 言語科学特別講義前期 DC 1 年 1 学期
大学院教育 言語科学演習 A 前期
大学院教育 言語科学演習前期 前期
大学院教育 言語科学特別講義後期 DC 1 年 2 学期
大学院教育 言語科学演習後期 後期
大学院教育 言語科学特別演習 B DC 1 年 2 学期
大学院教育 言語科学特別講義 B DC 1 年 2 学期

その他 特別課程日本語前期・初中級日本語読解 R300 前期
その他 特別課程日本語前期・中級日本語読解 R400 前期
その他 中上級日本語共修ゼミ(JS500): 歌に学ぶ日本の言葉と心 後期
その他 特別課程日本語後期・初中級日本語読解 R300 後期
その他 特別課程日本語後期・中級日本語読解 R400 後期

〔学位論文指導・審査〕

博士 1 名(主査 1 名)、修士 5 名(主査 3 名、副査 2 名)

〔指導大学院生・学部生の発表件数〕

2020 年度 大学院学生(博士課程後期 3 年の課程) 口頭発表件数:4 件 論文発表件数:4 件 学会発表件数:3 件

〔教育活動に関する受賞(指導大学院生・学部生の受賞を含む)〕

"Glass House Poetry Awards 2020, 2nd Prize": Art Mantram 2020 年 7 月 26 日

2021 Editorial Residents・The Seventh Wave: The Seventh Wave 2021 年 2 月 1 日

〔その他教育上に関する活動〕

(その他) 大学院国際文化研究科 国際言語総合科学コース

(その他) 日本学国際共同大学院(GPJS)教育プログラム

〔論文〕

(共著)「日本と東アジアの言語の特徴としての代名詞省略—主観的把握における異同とその周辺—」『政大日本研究』18 巻 219-251 2021 年 1 月

(共著)「Verbal Complexes in Thai」『VERB-VERB COMPLEXES IN ASIAN LANGUAGES』499-520 2021 年 2 月

〔会議の発表・講演〕

「日本と東アジアの言語の特徴としての代名詞省略—主観的把握における異同とその周辺—」口頭(基調):台湾国際シンポジウム「東アジア漢字文化の伝承と革新」2020 年 10 月

〔共同研究活動〕

東アジア・東南アジアの言語を中心とした対照言語学的研究 研究相手先:タイ 国外 1999 年 12 月～

日本語教材リング 研究相手先:アメリカ合衆国 国外 2000 年 1 月～

中国語の方言内の社会言語学的対照研究 研究相手先:ニュージーランド 国外 2004 年 4 月～

台湾語の中の日本語 研究相手先:台湾 国外 2005 年 11 月～

〔学内活動〕

全学委員会 国際連携推進機構 運営委員会 日本語研修教育専門委員会委員 2020 年 4 月～2021 年 3 月

全学委員会 国際連携推進機構 運営委員会 日本語研修教育実施委員会 委員長 2020 年 4 月～2021 年 3 月

全学委員会 国際連携推進機構 運営委員会 日本語・日本文化研修プログラム実施委員会 委員長 2020 年 4 月～2021 年 3 月

全学委員会 国際連携推進機構 運営委員会 教育国際交流専門委員会 自然科学系学生交流実施委員会委員 2020 年 4 月～2021 年 3 月

部局内委員会 言語・文化教育センター運営会議委員 2020 年 4 月～2021 年 3 月

専攻内委員会 日本語プログラム HP 広報委員長 2006 年 4 月～

〔教育相談〕

のべ相談人数 30 名、のべ相談回数 35 回

〔国際交流実績〕

ニュージーランド オークランド大学 共同研究 2005 年 12 月～

タイ チュラロンコーン大学 共同研究 2010 年 8 月～

台湾 国立政治大学 2020 年度政治大学日本語文学科国際シンポジウム『東アジア漢字文化の伝承と創造』での基調講演者として、オンライン参加した。2020 年 10 月

〔学会活動および外部機関における活動〕

International Cognitive Linguistics Association reviewer 2004 年 1 月～

社会言語科学会 査読委員 2004 年 10 月～

Cognitive Linguistics Association of Britain reviewer 2006 年 1 月～

"Faculty of Arts, Chulalongkorn University" Member of the Editorial Board for Journal of Letters 2011 年 10 月～

日本認知言語学会 査読委員 2013 年 4 月～

Journal of Japanese Linguistics reviewer 2014 年 8 月～

〔兼務、兼業など〕

学内 大学院国際文化研究科 教授 2004 年 4 月～

〔学外の社会活動〕

日本語教材ウェブリング

〔教育活動〕

学位論文指導・審査:博士 4 名(主査 1 名)、修士 5 名(主査 3 名、副査 2 名)、研究生 2 名[修士 1 名の日本人学生を除き他は全て留学生、留学生のうち 3 名は文部科学省大使館推薦国費留学生、1 名は岡崎記念財団奨学生]

教育支援活動/留学生等受け入れ：大学院担当講座受入：留学生20名、専門研究員1名、GSICSフェロー2名

その他：国際言語総合科学大学院コース（国際文化研究科英語コース）参画・授業実施・学生受入、東北大学 日本学国際共同大学院参画・授業実施

〔大学運営・支援〕

大学運営：日本語研修教育実施委員会委員長・日本語日本文化研修プログラム実施委員会委員長

各種支援活動：言語・文化教育センター日本語教育セクション HP 情報ネットワークの維持管理

履修相談に対する対応：日本語教育プログラム・理系短プロ（JYPE/COLABS 日本語プログラムにおける学生支援（全学の留学生の日本語履修上の問題や相談に対する対応）

センター業務：理系短プロ日本語プログラムコーディネーター・日本語教育プログラム副コーディネーター（カリキュラム編成およびクラス編成などの運営業務）

〔社会活動〕

社会教育活動：Journal of Letters（タイ王国チュラロンコーン大学文学部発行）編集委員

橘 由加（教授）

〔専門分野〕

英語教育、カリキュラム・教授法開発、CALL、高等教育論、日米比較文化論

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 "英語 B1,B2" 通年

全学教育 "英語 C1,C2" 通年

全学教育 "英語 A1,A2, B1,B2,C1,C2" 通年

大学院教育 アカデミック・ライティング 前期

大学院教育 アカデミックライティング 前期

〔その他教育上に関する活動〕

（教育方針の実践例）"自己開発 On-line 教材 LincEnglish を授業のメイン教材とし、毎週 179 問の予習を義務付け QA 方式により Listening 力、速読力の向上を目指す。また自主制作による www.yukamedia.com を副教材として Reading 力と Writing 力の更なる向上を図る。この教材では、辞書に頼らずに動画ニュースや TED などのプレゼンテーションをスピーディーに音声を通じて読み進めるための新しい教授法で指導、英文のスク립トや質問文なども準備。シラバス及び模擬授業公開。毎学期全学 1, 2 年レベル 450 名以上の学生に英語実践演習（CALL 演習）を指導。"

（教科書・教材の開発）"On-line 動画ニュース、TED などの教材化（www.yukamedia.com）。CNN, NYT, TED や Podcast で配信されているニュースや動画を CALL テキスト用に編集し、スク립トや質問文を作成。1, 2 年生から大学院レベルのクラスで活用。Internet から流れる authentic な英語はテキスト用英語からは得られない臨場感とスピードを持つ。このような英語に慣れさせることを英語学習の一つの目的とする。"

（教科書・教材の開発）"On-line 教材 LincEnglish の開発と改善(tohoku.lincenglish.com)および「オンライン英語学習用テキスト LincEnglish Bronze~Platinum レベル」のテキストの監修（大学教育出版）。モンタナ大学、ワシントン大学、サンフランシスコ州立大学の外国語教授法、英語学、コンピュータサイエンスの専門家及び IT 関連のインベスターらと WG を 2003 年に結成。取得外部資金額 4500 万、プロジェクト期間 5 年で日本人向けの英語学習オンライン教材を開発。デジタルコンテンツの総合ページ数は A4 版で 24,000 頁以上、演習問題数 36,000、音声ファイル CD230 以上の膨大なコンテンツ量。学校内外からアクセスができ、Windows, Mac, iPad, Android, Kindle あらゆる PC, デバイスに対応。2008 年秋から東北大学の CALL 演習クラスで導入、本学では毎年 1500 名以上の学生がこのカリキュラムで学習。東北大学、大阪大学、筑波大学他、20 以上の中・高校で英語カリキュラムの教科として導入されている。東北大学英語教科部会、私学高等学校英語研究会、東北大学工学研究科次世代航空機研究センターおよび流体科学研究所 GOEC セミナー、高等教育開発推進センター主催の高大連携セミナーにおいて、CALL 教材を活用した授業、LincEnglish 教授法のワークショップを行う。"

（教科書・教材の開発）On-line 教材 LincEnglish は Listening、速読教材であるが、Reading/Writing 用として有効活用できるパートも大量に含んでいる。語彙確認、文章理解、作文練習のために「説明文問題」と「読解文問題」の概要と質問文を作成しワークブックとして編集して（On-line 上にアップ）授業で活用。

（教科書・教材の開発）"教育活動：全学、学部、大学院レベルで指導できる、オンライン英語学習教材 Presentation Course 開発（東北大学用の URL：tohoku1.lincenglish.com）。自己開発（主幹）On-line 教材 LincEnglish を授業のメイン教材とし、毎週 179 問の予習を義務付け QA 方式により Listening 力、速読力の向上を目指す。また自主制作による www.yukameida.com を副教材として Reading 力と Writing 力の更なる向上も図る。この教材では、辞書に頼らずに動画ニュースや TED などのプレゼンテーションをスピーディーに音声を通じて読み進めるための教授法で指導、英文のスク립トや質問文なども準備。高校や他校の教員にシラバス及び模擬授業公開。"

（教育方針の実践例）大学院教育：情報科学研究科において前期：博士課程の学生にアカデミック・ライティング論文指導、後期：修士の学生に英語コミュニケーションの講義担当

（その他）受託研究「バナソニック教育ソリューション」との共同研究（産学連携プロジェクト）中・高等学校に通じた英語教育全体の抜本的充実をどのように図るか、また大学における英語教育をどのように改善していくのか、について産学連携で共同研究を行う。具体的には、1) 中・高等学校における指導体制強化 2) 指導用副教材の開発、3) 中・高教員養成指導、4) 外部人材の活用促進、5) 新たな英語教育の在り方実現のための体制設備、6) 中・高・大学における教育 IT ソリューションとの連携、などについて調査・研究を行い、新たな英語教育改革実施計画の推進をはかる。

（教科書・教材の開発）"Authentic Media を利用した内容重視の On-line 英語教材の開発。 www.authenticmedia.org"

(教育方針の実践例) ICT を活用した授業実践例について、全国公私立中高役職者、大学英語担当教員対象に FD を行った。

〔共同研究活動〕

グローバル化に対応した英語教育改革実施計画 国内 2013 年 4 月～

高大 5 年間で伸ばす英語運用能力 聖徳学園高等学校、宮城学院高校 国内 2014 年 4 月～

〔科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）〕

(挑戦的)萌芽研究 理工系のための学術論文・プレゼンテーションスキル向上のためのオンライン教材開発 2013 年 4 月～ 代表者

〔その他の競争的資金獲得実績〕

(その他寄附金) 聴解力、速読力をつけるためのオンライン英語学習教材の開発 2004 年 4 月～

〔学内活動〕

全学委員会 高度教養教育・学生支援機構 紀要編集委員 2013 年 4 月～

部局内委員会 言語・文化教育センター運営委員 2014 年 4 月～

部局内委員会 グローバル人材育成推進事業実施委員 2014 年 4 月～

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構 紀要編集委員 2014 年 4 月～

部局内委員会 学務審議会委員 2014 年 4 月～

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構 人事委員会委員 2015 年 4 月～

その他の主要活動 大学教育支援センター(PFFP)プログラム開発・交渉委員 2010 年 4 月～

その他の主要活動 工学教育院、国際交流室における連携支援(留学学生相談委員) 2010 年 4 月～

〔プロジェクト活動〕

パナソニック教育ソリューションとの英語教材開発共同研究(産学連携プロジェクト)

〔国際交流実績〕

アメリカ合衆国 モンタナ大学マンスフィールドセンター 平成 28 年度から本学の学生、教員、職員対象にモンタナ大学にてグローバル人材育成短期留学プログラムを行う予定。 2014 年 9 月～

〔学会活動および外部機関における活動〕

外国語教育メディア学会 大会実行委員 2014 年 4 月～

日本教育工学協会「JAET」 学会開催委員 2015 年 4 月～

〔兼務、兼業など〕

学内 大学院情報科学研究科 2014 年 4 月～

学外 宮城学院中・高等学校 英語教育顧問 2015 年 4 月～

学外 "Linc Educational Resources, Inc" 顧問 2005 年 9 月～

学外 尚綱学院中・高等学校 英語教育カリキュラムアドバイザー 2015 年 4 月～

〔学外の社会活動〕

高・大連携で伸ばす英語運用能力

仙台市教育審議会語学教育推進アドバイザー

"E.S.S ディベート審査委員"

宮城学院中・高等学校 英語教育顧問

尚綱学院 英語教育カリキュラム改革

宮城県高等学校英語弁論大会

東北大学工学部・工学研究科事務局の「科学者の卵養成講座」

〔行政機関・企業・NPO等参加〕

仙台市 仙台市審議会 仙台市審議会委員(英語教育) 英語教育アドバイザー 2014 年 4 月～

佐藤 勢紀子(特任教授)

〔専門分野〕

日本語教育

日本思想史

日本文学

〔その他教育上に関する活動〕

(教育方針の実践例) 研究スキル養成の授業の論文作成指導において、受講学生の専門分野のサンプル論文を利用して各分野のライティングの特性をふまえた指導を行っている。

(教育方針の実践例) 日本語研修コースの授業において使用するための読解を中心とした初級文化教材の作成を行っている。

(教科書・教材の開発) 日本語学習者のための文語文読解 e-learning 教材を開発している。

〔共同研究活動〕

日本語学習者のための文語文読解教材の開発 国内 2013 年 4 月～

〔学内活動〕

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構研究倫理委員会副委員長 2014 年 4 月～

〔学会活動および外部機関における活動〕

(一般財団法人) 東北多文化アカデミー 理事 2010 年 4 月～

〔行政機関・企業・NPO等参加〕

(一般財団法人) 東北多文化アカデミー 理事 2010 年 4 月～

竹林 修一 (准教授)

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 英語 A1、英語 A2、英語 B1、英語 B2、英語 C1、英語 C2

全学教育 ポピュラー・カルチャー入門 (カレントトピックス) 後期

学部教育 学術英語 (医学部保健学科看護学専攻) 後期

〔論文〕

(共著) 「Giving Advice の指導：教科書記述と現実的言語使用の違いに着目する」 『言語・文化教育センター年報』 6 巻 1-6 2021 年 3 月

〔著書〕

『Pathways to Academic English 2021』 東北大学出版会 2021 年 3 月

〔学内活動〕

全学委員会 学務審議会指名委員 2018 年 4 月～

全学委員会 英語教育改革推進ワーキング・グループ 2018 年 11 月～2020 年 9 月

全学委員会 英語教育改革実施ワーキング・グループ 2020 年 12 月～

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構、言語・文化教育センター運営会議メンバー 2018 年 4 月～

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構、紀要・出版委員会 2018 年 4 月～

〔学内教職員支援〕

言語・文化教育センター新任教員のオリエンテーション研修 (その他)

コア・スキル相談会 (英語カリキュラム) (その他)

オンライン授業説明会 (英語教科部会) (FD/SDの企画・運営)

次年度全学英語カリキュラム説明会 (FD/SDの企画・運営)

〔学会活動および外部機関における活動〕

東北アメリカ研究会 幹事 2018 年 5 月～

〔行政機関・企業・NPO等参加〕

Toastmasters International コミュニケーションとリーダーシップの向上を図るための活動 2017 年 4 月～

〔報道〕

テレビ (出演・執筆) 「ダークサイドミステリー」 NHKBS 2020 年 8 月 13 日

桜井 静 (准教授)

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 英語 B1 1 セメスタ

全学教育 英語 C1 3 セメスタ

全学教育 英語 B2 2 セメスタ

全学教育 英語 C2 4 セメスタ

〔会議の発表・講演〕

「オンライン授業における英語発音練習の実践報告」 口頭 (一般)：大学英語教育学会 第 3 回ジョイントセミナー(2020)？ 第 47 回サマーセミナー&第 8 回英語教育セミナー 2021 年 3 月

〔学内教職員支援〕

新カリキュラムの英語コアスキル相談会 (英語スキルの説明と実践例や教材の説明) (6 月 4 回開催 令和 2 年度全学教育「英語 A・B」科目担当教員対象) (FD/SDの企画・運営)

"英語教科部会研修会 (「英語 A, B」のコアスキルに関して、オンライン授業で活用できる教材やテストの紹介) (令和 2 年度全学教育「英語」科目担当教員対象)" (FD/SDの企画・運営)

〔その他〕

1. 全学教育英語科目 (新カリキュラム) で使用する共通英語教材を他教員と共同で作成、オンライン化。英語マテリアル作成チームリーダーを務めた。
2. 英語科目 B2 の共通試験 (オンライン受験型) を他の教員と共同で作成した。
3. 東北大学オンライン授業グッドプラクティス (ウェブサイト内) で「英語 B1」の授業実践を紹介した。

Scura Vincent (准教授)

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 英語 A 通年

全学教育 英語 B 通年

全学教育 英語 C 通年

他大学 General 英語 通年

他大学 英語 Communication 通年

〔その他教育上に関する活動〕

(教科書・教材の開発) "Teaching Material Creation for Faculty (English A, B and C)"

〔著書〕

『Pathways to Academic English 2021』 2021 年 3 月

〔学内活動〕

全学委員会 University Entrance Examination Scoring Committee 2020 年 4 月～2021 年 3 月

部局内委員会 英語教育改革推進ワーキング・グループ 2020 年 4 月～2021 年 3 月

専攻内委員会 English Materials Workshop 2020 年 12 月～2020 年 12 月

〔学会活動および外部機関における活動〕

Academic FORA Session Chair 2016 年 4 月～

〔教育活動〕

(TOEFL Preparation) Introduced TOEFL test taking techniques resulting in demonstratively higher TOEFL scores via the new Unified English Curriculum

SPRING RYAN EDWARD (准教授)

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 英語 A1 前期

全学教育 英語 B1 前期

全学教育 英語 C1 前期

全学教育 Practical English Skills 1 前期

全学教育 Practical English Skills 2 後期

全学教育 英語 A2 後期

全学教育 英語 B2 後期

大学院教育 言語研究法 後期

他大学 英語 Aa 前期

他大学 英語コミュニケーション Ag 前期

他大学 英語コミュニケーション演習 A 前期

他大学 英語コミュニケーション演習 B 後期

他大学 英語コミュニケーション Bg 後期

他大学 英語 Ca 後期

〔その他教育上に関する活動〕

(教育方針の実践例) Pathways to Academic English 2021 編集長役

〔論文〕

(共著) 「A Comparative Study of Refusal Strategies among Chinese Learners of Japanese and English: Is there an L2 Centered Pragmatic Competence?」 『Tohoku Psychologica Folia』 78 号 1-18 2020 年 7 月

(単著) 「Can Video-creation Project Work Affect Students' Oral Proficiency? An Analysis of Fluency, Complexity and Accuracy.」 『TESL-EJ』 24 巻 2 号 1-17 2020 年 8 月

(共著) 「Incorporating project-based language learning into distance learning: Creating a homepage during computer-mediated learning sessions.」 『Language Teaching Research』 2020 年 11 月

(単著) 「Maximizing the benefits of video-creation PBL in the EFL classroom: A preliminary analysis of factors associated with improvement in oral proficiency.」 『STEM Journal』 21 巻 4 号 107-126 2020 年 12 月

(共著) 「Report on teaching English A1 and B1 core skills in 2020: Implications from student survey, core skills tests, and TOEFL data.」 『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 7 号 315-324 2021 年 3 月

(共著) 「Creating formative assessments for English A1 and B1 classes.」 『2019 年言語・文化教育センター年報第』 6 号 2021 年 3 月

(単著) 「Factors influencing motion event categorization choices in non-linguistic tasks: The effects of manner noticeability and boundary crossing on English and Japanese speakers.」 『Journal of Studies in Language Sciences』 19 巻 19-34 2021 年 3 月

〔会議の発表・講演〕

「Factors affecting improvement in speaking ability through video creation PBL: A preliminary analysis」 口頭（一般）：映像メディア英語教育学会（ATEM）東日本支部秋例会 2020 年 9 月

「The effects of student camera usage in synchronous courses: Student views」 口頭（一般）：映像メディア英語教育研究学会（ATEM）第 11 回東日本支部大会 2020 年 12 月

「全自動赤ペン添削によるスピーキング学習支援の提案—AI による自動音声認識を 3 秒で添削—」 口頭（一般）：言語教育エキスポ 2021 2021 年 3 月

「全自動赤ペン添削をオンライン授業に取り入れた学習—コロナ時代でのスピーキング練習への挑戦—」 口頭（一般）：言語教育エキスポ 2021 2021 年 3 月

「スピーキング指導可視化ツール開発と指導意思決定支援 AI 自動赤ペン添削で弱点を図示する学習履歴マイニング」 口頭（一般）：第 26 回人工知能学会インタラクティブ情報アクセスと可視化マイニング研究会（SIGAM） 2021 年 3 月

「スピーキング 3 秒採点と赤ペン添削システム開発とオンライン授業人手による主観評価から機械（AI）による客観評価へ」 口頭（一般）：言語処理学会第 27 回年次大会（NLP 2021） 2021 年 3 月

「Using digital storytelling and project based learning with elementary school EFL learners」 口頭（一般）：映像メディア英語教育研究学会（ATEM）東日本支部春例会 2021 年 3 月

〔科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）〕

若手研究(B) 英語発信力向上のためのプロジェクト型外国語学習：有効性と上達の要因 2019 年 4 月～2021 年 3 月 代表者

〔学内活動〕

全学委員会 英語教育改革ワーキンググループ委員 2020 年 10 月～2021 年 3 月

その他の主要活動 ノース・カロライナ大学シャーロット校との交換留学協定締結 副担当者 2014 年 9 月～

その他の主要活動 メリーランド大学との交換留学締結 副担当者 2015 年 4 月～

その他の主要活動 オンライン授業ベストプラクティス集 全学教育英語 編集委員 2020 年 5 月～2020 年 9 月

〔学内教職員支援〕

英語教科部会の第二学期オンライン教材説明会（FD／SD の企画・運営）

〔学会活動および外部機関における活動〕

マルチメディア英語教育学会東日本支部 副部長 2018 年 12 月～

映像メディア英語教育研究 査読者 2018 年 12 月～

Language Teaching Research Reviewer 2020 年 5 月～2020 年 8 月

The Electronic Journal for English as a Second Language Reviewer 2020 年 10 月～2020 年 12 月

〔報道〕

雑誌（その他）「東北大学 高度教養教育・学生支援機構 2020 パンフレット」 東北大学高度教養教育・学生支援機構 2020 年 4 月

〔その他〕

①新英語カリキュラムのオンライン教材の修正・改善

②新英語カリキュラムに取り組む教員を支援する教材サポートデスクの立ち上げ・任務

MERES RICHARD PAUL (准教授)

〔専門分野〕

コミュニケーション

プロゾディー

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 B1-1 Academic Listening and Speaking 1 セメスタ

全学教育 B1-2 Academic Listening and Speaking 1 セメスタ

全学教育 C1-1 English Communication 1 セメスタ

全学教育 C1-2 English Communication 1 セメスタ

全学教育 B2-1 Integrated Academic Listening and Speaking 2 セメスタ

全学教育 B2-2 Integrated Academic Listening and Speaking 2 セメスタ

全学教育 C2-1 English Communication 2 セメスタ

全学教育 C2-2 English Communication 2 セメスタ

〔論文〕

（共著）「Pathways to Academic English」 『Pathways to Academic English』 2 巻 2021 年 3 月

〔学内教職員支援〕

"Created a virtual exchange program for the Global Learning Center called A Multi-Cultural Exchange through the Lens of Global Environmental Issues: A Virtual Exchange Between Tohoku University and the University of Montana. This program was created to take the place of the overseas Montana Faculty-Led Program that was cancelled due to the pandemic. It was a one-credit program."（その他）

〔学会活動および外部機関における活動〕

EIKEN EIKEN (Test in Practical English Proficiency) examiner 2010 年 4 月～

The Japan Association for Language Teaching (JALT) The Japan Association for Language Teaching (JALT) 2012 年 4 月～

American Communication Association (ACA) American Communication Association (ACA) 2015 年 4 月～

JALT' s Computer Assisted Language Learning Special Interest Group (SIG) JALT' s Computer Assisted Language Learning Special Interest Group (SIG) 2016 年 4 月～

American Speech Language Hearing Association California Speech Language Hearing Association 2016 年 11 月～

〔兼務、兼業など〕

学外 英語検定二次試験面接官 英語検定二次試験面接官 2000 年 4 月～

〔教育活動〕

This year was particularly challenging due to the fact that the classes were entirely online. A lot of time and effort was spent developing and implementing online teaching methods. Using Zoom and breakout sessions the students were able to have real-time lessons allowing them to participate actively. The lessons were interactive and challenging for the students. Specifically, lessons using online presentation skills were challenging yet very well received.

〔研究活動〕

I developed and implemented a virtual version of the Montana Faculty-Led Program. Instead of going overseas, a one-credit virtual program was developed and implemented. The program was evaluated for its efficacy and the results were published in 東北大学高度教養教育・学生支援機構 紀要 第7号 投稿票 with the report titled,

The Design, Implementation and Efficacy of an Online Virtual Exchange Program:

-Transitioning from an Overseas Exchange to a Virtual Exchange with a Partner University in the Age of COVID-19

〔大学運営〕

Continued work on the task force for English curriculum reform. Helped revise the B chapters for the new volume of 「Pathways to Academic English」 and created two new C chapters, *C2.1 Presentation Preparation* and *C2.2 Presentation Strategies*.

〔支援及び医療業務〕

Created a virtual exchange program for the Global Learning Center called *A Multi-Cultural Exchange through the Lens of Global Environmental Issues: A Virtual Exchange Between Tohoku University and the University of Montana*. This program was created to take the place of the overseas Montana Faculty-Led Program that was cancelled due to the pandemic. It was a one-credit program.

Helped create a video used for the Open Campus event for 2020. Due to the pandemic, the event was held virtually and on-demand. The video promoted the new English curriculum at Tohoku University.

Attended university workshops and FDs online.

〔社会貢献〕

Continued membership and participation in The Japan Association for Language Teaching (JALT) and attended various regional events online

Continued membership and participation in JALT's Computer Assisted Language Learning Special Interest Group (SIG)

Continued membership and participation in the American Communication Association (ACA)

Continued certification as an EIKEN (Test in Practical English Proficiency) examiner and provided interviews for the EIKEN 二次試験 several times throughout the year

Continued membership and participation in the American Speech-Language-Hearing Association

KAVANAGH BARRY (准教授)

〔専門分野〕

言語学

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 現代大学論

全学教育 English A1 1 セメスタ

全学教育 English B1 1 セメスタ

全学教育 Karate and Japanese culture

全学教育 English C1 3 セメスタ

全学教育 PES 1 3 セメスタ

全学教育 CLIL SDGs

全学教育 Karate and Japanese culture 2

全学教育 English B2 2 セメスタ

全学教育 English A2 2 セメスタ

全学教育 English C2 4 セメスタ

全学教育 PES 2 4 セメスタ

【論文】

- (共著) 「『社会的知覚が国際児のエスニックアイデンティティ及び継承語のイメージに及ぼす影響』」『母語・継承語・バイリンガル教育 (MHB) 学会』 2020 年 8 月
- (共著) 「How can CLIL play a role in helping bicultural heritage language learners integrate their two languages and cultures?」『In Y. Ono & M. Shimada (Eds.) Data Science in Collaboration,4,"』 4 巻 43-49 2021 年 2 月
- (共著) 「A Discussion of Japanese University Student and Teacher Perceptions of the Online Learning Environment and Class Delivery Within the COVID 19 Pandemic」『言語・文化教育センター年報』 2021 年 3 月
- (共著) 「What do we mean by the combined teaching of both content and language and what should we consider when implementing a CLIL curriculum within a Japanese university?」『東北大学 高度教養教育・学生支援機構 紀要第 7 号』 225-237 2021 年 3 月
- (共著) 「Taking the First Step in Helping Students Become Global Citizens: A Case Study of a Multimedia CLIL SDG Course」『ATEM(映像メディア英語教育研究) ジャーナル』 2021 年 3 月
- (共著) 「"Understanding culture, the media and language usage through a CLIL mediators literacy course for EFL students"」『[The Journal of Japan CLIL Pedagogy Association (JJCLIL) edited by Sasajima, S, Tsuchiya, K and Barry Kavanagh"』 50-68 2021 年 3 月
- (共著) 「A study on how cultural and gender parameters affect emoticon distribution, usage and frequency in American and Japanese online discourse <https://doi.org/10.1075/pbns.318.10kav>"」『"Approaches to Internet Pragmatics: Theory and practice Edited by Chaoqun Xie, Francisco Yus and Hartmut Haberland"』 287-320 2021 年 3 月

【著書】

- 『CLIL SDGs—Sustainable Development Goals』 Sanshusha 2021 年 3 月
- 『Pathways to Academic English 2021』 2021 年 3 月

【会議の発表・講演】

- 「CLIL and heritage language education for bicultural bilingual children in the UK and Japan」口頭 (一般): 日本 CLIL 教育学会 (J-CLIL) 第 17 回例会 早稲田大学 2019 年 12 月
- 「『社会的知覚が国際児のエスニックアイデンティティ及び継承語のイメージに及ぼす影響』」口頭 (一般): 母語・継承語・バイリンガル教育 (MHB) 学会 2020 年 8 月
- 「Taking advantage of multimedia tools for an online course: An example of a CLIL SDG course」口頭 (一般): ATEM HIGASHI NIHON CHAPTER ONLINE STUDY MEETING 2020 年 9 月
- 口頭 (一般): Tsukuba Global Science Week 2020 年 9 月
- 「Creating global citizens for the future: The teaching SDG's through a CLIL based approach」口頭 (一般): The 3rd J-CLIL Annual Bilingual Conference 2020 年 10 月
- 「How does CLIL differ from other forms of content-based instruction and how can it be implemented at a Japanese university?」口頭 (一般): The Third J-CLIL TOHOKU Chapter Conference 2020 年 12 月
- 「Can CLIL be a good fit for heritage language education?」口頭 (招待・特別): J-CLIL Tohoku Special international seminar 2021 年 3 月
- 「CLIL and heritage language education: An examination of the Japanese language supplementary school」口頭 (一般): Working CLIL 2021 ? 2nd International Colloquium 2021 年 3 月

【その他研究活動】

- (校訂版テキスト編集) JJ-CLIL Editor

【科学研究費補助金獲得実績 (文科省・学振)】

- 基盤研究(C) An examination into heritage language education through CLIL within Japan and the UK 2018 年 4 月～2022 年 3 月 代表者

【学内活動】

- 全学委員会 英語カリキュラム改善・改革WG と Task Force 2018 年 8 月～
- 全学委員会 New curriculum materials development project (MDP) committee leader 2020 年 2 月～
- 全学委員会 新英語カリキュラムチーム委員会リーダー 2020 年 4 月～
- 全学委員会 英語教科部会 言語文化・教育コミュニケーションオフィサー 2020 年 4 月～
- 全学委員会 Created material for the 'Materials' FD September 2020 2020 年 9 月～2020 年 9 月
- 全学委員会 Organized and presented at the New curriculum explanation FD (December 2020) 2020 年 12 月～2020 年 12 月

【学内教職員支援】

- 説明会 2020 curriculum outline, purpose and goals (FD/SD の企画・運営)

【学会活動および外部機関における活動】

- Communication quarterly 査読者 2016 年 10 月～
- 日本 CLIL 教育学会 東北支部長 日本 CLIL 教育学会 2017 年 10 月～
- J-CLIL 東北 支部長 J-CLIL 2017 年 10 月～
- Journal of Cognitive Science 査読者 査読者 2018 年 1 月～
- Computers in Human behavior Journal 査読者 査読者 2018 年 1 月～

First Monday Journal 査読者 査読者 2018 年 1 月～

J-CLIL Journal Editor 日本 CLIL 教育学会 2018 年 1 月～

映画英語教育学会 東日本企画委員 2018 年 12 月～

ATEM 東日本支部 東日本企画委員 2019 年 4 月～

J-CLIL J-CLIL ウェブサイト管理 2019 年 4 月～

Journal of Pragmatic reviewer Journal of Pragmatic reviewer 2020 年 4 月～2021 年 3 月

Journal of Experimental Social Psychology reviewer Journal of Experimental Social Psychology reviewer 2020 年 4 月～2021 年 3 月

"映像メディア英語教育研究 査読者" "映像メディア英語教育研究 査読者" 2020 年 4 月～

J-CLIL Journal・J-CLIL Journal editor J-CLIL Journal・J-CLIL Journal editor 2020 年 4 月～

[会議の主催・運営]

(国内会議:主催) 2019 年 06 月 運営 J-CLIL 東北支部第 2 回大会 / J-CLIL 東北支部長 2018 年 4 月

(国内会議:主催) TiE Teaching English program project member 2018 年 4 月

(国内会議:主催) ATEM (映画英語教育学会) 東日本支部運営委員会・企画委員 2018 年 8 月

[学外の社会活動]

J-CLIL Tohoku special webinar on CLIL and Heritage Language Education: Visual art and heritage language learning

An Introduction to CLIL

日本 CLIL 教育学会 (J-CLIL) 第 17 回例会 早稲田大学

J-CLIL Tohoku second special webinar on CLIL and Heritage language education

[教育活動]

Created new courses based on the new curriculum such as CLIL courses on Media literacy, SDGs and intercultural communication which incorporate the new core skills within the new English curriculum.

Leadership positions

Led the team that created the new C course English curriculum. This consisted of the new C1 Academic Writing and C2 Academic Presentation course.

Led the 'Materials development Project' team and created over 50 lesson activities and ideas for the new C1 and C2 English courses.

Contributed to and helped edit 'Pathways to Academic English' 2021.

Helped revise and review the new curriculum and syllabus for A and B classes as part of a working group.

[研究活動]

Organized and presented at Two international J-CLIL Tohoku Webinars as part of my role as J-CLIL Tohoku president and researcher into heritage language

Organized and presented at J-CLIL Tohoku chapter conference as J-CLIL Tohoku president

Gave 7 academic presentations (1 international)

Published 7 papers in academic journals

Co-authored a textbook on CLIL SDGs

Edited the J-CLIL journal

Conducted and continued my *kaken* funded research

Helped organize ATEM (Association for Teaching English through multimedia) chapter conferences.

Held committee posts at J-CLIL 教育学会 and ATEM (Association for Teaching English through multimedia)

[大学運営]

Served on various working groups for the implementation of the new English language curriculum such as the 外国語委員会英語教育改革実施 WG

Served as liaison officer between the English Section and the Center for Language, Culture and Education.

Served on the 総務 委員会委員

[支援及び医療業務]

Created material for the 'Materials' FD September 2020

Organized and presented at the New curriculum explanation FD (December 2020)

Organized and presented at the CCLE FD 'The new English C1 and C2 courses: Some practical ideas on implementation and lesson creation' (February 2021)

[社会貢献]

Organized and presented at Two international J-CLIL Tohoku Webinars with attendees coming from all over the world.

KANG MINKYEONG (准教授)

〔専門分野〕

ドイツ語学

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 基礎ドイツ語Ⅰ 前期

全学教育 展開ドイツ語Ⅰ 前期

全学教育 基礎ドイツ語Ⅱ 前期

全学教育 基礎ドイツ語Ⅱ 後期

全学教育 展開ドイツ語Ⅱ 後期

全学教育 基礎ドイツ語Ⅱ 後期

〔論文〕

〔共著〕「外国語学習に関する意識調査 ―ドイツ語学習者を対象としたアンケート調査で見えてきたこと―（報告）」『東北大学言語・文化教育センター年報』 5号 5-13 2020年5月

〔著書〕

『アクセス独和辞典 第4版』 2021年2月

〔学内活動〕

全学委員会 初修語委員会準備部会委員 2021年1月～

部局内委員会 言語・文化教育センター運営委員 2016年4月～

部局内委員会 施設整備委員会委員 2017年4月～

〔学会活動および外部機関における活動〕

アジアゲルマニスト 2019札幌大会 第6分科会共同責任者 2019年8月～2021年1月

東北ドイツ文学会 編集委員会委員 2020年4月～

日本独文学会 編集委員会委員（語学部門） 2021年3月～

深井 陽介 (准教授)

〔専門分野〕

フランス文学

フランス語教育学

〔科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）〕

その他 若手研究 キャリア形成のための外国語教育研究―動画制作を用いたフランス語教育 2018年4月～ 代表者

〔学内活動〕

部局内委員会 言語文化教育センター運営委員 2017年4月～

その他の主要活動 全学教育フランス語部会員 2019年4月～

〔学会活動および外部機関における活動〕

日本フランス語教育学会 学会誌編集委員 2015年4月～

日本フランス語教育学会 理事 2018年6月～

日本フランス語フランス文学会東北支部 運営委員 2018年12月～

APEF 日本フランス語教育振興協会 理事 2019年5月～

〔その他〕

2019年11月に行った「日本フランス語フランス文学会東北支部大会」のシンポジウム「フランス語の今、これから」に基づく報告論文を2020年6月に日本フランス語フランス文学会東北支部学会誌『Nord-Est』に電子版で発表した（https://genesis.hss.iwate-u.ac.jp/sjllf-tohoku/bull/Nord-Est_No13.pdf）。また2020年11月には日仏会館において「第13回フランス語コンクール」が行われたが、「展開フランス語IV」を受講している指導学生3名が決勝大会に進みフランス語による発表と質疑応答を行った。この結果、文学部3年の黒井駿君が「APEF賞」、経済学部3年の鈴木綾さんが「日本フランコフォニー推進評議会賞」を受賞した。また、学会活動として日本フランス語教育学会理事、日本フランス語フランス文学会東北支部運営員を務め、日本フランス語教育振興財団（APEF）でも理事を務めた。

田林 洋一 (准教授)

〔専門分野〕

言語学

外国語教育

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 基礎スペイン語Ⅰ・Ⅱ 通年

全学教育 展開スペイン語Ⅰ・Ⅱ 通年

〔論文〕

(単著) 「漫画『ヒョンヒョロ』と『ドン・キホーテ』の比較対照研究 -常識と非常識の曖昧な境界-」 『言語・文化教育センター年報』 6号 37-46 2021年3月

(単著) 「アニメ映画『しわ』と『ドン・キホーテ』との類似性」 『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 7号 163-176 2021年3月

〔その他研究活動〕

(その他) 高度教養教育・学生支援機構紀要査読担当

〔その他の競争的資金獲得実績〕

(その他補助金 教育開発推進経費(組織申請)) 外国語学習の補助としての異文化理解講義一言語・文化論講座の開講 - 2018年4月～

〔学内活動〕

全学委員会 外国語委員会委員 2020年4月～

全学委員会 初修語ワーキンググループ委員 2020年4月～

全学委員会 初修語委員会準備部会長 2020年11月～

部局内委員会 機構教育推進ワーキンググループ 2016年6月～

部局内委員会 広報小委員会 2017年2月～

部局内委員会 言語・文化教育センター運営委員会委員 2017年4月～

部局内委員会 総務委員会 2018年4月～

部局内委員会 言語・文化教育センター年報編集委員 2018年4月～

部局内委員会 教務小委員会 2019年10月～

部局内委員会 教務委員会委員 2020年12月～

部局内委員会 初修語クラス分け業務担当 2021年3月～

その他の主要活動 学習環境専門部会 2016年4月～

その他の主要活動 既修得単位認定審査委員 2017年4月～

その他の主要活動 言語・文化教育センターホームページ担当 2018年4月～

専攻内委員会 スペイン語部会長 2020年4月～

〔学会活動および外部機関における活動〕

北海道大学メディアコミュニケーション研究 査読委員 2014年4月～

〔学外の社会活動〕

インスティテュート・セルバンテス主催スペイン語能力検定試験 (DELE)

Cecilia Silva (准教授)

〔専門分野〕

リテラシー

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 基礎スペイン語 通年

〔論文〕

(共著) 「Encuentros Interculturales: redefinición del espacio y nuevos desafíos teórico-prácticos」 『関西外国語大学イベロアメリカ研究センターニューズレター』 10巻 11-15 2021年2月

(単著) 「The Concept of Mediation in Online Classes: from the Campus Classroom to Google Classroom」 『"Bulletin of the Institute For Excellence in Higher Education Tohoku University No.6 2021"』 7号 319-329 2021年3月

(単著) 「Building a Virtual Space for Intercultural Exchange」 『"Bulletin of the Center for Culture and Language Education Tohoku University No.6 2021"』 6号 111-112 2021年3月

〔会議の発表・講演〕

「Jalt 2020 Online 46th Annual Int'l Conference on Language Teaching and Learning & Educational Materials Exhibition」 口頭 (一般): Actividades de Competencia Intercultural en el Marco del Aprendizaje Activo 2020年11月

「Competencias Interculturales en la clase de ELE: desafíos de la nueva realidad educativa」 口頭 (一般): Encuentros Interculturales: redefinición del espacio y nuevos desafíos teórico-prácticos 2020年11月

〔プロジェクト活動〕

先生による先生のための研究会プロジェクトワークショップ

スペイン語初心者のためのハンドブック

Integrating Culture in Language Teaching Workshop

Bridging the Gap between Students and Textbooks Workshop

〔その他〕

During 2020 I was in charge of three Spanish courses in level A1, and a special course whose contents are adapted to students' needs and interests.

As regard development of educational material, in 2020 I made some substantial changes in the handbook I have been writing since 2012 and updating every year, so as to adapt it to the online environment.

Regarding extra-curricular activities, I organized, together with Cervantes Institute Tokyo and Spanish teachers of Tohoku University, the Spanish proficiency test (DELE), which was held for the fifth time in Sendai in November 2020.

As regards research, I worked on the first part of the project Developing a collaborative portfolio of intercultural heritage for online exchange in Spanish as a foreign language (基盤研究 20K00741) and managed to build the theoretical framework based on the concepts of intercultural competence and online exchange.

Presentations in online conferences:

Encuentros interculturales: Redefinición del espacio y nuevos desafíos teórico-prácticos (Intercultural encounters: re-definition of space and new challenges for theory and practice). Presentation at the session Competencias Interculturales en la case de ELE: Desafíos en la nueva realidad educativa, Center for Iberoamerican Studies, Kansai University of Foreign Studies, Osaka, Nov. 28, 2020.

Actividades de competencia intercultural en el marco del aprendizaje activo (Intercultural Competence Activities in the frame of Active Learning). Workshop: Students' performance in the classroom community at 46TH Annual International Conference on Language Teaching and Learning & Educational Materials Exhibition Jalt2020, Nov. 16-23, 2020.

New spaces for language education: challenges for theory and practice. Online presentation at BELTA (Bangladesh English Language Teaching Association) Professional Development. March 27, 2020.

Publications:

Encuentros interculturales: Redefinición del espacio y nuevos desafíos teórico-prácticos, Kansai University of Foreign Studies, Center for Iberoamerican Studies Newsletter Vol. 10 2020. pp. 11-15.

The Concept of Mediation in Online Classes: From the campus classroom to Google Classroom. Bulletin of the Institute for Excellence in Higher Education Tohoku University No. 6, 2020, pp. 319-329.

Building a Virtual Space for Intercultural Exchange. Bulletin of the Center for Culture and Language Education Tohoku University, No. 7, 2020, pp. 7-13.

趙 秀敏 (准教授)

[専門分野]

外国語教育

教育工学

[担当授業科目 (他大学も含む)]

全学教育 基礎中国語Ⅰ 前期

全学教育 基礎中国語Ⅱ 後期

[論文]

(共著) 「AI 活用の初修中国語会話復習用アプリ教材における練習形式とフィードバックの設計」 『2020 PC Conference』 241-242 2020 年 8 月

(共著) 「大学初修中国語ブレンディッドラーニングにおけるオンライン授業の設計」 『第 45 回教育システム情報学会全国大会講演論文集』 87-88 2020 年 9 月

[会議の発表・講演]

「インストラクショナルデザイン理論に基づくオンライン授業設計」 口頭 (一般): 東北大学オンライン授業シンポジウム (FD) 2020 年 5 月

「Study On UX Design In Enhancing Student Motivations In Mobile Language Learning」 口頭 (一般): IEEE TALE 2020 2020 年 12 月

[科学研究費補助金獲得実績 (文科省・学振)]

基盤研究(C) AI を活用した大学初修中国語会話復習用アプリ教材の開発と検証 2019 年 4 月～2022 年 3 月 代表者

基盤研究(B) 自己調整型マイクロラーニングと探索的学習分析による持続可能な学習環境の構築と実践 2019 年 4 月～2022 年 3 月 分担者

基盤研究(C) 学習動機づけを高めるブレンディッドラーニング用スマートフォン復習環境の開発 2020 年 4 月～2022 年 3 月 分担者

[学会活動および外部機関における活動]

日本中国語検定協会 仙台会場試験監督 2006 年 11 月～

日本中国語検定協会 評議員 2016 年 7 月～2020 年 6 月

日本中国語検定協会 評議員 2020 年 7 月～2024 年 6 月

副島 健作 (准教授)

[専門分野]

言語学

日本語教育

[担当授業科目 (他大学も含む)]

全学教育 日本語 E-1, E-2 (上級日本語聴解 L690) 前期

全学教育 展開科目・国際教育科目 日本社会・文化 A (LV500) 後期

大学院教育 日本語解析論Ⅱ 前期
大学院教育 言語科学研究総合演習 通年
大学院教育 言語科学研究特別講義 通年
その他 中級日本語総合 (C440)
その他 研究ゼミ: 日本語・日本文化演習 (NS060) 後期

〔学位論文指導・審査〕

博士1名(主査1名)、修士6名(主査2名、副査4名)

〔指導大学院生・学部生の発表件数〕

2020年度 大学院学生(博士課程後期3年の課程) 論文発表件数:1件 学会発表件数:2件 国際会議発表件数:1件

〔論文〕

(単著)「How Do Japanese Language Learners Understand 'the Other' in the Result Expressions?」『The Values of the Other, GPJS (Tohoku University)/LITT&ARTS and ILCEA4 (Grenoble Alpes University)』 149-167 2020年11月

(単著)「日本語学習者に地方共通語を教える必要はあるか?」『国際文化研究科論集』 28号 43-52 2020年12月

〔学内活動〕

全学委員会 東北イノベーション人材育成プログラム東北大学内運営・実施委員会 委員 2017年10月～

全学委員会 日本学国際共同大学院プログラム運営委員会委員 2018年11月～

全学委員会 国際連携推進機構 国際交流委員会 日本語研修教育専門委員会 日本語・日本文化研修留学プログラム実施委員会 委員 2020年4月～

全学委員会 国際連携推進機構 国際交流委員会 日本語研修教育専門委員会 委員 2020年4月～

全学委員会 国際連携推進機構 国際交流委員会 日本語研修教育専門委員会 日本語研修教育実施委員会 委員 2020年4月～

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構 出版・図書・資料委員会 委員 2016年4月～

〔プロジェクト活動〕

日本語教育実施検討プロジェクト

〔学会活動および外部機関における活動〕

公益社団法人 日本語教育学会 審査・運営協力員 2020年6月～2021年6月

〔教育活動〕

留学生等受け入れ:

・大学院留学生の学位論文指導・審査:

主指導: 博士1名, 修士2名, 審査: 博士1名(主査1名), 修士6名(主査2名, 副査4名)

〔大学運営・支援及び医療業務〕

教育支援活動:

・日本語プログラムコーディネータ(日本語教育プログラム(特別課程), 日本語・日本文化研修留学生, DATEntre)

〔社会貢献〕

学会活動:

・日本語教育学会審査・運営協力員

中村 渉(准教授)

〔専門分野〕

言語学

情報学基礎

〔担当授業科目(他大学も含む)〕

全学教育 SE600 上級共修ゼミ(外から見た日本の社会) 前期

大学院教育 応用言語研究総合演習A 前期

大学院教育 応用言語研究特別講義A 前期

大学院教育 応用言語研究総合演習B 後期

大学院教育 応用言語研究特別講義B 後期

大学院教育 対照言語学 後期

その他 A150/A250(日本語研修コース) 前期

その他 RS030b 前期

その他 A150/A250(日本語研修コース) 後期

その他 JM500(中上級日本語文化演習) 後期

その他 R500(日本語中上級読解) 後期

〔学位論文指導・審査〕

修士1名(主査1名)

〔その他教育上に関する活動〕

（その他）他大学へ進学する留学生を含めた日本語研修コースの受け入れ作業、授業の担当、成績管理・認定、留学生の勉学上・生活上の問題点を解決するチュートリアル等を行った。また、日本語特別課程の運営（例：プレースメントテスト）および授業にも携わった。2007年4月からは、短期留学生受け入れプログラムの日本語コースの運営および授業の担当も行っている。

（その他）本学で留学生に日本語を教える専任教員、非常勤教員、関係部署の職員を加入者とするメーリングリストの運営し、留学生の指導に必要な情報の共有化を進めている。

（その他）日本語のカリキュラム変更に伴って、レベル調整のため、レベル1?2のカリキュラムとシラバスを担当した。

〔学内活動〕

部局内委員会 言語・文化教育センター運営委員 2018年10月～

その他の主要活動 日本語研修コースおよび日本語特別課程の運営 2003年4月～

〔学会活動および外部機関における活動〕

日本言語学会 大会運営委員 2017年4月～

〔その他〕

日本認知言語学会の査読委員を務めた。

林 雅子（准教授）

〔専門分野〕

日本語学

日本語教育

言語学

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 課題解決型（PBL）演習A【展開ゼミ】「大学生生活に役立つ敬語・日本語～留学生とともに日本語を考える～国際共修ゼミ」 後期

その他 中上級日本語漢字・語彙（K500a） 前期

その他 中上級日本語漢字・語彙（K500b） 前期

その他 入門日本語応用（A150）日本語研修コース専用（速修型クラス） 前期

その他 入門日本語読解（R150）日本語研修コース専用（速修型クラス） 前期

その他 初級日本語応用（A250）日本語研修コース専用（速修型クラス） 前期

その他 初級日本語読解（R250）日本語研修コース専用（速修型クラス） 前期

その他 研究ゼミ（RS030b） 前期

その他 中上級日本語漢字・語彙（K501）非漢字圏学生用 後期

その他 中上級日本語漢字・語彙（K502）漢字圏学生用 後期

その他 中級日本語漢字・語彙（K400）外国人留学生 後期

その他 入門日本語読解（R150）日本語研修コース専用（速修型クラス） 後期

その他 研究ゼミ（RS020） 後期

その他 初級日本語読解（R250）日本語研修コース専用（速修型クラス） 後期

〔その他教育上に関する活動〕

（教育方針の実践例）「アクティブ・ラーニング」の一環として「ピア・ティーチング」を国際共修ゼミ及び留学生対象日本語教育科目で実践

（教科書・教材の開発）『日本語初級から学ぶ日本文化』東北大学日本語研修コース（国費留学生）向け読解教材刊行後の他大学・他機関へのアナウンスや問い合わせへの対応、オンライン授業用教材作成

（教育方針の実践例）DEEp-Bridge 研究ゼミ（前期）・IPLA 研究ゼミにおける情報探索図書館講習オンライン授業内で実施

（教育方針の実践例）文系短期交換留学プログラム DEEp-Bridge 最終成果報告会学生指導・実施（オンラインによる個人指導複数回実施）

（教育方針の実践例）国立国語研究所開発『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（BCCWJ）を活用した言語分析の指導 展開ゼミ、中上級漢字クラス 学生のために一括申請して利用を促進

（クラス担任）人文社会科学系短期交換留学生日本語プログラムコーディネーター オリエンテーション実施（学生の研究面やメンタル面で複数回相談に応じる）

（クラス担任）日本語研修コース（国費留学生予備教育課程）サブコーディネーター

（教科書・教材の開発）漢字カリキュラム改革のための教材作成整備

（教育方針の実践例）日本語研修コース（国費留学生予備教育課程）における茶道の日本文化体験オンライン授業による実施

〔共同研究活動〕

「日本語学習者を対象とする文語文 e-learning 教材および文語文教授法の開発」 国内 2020年4月～

〔学内活動〕

全学委員会 国際連携推進機構国際交流委員会教育国際交流運営委員会 人文・社会科学系学生交流実施委員会 委員 2019年4月～2021年3月

全学委員会 学務審議会国際教育科目委員会準備部会委員 2021年2月～

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構 研究倫理委員会委員 2020年4月～

その他の主要活動 プレイスメントテスト開発ワーキンググループ 2019年6月～

その他の主要活動 国費外国人留学生日本語研修コース プログラムサブコーディネーター（カリキュラム編成及びクラス編成などの運営業務）
2019年10月～2021年2月

その他の主要活動 国際共修科目・日本文化演習全般の連絡調整担当 2020年1月～

その他の主要活動 2020年度前期外国人留学生文系短期留学プログラム DEEP-Bridge 日本語コーディネーター（日本語カリキュラム編成及びクラス編成などの運営業務） 2020年4月～2020年9月

その他の主要活動 2020年度前期外国人留学生文系短期留学プログラム IPLA 日本語コーディネーター（日本語カリキュラム編成及びクラス編成などの運営業務） 2020年4月～2020年9月

その他の主要活動 オンライン授業の支援者として講師の先生方をサポート 2020年4月～2021年3月

その他の主要活動 言語・文化教育センター国際交流棟録音室環境整備と先生方の利用を支援 2020年4月～

その他の主要活動 入門レベル レベル別コーディネーター 2020年4月～

その他の主要活動 日本文化特別講義担当 2020年4月～

その他の主要活動 国際大学間コンソーシアム環太平洋大学連盟 (Association of Pacific Rim Universities Virtual Student Exchange: APRU VSE)
日本語科目担当 2020年9月～2021年3月

その他の主要活動 2020年度後期外国人留学生文系短期留学プログラム IPLA 日本語コーディネーター（日本語カリキュラム編成及びクラス編成などの運営業務） 2020年10月～2021年3月

その他の主要活動 レベル別教員アンケートワーキンググループ 2020年11月～

その他の主要活動 日本語教育プログラムコーディネーター 2021年2月～

〔学内教職員支援〕

国際共修ゼミに関する関西学院大学からのヒアリング調査依頼に協力（その他）

言語・文化教育センター年報査読協力（その他）

国際共修の教科書について福島大学のマクマイケル先生への質問にオンラインで応答（その他）

〔教育相談〕

のべ相談人数 27名、のべ相談回数 34回

〔学外の社会活動〕

外国人の子ども・サポートの会

〔報道〕

その他（出演・執筆）「コロナ禍での留学生のオンライン授業について」 東北放送株式会社 ラジオ局 2021年1月26日

金 鉉哲（准教授）

〔専門分野〕

韓国語

日韓比較文化論

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 基礎朝鮮語Ⅰ、Ⅱ 1, 2セメスタ

全学教育 展開朝鮮語Ⅰ、Ⅱ 3, 4セメスタ

全学教育 展開朝鮮語Ⅲ、Ⅳ 5, 6セメスタ

〔会議の発表・講演〕

「コロナ時代における韓国語オンライン授業の現状と課題 - 東北大学の事例を中心に -」 口頭（招待・特別）：2020 日本東北地域 韓国語教育者シンポジウム 2020年11月

「韓国文化の享受に伴う変化」 口頭（招待・特別）：韓流影響度分析調査発表会 2020年12月

〔学内活動〕

全学委員会 既修得単位認定等のための審査委員 2008年2月～

その他の主要活動 日韓共同理工系学部留学生事業運営委員会の委員 2016年4月～

〔学会活動および外部機関における活動〕

パンソリ学会 国際理事 2006年3月～

近代文学会 編集委員 2016年1月～

韓国劇芸術学会 編集委員 2016年4月～

〔学外の社会活動〕

「韓流影響度分析調査発表会」（主催：駐仙台大韓民国総領事館・東北大学・尚絅学院大学）

〔報道〕

新聞（出演・執筆）「座標 新型コロナ対策 韓国のノウハウ生かせ」 河北新報 2020年4月7日

〔大学運営・支援及び医療業務〕

・全学委員会：既修得単位認定に係る審査委員（朝鮮語）

- ・日韓共同理工学部留学生事業運営委員会の委員

〔社会貢献〕

- ・海外では、韓国「パンソリ学会」(海外理事)、「韓国劇芸術学会」(編集委員)として活動しながら、日韓芸能及び公演関係研究者の研究交流のために努力している。
- ・第11回日本東北地域韓国語弁論大会の審査委員長(日時:2020年10月24日(土)、韓国会館6階の大ホール)

DANIEL JOEL EICHHORST (講師)

〔学内活動〕

全学委員会 大学教育支援センター 研究開発委員 2013年4月～
その他の主要活動 東北大学のプロモーションビデオを編集する WG 2012年12月～

ENSLEN TODD ROBERT (講師)

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 英語 B1・Communication 1セメスタ
全学教育 英語 C1・コミュニケーション能力 2セメスタ
全学教育 英語 A1・Reading 2セメスタ
全学教育 英語 A1/A2 1, 2セメスタ
全学教育 英語 B1・B2 1, 2セメスタ
全学教育 英語 C1/C2 3, 4セメスタ

〔会議の発表・講演〕

口頭 (一般): Miyagi University English Language Curriculum FD 2020年8月
口頭 (一般): Yamagata University English Language Teaching FD 2021年3月

〔学内活動〕

全学委員会 Professional Development Research Fellow 2020年4月～2021年3月

〔学会活動および外部機関における活動〕

Japan Content and Language Integrated Learning (JCLIL) Tohoku Chapter Secretary 2020年4月～2021年4月

〔会議の主催・運営〕

(国内会議主催) The Third J-CLIL Tohoku Chapter (Online) Conference 2020年12月19日

〔学外の社会活動〕

Proofreading other teachers' presentations/papers

〔教育活動〕

Because of the Corona Virus situation and the last-minute decision to have all of the classes online along with the change in the English curriculum, most of my efforts were put into learning new online platforms and delivery methods. These included the use of ISTU and Google Classroom, the creation of materials using Google Forms, and the use of Zoom for interactive classes. In addition, I work on various working groups to create materials for our online database. My contributions were mainly focused on Paragraph and Essay writing.

〔研究活動〕

I have continued to develop new workshops, which requires a great deal of secondary research. This year Teikyo University asked me to give a workshop on syllabus writing in English for which I researched and prepared, but the workshop had to be postponed due to the spread of the Corona virus. I am in the process of revising the Active Learning Handbook for English-Medium Classes, which will be submitted to a publisher for consideration.

〔大学運営〕

Many of the activities that I would have normally contributed to were postponed because of the current situation regarding the Corona virus. For example, the activities for both the New Faculty Program (NFP) and Preparing Future Faculty Program (PFFP) were suspended for the foreseeable future.

〔支援及び医療業務〕

Once again, I served on the Entrance Examination Scoring Committee and the Facilities Committee. Additionally, I have continued to support other professors with their English language publications and the Institute with its English publications.

〔社会貢献〕

As part of my contribution as secretary to J-CLIL Tohoku Chapter, I helped in organizing this year's online annual conference and seminars. In addition, I helped with reviewing abstracts of presentation and journal articles to be published in the J-CLIL journal.

SHEARON BEN (講師)

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 英語 A1 1 セメスタ
全学教育 英語 A2 2 セメスタ
全学教育 英語 B2 2 セメスタ
全学教育 英語 B1 1 セメスタ
全学教育 英語 C1 3 セメスタ
全学教育 英語 C2 4 セメスタ
全学教育 英語 C1R 3 セメスタ
全学教育 英語 C2R 3 セメスタ

〔学内教職員支援〕

英語非常勤講師サポート (その他)

〔学会活動および外部機関における活動〕

Extensive Reading Foundation Level test collaborator 2013 年 4 月～

〔学外の社会活動〕

二華中・高等学校評議員

〔その他〕

Due to the pandemic, most of my efforts in FY2020 went towards adapting and developing online courses.
I also assisted with entrance exam marking.

STAVOY JOSEPH ANTHONY (講師)

I feel that that essence of my contribution to Tohoku University has been my continued ability to provide Tohoku students with ample opportunities to improve their English. I feel I have done that by constantly upgrading and improving my lessons in order for my students to reach their full potential.

三上 傑 (講師)

〔論文〕

〔共著〕「英語の There 受動文が許容する語順パターンに関する通時的変遷と主語移動の適用可能性」 『JELS(日本英語学会大会プロシーディング)』 38 巻 65-71 2021 年 3 月

〔会議の発表・講演〕

「英語の There 受動文が許容する語順パターンに関する通時的変遷と主語移動の適用可能性」 口頭 (一般) : 日本英語学会第 38 回大会 2020 年 11 月

〔科学研究費補助金獲得実績 (文科省・学振)〕

若手研究(B) 自然言語における一致の普遍性と統語構造の通時的変化に関する日英語対照研究 2018 年 4 月～2021 年 3 月 代表者

SCHACHT BERND (講師)

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 展開ドイツ語 I、II 3, 4 セメスタ
全学教育 基礎ドイツ語 I、II 1, 2 セメスタ

速藤コラー・スサンネ (講師)

〔専門分野〕

北方史
ドイツ語教育

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 基礎ドイツ語 I 1 セメスタ
全学教育 展開ドイツ語 I 3 セメスタ
全学教育 基礎ドイツ語 II 2 セメスタ
全学教育 展開ドイツ語 II 4 セメスタ
学部教育 岩手大学 (ドイツ語コミュニケーション発展 A) 前期集中

〔論文〕

〔単著〕「外国語学習に関する意識調査—ドイツ 語学習者を対象としたアンケート調査で見えてきたこと—」 『東北大学言語・文化教育センター年報』 5 号 5-15 2020 年 4 月

〔学内活動〕

その他の主要活動 ドイツ語部会 時間割係 2019 年 4 月～2021 年 4 月

〔プロジェクト活動〕

18 世紀および 19 世紀のサハリン・千島アイヌの歴史民族学的研究

〔兼務、兼業など〕

学内 東北アジア研究センター・ロシア・シベリア研究分野 兼務教員 2020 年 4 月～

〔研究〕

2020 年 4 月から東北アジア研究センター、ロシア・シベリア研究分野の兼務教員となり、共同研究「18 世紀および 19 世紀のサハリン・千島アイヌの歴史民族学的研究」（代表遠藤スサンネ）を開始した。

〔大学運営〕

ドイツ語部会の「時間割係」を努めた。

高橋 美穂（講師）

〔専門分野〕

ドイツ語学

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 基礎ドイツ語Ⅰ 前期

全学教育 展開ドイツ語Ⅰ 前期

全学教育 基礎ドイツ語Ⅱ 後期

全学教育 展開ドイツ語Ⅱ 後期

〔論文〕

（単著）「"Zur semantischen Ueberlappung von ""Kausierung"" und ""Involviertheit"": Ein deutsch-japanischer Vergleich"」 『Yoshiyuki Muroi (ed.). Einheit in der Vielfalt? Germanistik zwischen Divergenz und Konvergenz: Asiatische Germanistentagung 2019 in Sapporo"』 742-749 2021 年 1 月

（単著）「"Ueber die Asymmetrie von ""Ursprung"" und ""Ziel"": Eine korpusbasierte Studie am Beispiel der Partikel- und Doppelpartikelverben der Fortbewegung mit fahren"」 『Linguisten-Seminar: Forum japanisch-germanistischer Sprachforschung』 3 巻 33-49 2021 年 3 月

〔会議の発表・講演〕

「"CAUSE und verwandte Satzkonstruktionen im Deutschen und Englischen: freier Dativ, lassen-Kausativ und have-Kausativ"」 口頭（一般）：日本独文学会語学ゼミナールオンライン・2020 2020 年 8 月

〔総説・解説記事〕

（共著）「[報告] 外国語学習に関する意識調査—ドイツ語学習者を対象としたアンケート調査で見えてきたこと」 『東北大学言語・文化教育センター年報』 5 号 5-13 202

〔科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）〕

若手研究 使役をめぐる諸構文の意味解釈とモノの存在論に関する日独対照研究 2020 年 4 月～2023 年 3 月 代表者

〔学術関係受賞〕

第 60 回ドイツ語学文学振興会奨励賞 授与機関:公益財団法人ドイツ語学文学振興会 2020 年 5 月

〔学会活動および外部機関における活動〕

日本独文学会 語学ゼミナール実行委員会 委員 2018 年 10 月～2021 年 2 月

日本独文学会 広報委員会 委員 2019 年 6 月～2021 年 2 月

〔その他〕

2020 年度留学生相談通訳支援者

SAUZEDDE BERTRAND（講師）

〔専門分野〕

言語学

日本語学

外国語教育

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 フランス語基礎Ⅰ 前期

全学教育 フランス語展開Ⅰ 前期

全学教育 フランス語基礎Ⅱ 後期

全学教育 フランス語展開Ⅱ 後期

全学教育 世界をめぐる一言葉と文化の旅 通年

〔論文〕

（共著）「Processus d' apprentissage de la phonétique du français langue étrangère」 『富山大学フランス語教育国際シンポジウム報告書』 202
（単著）「フランス語学習者の中間言語のリズムの分析について」 『日本フランス語フランス文学会『Nord-Est』掲載報告書』 202

〔学内活動〕

その他の主要活動 フランス交換留学面接委員 2016年4月～
その他の主要活動 東北大学留学生通訳支援者 2019年4月～

〔学内教職員支援〕

初修外国語授業の相互参観による授業改善プロジェクト（FD／SDの企画・運営）

〔学会活動および外部機関における活動〕

RPK 関西フランス語教育研究会 委員、会計管理者、IT 担当者 2012年6月～
東北大学フランス語フランス文学会 役員 2018年4月～

張 立波（講師）

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 「展開中国語Ⅲ」 1コマ 前期
全学教育 「展開中国語Ⅰ」 2コマ 前期
全学教育 「基礎中国語Ⅰ」 5コマ 前期
全学教育 「展開中国語Ⅳ」 1コマ 後期
全学教育 「展開中国語Ⅱ」 2コマ 後期
全学教育 「基礎中国語Ⅱ」 5コマ 後期

〔論文〕

（共著）「授業参観における観察シート導入の示唆」 『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 7号 239-248 2021年3月
（単著）「離合詞の学習習得の一考察」 『東北大学言語・文化教育センター年報』 6号 2021年3月

〔会議の発表・講演〕

「中国語における離合詞の学習習得の一考察」 口頭（一般）：中国語教育学会第18回全国大会 2020年6月

〔共同研究活動〕

ICTを活用し大学と語種を越えて行う「初修外国語の授業」の協働研究 国内 2020年4月～2023年3月

〔作品〕

（その他）「展開中国語Ⅲ・Ⅳ用ウェブテスト(グーグルフォームを用いた教科書に準拠した各課確認テスト)」 2021年3月31日
（その他）「展開中国語Ⅰ・Ⅱ用ウェブテスト(グーグルフォームを用いた教科書に準拠した各課確認テスト)」 2021年3月31日
（その他）「基礎中国語Ⅰ・Ⅱ用ウェブテスト(グーグルフォームを用いた教科書に準拠した各課確認テスト)」 2021年3月31日
（その他）「離合詞の学習データベースとしての離合詞レキシコン」 2021年3月31日

〔学内活動〕

その他の主要活動 学内人事企画部への翻訳支援 2020年1月～
その他の主要活動 学内人事企画部への翻訳支援 2020年4月～
その他の主要活動 国際文化研究科において、令和2年度博士論文審査及び最終試験委員 2020年9月～2021年1月

〔プロジェクト活動〕

中国語の離合詞について体系的な指導法の開発

〔教育相談〕

のべ相談人数1名

〔学会活動および外部機関における活動〕

全日本中国語スピーチコンテスト宮城県大会 審査員 2010年4月～

宿利 由希子（講師）

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

その他 中級日本語聴解 L400 後期
その他 初中級日本語会話 S300 後期
その他 初級日本語漢字・語彙 K201 後期
その他 日本語漢字・語彙?入門日本語漢字・語彙?(K102) 後期
その他 入門日本語総合 C110 後期

〔論文〕

（共著）「マンガ専門科目における留学生の日本語理解度調査」 『専門日本語教育研究』 22巻 33-40 202
（単著）「キャラと翻訳：登場人物たちを描写することばの変化（特集 ポップカルチャーの日本語）」 『日本語学』 40巻1号 92-101 2021年3月

〔科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）〕

若手研究 動作の描写による情報操作の危険性 2020 年 4 月～2023 年 3 月 代表者

粕壁 善隆（教授）

〔専門分野〕

物性 II

金属物性

無機材料・物性

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

学部教育 量子力学入門 3 セメスタ

学部教育 材料科学総合学 通年

大学院教育 金属フロンティア工学修士研修 通年

大学院教育 先端マテリアル物理化学セミナー 通年

大学院教育 材料表面界面科学 後期

〔論文〕

（共著）「"SYNTHESIS AND CHARACTERIZATION OF TITANIUM ALUMINIUM NITRIDE THIN FILMS DEPOSITED BY REACTIVE-CVD."」 『"Proc. 20th BIENNIAL European Conference on Chemical Vapor Deposition"』 2020 年 5 月

（共著）「Characterization of Growth Control in Ti1-xAlxN Thin Films on Monocrystalline AlN by Reactive CVD」 『QST Takasaki Annual Report 2019』 74-74 2021 年 3 月

〔その他の競争的資金獲得実績〕

（その他補助金 原子力機構施設利用共同利用研究）イオン注入法によるチタン・シリコン・アルミ窒化合物薄膜成長過程のその場観察 2018 年 4 月～2021 年 3 月

〔学内活動〕

全学委員会 学務審議会委員 2014 年 4 月～

全学委員会 安全保障輸出管理委員会委員 2014 年 4 月～

全学委員会 国際共同教育実施委員会委員長 2015 年 4 月～

全学委員会 自然科学系学生交流実施委員会委員長 2015 年 4 月～

全学委員会 国際共同大学院プログラム部門副部門長 2016 年 4 月～

全学委員会 学生生活支援審議会委員 2016 年 4 月～

全学委員会 国際学士コース入試小委員会委員長 2018 年 4 月～

全学委員会 国際学位コース（学部担当）小委員会委員長 2018 年 4 月～

全学委員会 国際戦略室運営会議学術交流協定ワーキンググループ 2020 年 4 月～

部局内委員会 紀要・出版委員会委員長 2018 年 4 月～

〔国際交流実績〕

アメリカ合衆国 ワシントン大学 授業料不徴収条項を含む学生交流協定締結 2014 年 8 月～

アメリカ合衆国 カリフォルニア大学 授業料不徴収条項を含む学生交流協定締結および短期派遣プログラムの実施 2015 年 10 月～

〔兼務、兼業など〕

学内 東北大学国際連携推進機構 教授 2017 年 4 月～

〔行政機関・企業・NPO等参加〕

独立行政法人日本学生支援機構 留学生交流支援制度（短期受入れ・短期派遣）実施委員会 委員 2012 年 4 月～

独立行政法人日本学生支援機構 留学生交流支援制度（短期受入れ・短期派遣）選考委員会 委員 2013 年 1 月～

独立行政法人日本学生支援機構 官民協働海外留学支援制度「トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム」選考委員会 委員 2014 年 10 月～

独立行政法人日本学生支援機構 官民協働海外留学支援制度「トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム」高校部門 選考委員会 委員 2016 年 10 月～

文部科学省 国費外国人留学生選考委員会国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム専門部会 委員 2018 年 9 月～

公益財団法人イオンワンパーセントクラブ 「イオンスカラシップ」奨学生選考委員会 委員 2020 年 4 月～2021 年 2 月

独立行政法人日本学生支援機構 留学生交流支援制度（短期受入れ・短期派遣）実施委員会 委員長 2020 年 4 月～

〔教育活動〕

コロナ禍によるオンライン授業ではあったが、「量子力学入門」（工学部生 70 名ほど）では、量子力学の学問体系の学修を第一としながら、量子力学の創世記の多くの研究者の国際交流、協定校のウィーン大学出身のシュレーディンガーが波動力学を確立したことなどを含めて、量子力学の創生の意義、相補性を基礎とした世界観等についても興味を持つよう工夫した。大学院科目：「材料表面界面科学」、「先端マテリアル物理化学セミナー」および研究室での「金属フロンティア工学修士研修」などを担当し、物性物理学、材料工学の発展に寄与するよう工夫した。理工系サマープログラム（TSSP）は、コロナ禍により中止となったが、次の開催に向けた科目・研修内容の充実を検討した。

〔大学運営・支援及び医療業務〕

UW-TU:アカデミックオープンスペース (AOS) の教育担当副代表として、コロナ禍により中止となった、ワシントン大学とのサマープログラム、学生派遣修学プログラム (COLABS) 等の教育プログラムの見直しと充実に努めた。

〔社会貢献〕

独立行政法人日本学生支援機構海外留学支援制度 (短期受入れ・短期派遣) 実施委員会委員長、及び同選考委員会委員として、国の留学生施策についての立案、提言、評価および学生選考等を行い、ニューノーマル時代を見据えた国の積極的な留学生施策に寄与した。官民協働海外留学支援制度「トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム」選考委員、さらに官民協働海外留学支援制度「トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム」高校部門選考委員として、日本の未来を担うグローバル人材となる学生育成の官民協働事業を推進した。文部科学省の国費外国人留学生選考委員会国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム専門部会の委員として国費留学生政策に貢献した。

末松 和子 (教授)

〔専門分野〕

異文化間教育、国際教育

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 異文化理解 前期

全学教育 課題解決型 PBL 演習 B「通年

全学教育 海外研修 (展開) 後期集中

大学院教育 多文化教育論概論 前期

大学院教育 多文化教育論特論 後期

大学院教育 多文化教育論研究演習 I&II

〔論文〕

(単著)「正課外国際交流における国際共修-正課に比した活動の特徴と学生の学びに着目して-」『留学生教育』 25 号 9-20 2020 年 12 月

(共著)「新型コロナウイルスの留学への影響と留学支援の課題-東北大学の事例-」『高度教養教育・学生支援機構紀要』第 7 号 91-100 2021 年 3 月

(共著)「ピアサポートによる留学生支援 -東北大学留学生ヘルプデスクの試み-」『高度教養教育・学生支援機構紀要』第 7 号 345-356 2021 年 3 月

〔会議の発表・講演〕

「正課外における国際交流活動の教育的意義と課題 -パイロット調査の分析と大規模調査に向けた展望-」口頭 (一般): 異文化間教育学会第 41 回大会 2020 年 6 月

「技能実習生の定着要因と課題に迫る -多文化共修社会の構築に向けた事例研究-」口頭 (一般): 異文化間教育学会第 41 回大会 2020 年 6 月

「東北大学における入学前海外研修プログラムの成果-入学後のグローバル人材育成の取り組み-」口頭 (一般): 第 25 回留学生教育学会年次大会 2020 年 9 月

「Be Global Project」Forum on Internationalization in Higher Education, Foreign Trade University, 2020 年 11 月 5 日 (日本時間)

「We can still make our classes diverse and interactive: Development of online intercultural collaborative learning classes」

口頭 (一般): AIEA Virtual Annual Conference 2021 2021 年 2 月

「Intercultural Collaborative Learning at Universities in Japan under/post Pandemic Transformation of International University Education under/post Covid-19 Pandemic: Dialogue between Europe and Japan」RIHE Open Seminar, 2021 年 3 月 1 日

〔科学研究費補助金獲得実績 (文科省・学振)〕

基盤研究(B) アジアの高等教育を牽引する「内なる国際化モデル」の開発 2018 年 4 月～2022 年 3 月 代表者

〔学内活動〕

総長特別補佐 (国際交流) 2018 年 4 月～

教育研究評議員 2019 年 6 月～全学委員会 人文・社会科学系学生交流実施委員会委員長 2011 年 10 月～

教育学研究科 兼務

全学委員会 短期派遣留学実施委員会委員長 2013 年 4 月～

全学委員会 学務審議会国際教育科目委員会委員長 2018 年 4 月～

全学委員会 学友会文化部副部長

全学委員会 DATEntre 基礎教育部会長

全学委員会 東北大学挑創カレッジ運営委員会 TGL 部会長

全学委員会 教育国際交流運営委員会

全学委員会 東北大学クロスアポイントメント室員

全学委員会 教務委員会

全学委員会 文系オアシス運営委員会

全学委員会 国際連携推進機構運営委員会

全学委員会 国際連携推進機構海外事務所連絡室会議委員

全学委員会 国際戦略室運営会議学術交流協定ワーキンググループ

部局内委員会 補佐会議、総務委員会、教務委員会

〔学会活動および外部機関における活動〕

留学生教育学会 理事 2015 年 4 月～

異文化間教育学会

日本比較教育学会

〔学外の社会活動〕

JAFSA オンライン研修「第 1 回 国際共修を实践から学ぶ -オンライン授業の導入で変わる学び、変わらない学び-」

JAFSA オンライン研修「第 2 回 国際共修を实践から学ぶ -オンライン授業の導入で変わる学び、変わらない学び-」

「オンラインでもできる！『国際共修』ワークショップ」 Summer Institute on International Education, Japan (SIIEJ) 2020 年 9 月

立命館アジア太平洋大学 グローバル教職員開発インスティテュート主催 FD「オンライン国際共修の実際と今後の課題」2020 年 10 月 1 日

聖ウルスラ学院英智高等主催講演会「アフターコロナにおける大学での学び」2020 年 10 月 29 日

神戸大学 大学教育推進機構主催 FD「学生の世界を広げるオンライン国際共修：教育実践における留意点」2020 年 11 月 16 日

東北地区国立大学法人等国際交流担当職員研修「ウィズコロナ時代における国際交流の在り方について」2021 年 1 月 28 日

広島大学高等教育研究開発センター主催研究会「コロナ禍・デジタル化がもたらす国際共修の新展開経験をどのように記録し、展開へと活かしていくのか？東北大学の事例を通して考える」2021 年 2 月 24 日

大阪経済法科大学 FD「国際共修で留学生と国内学生の学びの質を変える」2021 年 3 月 2 日

信州大学 FD「国際共修の潮流・東北大学の取組み：意味ある交流を学びに変えるには？」2021 年 3 月 23 日

〔行政機関・企業・NPO等参加〕

宮城県 多文化共生社会推進審議会 副委員長 2016 年 4 月～

公益財団法人宮城県国際化協会 評議会 評議員 2017 年 4 月～

宮城県 総合計画審議会 委員 2019 年 4 月～

渡邊 由美子（特任教授）

〔専門分野〕

地球宇宙化学

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 Seminar for developing the sustainable society 後期

全学教育 Life & Nature 後期

学部教育 日本の産業と科学技術 後期前半

〔その他教育上に関する活動〕

（その他）理学部・理学研究科地学専攻の学生の研究への助言

（学友会・同好会等の指導）理工系学部・研究科所属の学生のための国際交流団体 TUSTEM (Tohoku University STEM Students Network) 設立・

〔活動支援〕

（学友会・同好会等の指導）"国際交流 F.C.顧問"

〔論文〕

（共著）「"Microbial population structure in a stratified, acidic pit lake in the Iberian Pyrite Belt"」 『Geomicrobiology Journal』 2020 年 4 月

（共著）「ピアサポートによる留学生支援—東北大学留学生ヘルプデスクの試み—」 『東北大学高度教養教育・学生支援機構 紀要』 7 号 345-2021 年 3 月

〔共同研究活動〕

Origins of Organic Matters in Archean Era 研究相手先:アメリカ合衆国 "Penn State University, etc." 国外 2016 年 11 月～

〔学内活動〕

全学委員会 国際学士コース入試小委員会副委員長 2017 年 4 月～

全学委員会 国際学位コース運営委員会副委員長 2017 年 4 月～

〔教育相談〕

数値データ未登録

〔兼務、兼業など〕

学外 仙台第三高等学校 2017 年 6 月～

〔学外の社会活動〕

仙台第三高等学校 SSH 運営指導委員

仙台第三高等学校 東北大学留学生による理数科英語発表指導プロジェクト

仙台三高 理科研究国際大会発表チーム指導

SCHROEDER MARCIN JAN (特任教授)

(担当授業科目)

CB52312 (ZDN-MAT117E) Linear Algebra B.

CB23236 (ZDN-MAT 118E) Linear Algebra A

CB32405 (ZDN-MAT119E) Probability & Statistics

In Fall Semester 2020 (October) I offered 3 SUPPLEMENTARY SESSIONS IN LOGIC for new FGL students.

Also, I participated in Pre-Enrollment Summer Program for students preparing for study at FGL. My contribution was mainly to guide Teaching Assistants in their preparation for the mathematics sessions with students (selection of material and of exercises). Also, I participated in some Google Classroom meetings with future students.

(論文)

- Martinez, G.J., Adamatzky, A., Schroeder, M.J., The art of unconventional computing with cellular automata. In Adamatzky, A. (Ed.) LINKs Series, Special Issue 1, Unconventional Computing, 2021-02-02, pp. 87-92. Available online at <https://fliphtml5.com/xgdeo/bmox/basic/51-100>
- Schroeder, M.J., Dodig-Crnkovic, G. Contemporary Natural Philosophy and Philosophies—Part 2, Editorial. Philosophies 2020, 5, 22. Available at Philosophies | Free Full-Text | Contemporary Natural Philosophy and Philosophies—Part 2 (mdpi.com)
- Schroeder, M.J. Contemporary Natural Philosophy and Contemporary Idola Mentis. Philosophies, 2020, 5, 19. Available at: <https://www.mdpi.com/2409-9287/5/3/19/htm>
- Schroeder, M.J. Autonomy and the Perspectives of Its Artificial Implementation. Proceedings (MDPI), 2020, 47(1), 34. Available at: <https://www.mdpi.com/2504-3900/47/1/34>
- Schroeder M.J. Intelligent Computing: Oxymoron? Proceedings, 2020, 47(1), 31. Available at: <https://www.mdpi.com/2504-3900/47/1/31>
- Schroeder M.J. Equivalence, (Crypto) Morphism and Other Theoretical Tools for the Study of Information. Proceedings. 2020, 47(1), 12. Available at: <https://www.mdpi.com/2504-3900/47/1/12>
- Schroeder M.J., Dodig-Crnkovic G. Conference: Morphological, Natural, Analog and Other Unconventional Forms of Computing for Cognition and Intelligence, Berkeley 2019. Proceedings. 2020, 47(1), 22. (Editorial) Available at: <https://www.mdpi.com/2504-3900/47/1/22>
- Schroeder M.J., Dodig-Crnkovic, G., Burgin M. IS4SI SUMMIT Berkeley 2019. Proceedings. 2020, 47(1), 1. (Editorial) Available at: <https://www.mdpi.com/2504-3900/47/1/1>

(著書)

Dodig-Crnkovic, G., Schroeder, M.J., Gordana Dodig-Crnkovic (Eds.) Contemporary Natural Philosophy and Philosophies, Part 2. MDPI, 2020. Contemporary Natural Philosophy and Philosophies - Part 2 | MDPI Books

(社会貢献)

I continued my responsibilities in the following academic functions over the period of evaluation.

2015-present: Editor-in-Chief, Philosophies (MDPI, Basel)

<http://www.mdpi.com/journal/philosophies>

2019-present: President, International Society for Study of Information (is4si): is4si.org/about-is4si/organisation/board/

2018-present: Member of the Board of Special Interest Group on Natural Computing in

The Japanese Society for Artificial Intelligence: <https://www.ai-gakkai.or.jp/sig/sig-list/>

2018-present: Member of Advisory Board for Preprints.Org: https://www.preprints.org/advisory_board

2021- present: Topics Board Member of the journal Information (MDPI). Information (mdpi.com)

My contributions to academic community included in the period of evaluation the following:

I was preoccupied through the year with the preparation of the Biannual 2021 IS4SI Summit which this time will be a cluster of eleven conferences on the subject of Information Science in multiple perspectives. I successfully designed and planned the Summit, including the design of its website (IS4SI 2021). The Summit which is scheduled September 12-19, 2021 at the moment passed the stage of design and planning and entered the stage of implementation.

I was a member of the Program Committee for AISB 2020 – The Society for the Study of Artificial Intelligence and Simulation of Behavior 2020 Convention Communication and Conversation, scheduled in London, April 6, 2020, but postponed due to the outbreak of corona virus.

<https://aisb.org.uk/events/aisb-convention-2020-communication-and-conversation-non-members/>

In addition to my function of the Editor-in-Chief of Philosophies which requires that I have to make decision about every submission to be accepted for peer review and to be approved for publication, I serve regularly as peer reviewer for journals such as Entropy, Information, Mathematics, etc.Nurbosyn

高橋 美能 (准教授)

(担当授業科目 (他大学も含む))

全学教育 国際理解教育の実践 前期

全学教育 海外研修 通年集中

全学教育 留学生と日本人学生の協働プロジェクト 後期

大学院教育 多文化教育論特論 後期

【論文】

(共著)「国際共修の効能と課題・コミュニケーション能力の向上を図る3大学実践事例」『ウェブマガジン『留学交流』』2020年4月

(単著)「日本の大学における人権教育の実践と課題ー全国の人権教育実施調査を基にー」『人権教育研究』20巻 33-46 2020年6月

(単著)「多様なバックグラウンドを活かす国際共修授業の実践ーオンラインで実践する授業のメリットとデメリットー」『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』7号 79-90 2021年3月

(単著)「多様なバックグラウンドを持つ学生が共に学ぶ人権教育ー国際共修授業の効果と課題ー」『留学生交流・指導研究』23巻 93-106 2021年3月

(単著)「対面による国際共修授業の意義と効果ー新型コロナウイルス流行前の実践からー」『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』7号 331-343 2021年3月

【会議の発表・講演】

「オンラインでもできる!『国際共修』ワークショップ」 口頭(一般): "Summer Institute on International Education, Japan (SIEJ)" 2020年9月

「多様なバックグラウンドを生かす国際共修授業の実践ーオンラインで実施する授業のメリットとデメリット」 口頭(一般): 第25回留学生教育学会年次大会 2020年9月

「イギリスの学生と東北大生のオンライン交流の意義と効果ー双方の学生が共に取り組むプロジェクトを事例に挙げてー」 口頭(一般): 第9回留学生交流・研究指導研究会 2021年2月

【総説・解説記事】

(単著)「[文献・図書紹介]「多様性が拓く学びのデザイナー主体的・対話的に他者と学ぶ教養教育の理論と実践ー」」『異文化間教育』53号 188-189 2021年3月

【科学研究費補助金獲得実績(文科省・学振)】

基盤研究(B) アジアの高等教育を牽引する「内なる国際化モデル」の開発 2018年4月~2022年3月 分担者

若手研究(A) グローバル人材育成のための学際的ヒューマンライツ教育の創出ー日米英の比較を基にー 2019年4月~2022年3月 代表者

【学内活動】

全学委員会 短期派遣留学実施委員会 2013年4月~

全学委員会 高度教養教育・学生支援機構 教務小委員会 2019年12月~

【教育相談】

のべ相談人数 40名

【学会活動および外部機関における活動】

異文化間教育学会紀要編集委員会 委員 2019年6月~2021年6月

渡部 留美(准教授)

【専門分野】

教育学

【担当授業科目(他大学も含む)】

全学教育 グローバル・コミュニケーション「異文化理解実践」後期

全学教育 日本社会・文化A「仙台の商店街を活性化して仙台全体を盛り上げよう」後期

【その他教育上に関する活動】

(学友会・同好会等の指導) SCRUM(ボランティア団体)国際部(IDeS) 指導

(学友会・同好会等の指導) たなぼた(ボランティア団体) 顧問

(学友会・同好会等の指導) @home(国際交流団体) 顧問

【論文】

(共著)「東日本大震災の被災地での日米の大学生による国際共修プロジェクト-被災地に暮らす人々の魅力を発信する Humans of Minamisanriku」『言語教育実践「イマ×ココ」』8号 52-63 2020年12月

(共著)「ピアサポートによる留学生支援ー東北大学留学生ヘルプデスクの試みー」『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』7号 345-355 2021年3月

(共著)「大学の国際教育交流部署における非正規事務職員のキャリア形成ー国立大学法人に勤務する4名のライフストーリーからー」『留学生交流・指導研究』23号 51-64 2021年3月

【科学研究費補助金獲得実績(文科省・学振)】

基盤研究(C) 大学における国際教育交流スタッフの専門性とキャリア形成に関する実証的比較研究 2018年4月~2021年3月 代表者

【学内活動】

全学委員会 人文・社会科学系学生交流実施委員 2017年4月~

全学委員会 国際交流オアシス事業実施協力委員 2018年4月~

全学委員会 学生ボランティア活動支援委員会 2018年4月~

全学委員会 東北イノベーション人材育成プログラム「DATEntre」実施委員会 2018 年 7 月～
部局内委員会 施設整備委員 2018 年 4 月～

〔学会活動および外部機関における活動〕

国立大学留学生指導研究協議会 ジャーナル編集委員 2011 年 4 月～
(公財) 仙台観光国際協会 国際化専門委員会委員 2019 年 4 月～2021 年 3 月

〔学外の社会活動〕

京阪神地域留学生・研究者の家族の支援団体での活動

〔教育活動〕

オンラインプログラム (TUJP Online) 参加留学生 (特別訪問研修生) の受入れ: 2020 年 12～2021 年 1 月
交換留学生 (DEEP-Bridge, IPLA) 担当

渡部 由紀 (准教授)

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 海外研修 (基礎) 前期集中
全学教育 グローバル人材基礎演習 グローバルゼミ 前期
全学教育 国際教養 Japanese Universities and Students 後期
全学教育 海外研修 (基礎) 後期集中
全学教育 国際教養 Advanced Global Seminar 後期

〔論文〕

(共著) 「The Design, Implementation and Efficacy of an Online Virtual Exchange Program: Transitioning from an Overseas Exchange to a Virtual Exchange with a Partner University in the Age of COVID-19」 『Bulletin of the Institute for Excellence in Higher Education Tohoku University』 7 号 67-78 2021 年 3 月
(共著) 「新型コロナウイルスの留学への影響と留学支援の課題 ―東北大学の事例―」 『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 7 号 91-99 2021 年 3 月

〔会議の発表・講演〕

「技能実習生の定着要因と課題に迫る ―多文化共修社会の構築に向けた事例研究―」 口頭 (一般): 異文化間教育学会第 41 回大会 2020 年 6 月
「国際化は誰のために、何のために進めるのか? ―国際化評価指標から考える―」 その他: 国際教育夏季研究大会 2020 年 9 月
「大学と学生の国際化と知識外交: 高等教育の国際化における社会的責任と貢献という課題」 シンポジウム・ワークショップ・パネル (指名): 日本教育社会学会第 27 回大会 2020 年 9 月

〔科学研究費補助金獲得実績 (文科省・学振)〕

基盤研究(C) 大学国際化のマネジメント手法開発―大学経営と評価の視点から― 2020 年 4 月～2023 年 3 月 分担者
基盤研究(B) 地方創生に向けた地方地域大学の国際化に関する実証的研究―日本・韓国・台湾の比較― 2020 年 4 月～2024 年 3 月 代表者

〔その他の競争的資金獲得実績〕

(補助金、受託・共同研究費、寄附金以外の研究費) Promote Sustainability through Innovating University Teaching and Learning in East Asia 2020 年 4 月～2022 年 3 月

〔学内活動〕

全学委員会 短期派遣留学実施委員会委員 2018 年 4 月～
全学委員会 国際戦略室運営会議委員 2019 年 11 月～
全学委員会 国際戦略室戦略的国際パートナー運営委員会委員 2020 年 1 月～
部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構紀要・出版委員会委員 2018 年 4 月～

〔学内教職員支援〕

入試センターFD: 東北大学の国際化の取り組み (講師)

〔教育相談〕

のべ相談人数 25 名

〔教育活動〕

研究生 2 名

Nurbosyn Zhanpeisov (准教授)

〔論文〕

(共著) 「Theoretical DFT study on metal-organic frameworks for hydrogen storage」 『Research on Chemical Intermediates』 47 巻 1 号 157-168 2021 年 1 月

ROBERT MARTIN (准教授)

〔専門分野〕

生化学
生体生命情報学
細胞生物学
分子生物学

小池 武志 (准教授)

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 物理学B 前期
全学教育 物理学C 前期
全学教育 物理学A 後期
全学教育 基礎ゼミ 前期

〔論文〕

(共著) 「Triaxiality-related nuclear phenomena in the A ? 100 mass region」 『Journal of Physics: Conference Series』 1555 巻 1 号 2020 年 5 月

〔兼務、兼業など〕

学内 東北大学大学院理学研究科 2017 年 4 月～
学内 理化学研究所 客員研究員 2018 年 4 月～
学内 東北医科薬科大学 非常勤 講師 2017 年 4 月～

〔行政機関・企業・NPO等参加〕

三春「実生」プロジェクト 役員 2011 年 6 月～

DAHAN XAVIER (准教授)

〔専門分野〕

計算機代数

〔担当授業科目〕

全学教育 解析学 A 後期
全学教育 解析学 B 前期
全学教育 解析学 C 後期
全学教育 解析概要 後期

〔論文〕

(単著) 「On a non-Archimedean Broyden method」 『"Proceedings of the 45th International Symposium on Symbolic and Algebraic Computation, ISSAC 2020"』 114-121 2020 年 7 月

(共著) 「The effects of coating culture dishes with collagen on fibroblast cell shape and swirling pattern formation」 『Journal of Biological Physics』 46 号 351-369 2020 年 8 月

(共著) 「On a non-Archimedean Broyden method」 In Proceedings of ISSAC'20 pp:114-121 (2020), ACM Press.

〔会議の発表〕

On a non-Archimedean Broyden method (ISSAC'20, online July 2020)

米澤 由香子 (准教授)

〔専門分野〕

教育社会学

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 国際教養 前期
全学教育 グローバル人材基礎演習「グローバルゼミ」 前期
全学教育 課題解決型演習 B 後期
全学教育 グローバル人材基礎演習「グローバルゼミ」 後期

〔その他教育上に関する活動〕

(その他) 東北大学挑創カレッジ「東北大学グローバルリーダー育成プログラム (TGL プログラム)」

〔会議の発表・講演〕

口頭 (一般) : AIEA Virtual Annual Conference 2021 2021 年 2 月

〔科学研究費補助金獲得実績 (文科省・学振)〕

基盤研究(C) 大学における国際教育交流スタッフの専門性とキャリア形成に関する実証的比較研究 2018 年 4 月～2021 年 3 月 分担者

基盤研究(B) アジアの高等教育を牽引する「内なる国際化モデル」の開発 2018年4月～2022年3月 分担者

基盤研究(C) 大学国際化マネジメントにおける上級管理職と組織連携に関する実証的研究 2020年4月～2023年3月 代表者

〔学内活動〕

全学委員会 国際戦略室幹事会メンバー 2018年4月～

全学委員会 国際教育科目委員 2019年4月～

全学委員会 TGL 部会委員 2019年4月～

〔学内教職員支援〕

全学教育科目・国際教育科目における国際共修ゼミの授業計画支援（ガイドライン作成）（FD／SDの企画・運営）

国際共修ゼミに関するFD（FD／SDの企画・運営）

入試センターFD（FD／SDの企画・運営）

〔学外の社会活動〕

JAFA オンライン研修「第1回 国際共修を实践から学ぶ・オンライン授業の導入で変わる学び、変わらない学び」

"Summer Institute on International Education, Japan"

JAFA オンライン研修「第2回 国際共修を实践から学ぶ・オンライン授業の導入で変わる学び、変わらない学び」

〔その他〕

高度教養・学生支援機構内での組織間連携として、学習支援センターのアカデミックライティング支援を TGL プログラム関連授業に組み込むことや、キャリア支援センターとの協力によりグローバル人材に関する企業調査を実施するなどした。

TGL プログラムの発展に関連し、グローバルリーダー認定を受けた学生の有志からなる学生団体 TGLCA（TGL プログラムコミュニティアンバサダー）を発足させた。

国際共修ゼミの発展のために、国際共修ゼミを履修し経験の豊富な高学年学生からなる学生団体国際共修学生サポートチームを発足させた。

坂本 友香（特任准教授）

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 海外研修（基礎） 後期集中

全学教育 日本社会・文化B 前期

全学教育 海外研修（展開） 後期集中

〔その他教育上に関する活動〕

（その他）授業担当： ・新型コロナウイルスの世界的大流行の影響を受け、前期は海外研修（現地派遣型）を実施しなかった。後期には全学教育科目「海外研修（展開）」を担当し、カナダオンライン研修プログラムの企画・運営、事前研修における学生指導を行った。また、英語で開講する「宮城の伝統文化を通じた日本理解」（前期、受講生約30名）を担当し、外国人留学生向け科目提供及び国際共修授業科目開講にも貢献した。 教育支援活動： ・留学希望者に対し、アドバイジングを実施。 ・本学の留学経験者が留学希望者及び留学予定者を支援するグローバルキャンパスサポーターの活動（13名雇用）のアドバイザーを務め、大学の国際化に貢献。

〔その他研究活動〕

（フィールドワーク）大学における国際教育交流スタッフの専門性とキャリア形成に関する実証的比較研究

〔学内活動〕

その他の主要活動 大学運営活動（グローバルラーニングセンター） 2017年4月～

〔学外の社会活動〕

海外の高校生による東北大学訪問受け入れ

南山大学教職員SD

山形東高等学校生徒と東北大学生、海外協定校学生との異文化理解セミナー

国際教育交流担当者のキャリアについて考える

新見 有紀子（講師）

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 日本社会・文化B 前期前半

全学教育 グローバル人材基礎演習 前期

全学教育 グローバル人材基礎演習 後期

全学教育 課題解決型（PBL）演習B 後期

全学教育 日本社会・文化A 後期

〔その他教育上に関する活動〕

（その他）文系ショートプログラム TUJP(Tohoku University Japanese Program)のコーディネーター

（その他）文系交換留学プログラム IPLA 学生のアドバイザー

（その他）学友会旅行研究会顧問

〔論文〕

〔共著〕「Japan: Decline of Doctoral Applicants?Crisis for Innovation?」 『International Higher Education』 105号 27-28 2021年1月

〔共著〕「研究者の海外経験と学際的な研究活動—国立の研究大学所属研究者へのアンケート調査の結果から—」 『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 7号 177-190 2021年3月

〔共著〕「ピアサポートによる留学生支援 —東北大学留学生ヘルプデスクの試み—」 『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 7号 345-355 2021年3月

〔共著〕「ポストコロナに向けた国際教育交流・情報通信技術（ICT）を活用した新たな教育実践より」 『留学交流』 120巻 26-41 2021年3月

〔会議の発表・講演〕

「技能実習生の定着要因と課題に迫る —多文化共修社会の構築に向けた事例研究—」 口頭（一般）：異文化間教育学会第41回大会 2020年6月

「高校時代の国際的な経験と高校卒業後の海外留学の関連性—国際教育の高大連携に向けて」 口頭（一般）：異文化間教育学会第41回大会 2020年6月

「若手大学教員が持つ自身の国際経験の意味—協働オートエスノ グラフィー」 口頭（一般）：第25回留学生教育学会・年次大会 2020年9月

「コロナ禍での国際教育交流の課題と方策を考える」 その他：異文化間教育学会企画セミナー 2020年11月

「"The New Frontier of Study Abroad from Japan: Policies, Impact and Program Development for Non-traditional Programs"」 口頭（一般）：The 17th Annual Conference of the Forum on Education Abroad 2021年3月

〔科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）〕

国際共同研究加速基金・国際共同研究強化（B） 日本メキシコ双方向の長期的留学成果～政府文化外交50年の分析 2018年10月～2023年3月 分担者

若手研究 国際的な学習活動における高大接続の進展に向けた基礎的研究 2020年4月～2023年3月 代表者

基盤研究(B) 「大学の国際化」を担う専門教職員の養成メカニズムに関する国際比較研究 2020年4月～2024年3月 分担者

〔学内活動〕

全学委員会 人文・社会科学系学生交流実施委員会委員 2019年4月～

全学委員会 日本語研修教育実施委員会委員 2020年4月～

部局内委員会 倫理委員会委員 2019年10月～

〔学内教職員支援〕

令和2年度学生生活支援審議会FD（第1回）（講師）

〔学会活動および外部機関における活動〕

異文化間教育学会 若手交流委員副委員長 2017年6月～

〔学外の社会活動〕

特定非営利活動法人 JAFSA 初任者研修

林 聖太（特任助教）

〔学内活動〕

その他の主要活動 大学運営活動（グローバルラーニングセンター） 2018年11月～

〔学会活動および外部機関における活動〕

留学生教育学会(JAISE) 理事補佐 2018年11月～

仙台すずめ踊りの会 歴史研究専門委員 委員 2019年3月～

官民協働海外留学支援制度選考委員会 トビタテ専門選考委員 2019年10月～

中村 教博（教授）

〔専門分野〕

地質学

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 "自然科学総合実験-1,-2" 前期

全学教育 ビッグヒストリーで紡ぐ社会と自然科学 前期

全学教育 みせる、学び：大学で何を学んだの？どう役に立つの？ 6セメスタ

全学教育 文科系のための自然科学総合実験 2セメスタ

全学教育 "自然科学総合実験-1,-2" 後期

全学教育 ビッグヒストリーで紡ぐ社会と自然科学 後期

全学教育 Global 30 Introductory Science experiment 3セメスタ

全学教育 遊学：ためして、つなげて、ふりかえる 2セメスタ

大学院教育 課題研究 通年

大学院教育 工学研究科原子力規制人材育成事業「活断層の基本知識」 後期

大学院教育 地殻力学Ⅱ 後期

〔学位論文指導・審査〕

博士 2 名（副査 2 名）、修士 3 名（副査 3 名）

〔論文〕

（共著）「Paleomagnetic dating of wave-emplaced boulders」 『Geological Records of Tsunamis and Other Extreme Waves』 777-793 2020 年 7 月

（共著）「Eustatic, Climatic and Tectonic Controls on the Evolution of a Middle to Late Holocene Coastal Dune System in Shimokita, Northeast Japan」 『Geosciences』 10 巻 10 号 410-410 2020 年 10 月

〔会議の発表・講演〕

「教養教育における統合科学としてのビッグヒストリー」 口頭（一般）：日本地球惑星科学連合大会・小・中・高等学校、大学の地球惑星科学教育・2020 年 5 月

「ラマン分光と岩石磁気学による断層ガウジの古応力分析」 口頭（一般）：日本地球惑星科学連合大会・地磁気・古地磁気・岩石磁気・2020 年 7 月

「ラハール堆積物の定置年代の 推定とナノバブルを用いた還元化 学消磁の試み」 口頭（一般）：地球電磁気・地球惑星圏学会 2020 年 11 月

〔科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）〕

基盤研究(C) 地磁気による津波性巨礫・断層破碎帯の活動年代法の実用化 2018 年 4 月～2021 年 3 月 代表者

基盤研究(B) 還元環境堆積物からの古地磁気強度変動の高解像度復元 2019 年 4 月～2023 年 3 月 分担者

〔学内活動〕

全学委員会 学務審議会実験科目委員会 2016 年 4 月～

全学委員会 学務審議会基礎ゼミ委員会委員長 2019 年 4 月～

全学委員会 全学教育改革推進会議 2019 年 4 月～

全学委員会 全学教育改革対応委員会 2020 年 4 月～

部局内委員会 高教機構 施設整備委員会委員長 2017 年 4 月～2021 年 3 月

その他の主要活動 学友会バスケット顧問 2018 年 12 月～

〔学内教職員支援〕

理学研究科教育 FD「事例からみる対面・オンライン併用型授業の利点と課題」（講師）

教育情報・評価改善委員会主催、全学教育 FD「オンラインでの自然科学総合実験」（講師）

〔兼務・兼業など〕

学内 理学研究科地学専攻 教授（兼任） 2016 年 4 月～

〔教育活動〕

学振特別研究員、留学生、社会人、ポスドク等の受け入れ状況 なし

〔大学運営・支援及び医療業務〕

教育内容開発部門長、基礎ゼミ委員会委員長、全学教育改革検討委員会委員、教務委員会委員、実験科目委員会委員、カレントトピックス委員会委員を拝命

〔その他〕

理学部教育 FD 講師担当

全学教育 FD 講師担当

中川 学（准教授）

〔専門分野〕

日本近世史

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 人間と文化 前期

全学教育 memento mori —死を想え— 1 セメスタ

全学教育 基礎ゼミ「大学での学びのいろは」 前期集中

全学教育 歴史と人間社会 後期

全学教育 東北大学のひとびと 2 セメスタ

全学教育 遊学：ためして、つないで、ふりかえる 2 セメスタ

〔論文〕

（共著）「オンライン授業の現状と学生の評価—基礎ゼミ受講者へのアンケート結果を中心に—」 『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 7 号 3-22 2021 年 3 月

〔総説・解説記事〕

（単著）「2019 年の歴史学界—回顧と展望—近世」 『史学雑誌』 129 巻 5 号 2020 年 7 月

（共著）「学び方を学ぶためのオンライン基礎ゼミ」 『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 7 号 101-108 2021 年 3 月

〔共同研究活動〕

賀茂別雷神社文書の調査・研究 東京大学史料編纂所・日本史史料の研究資源化に関する研究拠点 国内 2018 年 4 月～

〔学内活動〕

全学委員会 広報連絡委員 2013 年 4 月～
全学委員会 学務審議会委員 2016 年 4 月～
全学委員会 学務審議会基礎ゼミ委員会委員 2017 年 4 月～
全学委員会 学務審議会基幹科目委員会委員 2017 年 4 月～
部局内委員会 学術資源研究公開センター運営専門委員会・史料館部会委員 2014 年 4 月～
部局内委員会 総務委員会委員 2017 年 4 月～
部局内委員会 広報小委員会委員長 2017 年 4 月～
部局内委員会 教務小委員会委員 2019 年 4 月～2021 年 3 月
その他の主要活動 学際融合教育推進センター・副センター長 2017 年 4 月～

〔学会活動および外部機関における活動〕

宮城歴史科学研究会 委員 2009 年 4 月～
東北史学会 評議員 2013 年 10 月～

〔兼務、兼業など〕

学内 東北大学史料館 兼務教員 2010 年 4 月～

〔行政機関・企業・NPO等参加〕

NPO 法人・宮城歴史資料保全ネットワーク 理事 2014 年 5 月～

山内 保典 (准教授)

〔専門分野〕

認知科学
科学社会学・科学技術史
科学教育

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 基礎ゼミ (大学での学びのいろは)
全学教育 AI をめぐる人間と社会の過去・現在・未来 後期
全学教育 みせる、学び：大学で何を学んだの？どう役に立つの？ 後期
全学教育 汎用的技能ワークショップ：認知的能力 後期
全学教育 科学と情報 後期
全学教育 遊学：ためして、つなげて、ふりかえる 後期
学部教育 人文社会科学総合 前期集中
大学院教育 科学技術社会論実践演習 前期集中

〔その他教育上に関する活動〕

(その他) EARTH on EDGE (挑創カレッジ TEL プログラム) への参画
(教科書・教材の開発) 著作権教材の作成

〔論文〕

(共著) 「オンライン授業の現状と学生の評価 ―基礎ゼミ受講者へのアンケート結果を中心に―」 『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 7 巻 3-21 2021 年 3 月

〔総説・解説記事〕

(共著) 「学習・研究倫理教育のツボ」 『化学』 75 巻 5 号 11-11 2020 年 4 月
(共著) 「余計なことからはじめよう ―教養教育における「挑戦と創造」を促す授業の提案―」 『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 7 巻 243-255 2021 年 3 月
(共著) 「学び方を学ぶためのオンライン基礎ゼミ」 『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 7 巻 101-108 2021 年 3 月

〔科学研究費補助金獲得実績 (文科省・学振)〕

基盤研究(C) 「個別支援×集団研修」のハイブリッド型小学校理科指導力向上プログラムの開発 2017 年 4 月～2021 年 3 月 分担者
基盤研究(A) 知のオープン化時代の大学・科学関連システムの再構築 2019 年 4 月～ 分担者

〔学内活動〕

全学委員会 公正な研究活動推進室 2016 年 4 月～
全学委員会 教育情報・評価改善委員会 2017 年 4 月～
全学委員会 基礎ゼミ委員会 2018 年 4 月～
全学委員会 学問論群準備部会 2021 年 1 月～
部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構 研究倫理委員会 2016 年 4 月～

〔学内教職員支援〕

機構正午 PD の企画・運営 (FD/S D の企画・運営)

研究公正アドバイザー向けワークショップ (FD/SDの企画・運営)
研究公正アドバイザー向けワークショップ (FD/SDの企画・運営)
R2 東北大学全学教育 FD 話題提供 (講師)

〔プロジェクト活動〕

社会にインパクトある研究「心に豊かさを灯す社会の創造」
人の幸せを大切にする IoT 社会のデザイン

〔学外の社会活動〕

宮城第一高等学校探究活動アドバイザー

宮岡 礼子 (総長特命教授)

〔専門分野〕

幾何学

〔その他教育上に関する活動〕

(その他) 特別セミナー

(その他) 合同セミナー

〔論文〕

(単著) 「Moment maps and isoparametric hypersurfaces of OT-FKM type」 『Science China Mathematics』 2020 年 9 月

〔共同研究活動〕

ガウス写像の除外値問題 名古屋大学 国内 2003 年 9 月～

ラグランジュ交叉とフレアホモロジー 研究相手先:中国 清華大学 国外 2014 年 6 月～

〔国際交流実績〕

中国 復旦大学 交流協定締結, 交換講義継続中 2007 年 12 月～

中国 南開大学 Chern Institute of Mathematics 2011 年 12 月～

イギリス King's College London 2012 年 12 月～

〔学会活動および外部機関における活動〕

日本学術会議 連携会員 2006 年 5 月～

女性科学者に明るい未来をの会 評議員 2012 年 4 月～

科学技術振興機構 CREST 領域アドバイザー 2014 年 6 月～

科学技術振興機構 さきがけ領域アドバイザー 2014 年 6 月～

明治大学先端数理インスティテュート 現象数理学研究拠点運営委員 2014 年 7 月～

韓国数学会 数学雑誌 編集委員 2016 年 2 月～

〔兼務、兼業など〕

学外 日本学術会議 連携会員 2014 年 10 月～2020 年 9 月

学外 科学技術振興機構 さきがけ及び CREST 領域アドバイザー 2014 年 6 月～

学外 明治大学先端数理科学インスティテュート MIMS 共同利用・共同研究拠点運営委員 2014 年 7 月～

学外 女性科学者に明るい未来をの会 選考委員 2011 年 6 月～

学外 放送大学 非常勤講師 2018 年 10 月～

学外 文部科学省 科学技術・学術政策研究所 科学技術予測センター 専門調査員 2018 年 4 月～

米倉 等 (総長特命教授)

〔専門分野〕

農業開発論

開発経済学

地域研究

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 歴史と人間社会 1 セメスタ

学部教育 開発経済学 5 セメスタ

学部教育 農業経済学演習 5 セメスタ

学部教育 現代における農と農学 1 セメスタ

学部教育 農学と社会・環境 1 セメスタ

学部教育 理論経済学Ⅱ 4 セメスタ

大学院教育 国際資源政策学特論 MC 1 年前期

大学院教育 国際資源開発史 DC 1 年 1 学期

大学院教育 特別研修 MC 2 年通年

大学院教育 特別研修 DC3年通年

〔その他教育上に関する活動〕

(教育方針の実践例) ヒューマンセキュリティプログラム実施

〔学内活動〕

その他の主要活動 ヒューマンセキュリティ・プログラム世話人 2005年4月～

〔国際交流実績〕

インドネシア ガジャマダ大学 日本学術振興会・拠点大学事業による、ガジャマダ大学農学部社会経済学科との共同研究を実施した、このことを契機に大学間協定を結ぶことになった。2006年12月、工学部、農学部が世話部局となり大学間協定を締結した。2012年、農学研究科が主世話部局となり大学間協定を延長した。2006年12月～

インドネシア ハサスディン大学農学部 部局間協定締結に際し、世話人の一人として、主担当の鳥山教授をサポート。2015年2月～

インドネシア ブラウィジャヤ大学 大学間協定、行政経営学部とリンケージプログラム(ダブルディグリー)実施。2014年9月大学間協定締結。2015年10月よりリンケージマスタープログラム再開。2015年9月～

インドネシア パジャジャラン大学 2010年同大学大学院(Pasca Sarjana)と部局間協定締結、2015年その延長に際し、医学研究科と連携し大学間協定に格上げとした。2015年9月～

インドネシア ボゴール農科大学 2011年3月大学間協定締結、2015年延長手続き。2015年9月～

〔学会活動および外部機関における活動〕

日本農業経済学会 副会長 2014年4月～

〔学外の社会活動〕

仙台二華中学校・高等学校 スーパーグローバルハイスクール

〔行政機関・企業・NPO等参加〕

国際協力機構 食料安全保障政策立案・実施支援プロジェクト アドバイザー 2005年8月～

鈴木 岩弓 (総長特命教授)

〔専門分野〕

宗教学・死生学

〔学会活動および外部機関における活動〕

日本民俗学会 会長 2018年10月～2020年10月

日本宗教学会 常務理事 2001年9月～

日本スピリチュアルケア学会 設立時理事 2019年9月～2020年11月

日本スピリチュアルケア学会 業務執行理事 2020年11月～

日本臨床宗教師会 理事 2018年3月～

〔兼務、兼業など〕

放送大学 客員教授 2016年4月～

国立歴史民俗博物館 運営委員会 委員 2014年4月～

〔行政機関・企業・NPO等参加〕

みやぎ県南中核病院倫理委員会 倫理委員 2018年4月～

〔会議の発表・講演〕 東北臨床宗教師会講演

2020.07.11 「イエスキリスト時代の死者のゆくえ」 令和2年度東北臨床宗教師会研修会特別講演、Zoom 講演

2020.09.16 「面白くなければ人世じゃない！-好奇心のすすめ-」 白石中学校親子活動講演会、白石市立白石中学校

2020.12.06 「柳田國男の残した宿題」 山陰民俗学会年会、松江テルサ

2021.02.08 「イエスキリスト時代の死者のゆくえ」 浄土宗 共生・心の会講演、Zoom 講演

2021.02.10 「日本人の死生観」 東北大学スマート・エイジング・カレッジ東京第1期、Zoom 講演

2021.03.06 「創造的復興としての『臨床宗教師』-日本宗教史の転換点-」 市民向け公開シンポジウム「大震災と復興の行方」、Zoom 講演

2021.03.09 「流行病の宗教民俗」 神道国際学会「神々と伝染病Ⅱ」サビアタワー関西大学会議室

〔担当授業〕

総合科目 memento mori ―死を想え― (一セメ 火 5)

文学の世界 文学者の見た「死」-日本人の死生観- (二セメ 月 4)

カレントトピックス 年中行事からみた日本文化 (二セメ 月 5)

カレントトピックス 日本の民間信仰 (二セメ 火 2)

水野 健作 (総長特命教授)

〔専門分野〕

機能生物化学

細胞生物学

医化学一般

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 生命と自然 (エッセンシャル現代生命科学) 前期 (2 コマ)

全学教育 生命と自然 (エッセンシャル現代生命科学) 後期 (2 コマ)

全学教育 展開ゼミ (がんと老化の生物学) 後期 (1 コマ)

〔論文〕

(共著) 「The Rho-guanine nucleotide exchange factor Solo decelerates collective cell migration by modulating the Rho-ROCK pathway and keratin networks」 『Mol. Biol. Cell』 31 巻 741-752 2020 年 4 月

(共著) 「Roles of TOG and jelly-roll domains of centrosomal protein CEP104 in its functions in cilium elongation and Hedgehog signaling」 『J. Biol. Chem.』 295 巻 43 号 14723-14736 2020 年 10 月

(共著) 「PLEKHG4B enables actin cytoskeletal remodeling during epithelial cell-cell junction formation」 『J. Cell Sci.』 134 巻 2 号 JCS249078- 2021 年 1 月

〔会議の発表・講演〕

「PLEKHG4B regulates actin cytoskeletal reorganization at cell-cell junctions through Rac1 and Cdc42 activation」 シンポジウム・ワークショップ・パネル (公募) : 第 72 回日本細胞生物学会大会 2020 年 6 月

「Functional analysis of RhoGEF, Solo involved in mechanoresponse through cell adhesion」 シンポジウム・ワークショップ・パネル (指名) : 第 72 回日本細胞生物学会大会 2020 年 6 月

「PLEKHG4B is a novel Rho-GEF regulating actin cytoskeletal remodeling during epithelial cell-cell junction formation」 口頭 (一般) : 第 43 回日本分子生物学会年会 2020 年 12 月

「Function of Solo, a RhoGEF, regulating the interplay of actin and keratin filaments reorganization」 シンポジウム・ワークショップ・パネル (指名) : 第 43 回日本分子生物学会年会 2020 年 12 月

〔科学研究費補助金獲得実績 (文科省・学振)〕

基盤研究(B) 増殖抑制シグナル依存的な一次繊毛形成機構の解明 2018 年 4 月～2021 年 3 月 代表者

〔学内活動〕

全学委員会 学務委員会委員 2020 年 4 月～2020 年 9 月

その他の主要活動 青葉理学振興会理事 2011 年 4 月～

〔学会活動および外部機関における活動〕

日本生化学会 評議員 2001 年 4 月～

日本細胞生物学会 代議員、理事 2015 年 4 月～

東レ科学振興会選考委員会 委員 2018 年 4 月～2021 年 3 月

高木 泉 (総長特命教授)

〔専門分野〕

偏微分方程式

〔著書〕

『代数学 第 2 巻』内田老鶴圃 2020 年 4 月

〔学内活動〕

全学委員会 学務審議会委員 2017 年 10 月～

〔学会活動および外部機関における活動〕

公益財団法人アジア生命保険振興センター 理事 2012 年 6 月～

公益財団法人 川井数理科学財団 監事 2016 年 6 月～

関根 勉 (教授)

〔専門分野〕

放射化学

原子力学

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 文科系のための自然科学総合実験 1 セメスタ

全学教育 化学 B 1, 2 セメ

大学院教育 放射化学特論 IA

大学院教育 先端理化学特論 IB

他大学 放送大学 1, 2セメ

他大学 基礎化学 前期

他大学 化学 2セメスタ

〔学位論文指導・審査〕

修士 5 名（主査 1 名、副査 4 名）

〔論文〕

（共著）「"Incorporation and Accumulation of Strontium-90 in the Hard Tissue of Animals and Their Relationship with Strontium-90 Pollution in the Environment, Incorporation and Accumulation of Strontium-90, , Chap 5 in "Low-Dose Radiation Effects on Animals and Ecosystem - Long-Term Study on the Fukushima Nuclear Accident ?"」 『Low-Dose Radiation Effects on Animals and Ecosystem - Long-Term Study on the Fukushima Nuclear Accident ?』 53-62 202

（共著）「Analysis of Ovaries and Fertilities in Domestic Animals Affected by the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant Accident」 『Low-Dose Radiation Effects on Animals and Ecosystem - Long-Term Study on the Fukushima Nuclear Accident ?』 113-123 202

（共著）「The Effect of Radiation on the Immune System in Pigs Affected by the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant Accident」 『Low-Dose Radiation Effects on Animals and Ecosystem - Long-Term Study on the Fukushima Nuclear Accident ?』 139-151 202

（共著）「Transgenerational Effects on Calf Spermatogenesis and Metabolome Associated with Paternal Exposure to the Fukushima Nuclear Power Plant Accident」 『Low-Dose Radiation Effects on Animals and Ecosystem - Long-Term Study on the Fukushima Nuclear Accident ?』 124-138 202

（共著）「External exposure dose estimation by electron spin resonance technique for wild Japanese macaque captured in Fukushima Prefecture」 『Radiation Measurements』 134 巻 106315- 2020 年 6 月

〔学内活動〕

全学委員会 実験科目委員会計画委員会委員 2006 年 4 月～2021 年 3 月

その他の主要活動 東北大学サイクロトロンラジオアイソトープセンター課題採択部会委員 2001 年 4 月～2021 年 3 月

〔学内教職員支援〕

自然科学総合実験のための教員・TA ガイダンス（FD／SD の企画・運営）

〔プロジェクト活動〕

放射線の健康影響に係る研究調査事業(環境省)

〔学会活動および外部機関における活動〕

日本化学会学術賞・進歩賞選考委員会 委員 2019 年 4 月～2020 年 12 月

〔兼務、兼業など〕

学内 東北大学大学院理学研究科化学専攻 教授 2006 年 1 月～2021 年 3 月

学外 放送大学 非常勤講師 2017 年 4 月～

学外 宮城県 女川原子力発電所環境測定技術会委員 1991 年 4 月～

〔行政機関・企業・NPO等参加〕

宮城県 環境放射能監視検討委員会 委員 1991 年 4 月～

宮城県 女川原子力発電所環境調査測定技術会 委員 1991 年 5 月～

宮城県 女川原子力発電所 2 号機の安全性に関する検討会 構成員 2014 年 10 月～2020 年 7 月

宮城県 環境放射線等監視業務技術課題検討会 アドバイザー 2019 年 9 月～

芳賀 満（教授）

〔専門分野〕

史学一般

考古学

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 基礎ゼミ「ユーラシア大陸から考える?反「大勢」の視点の重要性」 1 セメスタ

全学教育 Japanese Art History 前期

全学教育 History of Art in Ancient Eurasia: Diffusion of Classical Greek Art into Central Asia

全学教育 展開ゼミ「ギリシア・ローマ美術と仏教美術～神々の変容を追う」 後期

全学教育 カレントトピックス「アジアを感じよう、考えよう」 後期

その他 History of Art in Ancient Eurasia: Diffusion of Classical Greek Art into Central Asia 後期

〔科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）〕

基盤研究(B) 「先端技術を用いた中央アジアの環境・シルクロード交流の総合的調査研究」 2011 年 4 月～ 分担者

(挑戦的萌芽研究 ディオニュソスを中心としたギリシア・ローマ図像のアジアへの伝播・吸引の研究 2012 年 4 月～ 代表者

〔学内活動〕

全学委員会 基幹科目担当教員会議委員 2010 年 4 月～
全学委員会 G30 全学教育授業担当者会議委員 2010 年 4 月～
全学委員会 学務審議会委員 2012 年 4 月～
全学委員会 附属図書館商議会商議員 2012 年 4 月～
全学委員会 東北大学附属図書館本館学生用図書選書委員会 2012 年 4 月～
全学委員会 学術情報整備検討委員会委員 2013 年 4 月～
全学委員会 学術情報資料選定小委員会委員 2013 年 4 月～
全学委員会 教員選考業績評価指針作成検討WG 委員 2014 年 4 月～
全学委員会 学務審議会 全学教育科目委員会 基礎ゼミ委員会 委員長 2014 年 4 月～
全学委員会 学務審議会 全学教育科目委員会 基幹科目委員会 委員 2014 年 4 月～
全学委員会 学務審議会 全学教育科目委員会 人文科学委員会 委員 2014 年 4 月～
全学委員会 学務審議会 高度教養教育開発検討ワーキング・グループ 委員 2015 年 5 月～
全学委員会 東北大学 附属図書館 学術情報資料選定小委員会 分野別(人文) WG 2015 年 6 月～
全学委員会 東北大学生命科学研究科 浅虫海洋生物学教育研究センター 運営委員会 委員 2015 年 7 月～
全学委員会 東北大学生命科学研究科 浅虫海洋生物学教育研究センター 共同利用協議会 委員 2015 年 7 月～
全学委員会 日本学国際共同大学院プログラム構想委員会 「日本学国際共同大学院検討WG」委員 2016 年 4 月～
全学委員会 学務審議会「研究倫理教育の開発検討ワーキング・グループ」 委員 2016 年 5 月～
部局内委員会 大学教育支援センター (CPD)、コア会議委員 2011 年 4 月～
部局内委員会 大学教育支援センター (CPD) プログラム実施部門長 2012 年 4 月～
部局内委員会 大学教育支援センター (CPD)、部門長会議委員 2012 年 4 月～
部局内委員会 総務委員会 委員 2014 年 4 月～
部局内委員会 活動データベース作成及び要覧の見直しWG 委員 2014 年 4 月～
部局内委員会 紀要編集委員会 委員長 2015 年 4 月～
部局内委員会 図書・資料委員会 委員長 2015 年 4 月～
その他の主要活動 社会・人文科学短期留学生受入プログラム実施委員会委員 2010 年 4 月～

〔学内教職員支援〕

大学教育支援センター (CPD)、コア会議委員 (FD／SDの企画・運営)
高等教育開発推進センター内 大学教育支援センターのプログラム実施部門長として同センターのプログラムの企画と実施に携わる。(FD／SDの企画・運営)

〔プロジェクト活動〕

ウズベキスタン共和国スルハンダリア州カンピール・テペの発掘調査

〔会議の主催・運営〕

(国内会議主催) 高度教養教育・学生支援機構 正午PD会 2014 年 4 月 1 日

〔行政機関・企業・NPO等参加〕

日本学術振興会 科学研究費委員会 専門委員 2010 年 12 月～
日本学術会議 史学委員会 連携会員 「文化財の保護と活用に関する分科会」委員 2012 年 4 月～
日本学術会議 連携会員、史学委員会、「アジア研究・対アジア関係に関する分科会」委員 2014 年 10 月～
日本学術会議 連携会員 史学委員会 「博物館・美術館等の組織運営に関する分科会」委員 幹事 2014 年 10 月～
日本学術会議 連携会員 哲学学委員会 「古典精神と未来社会分科会」委員 2014 年 10 月～

田嶋 玄一(准教授)

〔専門分野〕

動物生理・行動
生物物理学

〔担当授業科目(他大学も含む)〕

全学教育 文科系のための自然科学総合実験 1 セメスタ
全学教育 生命科学 A (医学部保健学科クラス) 1 セメスタ
全学教育 生命科学 A (工学部クラス) 1 セメスタ
全学教育 自然科学総合実験 1, 2 セメ
全学教育 生命と自然 2 セメスタ

〔その他教育上に関する活動〕

(その他) 自然科学総合実験 出席・成績情報システムの設計・実装・運用・機能改修

〔論文〕

(共著) 「Ca²⁺-ATPase molecules as a calcium-sensitive membrane-endoskeleton of sarcoplasmic reticulum」 『International Journal of Molecular Sciences』 22 巻 5 号 2624- 2021 年 3 月

〔学内活動〕

全学委員会 遺伝子組換え実験安全主任者 2008 年 11 月～
全学委員会 環境保全センター業務委員会委員 2012 年 4 月～
全学委員会 情報システム部局実施責任者 2012 年 4 月～

〔学内教職員支援〕

自然科学総合実験教員 ・ TA ガイダンス (FD/SD の企画・運営)
文科系のための自然科学総合実験教員・TA ガイダンス (FD/SD の企画・運営)

〔学外の社会活動〕

総合技術研究会 2021 東北大学 交流企画 「自然科学総合実験概要紹介および技術交流」

〔教育活動〕

「令和元年度自然科学総合実験アンケート報告書」の作成。「自然科学総合実験」課題 10「細胞」および課題 11「DNA による生物の識別」オンライン教材, 日本語版および英語版の作成。「文科系のための自然科学総合実験」課題 6「ゲノム DNA による米の品種判別」オンライン教材作成

〔大学運営・支援及び医療業務〕

全学委員会: 全学委員会: 1) 情報システム部局実施責任者, 2) 環境保全センター業務委員会委員, 3) 学務審議会実験科目委員会実施委員会委員, 4) 同 計画委員会委員, 5) 遺伝子組換え実験安全主任者, 6) 学術資源研究公開センター運営委員
部局内委員会: 1) 高度教養教育・学生支援機構研究倫理審査委員

藤本 敏彦 (准教授)

〔専門分野〕

体育学
環境生理学
スポーツ科学
生理学一般

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 スポーツ A 1, 3, 2, 4 セメスタ
全学教育 体育講義・身体の文化と科学・体と健康
全学教育 生命と自然 疲労 1 セメスタ
全学教育 スポーツ B 武道 3, 4 セメ
全学教育 生命と自然「身体運動のしくみ」1 セメスタ
全学教育 基礎ゼミ 運動とこころ 1 セメスタ
全学教育 スポーツ B フィジカルトレーニング 通年
全学教育 展開ゼミ こころと体の健康をつなぐ 2 セメスタ
全学教育 留学生とつくるフットサルチーム 2 セメスタ
全学教育 インターネットを誰が守るのか 2 セメスタ

〔その他教育上に関する活動〕

(その他) 教養教育特任教員

〔論文〕

(単著) 「大学体育実技授業の改善と改革」 『体育・スポーツ教育研究』 21 巻 1 号 16-19 2020 年 12 月

〔会議の発表・講演〕

「COVID-19 影響下での大学体育授業実践 東北大学での対応」 口頭 (一般): 九州地区大学体育連 体育・スポーツ健康に関する教代会議 2021 年 3 月

〔共同研究活動〕

大学生に対する体育、スポーツの影響 福岡県立大学 国内 2017 年 4 月～
運動強度と骨髄の糖取り込みに関する研究 ("Increase of Glucose Uptake in Human Bone Marrow With Increasing Exercise Intensity.") 研究相手先: フィンランド 国外 2018 年 4 月～

〔科学研究費補助金獲得実績 (文科省・学振)〕

基盤研究(C) 高等学校の体育における学習指導要領遂行の実態調査 2019 年 4 月～2021 年 3 月 代表者

〔学内活動〕

全学委員会 基礎ゼミ委員会 2012 年 4 月～
部局内委員会 倫理委員会 2016 年 4 月～

〔学内教職員支援〕

大学教育支援センター 研究開発員（その他）

〔学会活動および外部機関における活動〕

日本体力医学会 評議員 2000 年 4 月～

宮城県柔道整復師会 宮城学術認定柔道整復師認定委員会 委員 2010 年 9 月～

日本体育学会 理事 2019 年 4 月～

〔兼務、兼業など〕

学内 医学系研究科 障害科学専攻 機能医科学講座 講師 2004 年 4 月～

学内 大学教育支援センター 研究開発委員 2011 年 4 月～

学内 スポーツ医科学コアセンター 2011 年 4 月～

学外 東北学院大学 非常勤講師 2018 年 4 月～

〔教育活動〕

全学教育 スポーツ A「ソフトボール」 7 コマ

スポーツ B「ソフトボール」 1 コマ

スポーツ B「フィジカルトレーニング」 2 コマ 企画・運営

スポーツ B「武道」 2 コマ企画・運営

生命と自然「身体運動のしくみ」 1 コマ

基礎ゼミ「運動とところ」 1 コマ

展開ゼミ「ところと体の健康をつなぐ」 1 コマ

展開ゼミ「インターネットを誰が守るのか」 1 コマ

その他：教養教育特任教員（兼任）

〔大学運営・支援及び医療業務〕

部局内委員会：1) 機構論理委員会

〔社会貢献〕

日本体育学会 理事、日本体力医学会 評議員、東北体育・スポーツ学会 代表理事

高橋 禎雄（助教）

〔専門分野〕

日本思想史

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 人間と文化 1 セメスタ

全学教育 歴史学 2 セメスタ

全学教育 カレントトピックス 東北大学のひとびと 2 セメスタ

〔総説・解説記事〕

（共著）「赤穂事件」 『〔増補版〕概説日本思想史（編集委員代表 佐藤弘夫）』 2020 年 12 月

（共著）「義理と人情」 『概説日本思想史（編集委員代表 佐藤弘夫）』 2020 年 12 月

〔学内活動〕

全学委員会 学術資源研究公開センター史料館兼務教員 2010 年 4 月～

〔学会活動および外部機関における活動〕

日本文芸研究会 常任委員 1997 年 6 月～

東北大学文学部同窓会 監事 2015 年 10 月～

日本東アジア実学研究会 事務局長、評議委員 2018 年 9 月～

〔兼務、兼業など〕

学内 東北大学学術資源研究公開センター史料館 兼務教員 2010 年 4 月～

〔教育活動〕

授業担当：

全学教育科目基幹科目「人間と文化 概説東北大学史」

全学教育科目展開科目「歴史学－日本近世政治思想の歴史的展開－」

カレントトピックス「東北大学のひとびと」

太田 宏(助教)

〔専門分野〕

生態・環境

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 自然科学総合実験 1, 2セメ

全学教育 文科系のための自然科学総合実験 1セメスタ

学部教育 進化学実習 5セメスタ

学部教育 生態学実習 5セメスタ

〔その他教育上に関する活動〕

（教科書・教材の開発）文科系のための自然科学総合実験の新テーマの開発

〔共同研究活動〕

西シベリア、チャニー湖沼群における両生爬虫類の分布について 研究相手先:ロシア ロシア科学アカデミーシベリア支所動物分類生態研究所 国外 2001年8月～

両生類の塩分耐性について?融雪剤の影響? NPO 法人環境把握推進ネットワーク・PEG 国内 2011年4月～

ツチガエルの性決定様式が異なる地域集団について 横浜市、広島大学 国内 2015年6月～

〔学内活動〕

その他の主要活動 アニメーション研究会顧問 1989年11月～

その他の主要活動 園芸部顧問 1997年4月～

〔学会活動および外部機関における活動〕

日本爬虫両棲類学会 標準和名選定委員会委員 2012年7月～

〔兼務、兼業など〕

学外 東北大学生協同組合 理事 2002年5月～

学外 宮城県希少野生動植物保護対策検討会 構成員 2007年12月～

学外 国土交通省東北地方整備局 河川水辺の国勢調査アドバイザー 2012年7月～

学外 宮城県 宮城県環境影響評価技術審査会委員 2014年1月～

学外 環境省 希少野生動植物種保存推進員 2012年7月～

学外 国土交通省東北地方整備局 鳴瀬川水系河川整備学識者懇談会 委員 2016年6月～

〔学外の社会活動〕

宮城県野生動植物調査会 両生類・爬虫類分科会長

蕃山21の会 フィールドガイド

〔行政機関・企業・NPO等参加〕

東北大学生協同組合 理事 2002年5月～

宮城県 希少野生動植物保護対策検討会 両生爬虫類分科会長 2007年11月～

環境省 希少野生動植物種保存推進員 2012年6月～

国土交通省東北地方整備局 河川水辺の国勢調査 アドバイザー 2012年7月～

宮城県 環境影響評価記述審査会 委員 2014年1月～

国土交通省東北地方整備局 鳴瀬川水系河川整備学識者懇談会 委員 2016年6月～

小俣 乾二(助教)

〔専門分野〕

有機化学

〔その他教育上に関する活動〕

（教科書・教材の開発）教科書の編集

〔学内活動〕

全学委員会 自然科学総合実験テキスト編集委員会 2003年4月～

全学委員会 自然科学総合実験実施委員会 2007年4月～

全学委員会 東北大学文科系のための自然科学総合実験テキスト編集委員会 2008年4月～

冨田 知志(助教)

〔総説・解説記事〕

（共著）「複異方性をもつメタマテリアルと特異点光学」 『光学』 49巻11号 461-467 2020年11月

〔科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）〕

基盤研究(B) 電気磁気メタ表面を用いたベリ一位相光学の展開 2020年4月～2023年3月 代表者

基盤研究(B) 実験的ブラックホール研究の新展開 2020年4月～2023年3月 分担者

〔学術関係受賞〕

令和2年度 日本磁気学会 出版賞 授与機関:日本磁気学会 2020年9月

前山 俊彦 (助教)

〔専門分野〕

物理化学

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 自然科学総合実験2 後期後半

全学教育 自然科学総合実験1 前期前半

全学教育 自然科学総合実験2 前期前半

全学教育 自然科学総合実験1 後期前半

全学教育 文科系のための自然科学総合実験

全学教育 自然科学総合実験2 後期後半

〔その他教育上に関する活動〕

(教科書・教材の開発) 全学教育自然科学総合実験におけるオンライン教材の開発

〔学内活動〕

全学委員会 全学理科実験計画委員会委員 2018年4月～

全学委員会 全学理科実験実施委員会委員 2019年4月～

山田 努 (助教)

〔専門分野〕

炭酸塩地球化学

同位体地質学

サンゴ礁地質学

環境動態解析

地質学

地球宇宙化学

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 自然科学総合実験 2セメスタ

全学教育 自然科学総合実験 FGL 2セメスタ

学部教育 基礎野外実習Ⅱ 5セメスタ

学部教育 地学実験 3セメスタ

学部教育 基礎地学実験 3セメスタ

学部教育 同位体地球科学 5セメスタ

学部教育 セミナー

学部教育 課題研究

学部教育 地殻岩石学実習ⅠⅡ 5セメスタ

学部教育 地圏環境科学実習Ⅰ 4セメスタ

大学院教育 セミナー

大学院教育 課題研究

その他 基礎地学実験 3セメスタ

〔学位論文指導・審査〕

修士1名 (その他1名)

〔論文〕

(共著)「仙台湾沿岸海域の堆積物調査」『令和元年度海洋生態系研究開発拠点機能形成事業 東北マリンサイエンス拠点形成事業(海洋生態系の調査研究) 課題1「漁場環境の変化プロセス解明」成果報告書』93-95 2020年7月

(共著)「仙台湾沿岸海域における海底堆積物の分布」『東北マリンサイエンス拠点形成事業(海洋生態系の調査研究)成果報告書』2020年12月

(共著)「フッ素含量に基づく化石骨の相対年代推定 ―その歴史と現状および展望―」『洞窟学雑誌』45巻 5-21 2020年12月

〔会議の発表・講演〕

「龍泉洞と龍泉新洞における同内気象観測 (2020年経過報告)」口頭 (一般): 日本洞窟学会第46回大会 2020年12月

〔共同研究活動〕

琉球列島の第四紀サンゴ礁堆積物の形成過程と第四紀の気候変動 国内 1998年4月～

陸成炭酸塩堆積物に記録された古環境情報の抽出 国内 2002年4月～

炭酸塩堆積物を用いた過去の地震履歴の解明 国内 2002年4月～

〔その他の競争的資金獲得実績〕

（その他補助金 東北マリンサイエンス拠点形成事業）仙台湾から志津川湾にかけての海域における漁業環境調査 2011 年 12 月～

〔学内活動〕

部局内委員会 毒劇物管理責任者 2008 年 4 月～

部局内委員会 理学部オープンキャンパス実行委員会委員 2020 年 4 月～2020 年 10 月

専攻内委員会 地球科学系オープンキャンパス委員会委員 2020 年 4 月～2020 年 8 月

〔プロジェクト活動〕

国際洞窟・カルスト年 2021

〔学会活動および外部機関における活動〕

日本洞窟学会 評議員 2018 年 1 月～

日本洞穴学研究所 研究員 2018 年 5 月～

日本洞窟学会 会長 2020 年 1 月～

日本洞窟学会 日本洞窟学会第 46 回大会委員長 2020 年 8 月～2020 年 12 月

日本洞窟学会 国際洞窟・カルスト年 2021 日本ワーキンググループ 2020 年 10 月～

日本洞窟学会 日本洞窟学会第 47 回大会委員長 2021 年 1 月～

〔会議の主催・運営〕

（国内会議運営）日本地質学会第 127 年学術大会 2020 年 9 月 9 日～2020 年 9 月 11 日

（国内会議運営）日本洞窟学会第 46 回大会 2020 年 12 月 5 日

〔兼務、兼業など〕

学外 日本洞穴学研究所 研究員 2018 年 5 月～

〔学外の社会活動〕

第 73 回宮城県高等学校生徒理科研究発表会

令和 2 年度宮城県高文連自然科学専門部第 2 回生徒研修会兼全国総文祭最終選考会

〔報道〕

新聞（その他）「猿ヶ森砂丘の津波痕跡とみられる砂層」に対する取材対応 読売新聞 2020 年 4 月 30 日

雑誌（出演・執筆）「夏こそ、洞窟へ！」 月刊 清流 2020 年 8 月 1 日

山下 琢磨（助教）

〔専門分野〕

原子分子理論

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 自然科学総合実験 前期

全学教育 自然科学総合実験 後期

全学教育 文科系のための自然科学総合実験 後期

全学教育 Introductory Science Experiment 後期

学部教育 課題研究 通年

学部教育 化学一般実験 A 後期

大学院教育 課題研究 通年

〔学位論文指導・審査〕

修士 4 名（その他 4 名）、その他 1 名

〔指導大学院生・学部生の発表件数〕

2020 年度 大学院学生（博士課程前期 2 年の課程） 口頭発表件数:5 件

〔教育活動に関する受賞（指導大学院生・学部生の受賞を含む）〕

日本物理学会 学生優秀発表賞 領域 1: 日本物理学会 2020 年 10 月 10 日

理学・生命科学 2 研究科合同オンラインシンポジウム 2021 優秀ポスター賞: 理学・生命科学 2 研究科合同オンラインシンポジウム 2021 年 2 月 19 日

研究会奨励賞: 第 22 回「環境放射能」研究会 2021 年 3 月 12 日

研究会奨励賞: 第 22 回「環境放射能」研究会 2021 年 3 月 12 日

〔論文〕

（共著）「帰還困難区域に生息するアライグマに対する個体毎の 外部被ばく線量評価法の適用の検討」『第 21 回「環境放射能」研究会 Proceedings』 2020

（共著）「飯舘村産コナラの樹・幹材における放射性セシウムの分析」『第 21 回「環境放射能」研究会 Proceedings』 2020

（共著）「Near-threshold production of antihydrogen positive ion in positronium-antihydrogen collision」『New Journal of Physics (Fast Track Communication)』 2020 年 12 月

〔著書〕

『自然科学総合実験：東北大学全学教育科目テキスト』東北大学出版会 2020 年 4 月

〔会議の発表・講演〕

「ルンゲクッタ法によるミュオン触媒核融合の時間発展の計算」 口頭（一般）：日本物理学会 2020 年秋季大会 2020 年 9 月

「反水素原子と励起状態ポジトロニウムの衝突における反水素正イオン生成断面積の計算」 口頭（一般）：日本物理学会 2020 年秋季大会 2020 年 9 月

「ミュオン触媒核融合におけるミュオン分子共鳴状態 4 体系の精密計算」 口頭（一般）：日本物理学会 2020 年秋季大会 2020 年 9 月

「J-PARC MLF での $dd-\mu$ CF 実験におけるミュオン特性 X 線を用いた放出ミュオンの観測」 口頭（一般）：日本物理学会 2020 年秋季大会 2020 年 9 月

「ポリエチレンの放射線照射後のゲル分率の変化：陽電子消滅寿命測定法による評価」 口頭（一般）：日本放射化学会第 64 回討論会 2020 年 9 月

「ミュオン分子内核反応後に放出されたミュオンの測定Ⅲ：静電場設計」 口頭（一般）：日本物理学会 2020 年秋季大会 2020 年 9 月

「ミュオン分子内核反応後に放出されたミュオンの測定Ⅱ：放射線輸送計算」 口頭（一般）：日本物理学会 2020 年秋季大会 2020 年 9 月

「ミュオン分子内核反応後に放出されたミュオンの測定Ⅰ：ミュオン特性 X 線による検出法の開発」 口頭（一般）：日本物理学会 2020 年秋季大会 2020 年 9 月

「Time evolution calculation of muon-catalyzed fusion in deuterium-tritium mixture」 ポスター（一般）：3rd Asia Pacific Symposium on Tritium Science 2020 年 11 月

「Detection of recycling muon after muon-catalyzed fusion reaction in solid hydrogen isotope target」 口頭（一般）：3rd Asia Pacific Symposium on Tritium Science 2020 年 11 月

「電子雲中のミュオン分子共鳴状態のエネルギーと構造の計算」 口頭（一般）：原子衝突学会第 45 回年会 2020 年 12 月

「陽電子アルカリ金属原子における相対論効果」 口頭（一般）：複合原子力科学研究所専門研究会「陽電子科学とその理工学への応用」 2020 年 12 月

「Four-body treatment of antihydrogen atomic collisions」 口頭（基調）：Yamada Conference LXXII: The 8th Asia-Pacific conference on Few-Body problems in Physics (APFB2020) 2021 年 3 月

「野生動物の歯を用いた低線量被ばく推定法の開発」 口頭（一般）：第 22 回「環境放射能」研究会 2021 年 3 月

「ミュオン触媒核融合反応後のミュオンの運動エネルギーの選別と検出の粒子輸送シミュレーション」 ポスター（一般）：日本物理学会第 76 回年次大会 2021 年 3 月

「ミュオン触媒核融合後に放出されたミュオン運動量分布測定のための数値シミュレーションと設計」 口頭（一般）：日本物理学会第 76 回年次大会 2021 年 3 月

「ミュオン分子 4 体系の精密計算：電子によるミュオン分子共鳴構造の変化」 口頭（一般）：日本物理学会第 76 回年次大会 2021 年 3 月

「陽電子と水素原子負イオンのリドバグ系列：解離分岐比の四体散乱計算」 口頭（一般）：日本物理学会第 76 回年次大会 2021 年 3 月

「動物の臓器別被ばく線量率推定のための数値モデルの構築」 ポスター（一般）：放射能環境動態・影響評価ネットワーク共同利用・共同研究拠点 2020 年度年次報告会 2021 年 3 月

〔総説・解説記事〕

（共著）「陽電子原子の三粒子描像による高精度構造解析Ⅰ：束縛状態」 『陽電子科学』 15 号 17-27 2020 年 9 月

（共著）「陽電子原子の三粒子描像による高精度構造解析Ⅱ：共鳴状態」 『陽電子科学』 16 巻 11-21 2021 年 3 月

〔科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）〕

若手研究 ミュオン触媒核融合における共鳴コアの形成・崩壊過程の四体散乱理論 2020 年 4 月～ 代表者

〔学会活動および外部機関における活動〕

原子衝突学会 庶務委員 2020 年 6 月～

日本陽電子科学会 刊行委員 2021 年 1 月～

〔兼務、兼業など〕

学内 理学研究科化学専攻 2019 年 10 月～

学外 理化学研究所仁科加速器科学研究センター 客員研究員 2019 年 12 月～

本多 良太郎（助教）

〔専門分野〕

素粒子・原子核・宇宙線・宇宙物理

〔科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）〕

その他 新学術領域・公募研究 ラムダ陽子散乱実験実現のためのデータストリーミング型 MPPC 読み出し回路の開発 2019 年 4 月～2021 年 3 月 代表者

〔学会活動および外部機関における活動〕

J-PARC HUA DAQ working group グループリーダー 2016 年 4 月～

佐藤 智子 (准教授)

〔専門分野〕

教育学

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 オンライン基礎ゼミ (大学での学びのいろは) 前期

全学教育 人間と文化 前期

全学教育 社会の構造 後期

教育学研究科 教育情報学応用論特論Ⅲ 前期

教育学研究科 教育情報学応用論研究演習Ⅲ 後期

〔学位論文指導・審査〕

修士論文 2名 (主査1名、副査1名)

〔その他教育上に関する活動〕

(その他) 学習支援センターSLA サポート事業の推進、SLA 研修プログラム開発・実施

(教育方針の実践例) TGL プログラム「グローバルゼミ」授業におけるライティング教育協力・ゲスト講師 (前期5クラス/後期2クラス 各1コマ)

〔論文〕

(単著) 「オンラインによる学習空間の拡張と社会教育へのインパクト: 「尼崎オンライン公民館」の取組を事例として」 『日本公民館学会年報』 17号 108-117 2020年11月

(共著) 「学習支援センターにおけるオンライン学習支援システムの構築: 新型コロナウイルス感染拡大への対策として」 『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 2021巻7号 109-121 2021年3月

(共著) 「学習支援としての哲学対話実践の可能性 ―哲学カフェ「かんがえるソファ」を事例に―」 『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 2021巻7号 191-204 2021年3月

(共著) 「学び方を学ぶためのオンライン基礎ゼミ」 『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 2021巻7号 101-108 2021年3月

(共著) 「オンライン授業の現状と学生の評価: 基礎ゼミ受講生へのアンケート結果を中心に」 『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 2021巻7号 3-21 2021年3月

〔総説・解説記事〕

(単著) The Impact on Community Governance from Actual Conditions of Urban "Kominkan" (Japanese public learning centres) Reorganization, *Impact*, Volume 2021, Number 3, pp. 44-45, March 2021

〔科学研究費補助金獲得実績 (文科省・学振)〕

若手研究(B) 公民館再編動向にみるコミュニティ・ガバナンスと社会教育の相克と止揚に関する研究 2019年4月～2023年3月 代表者

〔学内活動〕

全学委員会 附属図書館学習支援委員会委員 2017年4月～

全学委員会 公正な研究活動推進委員会専門委員会 2018年4月～

全学委員会 基礎ゼミ委員会 2018年4月～

全学委員会 学問論委員会準備部会 2021年1月～

部局内委員会 紀要・出版委員会委員 2018年4月～

〔兼務、兼業など〕

学内 東北大学大学院教育学研究科教育情報アセスメントコース教育評価測定論 協力講座教員

〔学会活動および外部機関における活動〕

日本教育学会 機関誌編集委員会 委員 2020年1月～

〔学外の社会活動〕

仙台市生涯学習支援センター研修講師

秋田県生涯学習・社会教育研究大会記念鼎談 講師

〔行政機関・企業・NPO等参加〕

尼崎市 総合計画審議会 委員 2017年2月～2020年9月

仙台市 社会教育委員の会議 委員 2017年11月～

高知大学 希望創発センター 客員准教授 2018年4月～2021年3月

縣 拓充 (助教)

〔専門分野〕

教育心理学

教科教育学

教育学

認知科学

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 人間と文化 後期

全学教育 「基礎ゼミ（オンライン版）」 前期

〔その他教育上に関する活動〕

（その他）学習支援センター（SLA サポート）の運営、研修等の実施

〔論文〕

（共著）「美術館での鑑賞教育プログラムが児童にもたらす学習効果 ―大学・小学校・美術館が連携した実践から―」 『美術教育学』 42 巻 1-16
2021 年 3 月

（共著）「オンライン授業の現状と学生の評価 ―基礎ゼミ受講者へのアンケート結果を中心に―」 『東北大学 高度教養教育・学生支援機構 紀要』
7 巻 3-22 2021 年 3 月

（共著）「ライティング相談窓口利用者のレポート改善の傾向と改善につながる支援方法 ―窓口利用前後のレポートの比較から―」 『東北大学 高度教養教育・学生支援機構 紀要』 7 巻 281-290 2021 年 3 月

（共著）「余計なことからはじめよう ―教養教育における「挑戦と創造」を促す授業の提案―」 『東北大学 高度教養教育・学生支援機構 紀要』
7 巻 243-256 2021 年 3 月

（共著）「学び方を学ぶためのオンライン基礎ゼミ」 『東北大学 高度教養教育・学生支援機構 紀要』 7 巻 101-108 2021 年 3 月

（共著）「学習支援センターにおけるオンライン学習支援システムの構築 ―新型コロナウイルス感染拡大への対策として―」 『東北大学 高度教養教育・学生支援機構 紀要』 7 巻 109-122 2021 年 3 月

〔著書〕

Art Appreciation for Inspiration and Creation 『Multidisciplinary Approaches to Art Learning and Creativity: Fostering Artistic Exploration in Formal and Informal Settings』 Routledge 2020 年 9 月

〔科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）〕

基盤研究(C) 美術館における社会的課題を踏まえた子ども対象のアート・プロジェクトのモデル化 2019 年 4 月～2021 年 3 月 分担者

〔その他〕

- ・学習支援センター（SLA サポート）の業務、特に、オンラインによる学習支援システムの構築・運営に貢献。
- ・オンライン版基礎ゼミへの協力。
- ・高知大学希望創発センターの研究会において講演。
- ・横浜市芸術文化振興財団、文化庁等において研究協力。

中島 啓貴（助教）

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 現代数学特選D 後期

〔科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）〕

特別研究員奨励費 測度距離空間の間の誤差付き順序による等周不等式の研究 2019 年 4 月～2021 年 3 月 代表者

〔論文〕

（共著）「学習支援センターにおけるオンライン学習支援システムの構築 ―新型コロナウイルス感染拡大への対策として―」 『東北大学 高度教養教育・学生支援機構 紀要』 7 巻 109-122 2021 年 3 月

〔学内活動〕

その他の主要活動 学習支援センターSLA サポート室員 2020 年 4 月～2020 年 4 月

猪股 歳之（准教授）

〔専門分野〕

教育社会学

社会学

教育学

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 インターンシップ事前研修 1 セメスタ

全学教育 フィールドワーク実践：地域とビジネス 3 セメスタ

全学教育 ライフ・キャリアデザインD 3 セメスタ

全学教育 ライフ・キャリアデザインB 2 セメスタ

全学教育 【展開ゼミ】東北の「みらい」を拓く新聞論 2 セメスタ

全学教育 【展開ゼミ】新聞から見た現代社会 2 セメスタ

全学教育 インターンシップ実習 後期集中

他大学 教育社会学 通年

他大学 フィールド・ワーク論 前期集中

〔その他教育上に関する活動〕

（学友会・同好会等の指導）東北大学学友会準加盟団体弓道サークル zansin の顧問教員

〔論文〕

（共著）「オンラインによるキャリア支援の取り組みー新型コロナウイルス感染症対策を契機としてー」『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 7号 123-132 2021年3月

（共著）「地方都市の企業における外国人留学生の採用と定着の課題」『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 7号 365-374 2021年3月

〔会議の発表・講演〕

「大学における地域・職業教育的機能と教員：12 大学調査から」 口頭（一般）：日本教育社会学会第 72 回大会 2020 年 9 月

「職業教育機能から見た大学教員の職務と職能形成に関する研究：12 大学調査から」 口頭（一般）：日本職業教育学会第 1 回大会 2020 年 10 月

〔総説・解説記事〕

（共著）「令和元年度 東北大学キャリア支援センター年報」 2020 年 7 月

〔科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）〕

基盤研究(C) 高等教育における地域人材養成プログラムの現状と発展可能性に関する研究 2016 年 4 月～ 代表者

挑戦的研究（萌芽） 高等教育「後背地」理論モデル構築への挑戦的研究：オルタナティブな理論を目指して 2019 年 4 月～2022 年 3 月 分担者

〔学内活動〕

全学委員会 キャリア支援連絡会議委員 2016 年 4 月～

全学委員会 学生生活支援審議会 第 14 回学生生活調査ワーキンググループ 副委員長 2020 年 5 月～2021 年 3 月

全学委員会 学務審議会 新しい全学教育のカリキュラムに関する準備委員 キャリア教育委員会準備部会長 2021 年 1 月～

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構 出版・図書・資料委員会委員 2016 年 4 月～

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構 広報小委員会委員 2017 年 1 月～

その他の主要活動 高度教養教育・学生支援機構 キャリア支援センター副センター長 2016 年 4 月～

その他の主要活動 高度教養教育・学生支援機構 キャリア開発室室長 2014 年 4 月～

〔学内教職員支援〕

第 1 回学生生活支援審議会 FD において講師を務めた（講師）

教育学部同窓会主催キャリア支援セミナーにおいて講演を行った（講師）

〔プロジェクト活動〕

留学生就職促進プログラム「東北イノベーション人材育成プログラム（DATEntre）」

〔教育相談〕

のべ相談人数 151 名、のべ相談回数 151 回

〔学会活動および外部機関における活動〕

IDE 大学セミナー実行委員会 委員 2015 年 4 月～

〔兼務、兼業など〕

学外 東北福祉大学 兼任講師 2003 年 4 月～

学内 宮城学院女子大学 非常勤講師 2004 年 4 月～

〔学生支援業務〕

キャリア支援センターにおける各種支援プログラムの企画・実施、およびキャリア・就職に関する個別相談

高橋 修（准教授）

〔専門分野〕

経営学

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 ライフ・キャリアデザインA 1 セメスタ

全学教育 ライフ・キャリアデザインB 2 セメスタ

全学教育 フィールドワーク実践：地域とビジネス 3 セメスタ

全学教育 ライフ・キャリアデザインD 3 セメスタ

全学教育 インターンシップ事前学習 前期前半

全学教育 インターンシップ実習 後期前半

学部教育 キャリア・ポートフォリオ 通年

学部教育 キャリアデザイン講座（文学部） 後期

〔著書〕

第 6 章「企業におけるキャリア形成支援の知識」、第 17 章「環境への働きかけの認識及び実践」『キャリアコンサルタント その理論と実践』日本産業カウンセラー協会 2020 年 4 月

〔学内活動〕

全学委員会 学生生活支援審議会キャリア支援連絡会議委員 2015 年 4 月～

部局内委員会 総務委員会委員 2017 年 4 月～

部局内委員会 教務小委員会委員 2019 年 9 月～

〔学会活動および外部機関における活動〕

大阪商工会議所 メンタルヘルス・マネジメント検定試験 テキスト編集委員会委員 2005 年 7 月～

キャリア・コンサルティング協議会 キャリア・コンサルティング技能検定委員 2012 年 5 月～

人材育成学会 常任理事 2014 年 4 月～

日本産業ストレス学会 学会誌編集委員 2015 年 4 月～

(社) 日本産業カウンセラー協会 キャリアコンサルタント養成講習テキスト等編集委員会委員 2018 年 6 月～

〔兼務、兼業など〕

学外 宮城学院女子大学学芸学部 非常勤講師 2017 年 4 月～

〔学外の社会活動〕

メンタルヘルス・マネジメント検定試験 I 種受験対策講座

門間 由記子 (特任准教授)

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 インターンシップ事前研修 1 セメスタ

全学教育 インターンシップ実習 3 セメスタ

全学教育 グローバルキャリア A : 世界とつながる働き方を考える 前期

その他 TUJP II 「ライフキャリアと日本の働き方」 後期集中

〔その他教育上に関する活動〕

(その他) 外国人留学生採用に関心のある企業への対応 外国人留学生の採用を検討している企業やインターンシップの受け入れを実施している企業の問い合わせに対して、留学生の現状を説明し、企業の要望についても伺っている。インターンシップ実施中の企業に対してはプログラム作成から途中経過の観察まで行っている。

(その他) 留学生のための就職活動準備講座 SPI 対策講座や個別面接対策、企業研究、業界研究など日本語や日本文化への注意点を踏まえながら、留学生に必要な就職活動準備を行うための様々な講座を開催している。

(その他) OBOG×在学生交流会 東北イノベーション人材育成プログラムに参加し、日本に就職した留学生と日本で就職を考えている在学生との交流会を年 3 回程度定期的に企画・開催。定着に向けた課題の共有を目指している。

(その他) 就職後の卒業生の相談対応・企業対応 宮城県内企業に就職した留学生のなかには職場での課題を抱え、孤立してしまう元留学生もいる。そうした元留学生と企業の人事担当者それぞれのサポートを行っている。日本語が不十分な学生に対しては日本語サポートも行っている。

(教育方針の実践例) 留学前後のキャリア設計 留学を検討している学生を対象とし、ライフキャリアの考え方を紹介し、留学前後に行っておくとスムーズな就職活動対策や留学中の過ごし方について紹介した。 5 月より 3 回ほど実施した。

(教育方針の実践例) キャリア教育特別演習 A・B 東北イノベーション人材育成コンソーシアムに参加している留学生を対象とし、自己 PR や SPI 適性検査、面接対策、県内企業の研究会などを行うキャリア教育科目。課外セミナーとしてキャリア教育特別演習 A (全 6 回)、キャリア教育特別演習 B (全 6 回) を前期・後期それぞれ開講した。

(その他) 法学部開講の「インターンシップ」の 1 コマを担当。 インターンシップ参加時の目標設定についてワークを行い、インターンシップで習得したい事柄を明らかにするとともに、その後インターンシップ参加時の留意点やインターンシップの探し方について理解を深めることを目的としている。

(教育方針の実践例) 仙台市との共催によるインターンシップ合同説明会 7 月と 12 月の年 2 回、宮城県内の大学からも共催支援を受け、大学 1 ～ 2 年生を対象とした県内企業 20 社による教育効果の高いインターンシップを実施した。2021 年度も開催予定。 冬のインターンシップ合同説明会開催前には、夏のインターンシップ参加学生による振り返り会も実施し、教育効果を高めることを目指している。

(教育方針の実践例) キリンビール仙台工場における PBL 型インターンシップ 若年層へのビールの浸透という課題において、留学生・日本人学生共に取り組み、飲酒文化や商品の理解を促し、課題に対する提案を行った。

(その他) 外国人留学生のための就職活動 Re-Start セミナー (8 月) 東北地区外国人留学生対象業界研究会 (2 月) 東北地区外国人留学生対象ジョブフェア (3 月) 8 月には就職活動継続中の留学生に対し、8 社によるオンライン合同説明会を開催した。 2 月には業界理解を深めることを目的とし、6 社によるオンラインによる業界研究会を開催、3 月には 24 社 2 言語によるオンラインによるジョブフェアを開催した。

〔論文〕

(単著) 「留学生就職促進プログラム (東北イノベーション人材育成プログラム) の取り組み」 『東北大学キャリア支援センター年報』 2020 年 6 月

(単著) 「元留学生社員の地方都市における定着の課題」 『人材育成学会第 18 回報告論文集』 2020 年 12 月

〔会議の発表・講演〕

「元留学生社員の地方都市における定着の課題」 口頭 (一般) : 第 18 回人材育成学会 2020 年 12 月

「東北イノベーション人材育成プログラムにおける異文化理解の取り組み」 口頭 (招待・特別) : SUCCESS O-saka サミット 2020 年 12 月

「東北イノベーション人材育成プログラムのこれまでの取り組み」 口頭 (招待・特別) : 高度外国人材定着支援シンポジウム 2021 年 2 月

〔共同研究活動〕

外国人留学生の日本におけるキャリア構築 国内 2019 年 5 月～

〔その他研究活動〕

（フィールドワーク）高度外国人材の地元定着に関する調査

（その他）グローバル人材の採用・育成に関する調査

〔教育相談〕

のべ相談人数 105 名、のべ相談回数 136 回

〔学会活動および外部機関における活動〕

人材育成学会 研究活動委員 2020 年 4 月～2021 年 3 月

〔会議の主催・運営〕

（国内会議主催）高度外国人材定着支援シンポジウム 2021 年 2 月 26 日

富田 京子（特任准教授）

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育科目 ライフ・キャリアデザイン D

全学教育科目 フィールドワーク実践：地域とビジネス

文学部職業関連科目「キャリアデザイン講座」及び「キャリア設計演習」

他大学 弘前大学農学生命科学部大学院生キャリア開発セミナー 前期集中

〔その他教育上に関する活動〕

（その他）キャリア支援プログラムの企画・開発・運営

（その他）「保護者のための就活支援ガイド 2020 年度東北大学キャリア支援センター」冊子作成

〔論文〕

（共著）「オンラインによるキャリア支援の取り組みー新型コロナウイルス感染症対策を契機として」 『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要第 7 号 2021』 7 号 123-131 2021 年 3 月

〔学内活動〕

全学委員会 学生生活支援審議会キャリア支援連絡会議委員 2019 年 4 月～

〔学内教職員支援〕

生命科学研究科主催キャリアガイダンス（講師）

〔教育相談〕

のべ相談人数 300 名、のべ相談回数 300 回

〔兼務、兼業など〕

学外 弘前大学 非常勤講師 2015 年 4 月～

学外 特定非営利活動法人 宮城県キャリアコンサルタント協会 理事 2018 年 12 月～

〔行政機関・企業・NPO等参加〕

特定非営利活動法人宮城県キャリアコンサルタント協会 理事 2018 年 12 月～

〔大学運営・支援及び医療業務〕

「個別相談」相談員に対する連絡、情報提供及び研修実施（講師担当）

キャリア支援プログラムセミナー、ワークショップ企画・立案、実施運営、広報（チラシ、ポスター広報物作成）業務

池田 忠義（教授）

〔専門分野〕

臨床心理学

学生相談

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 学生生活概論 前期前半

大学院教育 投影法特論Ⅰ MC 1 年 1 学期

大学院教育 投影法特論Ⅱ MC 1 年 2 学期

〔その他教育上に関する活動〕

（その他）新入生特別セミナーにおいて「安全・安心なキャンパスライフ」に関する講演

〔論文〕

（共著）「学生相談と障害学生支援の活動状況と充実化要因 一国立大学の機関・部署を対象とした調査による検討ー」 『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 7 号 375-386 2021 年 3 月

〔著書〕

第 7 章 3：連携と協働の実例（138～147 頁）『学生相談ハンドブック 新訂版』学苑社 2020 年 5 月

〔会議の発表・講演〕

「学生相談と障害学生支援の連携・協働に関する現状と課題（2）―担当者に焦点を当てて―」ポスター（一般）：第58回全国大学保健管理研究集会 2020年11月

「学生相談と障害学生支援の連携・協働に関する現状と課題（1）―機関・部署の活動状況―」ポスター（一般）：第58回全国大学保健管理研究集会 2020年11月

〔共同研究活動〕

東日本大震災後の心理的影響と支援のあり方に関する継続的研究 神戸大学, 和歌山大学, 奈良女子大学 国内 2012年4月～

〔その他研究活動〕

（その他）令和2年度新入生意識調査

〔科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）〕

基盤研究(C) 学生相談と障害学生支援の協働による実践の充実化に関するコミュニティ心理学的研究 2018年4月～2022年3月 代表者

基盤研究(C) IT技術を活用した大学における学生相談活動の新しい自己評価アセスメント法の開発 2018年4月～2022年3月 分担者

基盤研究(C) 多機関によるビッグデータ収集の基盤としての臨床実践の共通データセット開発 2020年4月～2023年3月 分担者

〔その他の競争的資金獲得実績〕

（共同研究費）全国大学学生相談機関における危機対応―現状課題の把握と基本指針の作成― 2020年10月～2022年9月

〔学内活動〕

全学委員会 学生生活支援審議会委員 2015年4月～

全学委員会 学生相談・特別支援連絡会議委員 2015年4月～

全学委員会 障害者差別解消推進委員会委員 2016年4月～

全学委員会 ボランティア活動支援運営委員会委員 2018年4月～

全学委員会 学生生活支援審議会学生寄宿舎のあり方検討ワーキンググループ委員 2019年5月～2021年3月

全学委員会 学生生活支援審議会UH青葉山入居対象とした教育内容ワーキンググループ委員 2019年5月～2021年3月

全学委員会 学生生活支援審議会第14回学生生活調査ワーキンググループ委員 2020年5月～2021年3月

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構総務委員会委員 2014年4月～

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構人事委員会委員 2015年4月～

その他の主要活動 学生相談・特別支援センター副センター長 2014年4月～

〔学内教職員支援〕

東北大学新任教員研修において、「教育研究における学生との関わりとハラスメント」に関する講演（講師）

学生支援審議会FD(1) (FD／SDの企画・運営)

工学研究科等新規採用等教職員合同研修において、「大学におけるハラスメント」に関する講演（講師）

学生支援審議会FD(2) (FD／SDの企画・運営)

医学部・医学研究科FDにおいて「ハラスメント」に関する講演（講師）

学生支援審議会FD(3) (FD／SDの企画・運営)

〔教育相談〕

のべ相談人数174名、のべ相談回数530回

〔学会活動および外部機関における活動〕

日本学生相談学会 理事（特別委員会） 2019年5月～

第58回全国学生相談研修会 分科会講師 2020年11月～2020年11月

〔学外の社会活動〕

北海道大学教職員研修会にて講師

尚絅学院大学教職員研修会にて講師

中島 正雄（准教授）

〔専門分野〕

臨床心理学

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 学生生活概論 前期前半

大学院教育 心理療法特論 前期

大学院教育 臨床心理学概論 後期

他大学 学校臨床心理学・地域援助特論(TV) 通年

〔論文〕

（共著）「ニュージーランドの高等教育と休学」 『東北大学学生相談・特別支援センター年報』 6号 25-31 2020年10月

（共著）「学生相談におけるこれからのスーパーヴィジョン―平木典子氏へのインタビューから」 『東北大学学生相談・特別支援センター年報』 6号 33-42 2020年10月

(単著)「学生相談カウンセラーの成長支援に関する研究」『東北大学大学院教育学研究科博士論文』2021年3月

〔著書〕

第7章(127頁～145頁)、第8章(146頁～165頁)『学校臨床心理学特論』放送大学教育振興会 2021年3月

161頁～169頁『ところで関わりところをつかう：心理臨床への手びきその実践』日本評論社 2021年3月

〔学内活動〕

全学委員会 ハラスメント全学相談窓口 2015年11月～

全学委員会 学生相談・特別支援連絡会議委員 2019年4月～

部局内委員会 紀要・出版委員会 2016年4月～

〔学内教職員支援〕

電気通信研究所、流体科学研究所 FD(講師)

学生生活支援審議会 FD(第1回) (講師)

学生生活支援審議会 FD(第2回) (FD/SDの企画・運営)

医学部生・院生のための教員研修会 FD(講師)

学生生活支援審議会 FD(第3回) (FD/SDの企画・運営)

〔教育相談〕

のべ相談人数 247 名、のべ相談回数 593 回

〔兼務、兼業など〕

学外 放送大学 客員准教授 2018年4月～

小島 奈々恵(講師)

〔専門分野〕

臨床心理学

〔担当授業科目(他大学も含む)〕

全学教育 学生生活概論 前期前半

全学教育 異文化理解【展開ゼミ】 自己理解を深める：異文化交流を通して—国際共修ゼミ— 前期

全学教育 国際教養【展開ゼミ】 自己理解を深める：異文化交流を通して—国際共修ゼミ— 後期

学部教育 医学・医療入門行動科学 通年

大学院教育 コミュニティ心理学特論 前期

大学院教育 学校臨床心理学特論(教育分野に関する理論と支援の展開) 後期

〔その他教育上に関する活動〕

(その他) 新入学留学生オリエンテーション

(その他) 生命科学研究科新入生オリエンテーション

(その他) 留学生団体との情報交換会

〔論文〕

(共著)「ニュージーランドの高等教育と休学」『東北大学学生相談・特別支援センター年報』6号 25-32 2020年10月

〔会議の発表・講演〕

「学生相談所利用者数を通してみる新型コロナウイルスの影響」ポスター(一般)：第58回全国大学保健管理研究集会 2020年11月

「マイノリティへの学生支援」その他：第54回全国学生相談研究会議 2021年1月

「学生支援の多様な現場それぞれの現状、そして連携による支援への課題」シンポジウム・ワークショップ・パネル(指名)：第54回全国学生相談研究会議 2021年1月

〔その他研究活動〕

(その他) 令和2年度 全学生対象の「大学生の心身の健康に関する調査」

(その他) 学部1年生対象の「新型コロナウイルス感染拡大の影響に関するアンケート」

〔学内活動〕

全学委員会 ハラスメント全学学生相談窓口 2016年4月～

〔学内教職員支援〕

高度教養教育・学生支援機構 通訳支援に関する FD(講師)

令和2年度 第1回 学生支援審議会 FD(FD/SDの企画・運営)

環境科学研究科 2020年度教職員向けメンタルヘルス講習会(講師)

令和2年度 第2回 学生支援審議会 FD(FD/SDの企画・運営)

令和2年度 第3回 学生支援審議会 FD(FD/SDの企画・運営)

災害科学国際研究所 ハラスメント防止対策 FD(講師)

〔教育相談〕

学生相談・特別支援センターでの相談・支援業務：相談人数 79 人、のべ相談回数 841 回

ハラスメント全学学生相談窓口での相談業務：のべ対応回数 23 回

〔会議の主催・運営〕

（国内会議運営）第 54 回全国学生相談研究会議 2021 年 1 月 25 日

中岡 千幸（講師）

〔専門分野〕

臨床心理学

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 学生生活概論—学生が会う大学生活の危機と予防— 前期前半

その他 教育相談・生徒指導Ⅰ（進路指導を含む） 前期集中

他大学 コミュニケーション学 後期集中

〔その他教育上に関する活動〕

（その他）工学部 機械・知能系新入生オリエンテーション

（その他）工学部 建築・社会環境工学科（学部 2 年生対象）オリエンテーション

（その他）文学部新入生オリエンテーション

〔論文〕

（共著）「ニュージーランドの高等教育と休学」 『東北大学学生相談・特別支援センター年報』 6 号 25-32 2020 年 10 月

〔会議の発表・講演〕

「学生相談所利用者数を通してみる新型コロナウイルスの影響」 ポスター（一般）：第 58 回全国大学保健管理研究集会 2020 年 11 月

〔その他研究活動〕

（その他）令和 2 年度新入生意識調査

（その他）新型コロナウイルス感染拡大に関する調査と個別支援

（その他）東日本大震災後 10 年間の東北大学における学生相談活動の実践・展開をまとめた

〔学内活動〕

全学委員会 ハラスメント全学学生相談窓口 2016 年 6 月～

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構 電子ジャーナル編集委員会委員 2017 年 1 月～

〔学内教職員支援〕

令和 2 年度 第 1 回学生支援審議会 FD 新型コロナウイルス影響下での東北大学における学生支援（FD／SD の企画・運営）

環境科学研究科 メンタルヘルス（コロナ禍における学生のメンタル傾向と対応について）（FD／SD の企画・運営）

令和 2 年度 第 2 回学生支援審議会 FD ハラスメント（FD／SD の企画・運営）

災害科学国際研究所 FD ハラスメント（FD／SD の企画・運営）

令和 2 年度 第 3 回学生支援審議会 FD 大学における障害学生への配慮・支援について（FD／SD の企画・運営）

〔教育相談〕

のべ相談人数 252 名、のべ相談回数 445 回

〔学外の社会活動〕

第 78 回みやぎ学生相談連絡協議会への参加（オンライン）

第 79 回みやぎ学生相談連絡協議会への参加（オンライン）

〔その他〕

学生支援：

1) 学生相談所相談員として、学生（留学生を含む）、教職員、学生の家族に対して相談援助活動を行った。相談人数は 115 名、のべ相談回数は 445 回。

2) ハラスメント全学学生相談窓口相談員として、ハラスメント相談への対応を行った。延べ対応回数は 11 回。

センター業務：

1) 全学学生対象の「東日本大震災後の学生生活に関する調査」を実施し、その結果に基づく個別支援。

2) 各部局における新入生オリエンテーション等での学生生活のガイダンスおよび学生相談所の利用案内。

3) センターの自己啓発パンフレット（(EMPOWERMENT Series) の編集、4) 新入生対象の「新型コロナウイルスの感染拡大の影響に関するアンケート」を実施し、その結果に基づく個別支援も行った。

佐藤 静香（助手）

〔専門分野〕

社会心理学

臨床心理学

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 学生生活概論 前期前半

〔その他教育上に関する活動〕

(その他) 工学研究科機械・知能系新入生オリエンテーション
(その他) 工学研究科化学・バイオ系新入生オリエンテーション
(その他) 工学研究科電子情報システム・応物系新入生オリエンテーション
(その他) 教育学部 2 年生対象 ハラスメント防止講習会

〔論文〕

(単著) 「学生相談における親が関与する事例への支援 ―事例研究のメタ分析を通して―」 『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 7 号 257-266 2021 年 3 月

〔その他研究活動〕

(その他) 令和 2 年度新入学生意識調査

〔学内活動〕

全学委員会 男女共同参画委員会委員 2011 年 4 月～
部局内委員会 施設整備委員会委員 2014 年 4 月～

〔学内教職員支援〕

令和 2 年度 第 1 回 学生支援審議会 FD (FD/SD の企画・運営)
令和 2 年度 第 2 回 学生支援審議会 FD (FD/SD の企画・運営)
令和 2 年度 第 3 回 学生支援審議会 FD (FD/SD の企画・運営)

〔プロジェクト活動〕

東日本大震災後の学生相談活動

〔教育相談〕

のべ相談人数 363 名、のべ相談回数 700 回

〔学会活動および外部機関における活動〕

学生相談学会 論文審査 2020 年 11 月～2021 年 1 月

〔学外の社会活動〕

第 78 回みやぎ学生相談連絡協議会への参加
第 79 回みやぎ学生相談連絡協議会への参加

〔教育相談〕

学生相談・特別支援センターでの相談・支援業務：相談人数 144 人、のべ相談回数 700 回
ハラスメント全学学生相談窓口での相談業務：のべ対応回数 7 回

〔大学運営・支援及び医療業務〕

「東北大学 学生相談・特別支援センター年報 第 6 号」の編集・発行

松川 春樹 (助教)

〔専門分野〕

臨床心理学

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 学生生活概論 前期前半

〔その他教育上に関する活動〕

(その他) 医工学研究科新入生オリエンテーション
(その他) 医学部保健学科キャンパスハラスメント講習会

〔論文〕

(共著) 「学生相談と障害学生支援の活動状況と充実化要因―国立大学の機関・部署を対象とした調査による検討―」 『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 7 号 375-386 2021 年 3 月

〔会議の発表・講演〕

「学生相談と障害学生支援の連携・協働に関する現状と課題 (1) ―機関・部署の活動状況―」 ポスター (一般)：第 58 回全国大学保健管理研究集会 2020 年 11 月

「学生相談と障害学生支援の連携・協働に関する現状と課題 (2) ―担当者に焦点を当てて―」 ポスター (一般)：第 58 回全国大学保健管理研究集会 2020 年 11 月

〔その他研究活動〕

(その他) 令和 2 年度新入生意識調査

〔科学研究費補助金獲得実績 (文科省・学振)〕

基盤研究(C) 学生相談と障害学生支援の協働による実践の充実化に関するコミュニティ心理学的研究 2018 年 4 月～2022 年 3 月 分担者

〔学内活動〕

全学委員会 本部等事業場安全衛生委員会 2020 年 4 月～2021 年 3 月

〔学内教職員支援〕

学生生活支援審議会 FD(1) (FD／SDの企画・運営)

学生生活支援審議会 FD(2) (FD／SDの企画・運営)

学生生活支援審議会 FD(3) (FD／SDの企画・運営)

〔プロジェクト活動〕

東日本大震災後 10 年間の東北大学における学生相談活動の実践・展開

〔教育相談〕

のべ相談人数 288 名、のべ相談回数 637 回

〔その他〕

学生相談・特別支援センター業務：

- 1) 全学生対象の「大学生の心身の健康に関する調査（東日本大震災後の大学生活に関する調査）」に関して、内容の検討や計画・実施、結果の集計、さらにその結果に基づくハイリスクの学生に対する個別支援を行った。また、本調査やそれに基づく支援を含め、東日本大震災後 10 年間の学生相談活動に関する報告書を作成した。
- 2) 学部 1 年生を対象に実施した「新型コロナウイルスの感染拡大の影響に関するアンケート」の結果を集計し、ハイリスクの学生に対する個別支援を行った。さらに、調査結果に基づき①全学生向けと②教職員向けのリーフレットを作成し、大学ホームページに掲載する等して周知した。
- 3) 学生生活支援審議会 FD（令和 2 年度は 3 回実施）の企画・運営を行った。うち第 1 回 FD において、上記の新型コロナウイルスに関する調査結果や、それに基づいて考えられる今後の学生支援における留意点について報告した。

長友 周悟（講師）

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 全学教育「学生生活概論」 前期

全学教育 教職科目「相談心理学Ⅱ」 後期

学部教育 関係行政論 後期

〔学内教職員支援〕

令和 2 年度第 1 回学生生活支援審議会 FD「新型コロナウイルス影響下での東北大学における学生支援」（FD／SDの企画・運営）

令和 2 年度第 2 回学生生活支援審議会 FD「本学におけるハラスメント防止体制及び実際の相談への対応について」（FD／SDの企画・運営）

令和 2 年度第 3 回学生生活支援審議会 FD「大学における障害学生への配慮・支援について」（FD／SDの企画・運営）

〔教育相談〕

のべ相談人数 515 名、のべ相談回数 1516 回

〔行政機関・企業・NPO等参加〕

NPO 法人ソイブラム 理事 2020 年 4 月～2021 年 3 月

社会福祉法人あおぞら 評議員 2020 年 4 月～2021 年 3 月

社会福祉法人仙台みんなの輪 評議員 2020 年 4 月～2021 年 3 月

榎原 佐和子（特任講師）

〔学内教職員支援〕

大学における身体障害学生への支援に関する研修会実施 身体障害当事者である大学教員（神戸学院大学心理学部講師 中村珍晴氏）による研修会（FD／SDの企画・運営）

〔学会活動および外部機関における活動〕

日本コミュニティ心理学会 理事、常任理事/倫理委員会委員長、編集委員会副編集委員長 2015 年 4 月～

木内 喜孝（教授）

〔専門分野〕

消化器内科学

ヒト遺伝学

〔学位論文指導・審査〕

博士 4 名（副査 4 名）、修士 1 名（予備審査 1 名）

〔論文〕

（共著）「"Endoscopic radial incision and cutting for Crohn's Disease-associated intestinal stricture: a pilot study."」 『"Endosc Int Open."』 8 巻 1 号 E81-E86 202

（共著）「"Serum C-reactive protein and albumin are useful biomarkers for tight control management of Crohn's disease in Japan."」 『Sci Rep』 10 巻 1 号 511-202

（共著）「"An Integrated Genomic and Transcriptomic Analysis Reveals Candidates of Susceptibility Genes for Crohn's Disease in Japanese Populations."」 『Scientific reports』 10 巻 1 号 10236-10236 2020 年 6 月

(共著) 「"Genetic Analysis of Ulcerative Colitis in Japanese Individuals Using Population-specific SNP Array."」 『Inflammatory bowel diseases』 26 巻 8 号 1177-1187 2020 年 7 月

(共著) 「"Repertoire analysis of memory T-cell receptors in Japanese patients with inflammatory bowel disease."」 『JGH open: an open access journal of gastroenterology and hepatology』 4 巻 4 号 624-631 2020 年 8 月

(共著) 「Factors Associated with Fibrosis during Colorectal Endoscopic Submucosal Dissection: Does Pretreatment Biopsy Potentially Elicit Submucosal Fibrosis and Affect Endoscopic Submucosal Dissection Outcomes?」 『Digestion』 1-9 2020 年 8 月

(共著) 「"Efficacy of urgent colonoscopy for colonic diverticular bleeding: A propensity score-matched analysis using a nationwide database in Japan."」 『Journal of gastroenterology and hepatology』 2020 年 10 月

(共著) 「"TL1A (TNFSF15) genotype affects the long-term therapeutic outcomes of anti-TNF α antibodies for Crohn's disease patients."」 『JGH open: an open access journal of gastroenterology and hepatology』 4 巻 6 号 1108-1113 2020 年 12 月

【会議の発表・講演】

「プレナリーセッション トランスクリプトーム解析を用いた日本人クローン病疾患感受性遺伝子の同定。」 口頭（一般）：第 106 回日本消化器病学会総会 2020 年 8 月

「プレナリーセッション 人種最適化アレイを用いた日本人潰瘍性大腸炎患者の遺伝的背景の解析。」 口頭（一般）：第 106 回日本消化器病学会総会 2020 年 8 月

「当院における Crohn 病に対する adalimumab 倍量投与の治療成績」 口頭（一般）：第 106 回日本消化器病学会総会 2020 年 8 月

「【炎症性腸疾患における免疫調節薬の有用性と課題】炎症性腸疾患における治療前スクリーニング NUDT15 遺伝子多型測定の意義と課題。」 口頭（一般）：第 62 回日本消化器病学会大会 2020 年 11 月

「炎症性腸疾患の新規治療薬の効果と安全性日本人潰瘍性大腸炎患者の新規治療薬登場後の時代における予後解析。」 口頭（一般）：第 75 回日本大腸肛門病学会 2020 年 11 月

【総説・解説記事】

(共著) 「トランスクリプトーム解析を用いた日本人クローン病疾患感受性遺伝子の同定」 『日本消化器病学会雑誌』 117 巻臨増総会号 A208-A208 2020 年 7 月

(共著) 「人種最適化アレイを用いた日本人潰瘍性大腸炎患者の遺伝的背景の解析」 『日本消化器病学会雑誌』 117 巻臨増総会号 A209-A209 2020 年 7 月

(共著) 「当院における Crohn 病に対する adalimumab 倍量投与の治療成績」 『日本消化器病学会雑誌』 117 巻臨増総会号 A224-A224 2020 年 7 月

(共著) 「炎症性腸疾患の新規治療薬の効果と安全性日本人潰瘍性大腸炎患者の新規治療薬登場後の時代における予後解析」 『日本大腸肛門病学会雑誌』 73 巻 9 号 A35-A35 2020 年 9 月

【科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）】

基盤研究(C) 日本人の遺伝背景を考慮した免疫細胞 eQTL による炎症性腸疾患関連遺伝子の機能解析 2018 年 4 月～2021 年 3 月 代表者

基盤研究(C) メディア上にみられるクローン病に関する医療情報の質の評価 2018 年 4 月～2021 年 3 月 分担者

【その他の競争的資金獲得実績】

(その他補助金 AMED ゲノム医療実用化推進研究事業) NUDT15 遺伝子型に基づき個人に最適化された安全かつ有効的なチオプリンによる免疫調節療法の開発 2019 年 4 月～2021 年 3 月

【学内活動】

全学委員会 入試実施委員会 2012 年 4 月～

全学委員会 環境・安全委員会委員 2012 年 4 月～

全学委員会 特別健康管理専門部会委員長 2012 年 7 月～

全学委員会 災害対策推進室推進室会議 2013 年 7 月～

全学委員会 サイクロトロン・ラジオアイソトープセンター運営専門委員会委員 2014 年 4 月～

全学委員会 学生生活支援審議会 2015 年 4 月～

全学委員会 人を対象とする医学系研究実施委員会委員 2015 年 6 月～

部局内委員会 情報科学大学院倫理審査委員 2012 年 4 月～

部局内委員会 ハラスメント相談窓口 2012 年 5 月～

部局内委員会 研究費の不正使用に関する通報を受け付ける窓口 2012 年 5 月～

部局内委員会 研究倫理委員会委員長 2014 年 4 月～

部局内委員会 機構研究倫理教育責任者 2015 年 3 月～

部局内委員会 機構研究倫理推進責任者 2015 年 4 月～

部局内委員会 ハラスメント防止対策委員長 2015 年 10 月～

その他の主要活動 保健管理センター外来業務 2011 年 4 月～

【学会活動および外部機関における活動】

日本消化器内視鏡学会東北支部 評議員 1998 年 7 月～

日本消化器病学会 評議員 2000 年 10 月～

日本内科学会東北支部 評議員 2005 年 2 月～

日本消化器がん検診学会 地方評議員 2012 年 8 月～

全国大学保健管理協会 評議員 2013 年 5 月～

東北学校保健学会 世話人 2013 年 8 月～

〔行政機関・企業・NPO等参加〕

〔日本国内〕 宮城県対がん協会 宮城県対がん協会大腸癌検診診断委員 委員長 2002 年 4 月～

〔日本国内〕 宮城県社会保険診療報酬支払基金 宮城県社会保険診療報酬請求書審査委員会 審査委員 2004 年 4 月～

厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金特定疾患対策研究事業一難治性炎症性腸管障害に関する調査研究 班友 2009 年 4 月～

小川 晋 (准教授)

〔専門分野〕

代謝学

内分泌学

腎臓内科学

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

他大学 看護学実習 前期

〔学位論文指導・審査〕

博士 1 名 (予備審査 1 名)

〔会議の発表・講演〕

「酸化ストレス抑制による eGFR 上昇と BNP 上昇の関連」 その他: 第 63 回日本腎臓学会学術総会 (誌上発表) 2020 年 8 月

「酸化ストレス抑制による eGFR 上昇メカニズムの解明」 ポスター (一般): 第 63 回日本糖尿病学会年次学術集会 2020 年 10 月

〔学内活動〕

全学委員会 倫理委員会委員 2015 年 4 月～

全学委員会 出版・図書・資料委員会 2016 年 4 月～

〔学会活動および外部機関における活動〕

日本肥満症治療学会 評議員 2008 年 4 月～

日本内科学会東北支部 評議員 2010 年 6 月～

日本高血圧学会 評議員 2013 年 10 月～

日本腎臓学会 評議員 2015 年 4 月～

日本内分泌学会 評議員 2016 年 4 月～

高血圧学会 プログラム委員会 2017 年 1 月～

糖尿病性腎症研究会 幹事 2017 年 4 月～

日本糖尿病学会 学術評議員 2019 年 4 月～

〔その他〕

岩手県陸前高田病院にて糖尿病外来を 30 年続けている。同地域には糖尿病専門医がおらず地域医療の向上に勤めている。また透析専門病院にて透析患者の血糖コントロールを行っている。透析患者の血糖変動はあまり知られておらず、そのコントロールには高度な専門的知識が必要である。

佐藤 公雄 (准教授)

〔専門分野〕

循環器内科学

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

学部教育 薬理学 I 後期前半

〔論文〕

(共著) 「"Cyclophilin A as a biomarker for the therapeutic effect of balloon angioplasty in chronic thromboembolic pulmonary hypertension."」 『Journal of cardiology』 75 巻 4 号 415-423 2020 年 4 月

(共著) 「"Non-invasive screening using ventilatory gas analysis to distinguish between chronic thromboembolic pulmonary hypertension and pulmonary arterial hypertension."」 『"Respirology (Carlton, Vic.)"』 25 巻 4 号 427-434 2020 年 4 月

(共著) 「"Beneficial effects of riociguat on hemodynamic responses to exercise in CTEPH patients after balloon pulmonary angioplasty - A randomized controlled study."」 『"International journal of cardiology. Heart & vasculature"』 29 巻 100579-100579 2020 年 8 月

(共著) 「"Identification of the Novel Variants in Patients With Chronic Thromboembolic Pulmonary Hypertension."」 『Journal of the American Heart Association』 9 巻 21 号 e015902- 2020 年 11 月

(共著) 「"Identification of Celastrol as a Novel Therapeutic Agent for Pulmonary Arterial Hypertension and Right Ventricular Failure Through Suppression of Bsg (Basigin)/CyPA (Cyclophilin A)."」 『"Arteriosclerosis, thrombosis, and vascular biology"』 41 巻 3 号 1205-1217 2021 年 3 月

(共著) 「"Sirtuin-7 as a Novel Therapeutic Target in Vascular Smooth Muscle Cell Proliferation and Remodeling."」 『Circulation Journal』 2021 年 3 月

〔著書〕

- 『Heart View 特集：肺高血圧症診療 up to date 最新の知見を診療に生かすために「肺動脈性肺高血圧症の病因」』2020年4月
- 『"Development of novel therapies for pulmonary hypertension by clinical application of basic research. Molecular Mechanisms of Congenital Heart Disease and Pulmonary Hypertension, pp. 125-129, Springer, 2020."』2020年10月
- 『『医学の歩み』16 循環器内科領域 肺動脈性肺高血圧症の新しい治療標的』2020年11月
- 『日本心不全学会 eLetter 冬号：心不全研究のオピニオンリーダー「新しい心不全治療薬 SGLT2 阻害薬の作用機序」』日本心不全学会 2021年1月
- 『科学評論社「循環器内科」：話題「SGLT2 阻害薬による心腎保護効果と Sirtuin-1」』2021年3月

〔会議の発表・講演〕

- 「＜Plenary Session＞Current Status of Pregnant Women with Cardiovascular Disease」シンポジウム・ワークショップ・パネル（公募）：第84回日本循環器学会学術集会（2020年7月27日～8月2日 WEB 開催）2020年7月
- 「＜Oral Presentations＞Identification of Celastrol as a Novel Therapeutic Agent for Pulmonary Arterial Hypertension and Right Ventricular Failure through Suppression of Basigin/Cyclophilin A」口頭（一般）：第84回日本循環器学会学術集会（2020年7月27日～8月2日 WEB 開催）2020年7月
- 「＜Oral Presentations＞Health-related Quality of Life Predicts Cardiovascular Outcomes and Unplanned Hospital Admissions in Patients with Adult Congenital Heart Disease」口頭（一般）：第84回日本循環器学会学術集会（2020年7月27日～8月2日 WEB 開催）2020年7月
- 「＜Plenary Session＞Identification of Novel Therapeutic Targets for Thoracic Aortic Aneurysms」シンポジウム・ワークショップ・パネル（公募）：第84回日本循環器学会学術集会（2020年7月27日～8月2日 WEB 開催）2020年7月
- 「＜Plenary Session＞Impaired Fibrinolysis in Chronic Thromboembolic Pulmonary Hypertension Caused by Thrombin-Activatable Fibrinolysis Inhibitor」シンポジウム・ワークショップ・パネル（公募）：第84回日本循環器学会学術集会（2020年7月27日～8月2日 WEB 開催）2020年7月
- 「＜Plenary Session＞Multi-step Therapy with Riociguat, Balloon Pulmonary Angioplasty, and Cardiac Rehabilitation for Chronic Thromboembolic Pulmonary Hypertension」シンポジウム・ワークショップ・パネル（公募）：第84回日本循環器学会学術集会（2020年7月27日～8月2日 WEB 開催）2020年7月
- 「＜ランチョンセミナー＞3 肺高血圧症の広域医療連携の強化に向けて ～東北地方における取り組み～」口頭（一般）：第5回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会（2020年9月26～27日 WEB 開催）2020年9月
- 「＜奨励賞受賞講演＞スクリーニングによる新規肺高血圧症治療薬 Celastrol の発見」シンポジウム・ワークショップ・パネル（公募）：第5回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会（2020年9月26～27日 WEB 開催）2020年9月
- 「＜シンポジウム2＞Novel Animal Model of CTEPH with Thrombin-Activatable Fibrinolysis Inhibitor Overexpressing Mice」シンポジウム・ワークショップ・パネル（公募）：第5回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会（2020年9月26～27日 WEB 開催）2020年9月
- 「＜シンポジウム1：NOと循環器系疾患＞血管恒常性維持機構におけるNOの役割」シンポジウム・ワークショップ・パネル（指名）：第73回日本酸化ストレス学会 / 第20回日本NO学会合同学術集会（2020年10月6～7日 WEB 開催）2020年10月
- 「＜シンポジウム 肺高血圧症における循環薬理学研究の最前線＞肺高血圧症の早期診断および新しい治療薬開発」シンポジウム・ワークショップ・パネル（公募）：第30回日本循環薬理学会（2020年11月27日 WEB 開催）2020年11月
- 「＜シンポジウム Back to Basics 科学的基盤に立脚した次世代の薬物治療を創る＞肺高血圧症の早期診断・新規治療法開発におけるアカデミア創薬の挑戦」シンポジウム・ワークショップ・パネル（公募）：第41回日本臨床薬理学会学術総会シンポジウム（2020年12月3日～12月5日）2020年12月
- 「新型コロナウイルス感染症と循環器疾患」その他：東北大学 健康科学セミナー 2021年3月

〔総説・解説記事〕

- （共著）「冠動脈疾患における新規予後予測バイオマーカー Adipsin の発見・補体系を介した心筋梗塞発症予測の新たな展開」『血管』43巻1号 36-36 202
- （共著）「肺高血圧症の早期診断・新規治療法開発におけるアカデミア創薬の挑戦」『臨床薬理』51巻 Supplement 号 S240-S240 202
- （共著）「肺動脈性肺高血圧の病因蛋白群の発見と創薬スクリーニング」『Bio Clinica』8巻2号 113-117 202
- （共著）「胸部大動脈瘤・解離の新しい抑制機構の解明」『血管』43巻1号 28-28 202
- （共著）「患者由来細胞を用いた肺動脈性肺高血圧症の発症機構の解明」『血管』43巻1号 30-30 202
- （共著）「肺動脈性肺高血圧症の新しい治療標的」『医学のあゆみ』275巻9号 985-986 202
- （共著）「肺高血圧症を合併する成人先天性心疾患の臨床像」『脈管学(Web)』60巻 supplement 号 202
- （共著）「血管恒常性維持機構におけるNOの役割」『日本酸化ストレス学会学術集会プログラム・抄録集』73rd 巻 202
- （共著）「肺高血圧症の早期診断および新しい治療薬開発」『日本循環薬理学会口演要旨集』30th 巻 202
- （共著）「本学学生の飲酒頻度とその推移-14年間の横断的研究」『Campus Health (CD-ROM)』57巻1号 103-103 202
- （共著）「肺高血圧症診療 up to date 最新の知見を診療に活かすために 肺動脈性肺高血圧症の病因」『Heart View』24巻3号 255-260 202
- （共著）「"肺高血圧症、右心不全治療薬としての Basigin/Cyclophilin A 阻害薬 celastrol の同定"」『血管』43巻1号 36-36 202
- （共著）「循環器疾患患者の妊娠と出産 (Current Status of Pregnant Women with Cardiovascular Disease)」『日本循環器学会学術集会抄録集』84回巻 シンポジウム 23-3 2020年7月

(共著)「Health-related Quality of Life Predicts Cardiovascular Outcomes and Unplanned Hospital Admissions in Patients with Adult Congenital Heart Disease(和訳中)」『日本循環器学会学術集会抄録集』84回巻 OJ32-5 2020年7月

(共著)「肺高血圧症を合併する成人先天性心疾患の臨床像」『脈管学』60巻"Suppl."号 S169-S169 2020年10月

(共著)「新型コロナウイルス感染防止を考慮した健診 東北大学における実施経験」『全国大学保健管理研究集会プログラム・抄録集』58回巻 78-78 2020年11月

〔共同研究活動〕

肺高血圧症の新しい早期診断試薬開発 アルフレッサファーマ株式会社 国内 2015年10月～

肺高血圧治療薬エメチンの合成ルート開発 スベラファーマ株式会社 国内 2017年4月～

肺動脈性肺高血圧症の新しい病因蛋白に着目した抗体医薬開発 ジーンテクノサイエンス株式会社 国内 2018年10月～

慢性血栓性肺高血圧症の新しい治療薬開発 日本新薬株式会社 国内 2020年12月～

〔科学研究費補助金獲得実績(文科省・学振)〕

基盤研究(B) 次世代型先制医療実現のための肺高血圧症病因蛋白群の抽出と治療法開発 2019年4月～2022年3月 代表者

〔その他の競争的資金獲得実績〕

(その他補助金 日本医療研究開発機構(AMED) 橋渡し研究(シーズA) ADAMTS8を標的とする肺動脈性肺高血圧症抗体治療薬の開発 2020年4月～2022年3月

(その他補助金 日本医療研究開発機構(AMED) 難治性疾患実用化研究事業) 肺動脈性肺高血圧症の新しい治療薬エメチンの治験準備 2020年4月～2023年3月

(その他補助金 東北大学 BIP(ビジネス・インキュベーション・プログラム)国際特許支援) フェーズ1(国際出願支援) 2020年10月～2021年10月

(その他補助金 ベーリンガー奨学金寄付) 肺高血圧症研究 2020年10月～2021年10月

(その他受託研究費 武田科学振興財団ビジョナリーリサーチ 2020年10月・2022年10月) 肺動脈性肺高血圧症の全く新しい治療薬開発 2020年10月～2022年10月

(その他補助金 東北大学 BIP(ビジネス・インキュベーション・プログラム)令和2年度第2回 BIP フェーズ1育成) 患者由来の臨床検体を用いた早期診断薬及び治療薬開発とその事業化のための体制構築 2021年1月～2022年3月

〔学術関係受賞〕

"Top 10 Reviewers Award of Arteriosclerosis, Thrombosis and Vascular Biology (ATVB)" 授与機関: AHA 2020年11月

〔学内活動〕

その他の主要活動 東北大学病院 循環器内科 循環グループ再来 2008年9月～

その他の主要活動 保健管理センター 健康相談班長 2012年4月～

その他の主要活動 東北大学病院 循環器内科 新患外来 2018年4月～

〔学内教職員支援〕

東北大学 健康科学セミナー(講師)

〔学会活動および外部機関における活動〕

日本NO学会 評議員 2010年6月～

アメリカ心臓協会(AHA) "国際学術誌(Arteriosclerosis, Thrombosis, and Vascular Biology, ATVB) 編集委員会 委員" 2013年5月～

日本酸化ストレス学会 評議員 2013年5月～

日本心臓血管作動物質学会 評議員 2014年7月～

日本循環器学会 日本循環器学会 禁煙推進委員会 委員 2015年4月～

文部科学省 科学技術・学術政策研究所 科学技術動向研究センター 専門調査員 2015年4月～

日本循環器学会 Circulation Journal(日本循環器学会) 編集委員 2015年4月～

文部科学省 独立行政法人日本学術振興会(JSPS)審査委員 2015年4月～

アメリカ心臓協会(AHA) 国際学術誌(Circulation Research) 編集委員会 委員 2015年7月～

日本肺高血圧・肺循環学会 評議員 2016年4月～

日本循環器学会 Fellow of Japanese Circulation Society(FJCS 日本循環器学会特別会員) 2017年4月～

日本心臓病学会 Fellow of Japanese College of Cardiology(FJCC 日本心臓病学会特別会員) 2017年4月～

ヨーロッパ心臓学会 Fellow of the European Society of Cardiology(FESC ヨーロッパ心臓学会特別会員) 2017年4月～

日本循環器学会 日本循環器学会 予防委員会 委員 2017年4月～

日本循環器学会 Circulation Report(日本循環器学会) 編集委員 2018年4月～

〔兼務、兼業など〕

学内 東北大学病院・循環器内科 准教授 2012年4月～

学内 東北大学大学院・医学系研究科・病態生理情報学分野 准教授 2012年4月～

学内 東北大学大学院・情報科学研究科 准教授 2012年4月～

〔学外の社会活動〕

日本循環器学会 禁煙推進委員会委員

日本循環器学会 予防委員会 委員

〔行政機関・企業・NPO等参加〕

文部科学省 独立行政法人日本学術振興会(JSPS)審査委員 2014 年 12 月～

文部科学省 科学技術・学術政策研究所 科学技術動向研究センター 専門調査員 2016 年 4 月～

〔社会貢献〕

【学会活動】

12 の国内外の学会に所属し、日本酸化ストレス学会および日本 NO 学会の評議員を務めている。また、日本 NO 学会の事務局を担当している。

日本循環器学会 禁煙推進委員会 委員

日本循環器学会 予防委員会 委員

日本循環器学会 第 80 回日本循環器学会学術集会 事務局長

日本 NO 学会 評議員 (事務局担当)

第 9 回国際 NO 学会・第 16 回日本 NO 学会学術集会 事務局長

日本酸化ストレス学会 評議員

日本心臓血管動物質学会 評議員

【学術活動】

文部科学省 独立行政法人日本学術振興会(JSPS)審査委員

文部科学省 科学技術・学術政策研究所 科学技術動向研究センター 専門調査員

【国際学術誌 編集委員会 委員 Editorial Board】

Circulation Research (AHA)

Arteriosclerosis, Thrombosis, and Vascular Biology (ATVB) (AHA)

Circulation Journal (日本循環器学会)

Circulation Report (日本循環器学会)

北 浩樹 (助教)

〔専門分野〕

社会系歯学

〔その他教育上に関する活動〕

(教科書・教材の開発) デジタルサイネージを用いた学生向け健康情報供覧システムの開発と運用

〔論文〕

(共著) 「新型コロナウイルス感染症流行下での学生健診ー東北大学における実施経験ー」 『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 7 巻 139-149 2021 年 3 月

(共著) 「クローン病の報道ー全国 3 大紙の計量テキスト分析ー」 『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 7 巻 387-394 2021 年 3 月

〔会議の発表・講演〕

「新型コロナウイルス感染防止を考慮した健診ー東北大学における実施経験ー」 ポスター (一般): 第 58 回全国大学保健管理研究集会 2020 年 11 月

〔共同研究活動〕

大学における健康診断・健康関連情報の標準化と利活用に関わる調査研究 国内 2016 年 1 月～

〔科学研究費補助金獲得実績 (文科省・学振)〕

基盤研究(C) メディア上にみられるクローン病に関する医療情報の質の評価 2018 年 4 月～2021 年 3 月 代表者

〔学内活動〕

部局内委員会 施設整備委員会 2014 年 4 月～

その他の主要活動 保健管理センターにおける医療業務 1997 年 4 月～

〔学内教職員支援〕

高度教養教育・学生支援機構 PD プログラム 健康教育 W - 4 【PDP】健康科学セミナー「歯科臨床と新型コロナウイルス感染症」 (講師)

〔プロジェクト活動〕

学生健診を基盤とした共有型ライフロング (PHR) の構築と利活用促進のための標準化モデル創出に関する研究班

〔学会活動および外部機関における活動〕

全国大学保健管理協会 「大学における健康診断・健康関連情報の標準化と利活用に関わる調査研究班」 2016 年 1 月～

〔授業担当〕

情報科学研究科大学院教育 (健康情報学) 「歯科疾患と情報科学 I, II」

〔教育支援活動〕

デジタルサイネージ (電子看板) を用いた学生向け健康情報供覧システムの開発と運用

〔その他〕

日本矯正歯科学会認定医

二宮 匡史 (助教)

〔教育活動〕

- ・ 大学生の講義と実習の指導
- ・ 大学院生の指導

〔大学運営・支援及び医療業務〕

- ・ 化学療法プロトコル審査委員
- ・ 東北大学病院生理検査センター 部門アドバイザー

〔社会貢献〕

- ・ 市民公開講座での講演

山本 沙織 (助教)

〔専門分野〕

循環器内科

〔教育活動〕

- ・ 大学生の講義と実習の指導
- ・ 大学院生の指導

〔大学運営・支援及び医療業務〕

- ・ 化学療法プロトコル審査委員
- ・ 緩和ケアセンター運営委員

〔社会貢献〕

- ・ 心臓移植にあたりドナー心の三次評価

〔兼務、兼業など〕

学内 東北大学病院 循環器内科

川口 桂 (助教)

〔専門分野〕

消化器外科学

〔総説・解説記事〕

(共著) Patient-derived orthotopic xenograft models of sarcoma. Cancer Lett. 2020 Jan 28; 469:332-339.

〔科学研究費補助金獲得実績 (文科省・学振)〕

基盤研究(C) 膵・消化管神経内分泌腫瘍における CNPY2 の肝転移関連機序の解明 2019 年 ～ 2021 年 分担者

〔兼務、兼業など〕

学内 東北大学病院 総合外科 2018 年 5 月～

柏舘 俊明 (助教)

〔専門分野〕

消化器外科学

〔指導大学院生・学部生の発表件数〕

2020 年度 大学院学生 (博士課程医・歯学履修課程) 学会発表件数:1 件

〔論文〕

(共著) "Effects of re-augmenting maintenance immunosuppression on post-transplant donor-specific HLA antibodies in liver transplantation." 『Transplant immunology』 63 巻 101334-101334 2020 年 12 月

(共著) "Bleeding from jejunal varices formed at the Roux-en-Y jejunum site caused by the compression of the left renal vein after living donor liver transplantation with renoportal anastomosis." 『Surgical case reports』 7 巻 1 号 43-43 2021 年 2 月

〔会議の発表・講演〕

「A case of multi-venous reconstruction using recipient 's superficial femoral vein graft in right lobe living donor liver transplantation」 口頭 (一般) : The 32nd Meeting of Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery 2021 年 2 月

〔総説・解説記事〕

(共著) 「BCLC B の HCC に対する肝切除術の長期成績」 『肝臓』 61 巻"Suppl.2"号 A645-A645 2020 年 9 月

(共著) 「Renoportal 再建を施行した生体肝移植後挙上空腸肺動脈瘤から消化管出血を来した一例」 『移植』 55 巻総会臨時号 346-346 2020 年 10 月

(共著) 「肝移植における dnDSA の危険因子と免疫抑制療法再強化による DSA 抑制効果の検証」 『移植』 55 巻総会臨時号 240-240 2020 年 10 月

(共著) 「高齢ドナー高齢レシピエントの肝移植術後経過における危険性の検討」 『移植』 55 巻総会臨時号 251-251 2020 年 10 月

(共著) 「当科のアルコール関連肝不全における肝移植後経過に関する検討」 『移植』 55 巻総会臨時号 278-278 2020 年 10 月

(共著) 「急性肝不全昏睡型の肝移植成績および予後不良因子の検討」 『移植』 55 巻総会臨時号 280-280 2020 年 10 月

〔兼務、兼業など〕

学内 東北大学病院 総合外科 2020 年 8 月～

〔その他〕

医学部学生 5 年生の臨床実習（SGT）の指導。医学部学生 6 年生の臨床実習（高次修練）の指導。教室員会常任委員としての活動。感染対策実務委員としての活動。東北大学外科長同門会年報（annual report）の編集、発刊。

横関 理恵（特任助教）

〔会議の発表・講演〕

「コロナウィルスの社会的影響とボランティア活動」 その他: 2020 年度第 1 回東北大学 課外・ボランティア活動研修会「オンライン・ワークショップ入門～今こそ考えるボランティア活動の意義～」 2020 年 5 月

〔科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）〕

若手研究（スタートアップ） 若者・成人基礎教育保障に関する教育行政学的分析を通じた公教育論の再構築 2019 年 4 月～ 代表者

〔プロジェクト活動〕

東北大学 IEHE×日本財団学生ボランティアセンター（Gakuvo）「東日本大震災の経験を世界と未来につなぐプロジェクト」（教育・育成）

〔学外の社会活動〕

北海道に夜間中学をつくる会

松原 久（特任助教）

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 課題解決型（PBL）演習A 後期

全学教育 社会の構造 後期

全学教育 「復興」を学際的に考える 後期

〔その他教育上に関する活動〕

（教育方針の実践例）「サービス・ラーニング」科目の開発

（教育方針の実践例）「ボランティア入門講座」の企画開催

〔論文〕

（共著）「コロナ禍における学生ボランティア活動の課題とその支援 ―活動対象者・受け入れ先との関係に着目して―」 『2020 年度課外・ボランティア活動支援センター紀要』 1-5 2021 年 3 月

〔著書〕

『被災地・者の〈自立〉に向けた学生ボランティアの葛藤と模索：東北大学が受け継いだ系譜と新たな展開』 六花出版 2020 年 7 月

〔会議の発表・講演〕

「新入生支援「先輩による何でも相談」の取り組み」 シンポジウム・ワークショップ・パネル（指名）：東北大学オンライン授業シンポジウム 2020 年 5 月

「コロナ禍における災害支援の展開とその可能性・課題」 口頭（招待・特別）：東北社会学会研究会シンポジウム 2020 年 12 月

「パンデミック下における「地元」若手研究者の揺らぎと模索」 シンポジウム・ワークショップ・パネル（指名）：2020 年度日本災害復興学会大会 2020 年 12 月

〔学会活動および外部機関における活動〕

東北社会学会 会計委員 2016 年 8 月～

東北社会学会研究会 編集委員 2019 年 4 月～

〔学外の社会活動〕

仙台市大和地区へのボランティア派遣

石巻市へのボランティア派遣

台風 19 号被災地丸森町へのボランティア派遣

尼崎西高校ボランティアとの交流

〔行政機関・企業・NPO等参加〕

おらほの自治を考える会 副代表 2016 年 9 月～

仙台市大和地区社会福祉協議会 市営住宅連絡会 アドバイザー 2019 年 4 月～2021 年 3 月

みやぎボランティア総合センター 運営委員会 運営委員 2020 年 4 月～

つながりデザインセンター 理事 2020 年 6 月～

独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立花山青少年自然の家 運営協議会委員 2020 年 9 月～

高橋 結 (特任助教)

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 課題解決型(PBL)演習 A 後期

全学教育 社会の構造 後期

〔その他教育上に関する活動〕

(教育方針の実践例) 「サービス・ラーニング」科目の開発

〔論文〕

(共著) 「Study of Reflections on University Fieldwork Courses: The Characteristics of Learning Content of Students Who Visited Disaster-Affected Areas」 『Journal of Disaster Research』 959-968 15 巻 7 号 2020 年 12 月

(共著) 「学生の省察に見るボランティア活動における学びに関する研究・学生スタッフ SCRUM2019 年度集中会議振り返りに着目して」 『2020 年度 東北大学 課外・ボランティア活動支援センター紀要』 6-10 2021 年 3 月

〔著書〕

『旅と語りを科学する：観光におけるナラティブの活用可能性』 創成社 2020 年 6 月

〔会議の発表・講演〕

「公共施設の長寿命化計画の策定プロセスにおける産官学連携のあり方に関する一考察 ―大学での PBL 科目との連携に着目して」 口頭 (一般) : 日本計画行政学会第 43 回全国大会 2020 年 11 月

〔学術関係受賞〕

著述賞 授与機関: 日本環境共生学会 2020 年 9 月

〔学会活動および外部機関における活動〕

日本計画行政学会東北支部 事務局 2016 年 4 月～

日本 NPO 学会東北大会 大会実行委員 2020 年 11 月～

〔学外の社会活動〕

福島県へのボランティア派遣

IV 資 料 編

1. 統計データ

(1) グローバル時代における人材像と高度教養教育システムの総合的研究の推進

○「第14回 東北大学学生生活調査」(令和2年12月実施)

- ・東北大学の学部・大学院に在籍し、調査可能であるすべての学生を対象に、令和2年12月1日現在の状況について調査を実施(専用Webページによる回答)
- ・今回からランディングページ「学生の声@東北大学」を開設し、過去の調査結果に基づく改善事例を紹介。
- ・有効回答数 6,967 名、有効回答率 39.4%

○「第5回 東北大学の教育と学修成果に関する調査」(令和3年2-3月実施)

- ・令和2年度学部卒業生・大学院修了生(令和3年3月卒修了生)の4,621名(学部卒業生2,361名・大学院修了生2,167名・専門職大学院修了生93名)を対象に調査を実施(専用Webページ及び紙媒体による回答)
- ・有効回答数 1,608 名、有効回答率 34.8%

(2) 実践的英語運用能力を高める体系的英語教育プログラムの開発・推進

○英会話支援プログラムの開発・推進

- ・学習支援センターでの「英会話カフェ」及び「1on1英会話」(オンライン)の実施

○国際的な教育・研究環境で必要とされる英語運用能力の養成を目指す「TEA's English 学期内プログラム」及び「TEA's English 集中プログラム」

表2-1 SLA「英会話カフェ」「1on1英会話」利用者数(単位:人)

	H28	H29	H30	H31/R1	R2
延べ利用者数	518	486	489	449	435

表2-2 「TEA's English 学期内プログラム」及び「TEA's English 集中プログラム」開講実績

	H28	H29	H30	H31/R1	R2
開講クラス数	各プログラム2	各プログラム2	各プログラム2	各プログラム2	各プログラム2
受講者数(学期内)(人)	計306	計312	計267	計295	計306
受講者数(集中)(人)	計126	計127	計113	計111	計121

(3) 現代社会の多様な「知」に対応した高度教養教育の開発・推進

○ディシプリンにとらわれることのない意識の涵養

- ・全学教育科目・カレントトピックス科目「遊学」の実施(不開講)(受講者9名、授業評価アンケート「総合評価」4.5)

○多次元的な視野を育成するための科学教育(文・理教員および外国人教員協働講義)の推進

- ・全学教育科目・基幹科目・自然論「ビッグヒストリーで紡ぐ社会と自然科学」(前期・後期合計 受講者165名、授業評価アンケート「総合評価」4.1)
- ・全学教育科目・基幹科目・自然論「【展開ゼミ】あなたの選択:事例で考える学びと研究における倫理」の実施(受講者19名、授業評価アンケート「総合評価」4.7):研究倫理関連科目

- 「自然科学総合実験」および「文科系のための自然科学総合実験」の充実・発展
 - ・全学教育科目「自然科学総合実験」「文科系のための自然科学総合実験」「英語による自然科学総合実験（国際学士コース）」の充実
 - ・受講者数：計 1,669 名
 - ・自然科学総合実験実施委員会：年 4 回開催
 - ・理科実験スタッフミーティング：毎週開催
 - ・自然科学総合実験教員 TA ガイダンス：セメスター開始前に開催
 - ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、対面実施していた理科実験を、実験実施を収録したオンデマンド教材を開発
 - ・Google Classroom を利用して、教材管理・レポート授受・質問対応をオンラインで完結できるシステムを構築し、すべてのレポートにルーブリック評価とレポートの良い点と改善点に関するコメントを付して返却した。
 - ・これまで対面に特化した出席成績管理システムを運用していたが、今般のコロナ禍によりオンラインと対面を併用した出席成績管理システムを自然科学教育開発室の小俣助教が独自開発した。
- 専門分野や文系・理系の区別を超えて人類的問題に接近する学際融合教育
 - ・全学教育科目・基礎ゼミ(オンライン形式)の実施（受講者 2,289 名、授業評価アンケート「総合評価」3.7）
 - ・全学教育科目・カレントトピックス科目「余計なことからはじめよう」の実施（不開講）
- 多様な「知」を大学教育の場面に導入
 - ・連続セミナー コロナ禍のため、不開講
- 移転可能スキル（Transferable Skills）の修得（東北大学ビジョン 2030・主要施策 2）
 - ・全学教育科目・カレントトピックス科目「【展開ゼミ】汎用的技能ワークショップ：認知的能力」の実施（受講者 4 名、授業評価アンケート「総合評価」5.0）
- 高度教養教育の共通科目化（東北大学ビジョン 2030・主要施策 2）
 - ・全学教育科目・「みせる学び：大学で何を学んだの？どう役に立つの？」の実施（後期受講者 4 名、授業評価アンケート「総合評価」5.0）（学部 3～4 年生対象の高年次教養教育科目）

表 3－1 自然科学総合実験受講者数（単位：人）

	H28	H29	H30	H31/R1	R2
理科系クラス	1,567	1,544	1,596	1,604	1,607
文科系クラス	49	54	20	29	37
国際学士コース	26	30	29	27	25
計	1,642	1,623	1,645	1,660	1,669

（４）多様な価値観と文化を学ぶ国際共修・異文化理解プログラムの開発・推進

- 国際共修ゼミ（日本語クラス／英語クラス）の充実
 - ・日本語クラス：29 クラス、延べ受講者数：435 名（内訳：日本人学生 292 名、留学生 143 名）

表 4－1 国際共修ゼミ開講クラス数

	H28	H29	H30	H31/R1	R2
日本語クラス	28	32	34	39	29

表 4-2 国際共修ゼミ（日本語）受講者数（単位：人）

	H28	H29	H30	H31/R1	R2
日本人学生	362	433	393	404	292
外国人留学生	413	421	385	239	143
計	775	854	778	643	435

○短期国際交流活動の推進

- ・東北大学サマープログラムにおける学生ボランティア

表 4-3 東北大学サマープログラムボランティア学生数（単位：人）

	H28	H29	H30	H31/R1	R2
TUJP	55	51（採用数）	33	24	50
TSSP	※効率的運営の ため共通化	TSSP 実施せず	5	9	実施せず
計			38	33	50

R2 年度、コロナ禍を受けて TUJP はオンライン実施、TSSP は実施見送り

(5) 留学生の戦略的受入れの推進と海外研鑽プログラムの充実

①戦略的受入れの推進

- 国立応用科学院リヨン校、フランス国立中央理工科大学院、スウェーデン王立工科大学とのダブル・ディグリープログラム

- ・受入学生数：12 名、派遣学生数：0 名

- 国際学士コース（理学部先端物質科学コース、工学部国際機械工学コース、農学部国際海洋生物科学コース）の継続実施

- ・志願者数：113 名、合格者数：41 名、入学者数：27 名

○交換留学生の受入れ促進

- ・JYPE（自然科学系短期留学生受入プログラム）、IPLA（人文社会科学系短期留学生受入プログラム）、COLABS（研究型短期留学生受入プログラム）、DEEP（直接配置型受入プログラム）について、コロナ禍に対応し、R3 年 4 月の渡日に向けた準備学習期間として、オンラインで授業履修ならびに課題研修を行う、オンライン受入れを行った。
- ・DEEP-Bridge（人文・社会科学直接配置型短期留学生受入プログラム）は、大学院学生は各研究科での研究実施のため各研究科で直接受入れ、学部学生は IPLA に併合することとして、R2 年度秋受入れをもって受入れを終了した。

○New Normal に対応した、オンラインを活用した学生交流機会の創出

- ・環太平洋大学協会（APRU: Association of Pacific Rim Universities）のオンライン学生交流事業のパイロットプログラムに参画。R2 年度秋学期は、単位互換可能な「Academic Program」では、3 大学に本学学生 15 名が履修申込。本学は授業科目 9 科目を提供、APRU 加盟大学学生 11 名が履修申込。単位互換を伴わない「Co-Curricular Program」には、「Japan EXPO」「Discover 'Real' Japan from Home!」「Sake Lecture & Virtual Brewery Tour」の 3 プログラム、総計 14 セッションを提供、のべ 529 名の申込があった。

○短期研修プログラムの整備

- ・東北大学サマープログラム、夏季・冬季短期日本語・日本文化研修プログラムの実施

- 外国人留学生日本語研修コース（国費留学生対象短期集中プログラム）の継続実施
- ・日本語研修コース（大学院・教員研修予備教育）の研修生数：前期 0 名，後期 15 名
 - 入国制限により，前期受入れの者は後期受入れに変更となった。

- 外国人留学生等特別課程（日本語）の継続実施
- ・受講者数：前期 164 名，後期 268 名

- 外国人留学生対象の日本語学習支援プログラムの開発・推進
- ・学習支援センターでの「1on1 日本語会話」（オンライン）の実施

表 5-1 ダブル・ディグリープログラム交流実績（単位：人）

	H28	H29	H30	H31/R1	R2
受入学生数	6	3	10	14	12
派遣学生数	0	2	2	0	0

表 5-2 JYPE, IPLA, COLABS, DEEP 受入学生数（単位：人）

	H28	H29	H30	H31/R1	R2
JYPE	78	56	50	58	5
IPLA	74	62	29	53	12
COLABS	54	35	60	72	2
DEEP	36	17	10	15	0
DEEP-Bridge	40	53	27	47	0

*R2 年度はコロナ禍に対応し，オンラインに限定して受け入れ。

表 5-3 TUJP, TSSP, 日本語・日本文化研修プログラム受入学生数（単位：人）

	H28	H29	H30	H31/R1	R2
TUJP	56	58	53	38	35
TSSP	23	実施せず	22	25	0
短期日本語・日本文化研修プログラム	11	11	9	17	実施せず

*H29 年度はワシントン大学学生 16 名を対象とした理工学特別サマープログラムを実施。

*R2 年度はコロナ禍に対応し，TUJP はオンラインで実施。TSSP は実施見送り。

表 5-4 外国人留学生日本語研修コース（国費留学生対象短期集中プログラム）研修生数（単位：人）

	H28	H29	H30	H31/R1	R2
日本語研修コース（前期）	30	19	27	28	0
日本語研修コース（後期）	4	8	7	9	15
日韓共同理工系学部留学生プログラム	7	7	6	7	—
MEXT 日本語・日本文化研修プログラム	5*	6*	3*	4*	2

*入国制限により，前期受入れの日本語研修コース生は後期受入れに変更となった。

*日韓共同理工系学部留学生プログラムは 2019 年（H31/R1）受入れで終了。

*MEXT 日本語・日本文化研修プログラムは，H31 年度まで文学部で実施。

表 5-5 外国人留学生等特別課程（日本語）の受講者数（単位：人）

	H28	H29	H30	H31/R1	R2
外国人留学生等特別課程（前期）	390	366	375	370	164
外国人留学生等特別課程（後期）	481	513	471	465	268

表 5-6 SLA「日本語会話カフェ」・「1on1 日本語会話」利用者数（単位：人）

	H28	H29	H30	H31/R1	R2
延べ利用者数	-	-	55	243	289

②戦略的派遣の推進

○スタディアブロードプログラム（SAP）、ファカルティレッドプログラム（FL）の開発・実施

・SAP：プログラム数：8、派遣者数 64 名

・FL：プログラム数：3、派遣者数 49 名

※2020 年度は、SAP・FL 共にオンライン特別プログラム（海外体験プログラム）として実施

○多様な派遣プログラムの開発・実施

・研究型海外研鑽プログラム：派遣者数 0 名、入学前海外派遣プログラム：派遣者数 60 名

○東北大学グローバルリーダー（TGL）育成プログラムの推進

・登録者数：1,898 名、指定科目：226 科目、TGL 修了者：62 名、グローバルリーダー認定者：28 名

表 5-7 SAP, FL 実施状況

		H28	H29	H30	H31/R1	R2
SAP	プログラム数	18	17	15	14	8
	派遣者数（単位：人）	330	288	273	256	64
FL	プログラム数	3	5	7	4	3
	派遣者数（単位：人）	44	74	110	67	49

表 5-8 TGL プログラム実施状況

	H28	H29	H30	H31/R1	R2
登録者数（単位：人）	2,562	2,873	3,007	2,406	1,898
指定科目数	391	323	340	307	226
TGL プログラム修了者数（単位：人）	19	43	44	42	62
グローバルリーダー認定者数（単位：人）	14	17	27	23	28

（6）自己発展力のある主体的学生を育成する総合的学生の支援の推進

①学習支援（学習支援センター）

○SLA 並びに教員による学習支援活動

・理系支援担当 SLA（前期 19 名・後期 18 名）による個別対応型学習支援：延べ 460 名

・英会話支援担当 SLA（前期 6 名・後期 7 名）による個別対応・企画発信型学習支援：延べ 449 名

・ライティング支援担当 SLA（前期 2 名・後期 4 名）による個別対応型学習支援：延べ 89 名

・企画担当 SLA（前期 5 名・後期 6 名）による学習企画・イベント実施：計 29 回、参加者延べ 197 名

・留学生対象日本語学習支援担当 SLA（前期 4 名・後期 6 名）による個別対応型学習支援：延べ 243 名

・「レポート指南書入門ゼミ」実施：新型コロナウイルス感染拡大により開催を断念

表 6-1 理系支援担当 SLA による個別対応型学習支援実績（単位：人）

	H28	H29	H30	H31/R1	R2
延べ人数	1,767	800	729	1,011	460
実数	356	240	224	257	160
窓口開設コマ数	112	68	52	59	50

表 6-2 英会話支援担当 SLA による個別対応・企画発信型学習支援実績（単位：人）

	H28	H29	H30	H31/R1	R2
延べ人数	518	472	489	449	435
実数	130	111	73	91	129

②学生相談・援助活動（学生相談・特別支援センター）

○相談・援助・予防活動及び全学的支援体制の構築

- ・学生相談所における個別支援（出張カウンセリング含む）：来談者数 669 名，対応回数 4,259 回
- ・ハラスメント全学学生相談窓口における相談・援助活動：相談件数 13 件，対応回数 63 回
- ・特別支援室（H26.4 設置）での障害のある学生，学生と関わる教職員等への専門的支援
：来談者 153 名，対応回数 2,255 回
- ・特別支援室学生サポーター：登録人数 48 名
- ・学生相談・特別支援等に関する FD：11 回（学生生活支援審議会 FD：3 回，部局 FD：8 回）
- ・星陵キャンパスでの出張相談：来談者数 9 名，相談回数 102 回

表 6-3 学生相談における来談者数（単位：人）

		H28	H29	H30	H31/R1	R2
学生相談・特別支援センター		775	808	955	1,120	800
内訳 (重複あり)	学生相談所 (出張カウンセリング含む)	729	744	822	850	669
	特別支援室	81	132	133	308	153
ハラスメント全学学生相談窓口としての相談		24	13	28	26	13
計		799	821	983	1,146	813

表 6-4 学生相談における相談回数（単位：回）

		H28	H29	H30	H31/R1	R2
学生相談・特別支援センター		6,144	7,368	7,945	7,703	6,472
内訳 (重複あり)	学生相談所 (出張カウンセリング含む)	4,370	5,415	5,521	5,316	4,259
	特別支援室	1,997	2,266	1,974	2,620	2,255
ハラスメント全学学生相談窓口としての相談		95	36	131	126	63
計		6,239	7,404	7,626	7,829	6,535

表 6-5 FD 等の実施回数（単位：回）

	H28	H29	H30	H31/R1	R2
FD・SD（学生支援審議会 FD，部局 FD を含む）	17	16	15	15	11
部局と連携した学生対象の講演	8	8	7	7	3
部局新生オリエンテーション等	17	19	23	19	16
計	42	43	45	41	30

○新入生を含む全学生を対象とした，大学生活への適応状態や震災の心身への影響を把握するための調査の実施と個別支援

表 6－6 全学生対象調査（震災の心身への影響）の概要

	H28	H29	H30	H31/R1	R2
回答者数（人）	10,979	11,108	10,745	10,859	4,586
回収率（％）	61.0%	61.7%	59.7%	59.3	25.5
PTSD ハイリスク群（人）	393	315	250	236	86
PTSD ハイリスク群の割合（％）	3.9%	3.2%	2.7%	2.5	1.9
個別働き掛けに基づく来談者（人）	39	16	15	16	7

※H27 までは，メールでの情報提供（注意喚起と相談窓口案内）のみ。H28 以降は，スタッフ増員に伴い，個別支援を充実させ，相談の呼びかけを実施。

表 6－7 全学生対象調査（学部新入生の大学生活への不適応ハイリスク者）の概要

	H28	H29	H30	H31/R1	R2
回答者数（人）	2,239	2,292	2,319	2,292	2,271
適応ハイリスク群（人）	169	168	152	175	125
個別面接実施者数（人）	31	29	40	36	37

表 6－8 全学生対象調査（学部 2 年生以上の大学生活への不適応ハイリスク者）の概要

	H28	H29	H30	H31/R1	R2
回答者数（人）	8,488	8,816	8,426	8,567	2,315
適応ハイリスク群（人）	338	376	383	332	91
個別面接実施者数（人）	43	34	37	35	14

③健康に関する支援活動（保健管理センター）

○各種健康診断事業，診療及び日常の健康相談

- ・学生定期健康診断：受診者数 9,331 名（受診率 48.8％）
- ・学生特殊健康診断：受診者数 1,917 名
- ・秋胸部レントゲン検診：受診者数 0 名
- ・診療及び日常の健康相談：受診者数 1,558 名
- ・健康診断証明書発行回数：1,196 回

表 6－9 学生定期健康診断受診者数および受診率

	H28	H29	H30	H31/R1	R2
受診者数（人）	13,640	13,769	13,488	13,438	9,331
受診率	75.4%	75.5%	74.4%	73.1%	48.8%

表 6－10 各種健康診断，診療及び日常の健康相談受診者数

	H28	H29	H30	H31/R1	R2
学生特殊健康診断（人）	6,946	6,823	6,777	6,448	1,917
結核健診（学生ツベルクリン反応検査） →秋季胸部 X 線検診（H28 より変更）（人）	244	351	425	545	0
診療及び日常の健康相談 （学生及び職員）（人）	4,236	4,721	4,176	3,575	1,558
診断書・証明書等の発行（枚）	1,992	2,147	1,914	2,116	1,196

○健康に関する講演会等の開催

- ・健康科学講演会（学生対象）：年 1 回
- ・健康科学セミナー（教職員対象）：年 4 回

④キャリア支援活動（キャリア支援センター）

○全学教育科目でキャリア教育科目開講

- ・開講科目数：8 科目，受講者数：200 名

○進路形成のための各種支援プログラム実施

- ・事業件数：22 件，開催回数：40 回
- ・アクセス者数：学部学生延べ 2,375 名，大学院学生延べ 5,240 名，その他既卒者等延べ 2,466 名，計 10,081 名

○進路や就職に関する個別相談

- ・対応件数（川内）：学部学生 1,012 件，大学院学生 1,104 件，その他既卒者等 0 件，計 2,116 件
- ・対応件数（青葉山）：大学院学生，およびその他既卒者等，計 386 件

表 6－1 1 全学教育におけるキャリア教育科目の開講科目数および受講者数

	H28	H29	H30	H31/R1	R2
開講科目数	6	7	7	8	8
受講者数（人）	91	133	146	146	200

表 6－1 2 進路形成のための各種支援プログラム事業件数，開催回数および延べ参加者数

	H28	H29	H30	H31/R1	R2
事業件数	31	28	23	21	22
開催回数	60	57	64	29	40
延べ参加者数（人）	11,813	9,531	7,433	2,128	9,448

表 6－1 3 進路や就職に関する個別相談対応件数

	H28	H29	H30	H31/R1	R2
対応件数	3,672	3,600	3,001	3,487	2,502

⑤課外活動支援（課外・ボランティア活動支援センター）

○東日本大震災およびボランティア関連の授業の提供

- ・実施授業数・受講学生および評価：3 科目・3 コマ（6 単位），受講学生 59 名

○学生ボランティア活動の支援

- ・センターが把握しているボランティアツアー・ボランティア派遣活動：年 35 回，のべ 286 名

表 6－1 4 ボランティアツアーや被災地での学生ボランティア活動回数及び延べ参加学生数

	H28	H29	H30	H31/R1	R2
開催回数	66	108	142	150	35
延べ参加学生数（人）	664	1,062	1,240	1293	286

○ボランティア活動紹介イベントの開催

- ・ボランティア・フェアの実施：2 シーズン・8 日間開催，参加者数 117 名

表 6-15 ボランティア・フェア（旧スタートアップ・フェア）の開催日数及び参加学生数

	H28	H29	H30	H31/R1	R2
開催日数	16	13	12	10	8
延べ参加学生数（人）	290	282	342	369	117

○学生スタッフの育成・支援

- ・ボランティア支援学生スタッフの登録者数：82 名
- ・学生スタッフ対象の集中会議：2 回開催
- ・その他勉強会等：震災伝承に関わるツアー（1 回）、学習会（3 回）、人権課題に関わる学習会（4 回）。

○緊急災害の支援

- ①2019 年 10 月に台風 19 号で被災した宮城県丸森町、
 - ②令和 2 年 7 月豪雨で被災した熊本県
- におけるボランティア活動への助言や引率（オンライン含む 4 回、33 名）

○学生ボランティア登録団体の支援

- ・登録団体数：13 団体
- ・ボランティア団体連絡会議の開催：9 回開催
- ・ボランティア団体の助成金取得数：獲得数 6 件、総額約 426 万円（学生スタッフ SCRUM 内団体）

○ボランティア団体に所属する学生への研修会の実施

- ・課外・ボランティア活動研修会の開催：3 回開催、本学学生参加者数 239 名

○学生ボランティアの学内外での成果報告機会の提供

- ・課外・ボランティア活動支援センター紀要発刊：200 部
- ・Volunteer Seminar Journal 発刊：3,000 部

○課外活動団体の支援

- ・課外活動連携を含めた定例会議：4 回開催

○国内外の大学・高校との課外・ボランティア活動における交流・連携

- ・国内大学生との交流：5 回（のべ他大学生 73 名、本学学生 14 名参加）
- ・国内高校生との交流：3 回（のべ高校生 42 名、本学学生 24 名参加）

（7）東北大学型 AO 入試の一層の深化と拡大のためのイニシアチブ

○入試広報活動の推進

- ・オンラインオープンキャンパスウェブサイト開設：訪問者 76,278 名
- ・高校生対象のオンライン進学説明会ウェブサイト開設：訪問者 52,077 名
- ・高校教員対象のオンライン入試説明会の開催：39 回実施 参加者 226 名（38 都道府県）
- ・高校及び民間業者主催のオンライン入試説明会・相談会への参加：4 会場

表 7-1 オープンキャンパス参加・訪問者数（単位：人）

		H28	H29	H30	H31/R1	R2
参加者数	来場	64,448	65,958	68,228	68,403	オンライン による代替 *
	オンライン					76,278

*新型コロナウイルス感染症拡大防止のため

表 7-2 高校生対象の進学説明会参加・訪問者数（単位：人）

	H28	H29	H30	H31/R1	R2
仙台会場				927	オンライン による代替 *
札幌会場	291	428	398	376	
静岡会場	285	273	272	227	
東京会場	732	823	1,045	1,180	
大阪会場	232	209	269	256	
福岡会場			(工学部主催) 43	44	
オンライン					52,077

*新型コロナウイルス感染症拡大防止のため

表 7-3 高校教員対象の入試説明会の開催実績

		H28	H29	H30	H31/R1	R2
対面型	会場数	20	21	21	21	オンライン による代替 *
	参加者数 (人)	498	552	486	557	
オンライン	実施回数					39
	参加者数 (人)					226

*新型コロナウイルス感染症拡大防止のため

(8) 大学教職員の能力開発と高等教育機関のマネジメント開発支援

○専門性開発セミナーの開催

- ・提供セミナー数：13 回
- ・参加者数：2,226 名（48 都道府県，550 機関）
- ・受講満足度（全体）：3.4/4.00

○セミナー動画のオンライン配信

- ・提供動画数（令和 2 年度末時点）：95
- ・動画閲覧数（令和 2 年度中）：43,498 件（動画アクセス数：127,669 件）
- ・機関利用登録：34 機関（国立大学 3，公立大学 2，私立大学 28，民間組織 1）

○職員に加えて教員や執行部も対象とする SD の実施（大学マネジメント力開発プログラム）

- ・提供セミナー数：2 回，参加機関：97 機関，参加者数：163 名（内，東北大学 23 名，他大学 140 名）

○大学教育イノベーション日本（HEIJ）を通じた他機関との連携

- ・HEIJ 加盟組織（令和 2 年度末時点）：15 組織（13 大学 14 組織及び 1 コンソーシアム）
- ・全ての教育関係共同利用拠点（FD・SD）が加盟
- ・事務局：東北大学（高度教養教育・学生支援機構）
- ・第 5 回大学教育イノベーションフォーラム（令和 2 年 10 月 29 日開催）：「FD・SD のイノベーション—コロナ禍における取組と今後の展望—」をテーマに開催し，212 名が参加。

○海外大学との国際連携によるプログラム開発の高度化

- ・STEM（科学・技術・工学・数学）分野において，授業レベル・大学レベルの取組に焦点を当て，米国・サンフランシスコ州立大学において DBER（Discipline-Based Education Research）に基づく FD により多数の教員の授業変革を達成したキンバリー・タナー教授を招聘し，国際シンポジウム及びワークショップを開催した。計 107 名が参加し，受講満足度は 3.8（4 件法）と高い評価を得た。

- ・DBER に基づき、STEM 分野の授業改革を推進してきたブリティッシュ・コロンビア大学（カナダ）と、人文社会科学を含む全学的な教育改革を推進しているコーネル大学（米国）を訪問調査した。
- ・文部科学省「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」において、「大学改革を担う実務家教員フェア」をオンラインにて開催し、クリス・ラッド氏（ジェームズ・クック大学 シンガポール校 副学長・キャンパス長）の発表資料を公開した。
- ・サンフランシスコ州立大学キンバリー・タナー教授を招聘し、理数科目目のアクティブラーニングの導入に関する国際ワークショップを開催した。

表 8－1 専門性開発セミナー開催実績

	H28	H29	H30	H31/R1	R2
提供セミナー数	51	59	56	48	13
内、高等教育のリテラシー形成関連	11	9	7	5	5
専門教育での指導力形成関連	6	15	5	8	2
学生支援力形成関連	2	2	6	2	0
マネジメント力形成関連	10	14	14	3	3
その他	22	19	24	30	3
参加者数（人）	2,284	2,742	2,469	2,483	2,226

表 8－2 セミナー動画のオンライン配信動画数及び閲覧数

	H28	H29	H30	H31/R1	R2
提供動画数	49	76	79	90	95
内、高等教育のリテラシー形成関連	21	22	22	23	23
専門教育での指導力形成関連	7	14	14	16	17
学生支援力形成関連	4	11	11	12	12
マネジメント力形成関連	17	23	26	31	35
その他	0	6	6	8	8
動画閲覧数 （アクセス数）	13,973 (41,570)	21,823 (90,833)	20,850 (88,528)	33,726 (98,822)	43,498 (127,669)

2. 外部資金獲得状況

（単位：千円）

受入年度	科学研究費補助金		受託研究		共同研究		寄 附 金	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
令和 2 年度	55	125,196	6	123,117	3	4,000	4	8,294

※科学研究費補助金、受託研究、共同研究は、直接経費と間接経費の合計額である。また、他大学からの分担金を含めている。

3. 共同研究員受入状況

氏 名	研 究 課 題	研 究 期 間	本務先の所属・職	受入教員
中島 夏子	「大学教員準備プログラム（PFFP）」および「新任教員プログラム（NFP）」の開発	平成 31 年 4 月 1 日～ 令和 3 年 3 月 31 日	東北工業大学教職課程センター・准教授	大森教授
川井 一枝	「大学教員準備プログラム（PFFP）」および「新任教員プログラム（NFP）」の開発	平成 31 年 4 月 1 日～ 令和 3 年 3 月 31 日	宮城大学基盤教育群・准教授	大森教授
関沢 和泉	大学教育マネジメントにおける I R 活用に基づく教育改善に関する調査研究	平成 31 年 4 月 1 日～ 令和 3 年 3 月 31 日	東日本国際大学東洋思想研究所・准教授	大森教授
Sophie Arkoudis (ソフィー アーコウディ ス)	Cross-Cultural Understanding and the Internationalisation of Curriculum and Teaching in Higher Education	平成 31 年 4 月 1 日～ 令和 3 年 3 月 31 日	Associate Professor in Higher Education, Centre for the Study of Higher Education, the University of Melbourne	大森教授
Chi Baik (チ バック)	The Professional Development of Faculty for Academic Excellence	平成 31 年 4 月 1 日～ 令和 3 年 3 月 31 日	Lecturer in Higher Education, Centre for the Study of Higher Education, the University of Melbourne	大森教授
Andy Leger (アンディー リージャー)	大学変革リーダー育成プログラムの開発と評価	平成 31 年 4 月 1 日～ 令和 3 年 3 月 31 日	Associate Professor, Center for Teaching and Learning, Queen's University, Canada	大森教授
高橋 哲也	STEM教育の変革に関する調査研究	平成 31 年 4 月 1 日～ 令和 3 年 3 月 31 日	大阪府立大学 副学長, 高等教育推進機構 教授	大森教授
鈴木 久男	STEM教育の変革に関する調査研究	平成 31 年 4 月 1 日～ 令和 3 年 3 月 31 日	北海道大学 大学院・理学研究員 教授	大森教授
鈴木 克明	授業設計及び e ラーニングに関する調査研究	平成 31 年 4 月 1 日～ 令和 3 年 3 月 31 日	熊本大学 教授システム学研究センター教授／センター長, 大学院教授システム学専攻長	大森教授
吉田 文	リカレント教育に関する調査研究	平成 31 年 4 月 1 日～ 令和 3 年 3 月 31 日	早稲田大学 教育・総合科学学術院 教授	大森教授
林 隆之	内部質保証に関する調査研究	平成 31 年 4 月 1 日～ 令和 3 年 3 月 31 日	政策大学院大学 教授	大森教授
田中 秀明	大学の財政と評価に関する調査研究	平成 31 年 4 月 1 日～ 令和 3 年 3 月 31 日	明治大学大学院ガバナンス研究科・教授	大森教授
齋藤 渉	大学マネジメント力開発プログラムの研究	平成 31 年 4 月 1 日～ 令和 3 年 3 月 31 日	東北学院大学学長室インスティテューショナル・リサーチ (IR) 課 係長	大森教授
高良 要多	大学マネジメント力開発プログラムの研究	令和 2 年 4 月 1 日～ 令和 3 年 3 月 31 日	桃山学院大学教務部教務課 課員	大森教授

4. 研究業績による受賞

氏 名	概 要
宮本 友弘 教授	優秀論文賞 授与機関:日本野外教育学会 2020 年 7 月
高橋 美穂 講師	第 60 回ドイツ語学文学振興会奨励賞 授与機関:公益財団法人ドイツ語学文学振興会 2020 年 5 月
富田 知志 助教	令和 2 年度 日本磁気学会 出版賞 授与機関:日本磁気学会 2020 年 9 月
佐藤 公雄 准教授	"Top 10 Reviewers Award of Arteriosclerosis, Thrombosis and Vascular Biology (ATVB)" 授与機関:AHA 2020 年 11 月
高橋 結 特任助教	著述賞 授与機関:日本環境共生学会 2020 年 9 月

5. 規程類

(1) 東北大学高度教養教育・学生支援機構規程

平成26年3月25日

規 第 26 号

(趣旨)

第1条 この規程は、東北大学高度教養教育・学生支援機構（以下「本機構」という。）の組織及び運営について定めるものとする。

(目的)

第2条 本機構は、高度教養教育及び学生支援に関する調査研究、企画及び提言並びにそれらの方法の開発及び実施を関係部局との連携の下、一体的に行うことにより、東北大学（以下「本学」という。）の教育の質の向上に寄与することを目的とする。

(職及び職員)

第3条 本機構に、次の職及び職員を置く。

機構長
副機構長
部門長
院長
教授
准教授
講師
助教
助手
総長特命教授
技術職員
その他の職員

2 前項に定めるもののうち、別に定めるものは、学校保健安全法（昭和33年法律第56号）第23条第1項に規定する学校医とする。

(機構長)

第4条 機構長は、機構の業務を掌理する。

2 機構長は、総長が指名する理事又は副学長をもって充てる。

(副機構長)

第5条 副機構長は2人とし、機構長の職務を補佐する。

2 副機構長は、本学の専任の教授をもって充てる。

3 副機構長の任期は、機構長の任期の範囲内とし、再任を妨げない。

(部門長)

第6条 部門長は、第8条に規定する部門の業務を掌理する。

2 部門長は、本機構の専任の教授をもって充てる。

3 部門長の任期は、機構長の任期の範囲内とし、再任を妨げない。

(院長)

第7条 院長は、次条に規定する教養教育院の業務を掌理する。

2 院長は、総長が指名する理事又は副学長をもって充てる。

(部門、教養教育院等)

第8条 本機構に、高等教育開発部門、教育内容開発部門及び学生支援開発部門並びに教養教育院を置く。

2 高等教育開発部門に、次に掲げる室を置く。

入試開発室

高等教育開発室
国際化教育開発室
キャリア開発室

3 教育内容開発部門に、次に掲げる室を置く。

人間総合科学教育開発室
自然科学教育開発室
言語・文化教育開発室

4 学生支援開発部門に、次に掲げる室を置く。

臨床教育開発室
臨床医学開発室
(業務センター)

第9条 本機構に、業務組織として、次に掲げる業務センターを置く。

教育評価分析センター
大学教育支援センター
入試センター
言語・文化教育センター
グローバルラーニングセンター
学際融合教育推進センター
学習支援センター
キャリア支援センター
学生相談・特別支援センター
保健管理センター
課外・ボランティア活動支援センター

2 保健管理センターに、別に定めるところにより、学校保健安全法第7条に規定する保健室を置く。

3 前二項に定めるもののほか、業務センターの組織及び運営については、別に定める。

(教授会議)

第10条 本機構に、その組織、人事、予算その他運営に関する重要事項を審議するため、教授会議を置く。

2 教授会議の組織及び運営については、別に定める。

(運営会議)

第11条 本機構に、本機構の組織及び運営について企画し、及び調整するため、運営会議を置く。

2 運営会議の組織及び運営については、別に定める。

(高度教養教育諮問会議)

第12条 本機構に、機構長の諮問に応じて本機構の組織及び運営について協議し、並びに機構長に対して助言及び提言を行うため、高度教養教育諮問会議を置く。

2 高度教養教育諮問会議の組織及び運営については、別に定める。

(事務)

第13条 本機構の事務については、国立大学法人東北大学事務組織規程（平成16年規第151号）の定めるところによる。

(雑則)

第14条 この規程に定めるもののほか、本機構の組織及び運営に関し必要な事項は、機構長が定める。

附 則

1 この規程は、平成26年4月1日から施行する。

2 東北大学高等教育開発推進センター規程（平成16年規第311号）及び国立大学法人東北大学国際交流センター規程（平成17年規第93号）は、廃止する。

附 則(平成29年3月28日規第29号改正)

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

(2) 東北大学高度教養教育・学生支援機構業務センター内規

平成26年4月1日

制 定

(趣旨)

第1条 この内規は、東北大学高度教養教育・学生支援機構規程（平成26年規第26号）第9条第3項の規定に基づき、東北大学高度教養教育・学生支援機構に置く業務センターの組織及び運営について定めるものとする。

(業務センターの設置)

第2条 業務センターとして、別表の左欄に掲げる分野に応じ、同表の中欄に掲げるセンターを置き、その所掌業務は、それぞれ同表の右欄に掲げるとおりとする。

(業務センターの職及び職員)

第3条 業務センターとして置かれるセンターに、それぞれ次の職及び職員を置く。

- 一 センター長
- 二 副センター長
- 三 その他の職員

(センター長及び副センター長)

第4条 センター長は、当該センターの業務を掌理する。

2 副センター長は、2人以内とし、センター長の職務を補佐する。

3 センター長は、機構長が指名する本学の専任の教授（任期又は期間を定めて雇用される者を除く。）をもって充て、副センター長は、本学の専任の教授又は准教授をもって充てる。

4 センター長の任期は、機構長の任期の範囲内とし、再任を妨げない。

5 副センター長の任期は、センター長の任期の範囲内とし、再任を妨げない。

(雑則)

第5条 この内規に定めるもののほか、業務センターの組織及び運営に関し必要な事項は、機構長が定める。

附 則

この内規は、平成26年4月1日から施行する。

附 則（平成29年1月19日改正）

この内規は、平成29年1月19日から施行する。

附 則（平成29年3月23日改正）

この内規は、平成29年4月1日から施行する。

別表

分野	センター名	所掌業務
教育マネジメント	教育評価分析センター	本学の教育学習活動に関する関連情報・データの収集・分析・提供を行うことを通して、本学における教育改革・改善や教育マネジメントを支援。
	大学教育支援センター	大学関係共同利用拠点の中核組織として、本学及び国内の高等教育機関に対する各種専門開発プログラム（大学院生向け大学教員準備プログラム・新任教員研修プログラムなど）を実施。
	入試センター	現在の入試センターの業務を引き継ぎ、中長期的な本学入試の企画・改善検討（入試設計・分析、追跡調査等）、入試業務（センター試験、一般入試等）、入試広報（各種説明会、高校訪問、メディア対応、講演、執筆等）、高大接続事業（オープンキャンパス支援、講演会／シンポジウム／フォーラム、アウトリーチプログラム等）を実施。
教育開発・実施	言語・文化教育センター	全学教育および高年次教育における語学教育のプログラム開発と実践、多文化理解教育の実施。
	グローバルラーニングセンター	教育国際戦略の提言、国際交流活動の推進とともに、留学生の受け入れ・教育・支援プログラムの開発・充実を図る。学生の海外派遣プログラムの開発・実施等によりグローバル人材育成を推進する。

	学際融合教育推進センター	学部・大学院における学際融合教育の開発と実施。
学習・学生支援	学習支援センター	高校教育から大学教育へのスムーズな移行のため、大学での自律的な学習方法について、相談・指導を実施。
	キャリア支援センター	学部・大学院におけるキャリア開発プログラムの実施、及び就職支援。現在の高度イノベーション博士人財育成センターの機能を統合。
	学生相談・特別支援センター	学生の発達に関する調査研究と学生相談に加え、発達障害学生への支援、教員に対する学生指導への支援・助言を強化。学生相談および障害学生への支援と学生支援に関わる調査研究、教職員の学生支援力向上のための支援
	保健管理センター	学生の健康保持、増進を図るための保健管理に関する専門的業務を実施
	課外・ボランティア活動支援センター	学生の自主的な課外活動、文化やスポーツ、ボランティア活動の総合的な支援と、社会貢献型の体験学習の企画と実施。

(3) 東北大学高度教養教育・学生支援機構教授会議内規

平成26年4月1日

制 定

(趣旨)

第1条 この内規は、東北大学高度教養教育・学生支援機構規程（平成26年規第26号）第10条第2項の規定に基づき、東北大学高度教養教育・学生支援機構教授会議（以下「教授会議」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(構成)

第2条 教授会議は、機構長、副機構長及び東北大学高度教養教育・学生支援機構（以下「本機構」という。）の専任の教授、准教授及び講師並びに業務センターの各センター長（以下「各センター長」という。）をもって構成する。

(審議事項)

第3条 教授会議は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 本機構の組織に関する事項
- 二 教員の人事に関する事項
- 三 予算に関する事項
- 四 その他運営に関する重要事項

(議長)

第4条 教授会議の議長は、機構長をもって充て、教授会議を主宰する。

2 機構長が欠けたとき、又は事故があるときは、副機構長が前項の職務を代行する。

(開催)

第5条 教授会議は、原則として毎月1回開催するものとする。

2 機構長が必要と認める場合は、臨時に教授会議を開催することができる。

3 機構長は、構成員3人以上から議題を付して要求があったときは、教授会議を開催しなければならない。

(定足数)

第6条 教授会議は、構成員（休職者及び外国出張中の者等を除く。）の過半数の出席がなければ、会議を開き、議決することができない。

(議案)

第7条 機構長は、教授会議の議案を定め、あらかじめ構成員に通知しなければならない。ただし、緊急を要する場合は、この限りでない。

2 構成員は、議案を発議することができる。

(議決)

第8条 教授会議の議事は、出席した構成員の過半数の同意をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところ

ろによる。ただし、別に定めがある場合は、出席した構成員の3分の2以上の同意を要するものとする。

(人事委員会)

第9条 教授会議に、第3条第2号に規定する事項を審議するため、機構長、副機構長、本機構の専任の教授（特定有期雇用職員を除く。）及び各センター長をもって構成する人事委員会を置く。

2 人事委員会は、構成員（休職者及び外国出張中の者等を除く。）の過半数の出席がなければ、会議を開き、議決することができない。

3 教授会議は、人事委員会の議決をもって、教授会議の議決とすることができる。

(専門委員会)

第10条 教授会議に、第3条に規定する事項に関する専門的事項を調査審議（前条に掲げる部分を除く。）させるため、専門委員会を設置することができる。

2 専門委員会の委員は、機構長が委嘱する。

(構成員以外の者の出席)

第11条 機構長は、必要があると認めるときは、教授会議の同意を得て、構成員以外の者を教授会議に出席させることができる。

(議事録)

第12条 機構長は、教授会議の議事録を作成し、次回以後の教授会議に提出してその承認を得なければならない。

(雑則)

第13条 この内規に定めるもののほか、教授会議の組織及び運営に関し必要な事項は、教授会議の議に基づき、機構長が定める。

附 則

この内規は、平成26年4月1日から施行する。

(4) 東北大学高度教養教育・学生支援機構運営会議内規

平成26年4月1日

制 定

(趣旨)

第1条 この内規は、東北大学高度教養教育・学生支援機構規程（平成26年規第26号）第11条第2項の規定に基づき、東北大学高度教養教育・学生支援機構運営会議（以下「運営会議」という。）の組織及び運営について定めるものとする。

(組織)

第2条 運営会議は、委員長、副委員長及び次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- 一 教育研究評議会評議員
- 二 各部門長
- 三 教養教育院長
- 四 業務センターの各センター長
- 五 その他委員長が必要と認めた者若干人

(委員長及び副委員長)

第3条 委員長は機構長をもって、副委員長は1人とし、機構長が指名する副機構長をもって充てる。

2 委員長は、会務を掌理する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代行する。

(開催)

第4条 運営会議は、必要に応じて開催するものとする。

(委嘱)

第5条 第2条第5号に掲げる委員は、機構長が委嘱する。

(任期)

第6条 第2条第5号に掲げる委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は前任者の残任期間とする。

2 前項の委員は、再任されることができる。

(雑則)

第7条 この内規に定めるもののほか、運営会議の組織及び運営に関し必要な事項は、機構長が定める。

附 則

この内規は、平成26年4月1日から施行する。

(5) 東北大学高度教養教育・学生支援機構高度教養教育諮問会議内規

平成26年4月1日

制 定

(趣旨)

第1条 この内規は、東北大学高度教養教育・学生支援機構規程（平成26年規第26号）第12条第2項の規定に基づき、東北大学高度教養教育・学生支援機構高度教養教育諮問会議（以下「高度教養教育諮問会議」という。）の組織及び運営について定める。

(組織)

第2条 高度教養教育諮問会議は、委員二十人以内をもって組織する。

(委員の範囲)

第3条 委員は、本学の学部学生、大学院学生及び外国人学生（以下「学生」という。）並びに本学の学生の保護者、企業の関係者、地域の関係者、高等学校の関係者等のうちから、機構長が選考する。

(議長及び副議長)

第4条 高度教養教育諮問会議に、議長及び副議長1人を置き、それぞれ委員の互選によって定める。

2 議長は、高度教養教育諮問会議の会務を総理する。

3 副議長は、議長の職務を補佐する。

(開催)

第5条 高度教養教育諮問会議は、原則として年1回開催する。

(委嘱)

第6条 委員は、機構長が委嘱する。

(任期)

第7条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(雑則)

第8条 この内規に定めるもののほか、高度教養教育諮問会議の組織及び運営に関し必要な事項は、機構長が定める。

附 則

この内規は、平成26年4月1日から施行する。

(6) 高度教養教育・学生支援機構専門研究員内規

平成26年4月24日

制 定

(趣旨)

第1条 この内規は、高度教養教育・学生支援機構（以下「機構」という。）の学術の発展に寄与するため、東北大学及び機構の諸規則に定める身分を有しない者が、機構において一定期間研究活動に従事できるよう、必要な事項を定めるものとする。

(資格及び呼称)

第2条 研究活動ができる者は、博士の学位を有する者又は博士と同等以上の学識を有すると認められる者で、機構の専任教員（以下「受入れ教員」という。）から受入れの承諾を得た者とし、「専門研究員」の呼称を付与する。

(受入れ等)

第3条 専門研究員の受入れは、受入れを希望する者の申請に基づき、機構長補佐会議で審査し、機構教授会議の議を経て、機構長が決定する。

2 専門研究員の受入れ期間中の諸事項については、受入れ教員が全面的に責任をもつものとする。

(受入期間)

第4条 専門研究員の受入れ期間は1年以内とし、年度を超えないものとする。

なお、必要な場合は更新を認めることとし、更新は2回を限度とする。

(遵守遂行)

第5条 専門研究員は、東北大学及び機構の諸規則を遵守しなければならない。

(待遇)

第6条 専門研究員は機構の管理運営には関与できない。

2 専門研究員には、給与を支給しない。

3 専門研究員の健康診断、災害補償等については各自の責任で対応する。

4 専門研究員は受入れ教員の責任のもと、施設・設備等を利用することができる。

5 専門研究員の機構内の居所については、受入れ教員の責任において手当とする。

(雑則)

第7条 専門研究員に研究活動上必要な事項が生じた場合は、受入れ教員の申し出に基づき、機構長補佐会議の議を経て、機構長が決定する。

附 則

この内規は、平成26年4月24日から施行し、平成26年4月1日から適用する。

附 則（平成27年3月19日改正）

この内規は、平成27年4月1日から施行する。

(7)高度教養教育・学生支援機構共同研究員内規

平成26年4月24日

制 定

(趣旨)

第1条 この内規は、高度教養教育・学生支援機構（以下「機構」という。）において共同研究に参画する国内外の研究者が一定期間研究活動に従事できるよう、必要な事項を定めるものとする。

(資格及び呼称)

第2条 研究活動ができる者は、共同研究に参加する国内外の大学、高等専門学校、公的研究機関及び民間企業、団体等に所属する研究者とし、「高度教養教育・学生支援機構共同研究員」（以下、「機構共同研究員」という。）の呼称を付与する。

(受入れ等)

第3条 機構共同研究員の受入れは、受入れを希望する者の申請に基づき、機構長補佐会議で審査し、機構長が決定する。

2 機構共同研究員の受入れ期間中の諸事項については、受入れ教員が全面的に責任をもつものとする。

(受入期間)

第4条 機構共同研究員の受入れ期間は1年以内とし、年度を超えないものとする。

なお、必要な場合は更新を認めることとする。

(遵守遂行)

第5条 機構共同研究員は、東北大学及び機構の諸規則を遵守しなければならない。

(待遇)

第6条 機構共同研究員は機構の管理運営には関与できない。

2 機構共同研究員には、給与を支給しない。

3 機構共同研究員の健康診断、災害補償等については各自の責任で対応する。

- 4 機構共同研究員は受入れ教員の責任のもと、施設・設備等を利用することができる。
- 5 機構共同研究員の機構内の居所については、受入れ教員の責任において手当とする。

(雑則)

第7条 機構共同研究員に研究活動上必要な事項が生じた場合は、受入れ教員の申し出に基づき、機構長補佐会議の議を経て、機構長が決定する。

附 則

この内規は、平成26年4月24日から施行し、平成26年4月1日から適用する。

附 則 (平成27年3月19日改正)

この内規は、平成27年4月1日から施行する。

東北大学高度教養教育・学生支援機構要覧2020

発 行 2021年8月

発行所 東北大学高度教養教育・学生支援機構

Institute for Excellence in Higher Education,
Tohoku University

〒980-8576 仙台市青葉区川内41

TEL (022) 795-3819

e-mail: gaku-kikaku@grp.tohoku.ac.jp



Institute for Excellence in Higher Education, Tohoku University